# 海石西遺跡 角落し遺跡 廻り田遺跡 近世山陰道跡 (馬橋地区) 神出西遺跡

2018年3月

国土交通省浜田河川国道事務所 島根県教育委員会

一般国道9号は、京都府京都市を起点として山口県下関市に至る主要幹線道路であり、山陰地方諸都市を結び、日本海沿岸各地域における経済的・文化的活動に重要な役割を果たしています。

国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所では、浜田市から益田市にかけて急勾配やカーブが連続する区間が多い一般国道9号において、一般国道9号の代替機能及び、安全・円滑な交通を確保し、地域経済の活性化に役立つことを目的として、三隅・益田道路の建設を進めています。

道路整備に際しては、埋蔵文化財の保護にも十分留意しつつ、関係機関と協議しながら進めていますが、回避することができない埋蔵文化財については、道路事業者の負担によって必要な調査を実施し、記録保存を行っています。

三隅・益田道路においても、道路予定地内にある埋蔵文化財について島根県教育委員会と協議し、同教育委員会の協力のもと平成27年度から発掘調査を行っています。

本報告書は、平成 27・28 年度に実施した、海石西遺跡・角落し遺跡・ 廻り田遺跡・近世山陰道跡(馬橋地区)・神出西遺跡の発掘調査結果 をまとめたものです。本書が郷土の埋蔵文化財に関する貴重な資料と して、学術ならびに教育のために広く活用されることを期待するとと もに、道路事業が文化財の保護にも十分留意しつつ行われていること への理解を深めるものとなれば幸いです。

最後に、今回の発掘調査及び本書の作成に当たり、ご尽力いただい た島根県教育委員会ならびに関係者の皆様に対し、深く感謝申し上げ ます。

平成30年3月

国土交通省中国地方整備局 浜田河川国道事務所長 浜 崎 宏 幸

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて平成27年度から平成28年度に実施した一般国道9号(三隅・益田道路)建設予定地内に所在する海石西遺跡、角落し遺跡、廻り田遺跡、近世山陰道跡(馬橋地区)、神出西遺跡の発掘調査結果をまとめたものです。

これらの遺跡は浜田市三隅町から益田市遠田町の海岸部から丘陵にかけて立地 しています。浜田市三隅町には高城跡など三隅氏に関連する中世の遺跡が存在し、 益田市遠田町周辺には県内でも有数の規模を誇る大元1号墳が存在するなど、古 くから注目された地域でした。しかしながら、当地で確認されている遺跡は限ら れていました。

今回の発掘調査で、浜田市三隅町所在の海石西遺跡では弥生時代中期から古墳時代初め頃の土器群や、集落ではほとんど出土しない平安時代の緑釉陶器が発見されました。また、角落し遺跡では平安時代末頃の土器や木製品が多数見つかるなど大きな成果を上げることができました。

益田市遠田町所在の神出西遺跡では弥生時代の溝状遺構が発見され、遠田川流域で連綿と人々が生活していたことがわかりました。今回の調査成果は、島根県西部の沿岸部の歴史を知る上で、貴重な資料となりました。

本書が、この地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を高めるために広く活用されることを願っています。

最後になりますが、発掘調査及び本書の作成にあたりご協力いただきました地元住民の皆様や国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所並びに、浜田市と 益田市をはじめとする関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成30年3月

島根県教育委員会 教育長 鴨 木 朗

## 例言

- 1. 本書は国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が 平成27年度と平成28年度に実施した一般国道9号(三隅益田道路)改築工事に伴う埋蔵文 化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。
- 2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

平成27年度 海石西遺跡(浜田市三隅町三隅352-2外)

神出西遺跡1区~3区(益田市遠田町1075-2外)

角落し遺跡(浜田市三隅町古市場 465-1 外)

平成 28 年度 近世山陰道跡(馬橋地区)(益田市土田町 838-3 外)

廻り田遺跡(浜田市三隅町岡見町 2555 外)

神出西遺跡 4 区(益田市遠田町 1072-2 外)

平成29年度 整理等作業・報告書作成

3. 調査組織

調査主体 島根県教育委員会

平成 27 年度事務局 廣江耕史(埋蔵文化財調査センター所長)、渡部宏之(総務課長)、池淵 俊一(管理課長)、大庭俊次(調査第三課長)

調查担当者 伊藤徳広(調査第三課企画員)、川崎英司(同課臨時職員)、世良 啓(同)、 三浦竜之介(同)

平成 28 年度事務局 萩 雅人(埋蔵文化財調査センター所長)、渡部宏之(総務課長)、池淵 俊一(管理課長)、林 健亮(調査第三課長)

調查担当者 久保田一郎(調查第三課企画員)、伊藤徳広(同)、松山智弘(同課嘱託員)、 川崎英司(同課臨時職員)、世良 啓(同)、佐伯幸俊(同)

平成 29 年度事務局 萩 雅人(埋蔵文化財調査センター所長)、石橋 聡(総務課長)、池淵 俊一(管理課長)、間野大丞(調査第三課長)

調查担当者 伊藤徳広(調査第三課企画員)、柿田愛子(同課臨時職員)

4. 発掘調査作業(安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等)については次の機関に委託した。

平成27年度:大畑建設株式会社(益田市大谷町)

平成28年度:大畑建設株式会社(益田市大谷町)

5. 発掘調査にあたっては、以下の方々から御指導いただいた。(五十音順・肩書きは当時) 阿部志朗(島根県立浜田高等学校教諭)、榊原博英(浜田市教育委員会)、杉原和惠(防府市教育委員会)、田中克子(NPO法人アジア水中考古学研究所)、中村唯史(三瓶自然館)、箱崎和久(奈良文化財研究所)、山本信夫(山本考古学研究所)また、以下の方々から御協力、御助言をいただいた。(五十音順・肩書きは当時)

木原 光、山本浩之、長澤和幸、松本美樹、佐伯昌俊、中司健一(益田市教育委員会)、川本裕司、 藤田大輔(浜田市教育委員会)、渡辺正巳、佐々木昇二、寺戸和幸、細田恒之(鎌手公民館)

- 6. 挿図中の北は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系X軸方向を示し、座標系XY座標は世界測地系による。レベルは海抜高を示す。
- 7. 本書で使用した第2図〜第4図は国土地理院発行1/25,000地形図(三隅・高島・石見横田・益田・仙道・都茂郷)を、第5図・第16図・第48図・第57図・第65図は国土交通省浜田河川国 道事務所が作成した計画平面図1/1.000使用して作成したものである。
- 8. 本書に掲載する土層は『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会会議事務局監修・財団 法人日本色彩研究所 色票監修 に従って表記した。
- 9. 発掘調査に伴って、出土鉄製品の保存処理を次の機関に委託した。

平成28年度:(公財)大阪市博物館協会

平成29年度:(公財)大阪市博物館協会

- 10. 本書に掲載した遺構・遺物の写真は伊藤・久保田が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実 測図の作成・浄書は、各調査員・臨時職員・整理作業員が行ったほか、埋蔵文化財調査センター 職員の協力を得た。
- 11. 本書の執筆は、第1章~第7章は伊藤が行い、第8章は各節ごとに執筆者を明記している。
- 12. 本書の編集は伊藤が行った。
- 14. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター(松 江市打出町33番地)にて保管している。
- 15. 本書で用いた土器の分類及び編年観は下記論文・報告書に依拠している。
  - (1) 弥生土器

松本岩雄 1992「石見地域」『弥生土器の様式と編年-山陰・山陽編-』木耳社

(2) 土師器

島根県教育委員会 2010『久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西Ⅰ遺跡・久城西Ⅱ遺跡・原浜遺跡』

(3) 須恵器

榊原博英 2010 「石見国の須恵器生産と出雲産須恵器」 『出雲国の形成と国府成立の研究』

(4) 陶磁器

太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』

## 本文目次

第1章 調查	堂の経過	1
第1節	調査にいたる経緯と経過	1
1.	事業計画の概要	1
2.	埋蔵文化財保護部局への照会と調整	1
3.	法的手続き	2
第2節	発掘作業と整理作業	2
第2章 遺跡	赤の位置と環境	3
第1節	地理的環境	3
1.	浜田市の位置	4
2.	益田市の位置	4
第2節	歴史的環境	4
1.	浜田市三隅町	4
2.	益田市東部(益田川以東)	5
第3章 海石	<b>一西遺跡の発掘調査</b>	11
第1節	遺跡の位置と環境	11
1.	遺跡の位置	11
2.	地理的環境	11
第2節	発掘調査と整理作業の経過	12
1.	発掘調査の経過	12
2.	整理等作業の経過	13
第3節	発掘調査の概要	14
1.	調査の方法	14
2.	基本層序	14
3.	検出した遺構と遺物	15
第4節	小結	19
第4章 角落	落し遺跡の発掘調査	21
第1節	遺跡の位置と環境	21
1.	遺跡の位置	21
2.	地理的環境	21
第2節	発掘調査と整理作業の経過	21
1.	発掘調査の経過	21
2	整理等作業の経過	22

第3節	発掘調査の概要	22
1.	調査の方法	22
2.	基本層序	23
3.	検出した遺構と遺物	25
第4節	小結	46
第5章 廻り	)田遺跡の発掘調査	47
第1節	遺跡の位置と環境	47
1.	遺跡の位置	47
2.	地理的環境	47
第2節	発掘調査と整理作業の経過	47
1.	発掘調査の経過	47
2.	整理等作業の経過	47
第3節	発掘調査の概要	47
1.	調査の方法	47
2.	基本層序	48
3.	検出した遺構	48
第4節	小結	52
第6章 近世	世山陰道跡(馬橋地区)の発掘調査	57
第1節	遺跡の位置と環境	57
1.	遺跡の位置	57
2.	地理的環境	57
第2節	発掘調査と整理作業の経過	57
1.	発掘調査の経過	57
2.	整理等作業の経過	57
第3節	発掘調査の概要	57
1.	調査の方法	57
2.	基本層序	58
3.	検出した遺構と遺物	59
4.	包含層出土遺物	64
第4節	小結	64
第7章 神出	出西遺跡の発掘調査	67
第1節	遺跡の位置と環境	67
1.	遺跡の位置	67
2.	地理的環境	67
第2節	発掘調査と整理作業の経過	68

	1. 発掘作業の経過	68
	2. 整理等作業の経過	69
第3節	発掘調査の概要	70
	1. 調査の方法	70
	2. 基本層序	70
	3. 検出した遺構と遺物	72
	4. 包含層出土遺物	78
第 4	節 小結	80
第8章	自然科学分析	81
第1	節 神出西遺跡発掘調査に係る花粉及び植物珪酸体分析	81
第2	節 三隅益田道路発掘調査出土木製品の樹種	89
第3	節 神出西遺跡における放射性炭素年代(AMS 測定)	94
第 4	節 蛍光 X 線分析	97
	総括	99
第1		99
第 2	節近世山陰道推定地について	99
	挿図目次	
	1中〇日久	
第1図	事業の位置	1
第2図	事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地 (S=1:100,000)	3
第3図	浜田市三隅町の遺跡 (S=1:25000)	
65° 4 153	7、田市二個司 728時 (0-1.20000)	6
第4図	益田市東部の遺跡 (S=1:50000)	6 11
第5図		
	益田市東部の遺跡 (S=1:50000)	11
第5図	益田市東部の遺跡 (S=1:50000) 海石西遺跡の位置 (S=1:4000)	11 11
第5図第6図	益田市東部の遺跡 (S=1:50000) 海石西遺跡の位置 (S=1:4000) 海石西遺跡 調査区配置図 (S=1:1000)	11 11 12
第5図 第6図 第7図	益田市東部の遺跡 (S=1:50000) 海石西遺跡の位置 (S=1:4000) 海石西遺跡 調査区配置図 (S=1:1000) 海石西遺跡 遺構配置図 (S=1:100)	11 11 12 13
第5図 第6図 第7図 第8図	益田市東部の遺跡 (S=1:50000) 海石西遺跡の位置 (S=1:4000) 海石西遺跡 調査区配置図 (S=1:1000) 海石西遺跡 遺構配置図 (S=1:100) 海石西遺跡土層図 (S=1:100)	11 11 12 13
第5図 第6図 第7図 第8図 第9図	益田市東部の遺跡 (S=1:50000) 海石西遺跡の位置 (S=1:4000) 海石西遺跡 調査区配置図 (S=1:1000) 海石西遺跡 遺構配置図 (S=1:100) 海石西遺跡 遺物出土状況図 (S=1:150)	11 11 12 13 14
第5図 第6図 第7図 第8図 第9図 第10図	益田市東部の遺跡 (S=1:50000) 海石西遺跡の位置 (S=1:4000) 海石西遺跡 調査区配置図 (S=1:1000) 海石西遺跡 遺構配置図 (S=1:100) 海石西遺跡 遺物出土状況図 (S=1:150) 海石西遺跡 出土遺物実測図 1 (S=1:3)	11 11 12 13 14 15
第5図 第6図 第7図 第8図 第9図 第10図 第11図	益田市東部の遺跡 (S=1:50000) 海石西遺跡の位置 (S=1:4000) 海石西遺跡 調査区配置図 (S=1:1000) 海石西遺跡 遺構配置図 (S=1:100) 海石西遺跡 遺物出土状況図 (S=1:150) 海石西遺跡 出土遺物実測図 1(S=1:3) 海石西遺跡 出土遺物実測図 2(S=1:3)	11 11 12 13 14 15 16

20

第 15 図 海石西遺跡 出土遺物実測図 6 (S=1:2、S=1:1)

第 16 図	角落し遺跡の調査位置図 (S=1:4000)	22
第 17 図	角落し遺跡 調査区配置図 (S=1:1500)	23
第 18 図	角落し遺跡土層図 (S=1:100,S=1:200)	24
第 19 図	角落し遺跡 遺構配置図 (S=1:500)	25
第 20 図	角落し遺跡 SX01 検出状況 (S=1:30)	26
第21図	角落し遺跡 SX01 出土遺物実測図 1(S=1:3)	27
第 22 図	角落し遺跡 SX01 出土遺物実測図 (S=1:3)	28
第 23 図	角落し遺跡杭列検出状況 (S=1:50)	29
第24図	角落し遺跡杭列 1 出土遺物実測図 (S=1:6)	30
第 25 図	角落し遺跡杭列 2 検出状況 (S=1:50)	30
第 26 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 1(S=1:3)	31
第 27 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 2(S=1:3)	32
第 28 図	角落し遺跡出土遺物実測図 3(S=1:3)	32
第 29 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 4(S=1:3)	33
第 30 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 5(S=1:3)	34
第31図	角落し遺跡 出土遺物実測図 6(S=1:3)	34
第 32 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 7(S=1:3)	35
第 33 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 8(S=1:3)	36
第 34 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 9(S=1:3)	37
第 35 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 10(S=1:3)	37
第 36 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 11(S=1:3)	38
第 37 図	角落し遺跡出土遺物実測図 12(S=1:3)	38
第 38 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 13(S=1:3)	39
第 39 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 14(S=1:3)	40
第 40 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 15(S=1:3)	40
第 41 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 16(S=1:3)	41
第 42 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 17(S=1:3)	42
第 43 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 18(S=1:3、S=2:3)	42
第 44 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 19(S=1:3)	43
第 45 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 20(S=1:3、S=1:6)	44
第 46 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 21(S=1:2)	45
第 47 図	角落し遺跡 出土遺物実測図 22(S=1:3)	45
第 48 図	廻り田遺跡の調査位置図 (S=1:5000)	48
第 49 図	廻り田遺跡遺構配置図 (S=1:500)	49
第 50 図	廻り田遺跡 調査前測量図 (S=1:300)	50
第51図	廻り田遺跡調査後測量図 (S=1:300)	51
第 52 図	廻り田遺跡土層図 (S=1:80)	52

第 53 図	廻り田遺跡塚状遺構 1 実測図 1( 平面図 S=1:50 、土層図 S=1:80)	53
第 54 図	廻り田遺跡塚状遺構 2 実測図 1( 平面図 S=1:50 、土層図 S=1:80)	54
第 55 図	廻り田遺跡 SD01・SD02 検出状況 ( 平面図 S=1:30 、土層図 S=1:40)	55
第 56 図	廻り田遺跡 SX01 検出状況 (S=1:30)	55
第 57 図	近世山陰道跡の調査位置図 (S=1:3000)	58
第 58 図	近世山陰道跡 調査前測量図 (S=1:600)	60
第 59 図	近世山陰道跡 調査後測量図 (S=1:600)	60
第 60 図	近世山陰道跡遺構配置図 (S=1:300)	61
第61図	近世山陰道跡土層図 (S=1:60)	62
第 62 図	近世山陰道跡石畳実測図 (S=1:80)	63
第 63 図	近世山陰道跡石垣 1 $\sim$ 5 実測図 (S=1:80、S= 1:100)	64
第 64 図	近世山陰道跡 出土遺物実測図 (S=1:1、S=1:3)	65
第 65 図	神出西遺跡の調査位置図 (S=1:2000)	67
第 66 図	神出西遺跡 調査区配置図 (S=1:600)	68
第 67 図	神出西遺跡遺構配置図 (S=1:400)	69
第 68 図	神出西遺跡土層図 1(S=1:200)	70
第 69 図	神出西遺跡土層図 2(S=1:200)	71
第 70 図	神出西遺跡 SK01 検出状況 (平面図 S=1:40)	72
第71図	神出西遺跡 SD01 検出状況 (平面図 S=1:150、断面図 S=1:20)	72
第 72 図	神出西遺跡 SD01 出土遺物実測図 (S=1:3)	72
第 73 図	神出西遺跡 SD02 検出状況 (平面図 S=1:20)	73
第74図	神出西遺跡 SD02 出土遺物実測図 1(S=1:3)	74
第 75 図	神出西遺跡 SD02 出土遺物実測図 2(S=1:3)	75
第 76 図	海石西遺跡 SD02 出土遺物実測図 3 (S=1:6)	75
第77図	神出西遺跡 SD03・SD04 実測図 (S=1:30)	75
第 78 図	神出西遺跡 SD03・SD04 出土遺物実測図 (S=1:3)	76
第 79 図	神出西遺跡旧河道跡出土遺物実測図 1(S=1:3)	77
第 80 図	神出西遺跡旧河道跡出土遺物実測図 2(S=1:6、S=1:8)	78
第81図	神出西遺跡出土遺物実測図 1(S=1:3)	79
第82図	神出西遺跡出土遺物実測図 2(S=1:3)	80
第83図	試料採取地点・採取層準	
	(左:トレンチ平面図 右:分析試料採取地点近辺の断面図)	81
第84図	花粉ダイアグラム	83
第85図	植物珪酸体ダイアグラム	84
第86図	暦年較正年代グラフ(参考)	96

## 表目次

表1	事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地一覧	3
表2	浜田市三隅町の遺跡	6
表3	益田市東部の遺跡	8
表4	植物珪酸体分析同定対象分類群	82
表5	微化石概查結果	82
表6	花粉組成表	83
表7	植物珪酸体組成表	84
表8	分析資料一覧	89
表9	放射性炭素年代測定結果( $\delta$ 13C 補正値)	96
表 10	放射性炭素年代測定結果( $\delta$ 13C 未補正値、暦年較正用 14C 年代、較正年代)	96
表 11	分析結果(Pb フィルタ)	97
表 12	分析結果(Cd フィルタ)	98
表 13	海石西遺跡遺物観察表	101
表 14	角落し遺跡遺物観察表	101
表 15	近世山陰道跡(馬橋地区)遺物観察表	106
表 16	神出西遺跡遺物観察表	107
	本文写真目次	
図版 1	木材 (1)	92
図版 2	木材 (2)	93

## 写真目次

図版 1	上空から見た海石西遺跡(西から)	図版 22	遺物出土状況(上から)
図版 2	調査前状況(南東から)		遺物出土状況(上から)
	遺跡と背後の丘陵(北東から)	図版 23	遺物出土状況(南から)
	遺跡と東側の丘陵(南西から)		遺物出土状況(南西から)
図版 3	土層堆積状況(南東から)	図版 24	遺物出土状況(北西から)
	北壁土層堆積状況(南東から)		遺物出土状況(北から)
図版 4	遺物出土状況(南東から)	図版 25	遺物出土状況(北西から)
	遺物出土状況(南東から)		遺物出土状況(南から)
図版 5	遺物出土状況(西から)	図版 26	遺物出土状況(東から)
	完掘状況(西から)		発掘調査状況(南東から)
図版 6	遺物出土状況(南から)	図版 27	1 区上層遺物出土状況(南西から)
	遺物出土状況(東から)		2 区下層調査状況(南西から)
図版 7	遺物出土状況(南から)	図版 28	1 区・2 区調査状況(南から)
	遺物出土状況(上から)		角落し遺跡から日本海を臨む
	遺物出土状況(南から)		(南東から)
図版 8	調査状況(南西から)	図版 29	2 区完掘状況(南東から)
	調査状況(西から)		3 区調査状況(東から)
図版 9	出土遺物 (1)	図版 30	上空から見た角落し遺跡(上から)
図版 10	出土遺物 (2)		2区と6区〔未調査区〕(南東から)
図版 11	出土遺物 (3)	図版 31	出土遺物 (1)
図版 12	出土遺物 (4)	図版 32	出土遺物 (2)
図版 13	角落し遺跡を上空から臨む(東から)	図版 33	出土遺物 (3)
図版 14	角落し遺跡を上空から臨む(南から)	図版 34	出土遺物 (4)
	角落し遺跡を上空から臨む(西から)	図版 35	出土遺物 (5)
図版 15	調査前状況(東から)	図版 36	出土遺物 (6)
	2区南西壁面土層堆積状況(北東から)	図版 37	出土遺物 (7)
図版 16	1 区サブトレンチ土層堆積状況	図版 38	出土遺物 (8)
	(北から)	図版 39	出土遺物 (9)
	2 区下層土層堆積状況(西から)	図版 40	出土遺物 (10)
図版 17	SX01 検出状況(北西から)	図版 41	出土遺物 (11)
	SX01 検出状況(南から)	図版 42	出土遺物 (12)
図版 18	上層杭列出土状況(北から)	図版 43	出土遺物 (13)
図版 19	上層杭列検出状況(南西から)	図版 44	出土遺物 (14)
	上層杭列検出状況(西から)	図版 45	出土遺物 (15)
図版 20	上層杭列出土状況(北から)	図版 46	出土遺物 (16)
	上層杭列出土状況(西から)	図版 47	出土遺物 (17)
図版 21	下層杭列出土状況(西から)	図版 48	出土遺物 (18)
	下層杭列出土状況(東から)	図版 49	出土遺物 (19)

図版 50	出土遺物 (20)		塚状遺構 1 盛土除去後状況
図版 51	出土遺物 (21)		(北西から)
図版 52	出土遺物 (22)	図版 78	塚状遺構 1 旧表土除去後状況
図版 53	出土遺物 (23)		(南西から)
図版 54	出土遺物 (24)		塚状遺構2表土除去状況(北から)
図版 55	出土遺物 (25)		塚状遺構 2 表土除去後状況(北から)
図版 56	出土遺物 (26)	図版 79	塚状遺構 2 表土除去後状況(西から)
図版 57	出土遺物 (27)		塚状遺構 2 表土除去後状況
図版 58	出土遺物 (28)		(南東から)
図版 59	出土遺物 (29)		塚状遺構 2 表土除去後状況(西から)
図版 60	出土遺物 (30)	図版 80	塚状遺構2西側土層堆積状況(西から)
図版 61	出土遺物 (31)		塚状遺構 2 西側土層堆積状況
図版 62	出土遺物 (32)		(南西から)
図版 63	出土遺物 (33)		塚状遺構 2 土層堆積状況(南東から)
図版 64	出土遺物 (34)	図版 81	塚状遺構2東側土層堆積状況(東から)
図版 65	出土遺物 (35)		塚状遺構 2 盛土除去後状況(西から)
図版 66	出土遺物 (36)		塚状遺構 2 旧表土除去後状況
図版 67	出土遺物 (37)		(西から)
図版 68	出土遺物 (38)	図版 82	平坦面土層堆積状況(西から)
図版 69	出土遺物 (39)		平坦面土層堆積状況(南東から)
図版 70	出土遺物 (40)		平坦面土層堆積状況(北東から)
図版 71	調査前塚状遺構 (東から)	図版 83	平坦面土層堆積状況(北から)
	益田方面を臨む(北東から)		平坦面完掘状況(南西から)
図版 72	完掘状況 (上空から)		平坦面完掘状況(西から)
	浜田方面を臨む (南西から)	図版 84	溝状遺構 1 検出状況(北東から)
図版 73	調査前状況(北東から)		平坦面と溝状遺構 2 完掘状況
	調査前状況(南西から)		(南西から)
	調査前状況(東から)		溝状遺構 1 完掘状況(南西から)
図版 74	調査状況(東から)	図版 85	溝状遺構 2 完掘状況(南西から)
	表土除去状況(東から)		SX01 土層堆積状況(北東から)
	表土除去状況(西から)		SX01 完掘状況(西から)
図版 75	平坦面表土除去後状況(南西から)	図版 86	近世山陰道跡(馬橋地区)を臨む
	表土除去状況(東から)		(南東から)
図版 76	塚状遺構 1 表土除去状況(東から)		同上(西から)
	塚状遺構 1 表土除去状況(南東から)	図版 87	近世山陰道跡(馬橋地区)を臨む
	塚状遺構 1 礫散布状況(北西から)		(南から)
図版 77	塚状遺構 1 北側土層堆積状況		石垣1・2検出状況(南東から)
	(北東から)	図版 88	近世山陰道跡(馬橋地区)調査前状況
	塚状遺構 1 西側土層堆積状況		(西から)
	(北西から)		石敷き検出状況(東から)

図版 89	石敷き検出状況(北から)		コンクリート壁検出状況(西から)
	石敷き検出状況(東から)		コンクリート壁検出状況(南東から)
図版 90	石敷き検出状況(南東から)	図版 107	出土遺物 (1)
	石敷き検出状況(東から)	図版 108	出土遺物 (2)
図版 91	石敷き検出状況(東から)	図版 109	神出西遺跡 1 区から 3 区を臨む
	石敷き検出状況(西から)		(北東から)
図版 92	石敷き下部検出状況(東から)		神出西遺跡 1 区から 3 区を臨む
	石敷き下部完掘状況(南東から)		(北西から)
図版 93	石敷き完掘状況(東から)	図版 110	神出西遺跡 4 区完掘状況(北から)
	石敷き完掘状況(東から)	図版 111	神出西遺跡 1 区から 3 区を臨む
	石敷き完掘状況(東から)		(上から)
	石敷き完掘状況(東から)		神出西遺跡 1 区から 3 区を臨む
図版 94	石敷き完掘状況(東から)		(南西から)
	石敷き完掘状況(東から)	図版 112	神出西遺跡2区・3区北西壁土層堆
図版 95	石敷き・溝跡完掘状況(東から)		積状況(北東から)
	石敷き・溝跡完掘状況(東から)		神出西遺跡 4 区東壁土層堆積状況
図版 96	石敷き完掘状況(北から)		(西から)
	石敷き完掘状況(北から)	図版 113	神出西遺跡 1 区完掘状況(北西から)
図版 97	溝跡 1・石垣 4 完掘状況(南東から)		神出西遺跡 3 区完掘状況(北東から)
	溝跡 1 土層堆積状況(南東から)	図版 114	神出西遺跡 4 区完掘状況(南東から)
図版 98	溝跡 2 検出状況(東から)		神出西遺跡 4 区完掘状況(北から)
	石敷き周辺土層堆積状況(北東から)	図版 115	神出西遺跡 SD01 検出状況(南東から)
図版 99	石敷き及び溝跡 1・2 検出状況		神出西遺跡 SD01 土層堆積状況
	(南東から)		(北西から)
	溝跡 1・石垣 4 検出状況(南東から)	図版 116	神出西遺跡 SD01 遺物出土状況
図版 100	石垣 4 検出状況(南西から)		(北から)
	石垣 4 完掘状況(南東から)		SD01 調査状況(南東から)
図版 101	石垣 4 完掘状況(南西から)		SD01 完掘状況(北西から)
	石垣 4 上部・平坦面 5 土層堆積状況	図版 117	SK01 土層堆積状況(北西から)
	(南から)		SK01 完掘状況(南東から)
図版 102	石垣 1 完掘状況(東から)	図版 118	SD02 調査状況(東から)
	石垣 1 完掘状況(南から)		SD02 完掘状況(南西から)
図版 103	石垣 1・平坦面 1 完掘状況(南西から)	図版 119	SD02 完掘状況(西から)
	石垣 2・平坦面 2 完掘状況(南から)		SD02 完掘状況(東から)
図版 104	石垣3完掘状況(南東から)	図版 120	SD02 遺物出土状況(南東から)
	石垣3完掘状況(南西から)		SD02 遺物出土状況(上から)
図版 105	平坦面 5 完掘状況(西から)	図版 121	SD02 遺物出土状況(南から)
	水路(石敷き)検出状況(南から)		SD02 検出状況(西から)
図版 106	石敷き周辺検出状況(南東から)		SD02 遺物出土状況(北東から)
	標柱出土状況	図版 122	SD02 土層堆積状況(東から)

- SD02 完掘状況(上から)
- SD03・04 完掘状況(南東から)
- SD03・04 完掘状況(南東から)
- 図版 123 SD03·SD04 土層堆積状況 (南東から)
  - SD04 遺物出土状況(南東から)
  - SD04 遺物出土状況(上から)
- 図版 124 旧河道遺物出土状況(南東から)
  - 旧河道遺物出土状況(南東から)
- 図版 125 旧河道土層堆積状況(南東から)
  - 旧河道遺物出土状況(北東から)
- 図版 126 旧河道遺物出土状況(南東から)
  - 旧河道遺物出土状況(北東から)
- 図版 127 旧河道遺物と遠田川(北西から)
- 図版 128 3 区調査状況 (南西から)
  - 旧河道と遠田川(南東から)
- 図版 129 出土遺物 (1)
- 図版 130 出土遺物 (2)
- 図版 131 出土遺物 (3)
- 図版 132 出土遺物 (4)
- 図版 133 出土遺物 (5)
- 図版 134 出土遺物 (6)
- 図版 135 出土遺物 (7)
- 図版 136 出土遺物 (8)
- 図版 137 出土遺物 (9)
- 図版 138 出土遺物 (10)
- 図版 139 出土遺物 (11)
- 図版 140 出土遺物 (12)
- 図版 141 出土遺物 (13)
- 図版 142 出土遺物 (14)
- 図版 143 出土遺物 (15)

## 第1章 調査の経過

### 第1節 調査にいたる経緯と経過

#### 1. 事業計画の概要

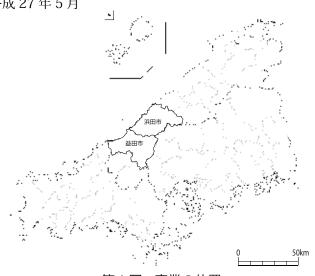
一般国道9号は、京都府京都市から山口県下関市に至る山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。近年は都市部を中心にしばしば交通渋滞が発生し、都市間の円滑な連携や生活環境の確保が困難な状況となってきており、その様相は島根県下でも例外ではない。海岸沿いを通る浜田市や益田市では急勾配でカーブが連続する区間が多く、交通渋滞や交通事故などが発生している。また緊急時の代替道路の確保が難しいのが現状である。こうした状況を解決するため、国土交通省により三隅益田道路の事業化が図られ、平成23年10月30日に三隅・益田道路として都市計画決定された。三隅益田道路は、浜田市三隅町森溝上の石見三隅インターチェンジを起点として、益田市遠田町の遠田インターチェンジまでを結ぶ延長15.2㎞の自動車専用道路として、平成24年度に事業化され、平成27年度に工事着手している。

#### 2. 埋蔵文化財保護部局への照会と調整

この計画・事業化にあたり、国交省から島根県教育委員会に対して、三隅益田道路建設予定地内遺跡の存否について照会があった。これを受けて島根県教育委員会では、浜田市と益田市の両教育委員会の協力のもと、平成25年2月と平成26年2月から3月に分布調査を実施した。その結果、周知の遺跡に加え、試掘確認調査を要する要注意箇所を確認し、発掘調査及び試掘確認調査が必要な旨を有無について平成26年5月13日付け島教文財第161号で回答した。その後も工事用道路等の付帯工事に伴う分布調査を数次にわたって行っている。

島根県教育委員会と国土交通省は地元教育委員会も含めて協議を重ね、分布調査の結果を踏まえた試掘確認調査を平成26年度から国庫補助事業により実施した。本報告で扱う遺跡については以下のとおり試掘確認調査を実施した。

- 1. 海石西遺跡 平成 26 年 10 月
- 2. 角落し遺跡 平成 26 年 11 月、平成 27 年 5 月
- 3. 廻り田遺跡 平成27年5月



第1図 事業の位置

- 4. 近世山陰道跡(馬橋地区) 平成27年4月~6月
- 5. 神出西遺跡 平成 26 年 11 月

#### 3. 法的手続き

海石西遺跡・角落し遺跡・神出西遺跡は平成 27 年 3 月 23 日付け国中整浜調設第 144 号で、廻り田遺跡・近世山陰道跡(馬橋地区)は平成 27 年 9 月 8 日付け国中整浜調設第 87 号で文化財保護法第 94 条第 1 項の規定による通知が国土交通省から島根県教育委員会教育長あて提出された。それに対して島根県教育委員会は、試掘確認調査の結果を踏まえ、海石西遺跡・角落し遺跡・神出西遺跡は平成 27 年 3 月 23 日付け島教文財第 35 号の 103 で、廻り田遺跡・近世山陰道跡(馬橋地区)は平成 27 年 9 月 8 日付け島教文財第 120 号の 40 で記録作成のための発掘調査の実施を勧告している。

埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施することとなり、国土交通省と工程上の協議を経て発掘調査を実施した。文化財保護法第99条第1項の規定による通知は下記のとおりで、埋蔵文化財調査センター所長から島根県教育委員会教育長あてに提出している。

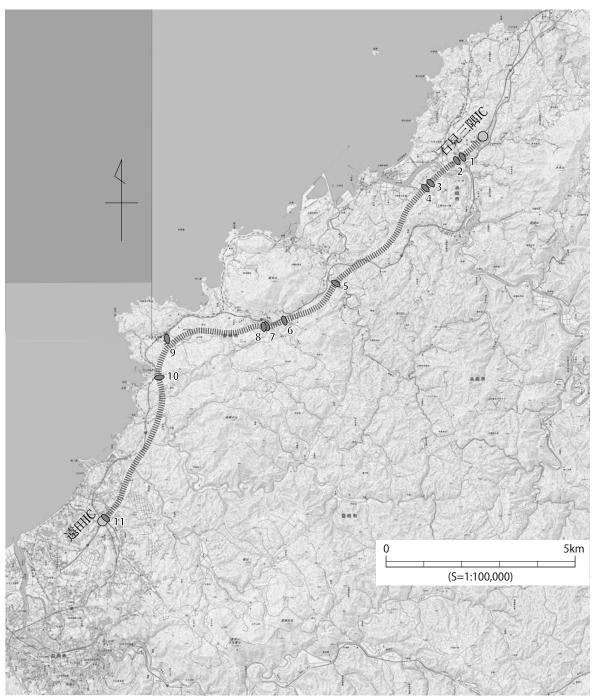
- 1. 海石西遺跡 平成 27 年 5 月 25 日付け島教埋第 192 号
- 2. 角落し遺跡 平成 27 年 10 月 1 日付け島教埋第 292 号
- 3. 廻り田遺跡 平成 28 年 8 月 25 日付け島教埋第 278 号
- 4. 近世山陰道跡(馬橋地区) 平成28年4月19日付け島教埋第21号
- 5. 神出西遺跡 平成 27 年 6 月 22 日付け島教埋第 193 号 平成 27 年 4 月 27 日付け島教埋第 61 号

### 第2節 発掘作業と整理作業

平成27年度 調査員1名、調査補助員2名の1班で調査を実施した。海石西遺跡と神出西遺跡、角落し遺跡の3遺跡を対象とした。海石西遺跡は6月30日に現地調査を完了した。神出西遺跡は10月2日に現地調査を終了したが、古墳時代の遺構が調査範囲外へ続くことが判明した。28年度に発掘調査を行うこととなった。角落し遺跡は1区から5区の調査を終えたが、事業の進捗の関係により遺跡全体の調査を行うことができなかったため29年度に実施することとなった。なお、角落し遺跡では11月4日に中村唯史氏の現地指導を受けている。整理作業は現地調査が終了した平成28年1月から実施した。実測等は調査員と補助員が行った。

平成28年度 調査員2名、嘱託職員1名、調査補助員4名の2班で調査を実施した。近世山陰道跡(馬橋地区)と榎坂窯跡、廻り田遺跡、神出西遺跡の4遺跡を対象とした。近世山陰道跡(馬橋地区)は9月14日、廻り田遺跡は11月11日に調査を終了した。神出西遺跡は12月21日に調査を終えている。なお、榎坂窯跡は11月15日に調査を終了した。榎坂窯跡は平成30年度以降に報告書の刊行が予定されている。なお、9月8日に榊原博英氏、9月21日に阿部志朗氏の現地指導を近世山陰道跡と廻り田遺跡で受けた。整理作業は現地調査が終了した平成29年1月から実施した。遺物の実測等は調査員、嘱託職員、補助員が行っている。

平成 29 年度 平成 27 年度と 28 年度に調査を行った 5 遺跡について調査員 1 名、調査補助員 1 名の 1 班で報告書の作成を実施した。遺物の実測は調査補助員を中心に行った。



第2図 事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地 (S=1:100,000)

表 1 事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地

1	苅立横穴	2	海石西遺跡	3	嶧口古墓	4	角落し遺跡	5	普源田砦跡	6	廻り田遺跡
7	近世山陰道跡(馬橋地区)	8	榎坂窯跡	9	蔵廻り遺跡	10	国ケ峠遺跡	11	神出西遺跡		

## 第2章 遺跡の位置と環境

## 第1節 地理的環境

本書掲載の遺跡は島根県西部の浜田市と益田市に存在する。遺跡の分布が広範囲となっている ため、本章では浜田市及び益田市の位置と環境についてそれぞれ概略を述べ、各遺跡の詳細な地 理的環境は第4章以下に記述する。

#### 1. 浜田市の位置

浜田市は島根県西部、石見地方の中央に位置している。平成17年10月1日に旧浜田市と三隅町、金城町、旭町、弥栄村が合併し新たな浜田市として誕生した。北は日本海、南は中国山地で広島県と接している。市内全体に山地が広範囲に広がっており、沿岸部にも大麻山(599m)など500m級の山が存在する。平野は海岸沿いに認められるが比較的広い沖積地としては浜田川下流と周布川下流がある。集落は平野や山間部の盆地などに形成されているため、市内での人口密度の差が非常に大きい。交通は東西に国道9号と江津ICから石見三隅ICまでつながる高速道路の山陰道、南北には中国横断自動車道広島浜田線が通るなど交通の要衝となっている。また、島根県唯一の国際貿易港である浜田港も存在している。市内に一級河川は存在しないが、平野に向けて各河川が中国山地から流れており、昭和58年に旧三隅町を中心に大雨による水害なども起こっている。

#### 2. 益田市の位置

益田市は島根県西部、石見地方の西寄り、浜田市の西隣に位置している。平成16年11月1日に旧益田市と美都町、匹見町が合併し新たな益田市として誕生した。北は日本海、南は広島県、西は山口県と接している。市内には一級河川の高津川と二級河川の益田川によって形成された広い沖積地(益田平野)はあるが、それ以外は河川沿いの小規模な平野や盆地である。市域の南半分は中国山地からつづく山間部となっている。集落は益田平野を中心に山間部の盆地などに形成されているが、浜田市と同様に市内での人口密度の差が非常に大きい。交通は浜田益田間を抜けて津和野町へ続く国道9号、日本海沿いに山口県萩市へ繋がる国道191号が通っている。吉賀町から津和野町を経由し流れ込む高津川は日本一の清流に選ばれるなど水質が非常に良好である。益田市内には萩・石見空港も開港しており、島根県西部と山口県萩地方の空の玄関としての役割も担っている。

### 第2節 歷史的環境

#### 1. 浜田市三隅町

浜田市三隅町の遺跡は主に三隅川河口周辺の海岸部近くと、山間部に形成されたものに大きく 分けられる。遺跡の主な種別は城跡、製鉄遺跡、古墳、古墓、窯業遺跡で集落跡はほとんど確認 されていない。これは過去に発掘調査がほとんど実施されていないことを反映している。

【旧石器時代・縄文時代】旧石器時代・縄文時代に確実にさかのぼる遺跡は知られてない。

【弥生時代】三隅町井野に所在する大谷遺跡では井川川が氾濫した折に弥生時代後期の甕が確認されている。これまでのところ集落跡や墳墓など遺構の伴う遺跡が確認された例は無い。

【古墳時代】古墳時代になると各所で遺跡が確認されている。三隅町三隅の苅立横穴では工事中に発見された横穴墓1穴が調査されている。玄室は幅2.6m、高さ1m、奥行き2.6mで平面形が正方形に近い。玄室内からは人骨や大刀、須恵器、玉類など多くの副葬品が出土した。追葬があったと考えられており、初葬は7世紀前半、追葬は7世紀後半にまで下る。. 苅立横穴から1.4km西の三隅川近くの丘陵裾には高田横穴群がある。三隅川に面した丘陵斜面に造られた横穴で苅立横穴とほぼ同時期の横穴墓群、合計7穴確認されている。これまでに発掘調査等で出土した遺物

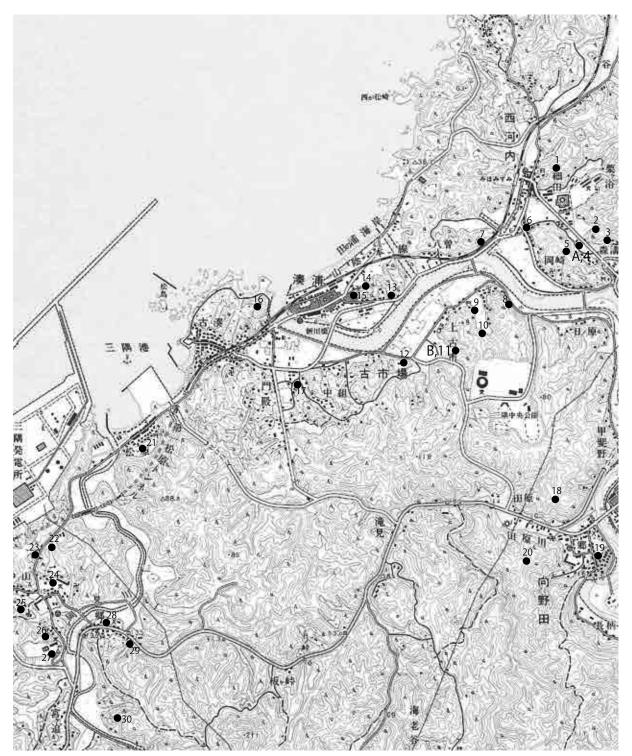
は須恵器や鉄鏃や大刀などの鉄器が出土している。三隅町小野には横穴式石室を伴う小野古墳が存在したが、すでに消滅している。三隅町岡見の青浦古墳は海岸沿いに造られた古墳である。横穴式石室を伴う古墳であるが、墳丘は削平されており墳形は確認できない。石室内も大部分が破壊されており残存長 2.8m、奥壁は幅 1.65m である。遺物の出土は無く時期は不明である。三隅町井野には先述の大谷遺跡で須恵器と土師器が採集されている。同じ井野の大谷古墳は、標高158m、平地から比高差約 9m の井野川を臨む丘陵斜面に築かれた古墳である。直径約 10m の円墳で横穴式石室が確認できる。古くから石室は開口しており、遺物の出土は無く時期は不明である。【古代】三隅町内に古代の遺跡でほとんど確認されていない。

【中世】中世の浜田市三隅町を語る上で三隅氏は外せないだろう。三隅氏は石見国那賀郡三隅郷を 基盤にして石見西部地域に勢力を張った中世の在地豪族である。系図等の記すところによると、 石見益田御神本(みかもと)氏の一族で、地頭職を得て高城(三隅城)に拠り、三隅氏を称した といわれている。また、三隅川河口の三隅湊には海辺領主の大賀氏がいたことが古文書の調査で わかっている。この大賀氏は三隅湊を抱えて船舶を所有し、三隅氏や大内氏から領地や自由通行 権などの権益を保障されており、大名領国を越えて経済活動を行っていたようである。三隅町内 には多くの城跡が残されている。高城は三隅氏の本城で、三隅川と三隅の町、街道を見下ろす位 置にある。高城が築かれた高城山中腹には三隅氏の菩提寺とされる龍雲寺が存在する。三隅氏は 南北朝の動乱期は南朝方に与し、北朝方の益田氏と争うなど一大勢力であったが、戦国時代にな り台頭してきた毛利氏に攻められ高城は落城する。この高城には多くの支城及び陣城が存在して いる。河内城跡、井村城跡(井野城跡)、針藻城跡、次郎丸城跡など、各城の様相は縄張図で知ら れているのがほとんどで、発掘調査は行われていない。三隅町岡見にある城跡で、今回の事業地 内に存在する普源田砦跡は岡見川に面した丘陵に築かれている。尾根上に3つの郭・斜面には帯 郭が存在し、平成 27 年度の試掘調査では郭と帯郭に柱穴が検出されたことから掘立柱建物跡が 建てられていたと考えられる。古墓は三隅町井野の久瀬遺跡では宝筺印塔と五輪塔、中国陶器の 壺と銭貨が出土している。壺は 13 世紀後半から 14 世紀前半のものである。銭貨は北宋銭がほと んどで明銭が一部含まれていた。三隅町黒沢には笠取りの墓といわれる五輪塔群が存在する。三 隅町古市場の嶧口古墓には福光石製の一石五輪塔を数基伴う基壇が存在した。同じ古市場の三隅 川を臨む丘陵斜面には火葬骨と土師器皿片が出土した地蔵畑遺跡が存在する。

【近世以降】浜田市三隅町内では製鉄遺跡が数多く残されている。多くは近世以降の操業と考えられるが、未調査のため中世にさかのぼる可能性は捨てきれない。三隅町岡見の中山鈩遺跡は発掘調査が実施された唯一の遺跡である。発掘調査の結果、押立柱や小舟等の地下構造は確認され、近世末の磁器が出土している。高殿の規模を15m×10mほどと想定している。また近世以降に石見地方の各地で生産された瓦・陶器の窯跡も存在する。近世までさかのぼる窯跡が存在するのか今後の調査が待たれる。また浜田から益田、津和野へ抜ける近世山陰道跡が当地を通っている。

#### 2. 益田市東部(益田川以東)

益田市は石見地方で最大規模の平野部を有し、また古くから交通の要衝として栄えたところで、石見地方の中でも数多くの遺跡が存在する地域である。その中でも益田川以東に位置する久城地域から遠田地域にかけては、国指定史跡となっているスクモ塚古墳や石見地方最大の前方後円墳である大元1号墳など著名な遺跡も多い。

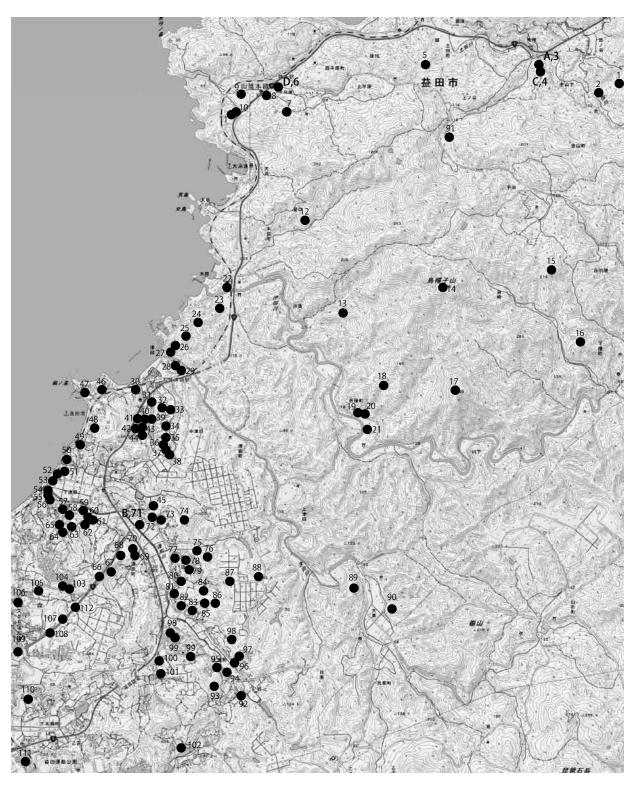


第3図 浜田市三隅町の遺跡 (S=1:25000)

表 2 浜田市三隅町の遺跡

A, 4	海石西遺跡	1	八ノ木砦跡	11	角落し遺跡	21	松原遺跡
B、11	角落し遺跡	2	海石遺跡	12	安隠寺跡	22	斉藤窯跡
		3	苅立横穴	13	高田横穴群	23	山岡窯跡
		4	海石西遺跡	14	三隅石塁	24	岡見中学校脇遺跡
		5	梅ヶ城跡	15	極楽寺横古墓	25	森井窯跡
		6	成田郷三角田記念碑	16	針藻城跡	26	次郎丸砦跡
		7	風呂ノ木砦跡	17	小金町城跡	27	中山鈩跡
		8	地蔵畑遺跡	18	城ヶ迫砦跡	28	郷遺跡
		9	古市城跡	19	青竜城跡	29	たかのだん遺跡
		10	嶧口古墓	20	陣ノ尾砦跡	30	普源田砦跡

【旧石器時代・縄文時代】久城町の丘陵地帯に位置する久城西 II 遺跡では旧石器時代末〜縄文時代草創期の尖頭器が出土している。同じく堂ノ上遺跡でも有茎尖頭器が出土している。この地域では人類の活動が1万年以上前まで遡ることが知られている。縄文時代後期〜晩期の遺物が、三宅御土居跡、土井後遺跡で出土するなど益田平野の南側に遺跡の存在が知られる。また、久城町の丘陵地帯では、若葉台遺跡で縄文時代中期頃とみられる落とし穴が確認されている。沖手遺跡では丸木舟が2艘が出土しており、C14年代測定から縄文時代後期末〜晩期初頭頃のものと推測さ



第4図 益田市東部の遺跡 (S=1:50000)

表3 益田市東部の遺跡

A、3	近世山陰道跡 (馬橋地区)	21	天道山城跡	47	鵜ノ鼻古墳群	73	宝珠庵益遺跡	99	辻遺跡
3、71	神出西遺跡	22	木部郷古墳群	48	高芝遺跡	74	嶽城跡	100	地下田南遺跡
0、4	榎坂窯跡	23	井元遺跡	49	佐々木窯跡	75	北ノ平経塚	101	地下田北遺跡
D, 6	蔵廻り遺跡	24	城ヶ浦城跡	50	前浜遺跡	76	木原古墳	102	谷上古墳
		25	上の峠古墳	51	前浜古墳	77	北ヶ迫遺跡	103	尾堤古墳群
		26	峠山遺跡	52	ウエ古墳	78	神明北遺跡	104	吉ヶ益古墳
1	大内新介弘直墓	27	寺ノ前古墳	53	スケ入道遺跡	79	神明古墳	105	第2工場跡
2	金山下鈩跡	28	水雲島古墳	54	原窯跡	80	神明遺跡	106	スクモ塚古墳
3	近世山陰道跡 (馬橋地区)	29	水雲島遺跡	55	木屋ヶ森古墳	81	平遺跡	107	久城西 I 遺跡
4	榎坂窯跡	30	大道古墳群	56	進徳遺跡	82	柳ヶ益古墳	108	若葉台遺跡
5	鎌手丸山古墳	31	片子遺跡	57	前原遺跡	83	貝崎古墳	109	久城東遺跡
6	蔵廻り遺跡	32	片子東遺跡	58	原遺跡	84	蔵ノ段遺跡	110	聖塚古墳
7	神納古墳	33	日ヶ迫遺跡	59	森ノ上北遺跡	85	燈籠ノ辻遺跡	111	四ッ塚古墳群
8	佐々木窯跡	34	杉迫窯跡	60	森ノ上東遺跡	86	大元古墳群	112	久城西Ⅱ遺跡
9	平原遺跡	35	本片子東遺跡	61	寺田遺跡	87	木原益奥遺跡		
10	芝窯跡群	36	本片子窯跡	62	森ノ上西遺跡	88	金堀古墳群		
11	中塚窯跡群	37	朶ヶ迫窯跡	63	原南遺跡	89	大草城跡		
12	大石鈩跡	38	本片子南遺跡	64	原口東遺跡	90	大草古墳		
13	滝の上鈩跡	39	本片子北遺跡	65	原口西遺跡	91	上の谷鈩跡		
14	烏帽子山城跡	40	岩ヶ本遺跡	66	原浜遺跡	92	杜山古墳		
15	宇治城跡	41	西片子遺跡	67	流松南遺跡	93	吉ヶ益古墳		
16	高倉山城跡	42	朶ヶ迫西遺跡	68	流松遺跡	94	三反田遺跡		
17	平家ヶ嶽城跡	43	寺町遺跡	69	高内古墳	95	三百田遺跡		
18	かんば鈩跡	44	朶ヶ迫東遺跡	70	大山遺跡	96	森ヶ内古墳		
19	紺屋敷鈩跡	45	山城畑遺跡	71	神出西遺跡	97	石仏古墳		
20	赤雁土居跡	46	鵜ノ鼻遺跡	72	神出遺跡	98	原ヶ益遺跡		

れている。この時期に、「古益田湖」が次第に埋まっていったものとされている。

【弥生時代】久城町の沖手遺跡では、弥生中期の水路とみられる溝が検出されおり、陸化された沖 積地で次第に水田開発が進む様子が明らかとなっている。益田川右岸の丘陵地帯では原浜遺跡(後 期初頭)、久城西Ⅰ遺跡、(後期)、久城東遺跡(後期)、堂ノ上遺跡(後期)で竪穴住居跡が見つかっ ている。また、専光寺脇遺跡では弥生時代中期後半頃とみられる方形貼石墓などが確認されている。 【古墳時代】この地域は、石見地方の中でも数多くの古墳が存在、前期から後期を通じて有力な 首長墳が継続的に築造されている。前期には、三角縁神獣鏡が出土した四塚山古墳群や、近年益 田市教育委員会において発掘調査が行われた全長約86mの前方後円墳である大元1号墳がある。 中期には、久城地区の丘陵上にスクモ塚古墳が築造されている。埴輪列や葺石を伴う二段築成の 墳丘をもつ。墳形はこれまで墳長 57 mの造り出し付き円墳という見方が有力であったが、島根 県教育委員会において近年行なわれた測量調査及び益田市教育委員会による周辺の発掘調査に よって墳長約 100 mの前方後円墳となる可能性も指摘されている。後期では、墳長 49 mの前方 後円墳で、周囲に壕や外堤を伴う小丸山古墳や、4基の前方後円墳を含む 50 基以上の古墳が存 在する鵜ノ鼻古墳群などが知られている。また、かつては 30 基以上あったとされる片山横穴墓 群など、益田平野南東部の丘陵を中心に横穴墓が数多く造られている。土田町には鎌手丸山古墳 が存在する。直径約 12m で高さ 4m の円墳である。古墳表面には葺石と見られる礫が点在してい る。埋葬施設や副葬品については明らかで無く、築造時期も不明である。このように数多くの古 墳が存在する一方、集落遺跡で様相の分かるものは少なかったが、近年徐々に調査例が増えてい る。久城地区では、久城西 I 遺跡で古墳時代中期~後期の竪穴住居跡や加工段が、若葉台遺跡で は古墳時代中期の竪穴住居跡が検出されている。これらの集落の形成とスクモ塚古墳の造営との 関連性が注目される。古墳時代後期になると須恵器窯跡が益田市の北東部に点在するようになる。 芝窯跡、中塚窯跡が西平原町に存在する。芝窯跡が 6 世紀末で、中塚窯跡は 7 世紀初めとされる。 津田町には杉迫窯跡で畑地造成に伴い窯壁と須恵器の破片が出土している。朶ヶ迫窯跡では灰原

資料と思われる須恵器が多数出土しているが時期は不明である。

【古代】久城町の久城東遺跡では8世紀後半頃の掘立柱建物が15棟以上と作業場と考えられる平 坦面、溝状遺構が検出されている。鍛冶に関係する椀形滓や鉄片が出土しており、鍛冶工房が存 在したと考えられる。遠田町の原浜遺跡では小型の炭窯が約 10 基検出され、C14 年代測定から 7~8世紀頃のものと推定されている。本片子窯跡は古墳時代終末期~奈良時代前半の窯跡であ る。須恵器とともに瓦も生産されていたことから、この時期に益田市周辺に古代寺院が存在した 可能性も推測される。染羽天石勝神社や久城地区にある櫛代賀姫神社など、5社が『延喜式』の 式内社として記載されている。また、益田川下流域にあった安福寺、妙福寺、福王寺、蔵福寺、 専福寺の5ヶ寺が、万寿3年(1026 年)の大津波によって流失した、という伝承も残っている。 【中世】平安時代末期には益田荘、長野荘といった荘園が成立する。鎌倉時代以降は益田氏の拠点 として発展しており、益田氏に関連する遺跡が数多く存在する。三宅御土居跡は益田氏の居館で、 東西が最大約190m、南北が最大約110mの屋敷地をもち、川や堀、土塁によって周囲の防御 を固めている。七尾城跡は、三宅御土居跡から益田川を隔てた対岸の丘陵上に位置している。本 丸や二の段の発掘調査では礎石建物跡や庭の跡などが確認され、出土遺物から 16 世紀中頃〜後 半には居城として機能していたことが明らかとなった。七尾城下から三宅御土居跡の周辺は益田 氏と関わりのある社寺が数多く見られ、中世の城下町に由来する地割りや地名も残されている。 益田川下流域では、沖手遺跡で平安時代末〜近世前半にかけて大規模な集落が営まれており、貿 易陶磁などが多数出土している。また、中須西原遺跡は中世後半を中心とする集落遺跡で、船着 場跡とみられる礫敷き遺構が検出された。これらの遺跡から、益田川下流域が中世の交易・流通 に密接に関わる地域であったことが窺われる。戦国期には、益田川支流の今市川沿いに今市船着 場が成立し、益田氏の貿易港や市場として機能したと考えられている。益田市内には益田氏代々 の墓と伝わる五輪塔など中世の石塔が数多く残されている。

【近世以降】益田氏は関ヶ原の戦い後、長門国須佐へ移ることとなった。その後の益田はおおよそ 高津川を境に、東部が浜田藩、西部が津和野藩に分かれて治められた。また製鉄遺跡や窯業遺跡 が各地で確認されている。近世山陰道跡は土田町から西平原町、木部町、津田町、遠田町の各所 に残っており、現在も少しずつ形を変えながら往来に利用されている。

#### 【参考文献】

(浜田市西部)

島根県教育委員会 1997『石見の城館跡』島根県中近世城館跡分布調査報告書〈第1集〉

島根県教育委員会 2002 『増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ (石見編)』

島根県教育委員会 2011『近世山陰道推定地(力石地区・荒磯谷地区・原地区・カモト地区)片良ケ平遺跡・馬ノ太郎遺

跡・北ヶ迫遺跡』一般国道9号(浜田・三隅道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書2

浜田市教育委員会 2011 『島根県浜田市遺跡地図Ⅲ(三隅自治区)史跡石見国分寺跡(塔東側の確認調査)』

本田博之 2017「中近世移行期西日本海地域の流通と海辺領主」『企画展石見の戦国武将一戦乱と交易の中世ー』島根県 立石見美術館

三隅町教育委員会 1983『中山たたら遺跡緊急発掘調査報告』

三隅町教育委員会 1993『三隅町の文化財』

#### (益田市東部)

大川 清 田中義昭 西垣丹三 1958「島根県益田市西平原窯址」『古代』早稲田大学

島根県教育委員会 1997『石見の城館跡』島根県中近世城館跡分布調査報告書〈第1集〉

島根県教育委員会 2002『増補改訂島根県遺跡地図Ⅱ(石見編)』

島根県教育委員会 2007 『沖手遺跡 - 1 区の調査 -』一般国道 9 号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 3

島根県教育委員会 2010『久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西Ⅰ遺跡・久城西Ⅱ遺跡・原浜遺跡』一般国道9号(益田道路) 建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6

島根県教育委員会 2011『堂の上遺跡』一般国道9号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書7

島根県古代文化センター 2015『日本海沿岸の潟湖における景観と生業の変遷の研究』島根県古代文化センター研究論集 第 15 集

瀬戸浩二・渡辺正巳 2015「第4節「古益田湖」の諸相」『日本海沿岸の潟湖における景観と生業の研究』島根県古代文 化センター研究論集第15集 島根県古代文化センター

林 正久 2006「益田平野の成り立ちと沖手遺跡」『沖手遺跡 - 1 区の調査成果-』島根県教育委員会

増野晋次 2001「益田・鵜ノ鼻古墳群について」『松江考古』第9号 松江考古学談話会

益田市誌編纂委員会 1975『益田市誌』上巻

益田市教育委員会 1982『国営農地開発事業関係埋蔵文化財調査報告書 本片子遺跡・木原古墳』

益田市教育委員会 1984『鵜ノ鼻古墳群発掘調査概報』

益田市教育委員会 1986 『益田市遠田地区遺跡分布調査報告書 I 』

益田市教育委員会 1987『益田市遠田地区遺跡分布調査報告書Ⅱ』

益田市教育委員会 1988『益田市遠田地区遺跡分布調査報告書Ⅲ』

益田市教育委員会 1990『小丸山古墳発掘調査報告書』

益田市教育委員会 1991 『三宅御土居跡 I 』

益田市教育委員会 1993『益田市関連遺跡群 I-勝達寺・七尾城跡-』

益田市教育委員会 1994『益田市関連遺跡群Ⅱ』

益田市教育委員会 1995『益田市関連遺跡群Ⅲ』

益田市教育委員会 1998『七尾城跡・三宅御土居跡 益田市関連遺跡群発掘調査報告書』

益田市教育委員会 2000『中世今市船着場跡文化財調査報告書』

益田市教育委員会 2001 『身近なまちづくり支援街路事業 歴史的環境整備地区沖田七尾線街路事業に伴う暁音寺発掘調査報告書』

益田市教育委員会 2003 『市内遺跡発掘調査報告書 I (七尾城跡・三宅御土居跡・沖手遺跡・中世石造物分布調査)』

益田市教育委員会 2009『古代の益田を歩いてみよう』

益田市教育委員会 2009『中世の益田を歩いてみよう』

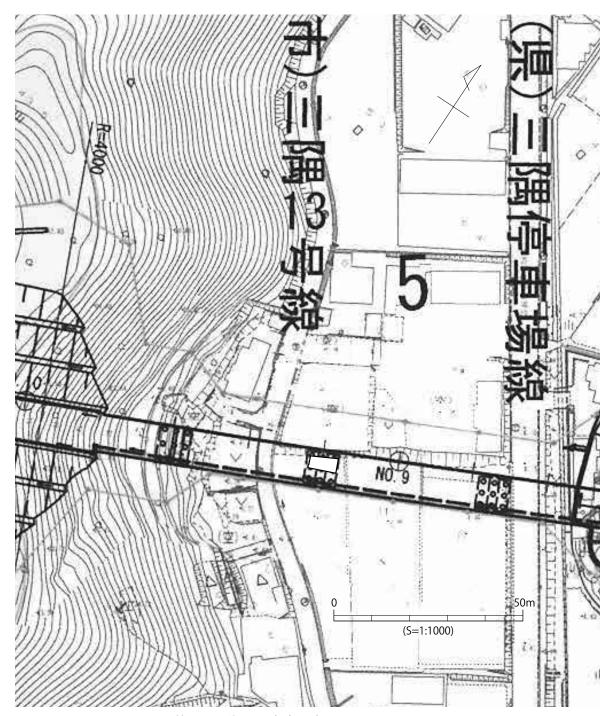
## 第3章 海石西遺跡の発掘調査

### 第1節 遺跡の位置と環境

- 1. 遺跡の位置 海石西遺跡は浜田市三隅町三隅地内に位置している。遺跡の東側には県道 211 号が通っている。この県道は国道 9 号と JR 三保三隅駅を結ぶ県道で、両側には住宅と水田が立地している。遺跡は県道沿いの水田地帯で確認された。
- 2. 地理的環境 中国山地を源流として浜田市三隅町の中心市街地を通り日本海に注ぐ2級河川三隅川の右岸に遺跡は存在する。遺跡は南東から北西にむけて広がる狭い谷に形成されている。この谷の両側には谷に沿って丘陵が続いている。南西側の丘陵は河口の直前で大きく西に流れを変える三隅川の攻撃面に位置しており、遺跡は攻撃面の反対側にあたる。したがって、遺跡からは三隅川を視認することはできない。分布調査では地表面で遺物を採集することはできなかったが、丘陵際



第5図 海石西遺跡の位置 (S=1:4000)

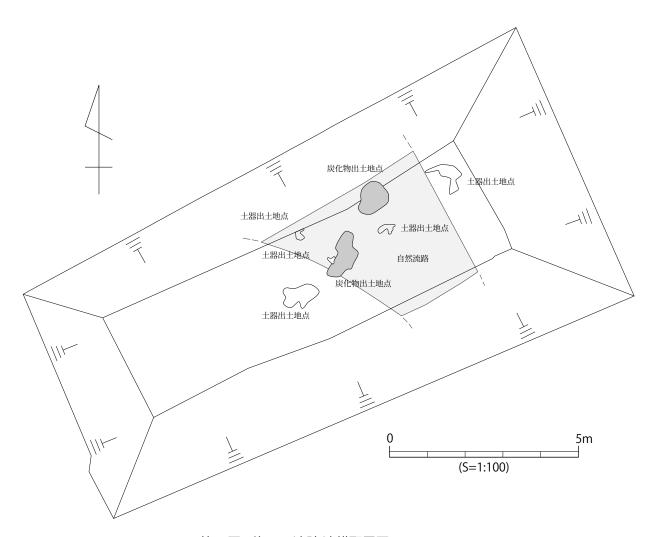


第6図 海石西遺跡調査区配置図 (S=1:1000)

に集落などが形成されている可能性があること、東側の丘陵斜面に苅立横穴墓が存在し、過去の調査で、大刀や須恵器、玉類が出土していることから試掘調査を実施した結果、古代から中世の遺物が発見されたため調査を行った。調査前の水田の標高は 5.4m であった。

## 第2節 発掘調査と整理作業の経過

1. 発掘調査の経過 本遺跡の発掘調査は平成27年6月に行った。平成27年度は6月1日から6月30日にかけて実施した。調査区は最近まで水田耕作が行われていた。試掘確認結果から遺物包含層の上面まで重機により掘削を行った。その後、人力による包含層掘削と遺構検出、遺構掘削



第7図 海石西遺跡 遺構配置図 (S=1:100)

を実施した。遺物包含層は非常に粘質が高く、掘削や遺構検出は困難であった。遺構は確認できなかったが、自然流路が調査区を横断しており、その周辺に弥生時代中期後半から古墳時代初めの土器が良好な遺存状態で出土した。自然流路には炭が堆積している部分もあり、周辺に集落の存在が予想されたが、調査区内には遺構は確認できなかった。6月30日ををもって調査は終了した。終了に先立ち高所作業車による高所からの写真撮影を行っている。埋め戻し後、7月22日に国土交通省へ引き渡しを行っている。なお、調査中は近隣住民がほぼ毎日調査の見学に訪れた。皆さん興味津々で見学するだけでなく、写真を撮影する方や質問をする方も多かった。質問の応答だけでなく出土品に触れてもらう等も積極的に行った。地元の歴史や文化について非常に関心が高い地域で、発掘調査にもご協力やご配慮をいただいた。

2. 整理等作業の経過 遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬期は埋蔵文化財調査センターにて前述した作業を継続し、続いて復元・実測等の整理作業を行った。平成 29年度に本遺跡の出土品を通覧して遺物実測・写真撮影を行っている。現地調査終了後に整理した図面・写真等の記録類についても、出土品と併せて総合的な整理検討を行い、遺構・遺物のトレース、写真、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等には Adobe 社のソフトを使用した。

### 第3節 発掘調査の概要

1. 調査の方法 調査前の現地の状況は水田である。調査中も周囲には水田が存在し、稲作を行っていた。試掘確認調査の結果に基づいて、包含層までバックホーを用いて表土及び造成土を取り除く必要があった。重機掘削は、バケットに平爪を装着して、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。土層観察を行いながら、包含層まで若干余裕を持たせたところで掘削を停止した。その後はスコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。

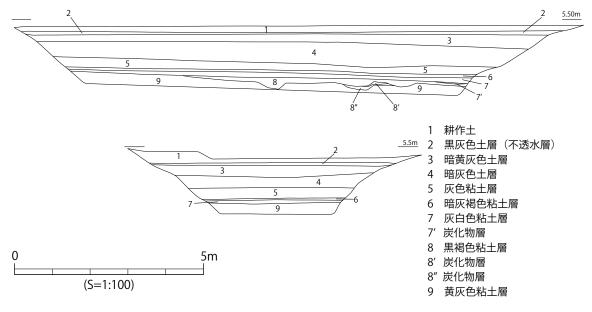
遺物包含層についてはスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中するカ所については移植ゴテ・草削りにより掘り下げた。出土状況の有意性が低いものは、取り上げに際しては調査地点と層位の記録を行った。遺構検出は、ジョレンにより大雑把に精査した後、草削りを用いて丁寧に削り、遺構の検出に努めた。出土する遺物の粗密に応じて適宜移植ゴテ等の道具を併用し、遺構検出にはジョレン・草削りを使用した。

土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。出土遺物については、必要に応じて出土状況を記録した後、取り上げMoを振って取り上げた。

遺構の平面図は、コンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム「SITE」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行い、高低差のある壁面については平面図と同様に調査システムを用いた記録作成を行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム(モノクロネガ・カラーポジフィルム)による撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。

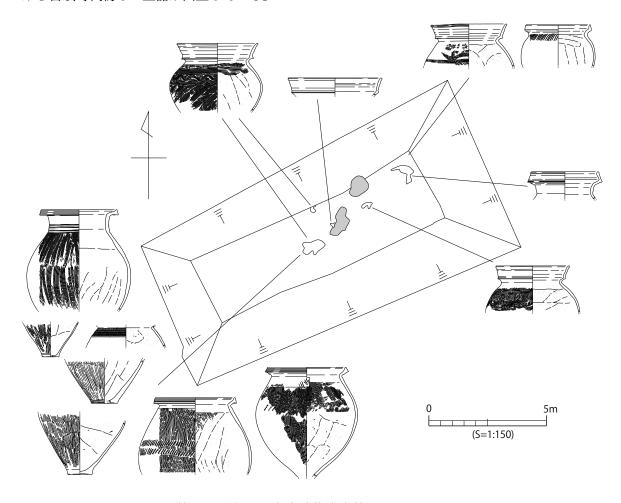
現地調査期間は平成 27 年 6 月 1 日から 6 月 30 日、調査面積は 120㎡、調査体制は調査員 1 名と調査補助員 2 名である。

2. 基本層序 基本層序は、上から 1 層水田耕作土層、2 層黒灰色土層(床土)、その下に 3 層暗 黄灰色土層と 4 層暗灰色土層が堆積している。その下に遺物包含層である 5 層灰色粘土層が堆積 している。この層は古代から中世の遺物が出土していた。その下層には 6 層暗灰褐色粘土層と 7 層灰白色粘土層があり中世から弥生時代後期までの遺物が出土している。出土遺物は摩滅により表



第8図 海石西遺跡土層図 (S=1:100)

面が風化していた。さらに下の9層は黄灰色粘土層である。9層の上部10cmまでに遺物が出土している。9層の出土遺物の年代は弥生時代前期から古墳時代初めである。さらに下の層は安全上の問題で調査区を全面的に掘り下げる調査はできなかったが、部分的に掘り下げを行い、9層は遺物が包含される上部10cmよりさらに50cm下方までは堆積していることを確認しているが、遺物は出土しなかったため調査を終了した。8層は9層上面に形成された自然流路内に堆積した黒褐色粘土層で、8'層と8"層は自然河道底面に堆積する炭化物である。自然河道内からは弥生時代後期から古墳時代初めの土器が出土している。



第9図 海石西遺跡 遺物出土状況図 (S=1:150)

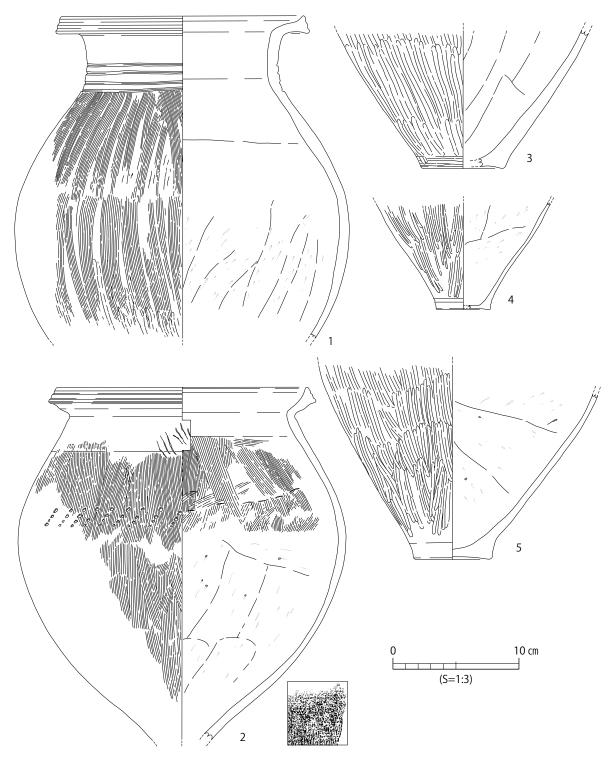
3. 検出した遺構と遺物 調査の結果、遺構は人工的でない自然流路跡を確認した。遺物は弥生時代前期から中世まで出土している。弥生土器は前期頃の甕の底部をはじめ、中期後半の壺や甕、後期の壺や甕などが出土している。弥生時代前期の甕の底部は非常に細片で図化できなかった。古墳時代の遺物は土師器と須恵器である。土師器は古墳時代初めの甕が多い。須恵器は5層や6層から出土している。古代以降は、奈良時代の須恵器の杯や緑秞陶器2点、中世の土師器の皿などが出土している。そのほか、中世に大陸から輸入された渡来銭が出土している。

#### 自然流路跡(第9図)

調査区を南東から北西へ流れていたと考えられる幅およそ 4m の自然流路跡が 1 条検出された。 人為的に掘り下げられた溝などの遺構では無く、流水による作用で地面が削れ流路となったもので あると考えられる。その自然流路のくぼみを利用して土器を廃棄したのではないかと考えている。 自然流路跡の埋土は黒褐色粘土層で弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土している。土器は同一個体の破片がまとまって出土している地点が数カ所あり、ほとんど摩滅していなかった。自然流路跡には炭化物の集中地点もあったが、こちらも人為的なものではないと判断した。

包含層出土遺物(第10図~第15図) 本遺跡で出土した遺物の時期は弥生時代前期から9世紀までである。主な出土遺物の時期は弥生時代中期後半、弥生時代後期、9世紀である。

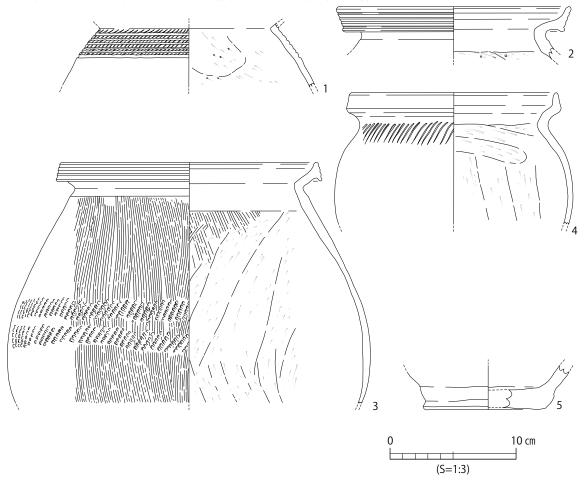
第 10 図から第 11 図までは弥生土器である。第 10 図 1 は弥生土器の壺で 2 は甕である。1 は 胴部下半まで、2 は底部近くまで残存している。1 の外面はナデと胴部下半にヘラ磨きが縦に施さ



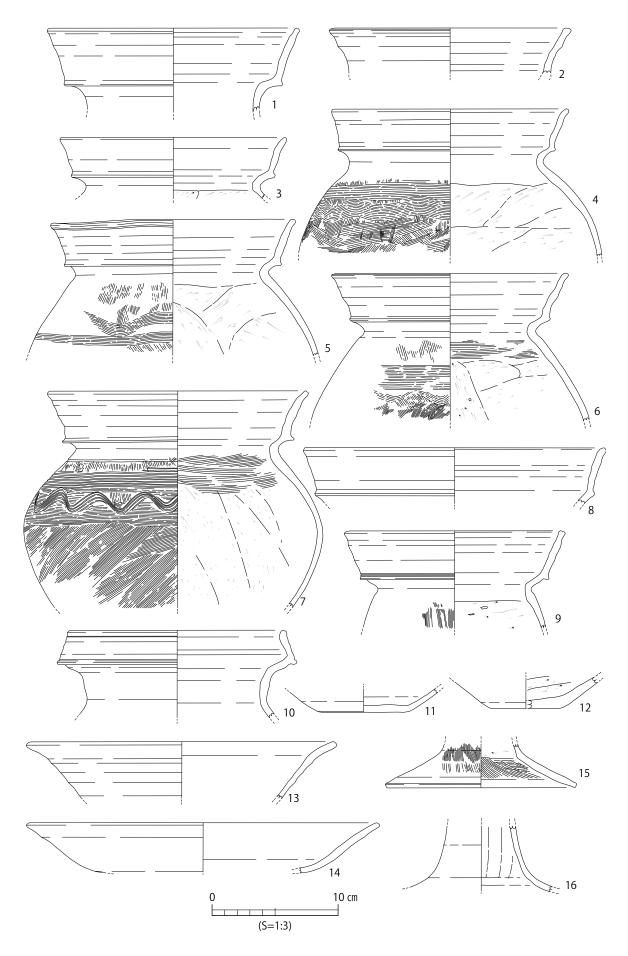
第 10 図 海石西遺跡 出土遺物実測図 1(S=1:3)

れている。2 は胴部の肩に1単位4点の列点文が施されている。外面にへラ磨きは見られない。2 は頸部近くの胴部上端にひっかき傷状の線条痕が2単位見られる。下方の単位には3本、上方の単位には4本ある。線条痕は一定の幅では無く、上方側あるいは下方側が細くなっている。3から5は壺あるいは甕の底部である。全て外面はヘラミガキで内面はヘラ削りである。底部外面は3点ともわずかに上げ底になっている。4 は特に器厚が薄い。1と2は石見IV-2様式と考えられる。3から5も胴部内面の調整がヘラ削りであることから同じ時期のものと考えられる。第11図1から4は甕である。1は頸部が「く」の字状に強く屈曲する。胴部の外面上部には沈線文が横方向に引かれており、沈線文の間には刺突文が連続して施されている。刺突文は6段で間には無文帯が存在する。2も頸部が「く」の字状の甕で胴部内面の調整は上半部がヨコナデとハケ目で大部分は斜位のヘラ削りである。3は口縁部外面に擬凹線文が4条横方向に施されている。4の口縁部外面は無文で外面が下方へ突出しておらず、稜線が明瞭で無い。3と4は胴部内面の調整はヘラ削りで、4の胴部外面には斜めに刺突文が連続して施されている。5は甕あるいは壺の底部でわずかに上げ底となっている。第10図3から5の底部と比べ底部も胴部も分厚く大きい。1と2は石見IV-2様式、3と4は石見V-2様式と考えられる。

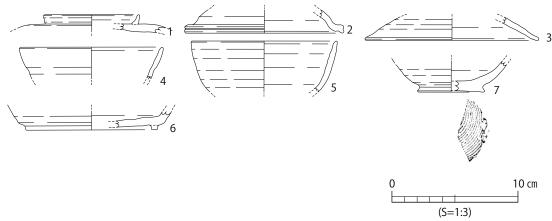
第12図は古墳時代初め頃の土師器である。1と10は壺である。二重口縁で1は外傾、10は内傾する。2から9は二重口縁の甕である。2と9は口縁部が外湾している。先端は尖らず極端に薄くなるものの無い。外面の文様は4と5から7は波状文が見られる。胴部内面はヘラ削りを中心に頸部近くにはハケ目を施すものも存在する。9は胴部が口縁部に比べ幅が小さいが、特殊なもの



第 11 図 海石西遺跡 出土遺物実測図 2(S=1:3)



第 12 図 海石西遺跡 出土遺物実測図 3 (S=1:3)



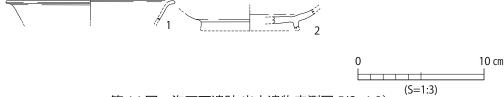
第 13 図 海石西遺跡 出土遺物実測図 4(S=1:3)

では無く、甕の一形態であると考えられる。11 と 12 は壺か甕の底部である。平底である。13 から 16 は高坏である。13 と 14 は坏部、15 と 16 は脚部である。13 と 14 の坏部外面には段はつかず、口縁端部に向かって外湾している。第 12 図の土師器は益田 1 期とその前後であろう。

第13図は須恵器である。1から3はつまみが附属する坏蓋で、1には輪状つまみが残存している。4から7は坏で、4は壁が直線状で、5と7は丸みを帯びている。6は高台付き坏の底部で底部外面は回転へラ削り後に高台を貼り付けている。7の底部は回転糸切りである。8世紀後半のものと考えられる。

第14図は緑釉陶器である。1は口縁部のみの破片で外傾し外湾している。内外面施釉で釉薬には光沢が見られる。胎土は褐色の土師質である。2は椀底部である。貼り付け高台で内面に施釉されている。釉は濃緑色で胎土は土師質で褐色である。防長産緑釉陶器のうち長門産と考えられる。9世紀の属すると考えられる。

第 15 図は土製品と金属器である。1 は土錘である。色調は須恵器に近いが、土師器の焼成が良好なものだと考えられる。上方は欠損している。2 は開元通宝である。保存状況は良好である。直

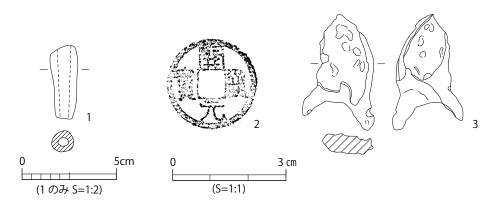


第 14 図 海石西遺跡 出土遺物実測図 5(S=1:3)

径は 2.4cmで、裏面に文字等は鋳出されていない。3 は不明銅製品である。古墳時代初めの土師器と同じ層から出土している。何らかの銅製品が溶けたものと考えられるが、器種は不明である。当センターで蛍光 X 線分析を実施した結果、表 11 と表 12 の結果となり、極めて銅成分が多い金属だと判明した。本来は銅鏃などの製品であった可能性はあるが鉛や錫の含有量が少なく、青銅製品として合金になっていたかわからない。

## 第4節 小結

今回の海石西遺跡の発掘調査では、標高 4m から下で弥生時代前期から中世までの遺物と、弥生時代末から古墳時代初め頃に存在した自然河道を確認した。人為的な遺構はなく、住居などの生活



第 15 図 海石西遺跡 出土遺物実測図 6 (S=1:2、S=1:1)

の痕跡を直接示す遺構は見つかっていない。堆積していた土層のほとんどは粘土層で低湿地遺跡の様相であった。主な遺物の時期は、弥生時代中期後半、古墳時代初め、そして平安時代である。弥生時代中期後半の土器は遺存状況が良好で、復元が可能な壺や甕が多い。遺構は存在しなかったため、遺跡の南西の丘陵裾あたりに集落が形成されている可能性がある。また、第7図1は広島県北部から島根県東部に見られる塩町式土器の甕胴部と考えられる。島根県では最も西で出土した塩町式土器の可能性が高い。古墳時代初め頃の土器群も非常に遺存状況は良かった。この土器群は自然河道周辺で出土しており、自然河道に廃棄されていた可能性がある。遺存状況が良好のことから、集落遺跡が近隣の南西丘陵裾部に形成されている可能性が高い。平安時代の遺物では緑釉陶器が2点出土しており注目される。緑釉陶器は官衙遺跡や寺社などで出土することが多い。海石西遺跡周辺にはこれまでそのような遺跡の存在は認められない。したがって、今後周辺で新たな遺跡の存在が確認される可能性が高いと考えられる。

# 第4章 角落し遺跡の発掘調査

# 第1節 遺跡の位置と環境

- 1. 遺跡の位置 調査対象地は、浜田市三隅町古市場に位置している。浜田市三隅川河口の南で、三隅川の後背湿地と湿地に繋がる谷とその斜面に存在する。調査前は湿地部が近年まで水田耕作を行っていた休耕田で、谷部は近年になって耕作を行っていない状態であった。谷部は谷奥からの湧水が湿地へと流れ込んでいる。谷には水田耕作のために平坦面が数段築かれており、段に際には針葉樹の植林も見られた。丘陵斜面や裾部からは常時湧水があり、地下水が豊富な地域である。斜面は大変もろい結晶片岩層でできており、板状に剥離する性質がある。したがって、斜面崩落が起こりやすく、遺跡内にも斜面が崩落した形跡が残っていた。
- 2. 地理的環境 調査前の遺跡の標高は高いところで約 5m、低いところで約 3m である。三隅川河口に続く平地と谷地形、斜面からなる。斜面を登れば三隅川河口や高島まで見渡せる。谷部の見通しは悪く、周囲からも谷奥までは望めない。昭和 58 年に島根県西部を襲った水害では三隅川が氾濫し、周辺に水があふれた。本遺跡周辺の宅地は 2 階まで床上浸水の被害に遭っており、遺跡の所在する環境は常時の湧水以外にも河川の氾濫による影響を受けやすい地形だと言える。近年は谷部での耕作は行われていなかったようである。周辺住民の聞き取りでは谷部は深田で耕作が非常に困難であったと伺っている。

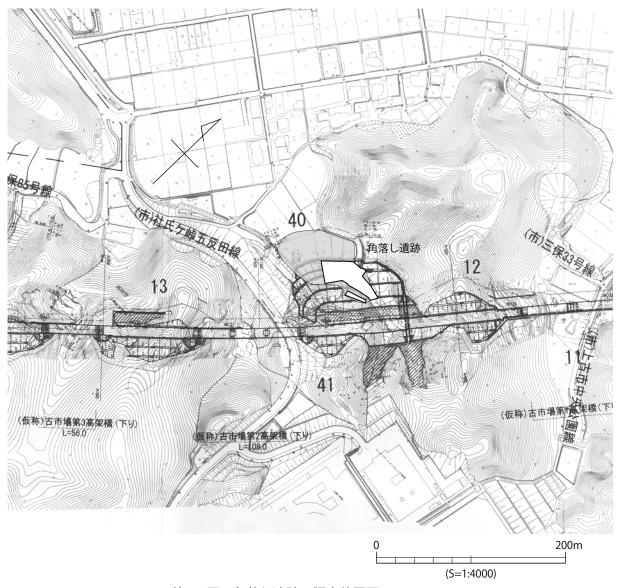
# 第2節 発掘調査と整理作業の経過

1. 発掘調査の経過 本遺跡の発掘作業は平成 27 年 10 月 1 日から平成 28 年 2 月 10 日にかけて 実施した。調査前の遺跡は平地が休耕田で、斜面は山林であった。調査はバックホーを利用し表土 掘削を行ったが調査区までの侵入路が存在せず、斜面の崩落部分を利用して重機進入路を仮設で設 置し、1区と2区の表土掘削を先行して行った。3区は先行する2つの調査区の表土掘削後に実施 した。4区は調査面積が狭く、12月9日に調査を開始した。5区は当初調査範囲外としていたが、 2区と3区の遺物出土状況から遺跡が広がると考えられたため、国土交通省浜田河川国道事務所と 協議を行い、事業範囲内は発掘調査を行うこととなり、10月22日から調査を行った。各調査区 とも表土層除去後、人力による包含層掘削と遺構検出、遺構掘削を実施した。1区と2区では杭 列、5 区では土器溜まりが確認された。遺物は弥生時代前期から室町時代までの土器や陶磁器、木 製品が幅広く出土している。4 区の調査は平成 28 年 1 月 14 日に終了し、その他の調査区は 2 月 10日に調査を終了した。狩猟に先立ち、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行っている。その後、 埋め戻しなどを経て3月24日には国土交通省へ現地を引き渡した。2区の南西側の調査区は平成 29 年度に調査を行う予定となっており、便宜上その調査部分を6区とした。6区については、平 成 29 年度に行われた調査で、弥生時代前期から鎌倉時代の遺構や遺物が出土しており、1 区・2 区と同様の低湿地遺跡だと判明している。6区の報告書については平成30年度以降に刊行予定で ある。

2. 整理等作業の経過 遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬期は埋蔵文化財調査センターにて前述した作業を継続し、続いて復元・実測等の整理作業を行った。平成 29 年度に本遺跡全区の出土品を通覧して遺物実測・写真撮影を行っている。現地調査終了後に整理した図面・写真等の記録類についても、出土品と併せて総合的な整理検討を行い、遺構・遺物のトレース、写真、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等には Adobe 社のソフトを使用した。

# 第3節 発掘調査の概要

1. 調査の方法 調査前の現地の状況は、丘陵緩斜面は山林、平地及び谷部は休耕田であった。調査前の地形により調査区を5つに分け、区毎に調査の進行管理を行った。試掘確認調査の結果に基づいて、包含層や遺構面までバックフォーを用いて表土及び造成土を取り除いた。重機掘削は、バケットに平爪を装着して、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。土層観察を行いながら、包含層あるいは遺構面まで若干余裕を持たせたところで掘削を停止した。その後はベルトコンベアーを設置し、スコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。



第 16 図 角落し遺跡の調査位置図 (S=1:4000)

遺物包含層についてはスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中するカ所については移植ゴテ・草削りにより掘り下げた。出土状況の有意性が低いものは、取り上げに際しては調査区単位で層位の記録のみを行った。遺構検出は、ジョレンにより大雑把に精査した後、草削りを用いて丁寧に削り、遺構の検出に努めた。出土する遺物の粗密に応じて適宜移植ゴテ等の道具を併用し、遺構検出にはジョレン・草削りを使用した。

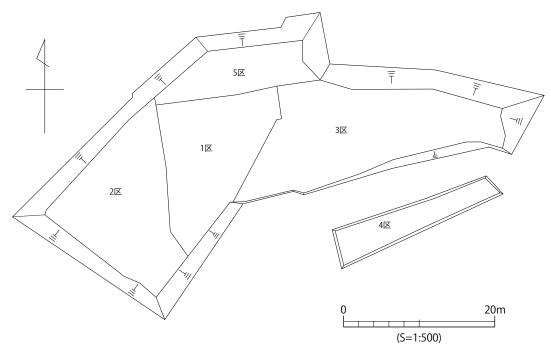
遺構の埋土掘削には移植ゴテ・草削りを使用した。掘削にあたっては土層観察を行いつつ掘り下げた。遺構の検出状況については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構や包含層からの出土遺物については、適宜、出土状況を記録した後、取り上げNoを振って取り上げた。

遺構の平面図は、コンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム「SITE」を用いて測量し、 出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行い、高低差のある壁面 については平面図と同様に調査システムを用いた記録作成を行った。遺構等の写真は、原則として 報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム(モノクロネガ・カラーポジフィルム)による 撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。

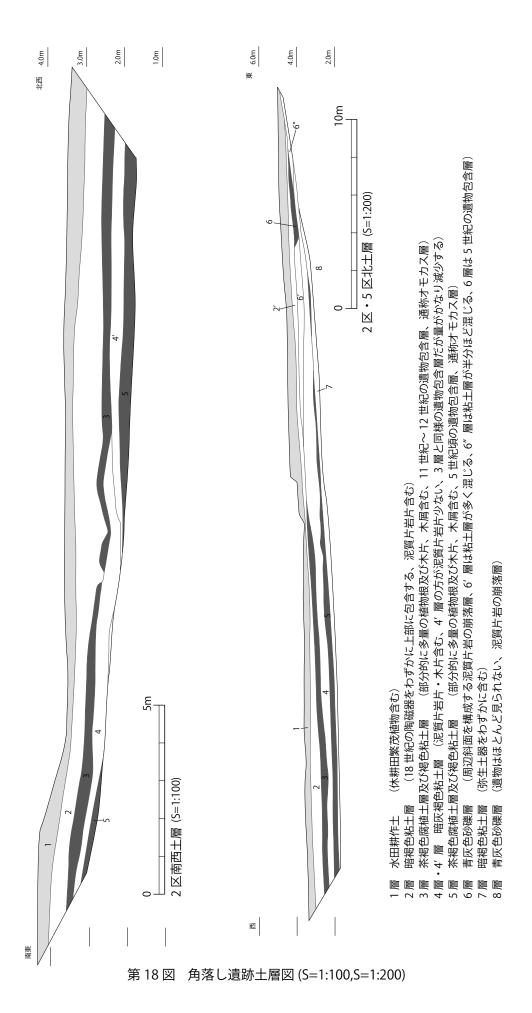
現地調査期間は平成 27 年 10 月 1 日から平成 28 年 2 月 10 日、調査面積は 1,461㎡、調査体制 は調査員 1 名と調査補助員 2 名である。

#### 2. 基本層序(第18図)

基本層序は地形によって異なるが、遺構や遺物が確認された1区と2区の基本層序は以下の通りである。地表下に、上から1層水田耕作土層、2層暗褐色粘土層、3層茶褐色腐植土層及び褐色粘土層、4層暗灰褐色粘土層、5層茶褐色腐植土層及び褐色粘土層、6層青灰色砂礫層、7層暗褐色粘土層、8層青灰色砂礫層である。4層と6層にはそれぞれ泥質片岩や粘土層が含まれる割合によって層を分けている。このうち主な遺物包含層は3層と5層の腐植土層で、調査中は通称オモカス層と呼んでいた湿地の縁辺部分に繁茂する植物と木片、木屑などが堆積する層である。オモカスは出雲平野の腐植土に対して呼ばれていた呼称であるが、便宜上調査時はこの名称を用いている。



第 17 図 角落し遺跡 調査区配置図 (S=1:1500)



24

遺物はこの2面の腐植土層を中心に上下の層から出土している。3層は11世紀~12世紀、5層は5世紀の遺物が含まれる。6層は周辺斜面から崩落してきた泥質片岩を主とする層であるが、5世紀の遺物が多く含まれる。

3区の7層には弥生土器がわずかに含まれる。8層結晶片岩の崩落層で、ほとんど遺物は含まれなかった。

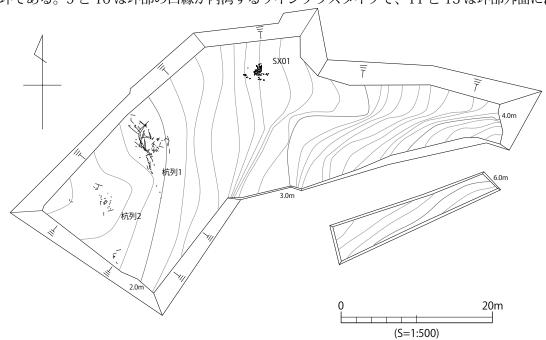
3. 検出した遺構と遺物 本遺跡の調査では、1 区の杭列 1、2 区の杭列 2、5 区の SX01 が確認 された。その他に木製品が流木と共に出土しているが、出土状況から判断して遺構では無く、上 流あるいは下流から流れ込んでたまったものと考えている。

## SX01 (第 20 図)

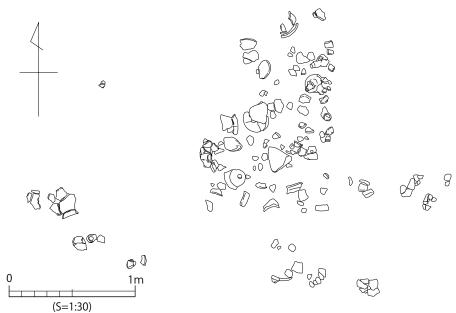
SX01 は 5 区の中央、1 区よりで確認された土器溜まりである。外部から流入してきた 6 層の上面にまとまって土器が出土したもので、土器は 2.1m から 2.3m ほどの範囲に特に密集して出土している。土器の堆積は 10cm内に収まり、ほぼ一回の検出で全部の土器が確認できた。出土した土器の表面は非常に風化しており、破損も進んでいる。破面は丸く風化しているものも多い。焼土や柱穴などは検出されず、土器が数多く出土している。2 点礫が確認されている。出土遺物は須恵器の高坏の脚部が 1 点と多数の土師器の坏、高坏、壺、甕が出土している。6 層が調査区外からの流入でその上面に土器がまとまって出土していること、柱穴などの住居などの床面に表れる遺構が見られないことから、本遺跡の北側斜面に形成されていた遺構が斜面の崩落で土砂と共に遺跡内に流入したものと考えられる。

#### SX01 出土遺物 (第 21 図・第 22 図)

第21図1は須恵器の高坏の脚部である。坏部は古い時期の欠損により残っていない。透かしが四方に外面側から穿たれている。透かしは長方形である。2から8は土師器の坏である。2と3は口縁部が外反してくびれをなしている。4もわずかに口縁部が内傾し外反している。5と8は口縁部が内傾し内湾するもので、6と7は内湾しつつ上方に伸びるものである。9から19は土師器の高坏である。9と10は坏部の口縁が内湾するワイングラスタイプで、11と13は坏部外面に段を



第 19 図 角落し遺跡 遺構配置図 (S=1:500)



第 20 図 角落し遺跡 SX01 検出状況 (S=1:30)

持つ。12 と 14、15 も段が退化したものである。口縁部の形状は様々で 11 の外反するもの、12 の先端が細くなるもの、13 のように直線上に開くものが存在する。高坏は 9 と 10 は坏部の器厚が 11 から 15 に比べて薄い。脚部の形状も 9 や 10、12 のように脚部の径が大きいものと、11 のように細長く立ち上がるものが存在する。14 も 11 と近い形状と考えられる。16 から 19 は高坏の脚部で、径の大きさから 10 に近いと考えられる。

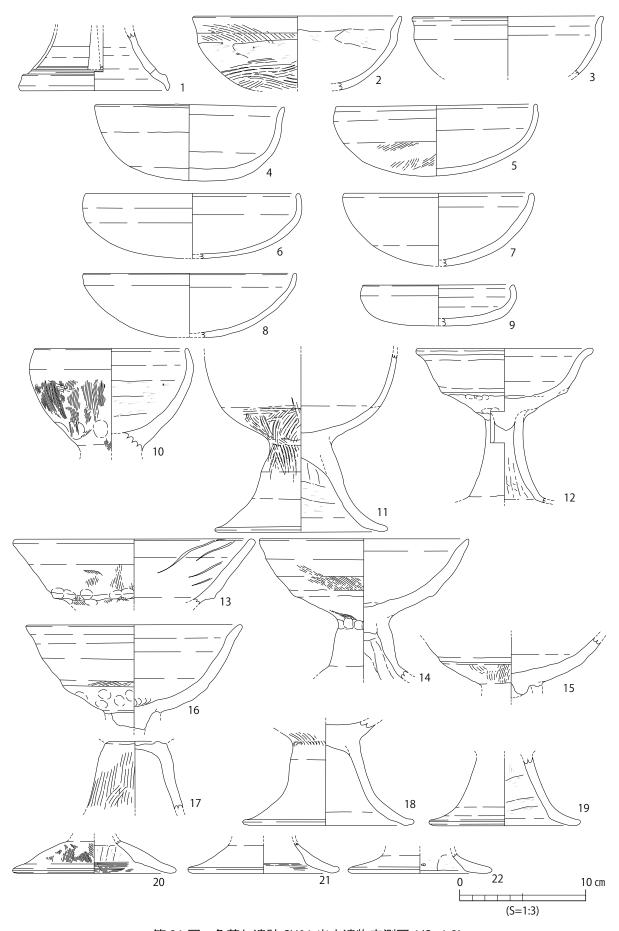
第22図1と2は小型壺で、3は無頸壺、4から8は甕である。9から11は甕等の底部である。1と2は益田編年では鉢となっている。3はこの地域ではほとんど見かけない形状の壺である。口縁はわずかに外反するのみで上方に立ち上がっている。壺と甕の調整は外面がヨコナデとハケ目で、内面はヘラ削りである。9と10は甕あるいは壺底部で外面にヘラ描きにより2丈の線刻が見られる。10は外面にハケ目が見られないことから高坏の坏部の可能性もある。11は甑形土器の底部の可能性がある。

#### 杭列1(第23図)

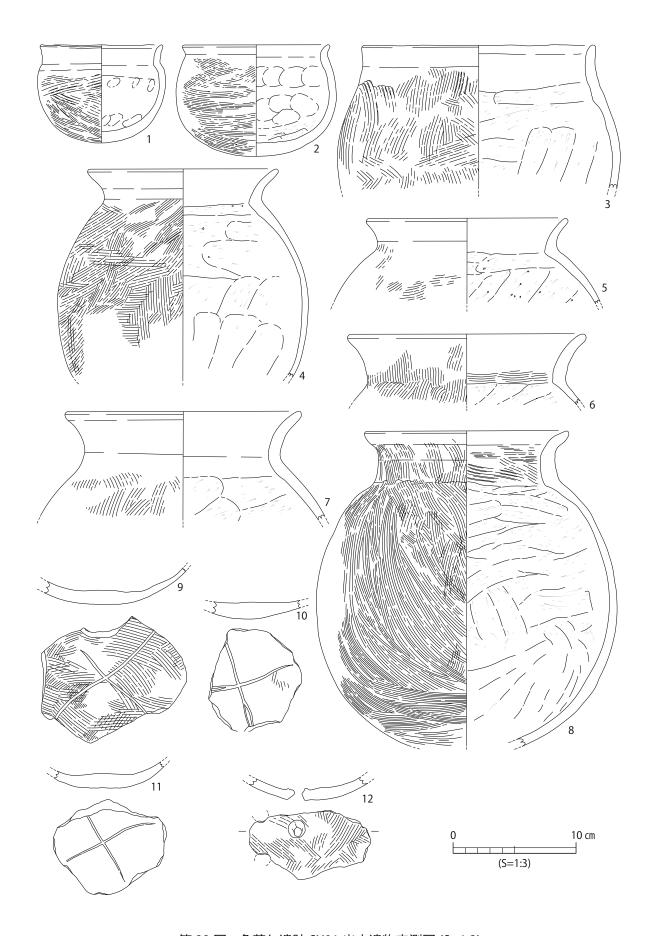
杭列1は1区と2区の境で確認された杭列である。北西から南東へ杭列が並び、杭列に関係すると思われる自然木が周囲に集中していた。杭列はA列とB列に2分され、間には杭が打たれていない。両列とも杭の間隔が狭く多数打たれているのが特徴である。杭の太さや打ち込まれた杭の底面の深さは一定で無い。第23図のうちB列の断面図、左から4本目と6本目の杭は下方に刳り込みのある木製品を転用していた(第24図1・2)。この2点は本来一本の木製品であったと考えられる。杭列の上半分に絡むように出土した自然木は多数であったが、明確な木製品は出土していない。比較的長い自然木が多く、自然木を利用したしがらみ状遺構の可能性もある。このように上面から出土した自然木の出土状況からは杭列1の性格を明らかにすることはできないが、A列とB列の間の空間は意図的に空けられていると考えられる。空間の両側の杭列は非常に密集して連続的に打たれていることを考えると、杭を連続で打つことで強度を増す意図があったとも考えられる。1区より上方の5区の谷地形からの流水をせき止めるための施設の可能性がある。

## 杭列1出土遺物(第24図)

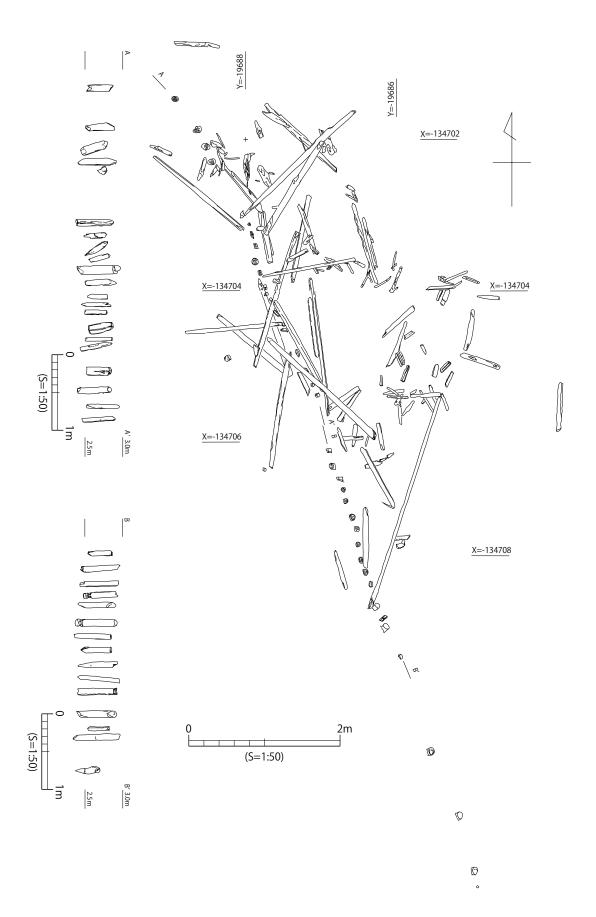
第24図は杭列1出土遺物である。共に杭列を構成していた転用材である。クスノキ科の樹木を



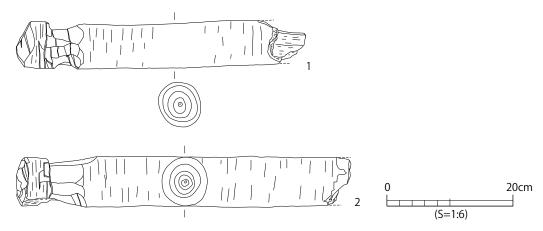
第 21 図 角落し遺跡 SX01 出土遺物実測図 1(S=1:3)



第 22 図 角落し遺跡 SX01 出土遺物実測図 (S=1:3)



第23図 角落し遺跡杭列検出状況 (S=1:50)

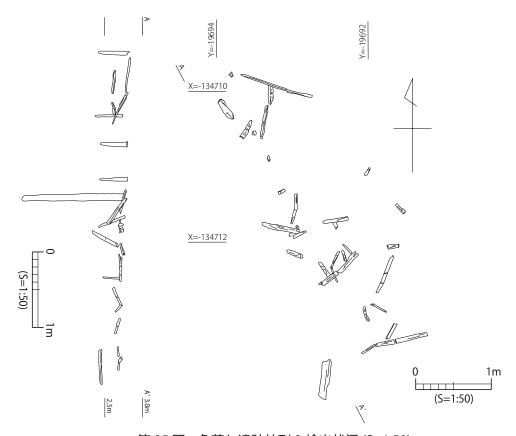


第24図 角落し遺跡杭列1出土遺物実測図(S=1:6)

用いている。表皮は残っており、先端を残した状態で刳り込みを入れている。1と2は刳り込み側を下方にして地面に打たれていた。1と2は本来同一個体であったが、分割され杭として再利用されたと考えられる。

## 杭列 2 (第 25 図)

杭列 2 は 2 区で確認された遺構である。5 層の上面かそれより上層から打ち込まれていると考えられる。杭列 1 に比べ杭の本数や密度、周囲から出土する木材の量は格段に少ない。およそ中央の杭は深く打ち込まれていた。杭は杭列 1 に比べ細く短い。上端は欠損している可能性もある。杭列 1 とほぼ並行しているが、検出された土層は深く、古墳時代中期まで下る可能性がある。三隅川河口の後背湿地の汀線に打たれていた杭列と考えたい。

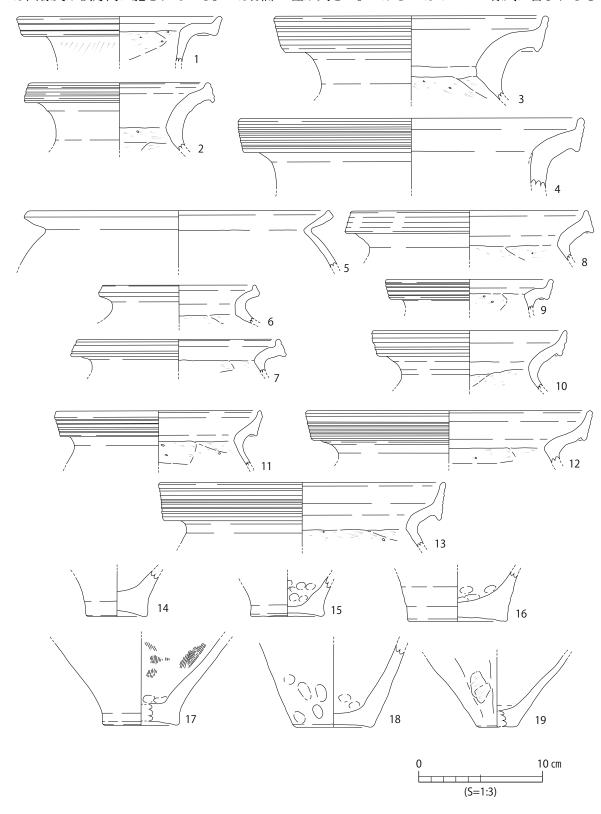


第25図 角落し遺跡杭列2検出状況(S=1:50)

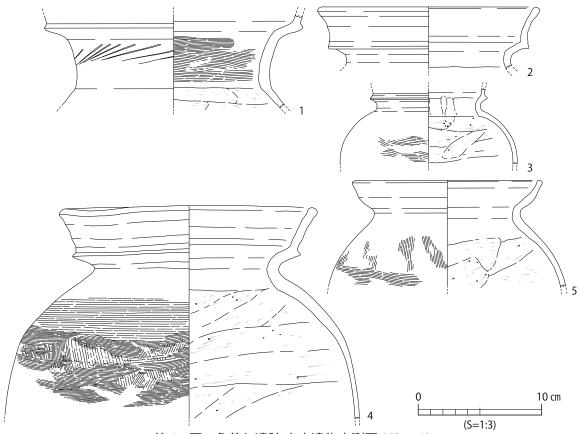
包含層出土遺物(第26図~第47図)

## 弥生土器 (第26図)

第 26 図は弥生土器である。1 から 4 は壺である。5 から 14 は甕である。15 から 19 は壺か甕の底部である。壺は全て胴部以下が欠損している。内面は頸部から下方がヘラ削りで、口縁外面には凹線文が横方向に施されている。4 は頸部の径が大きい。1 から 4 は V-1・2 様式に含まれるも



第26図 角落し遺跡 出土遺物実測図 1(S=1:3)

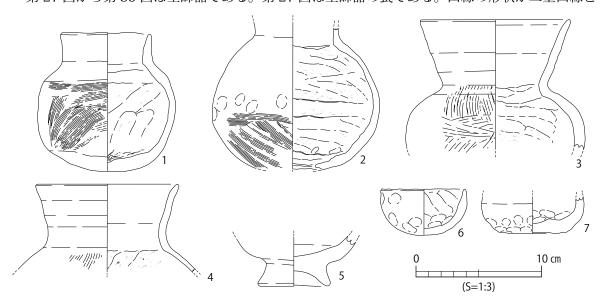


第27図 角落し遺跡 出土遺物実測図 2(S=1:3)

のと考えられる。5 はⅢ-2 様式の甕である。6 から 13 はV-1 様式の甕で、胴部はほとんど残っていない。14 は口縁部が欠損していて確実では無いがV-4 様式の甕と考えられる。15 から 18 は底部で胎土に砂を多く含む。内面の調整はヘラ削りでは無い。弥生時代前期頃の壺か甕の底部の可能性がある。19 は器厚が薄く、胎土に砂粒が少ないことから弥生時代中期の壺か甕の底部と考えられる。

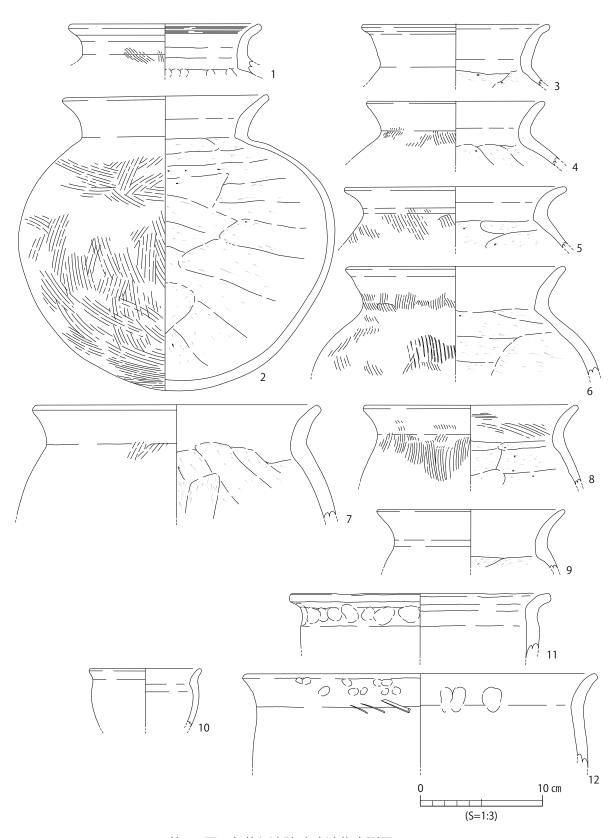
## 土師器 (第27図~第35図)

第27回から第35回は土師器である。第27回は土師器の甕である。口縁の形状が二重口縁と

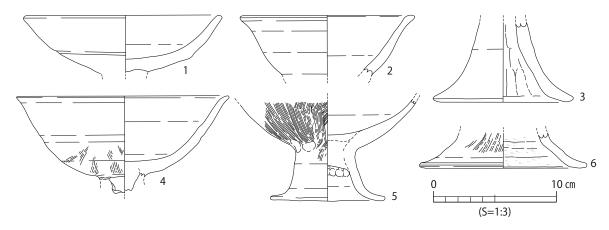


第28図 角落し遺跡出土遺物実測図3(S=1:3)

なるもので、1 が壺、2 から 5 が甕である。器厚は一定で厚く、2 と 4 の口唇部は尖らず丸みを帯びている。2 と 3 は V -4 様式になる可能性もあるが、益田 1 期の土師器としておく。5 は二重口縁が退化した形状で、益田 3 期の土師器の甕である。第 28 図は土師器の壺と手づくね土器である。1 から 4 は直口壺である。3 区の谷部に堆積した砂礫層から出土している。1 と 2 は頸部から直上



第29図 角落し遺跡 出土遺物実測図 4(S=1:3)

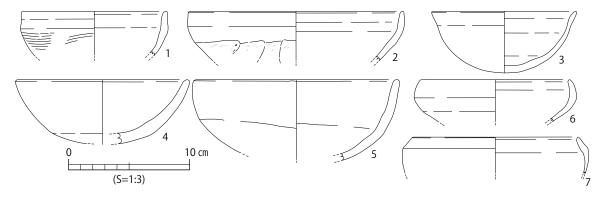


第30図 角落し遺跡 出土遺物実測図 5(S=1:3)

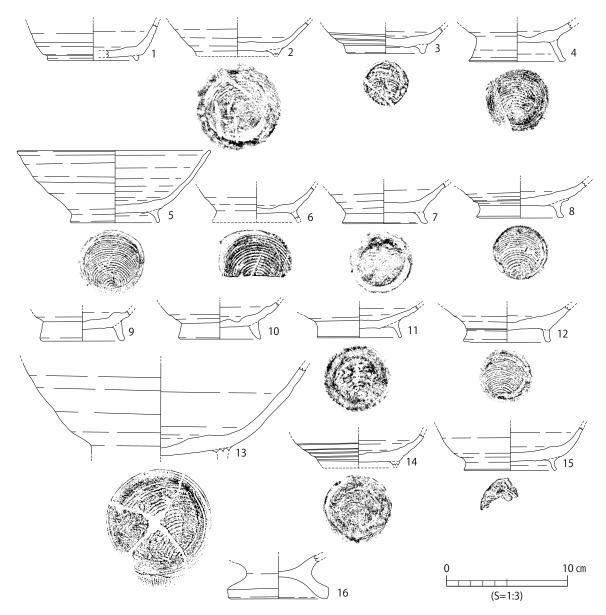
に口縁が立ち上がる。外面の調整はハケ目、内面はヘラ削りである。1の胴部は球体で、2は胴部の重心が1より低くなっている。3と4は口縁が開く直口壺である。1と2は同様に内面は頸部以下はヘラ削りで調整している。4は胴部の欠損が大きく形状が不明であるが、3の胴部の重心は高い。6と7は手づくね土器である。内外面に指頭圧痕とナデが見られる。1から4は益田3期頃と考えられる。第29図も土師器の甕である。2は胴部の肩が張る形状である。1と3から9までは胴部が大きく欠損しているが、胴部は2ほど肩が張らない。10は小型の甕である。内外面の調整はナデで、3から9の甕は内外面の調整はヘラ削りで行っているのに比べると違いが顕著である。11と12は土器の最大径が胴部で口縁部にならないものである。胴部は頸部からすぼまっている。甕と言うより「鍋」と呼べるものである。また、外面に指頭圧痕とナデが見られ、内面調整は11がナデ、12がナデとヘラ削り後にナデているものがあり、3から9とは明らかに系譜が異なる。1と2、11、12は出土地点が1区で腐植土層とその直下の砂礫層で、この4点は古代から中世の土師器と考えられ同じ層から出土している須恵器や土師器、陶磁器の年代から11世紀末から12世紀前半の土師器の甕であると考えられる。

第31図は土師器の鉢である。1と2は口縁部が屈曲し上方に立ち上がる。3は口縁が外傾する。4と5は器壁が厚く丸みを帯びるもので、6と7は内湾する。古墳時代中期頃の鉢と考えられるが、3は11世紀末から12世紀前半の遺物とともに出土しており、口縁部の形状も違うことから古墳時代ではない可能性がある。

第 32 図は土師器の高台付き坏である。1 は底部が平坦で斜めに立ち上がる坏である。底部とその周囲は厚く、高台は小さい。2  $\sim$  15 は回転ロクロ成形で器壁に凹凸が見られる。13 は非常に



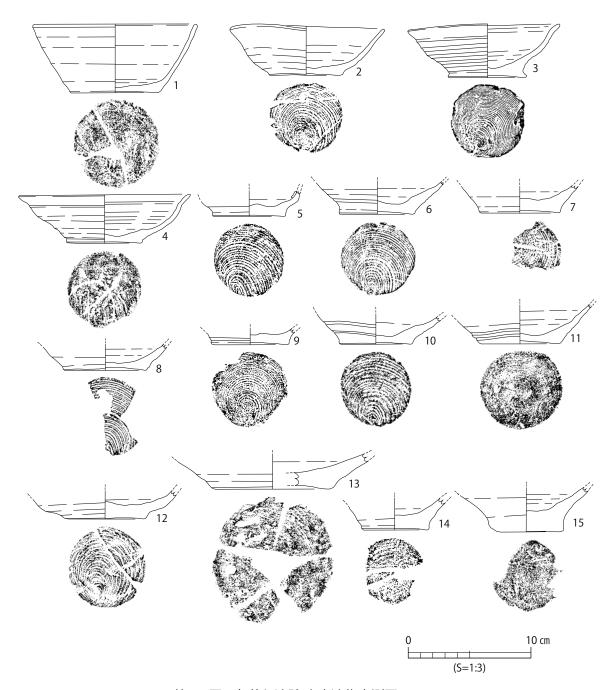
第31図 角落し遺跡 出土遺物実測図 6(S=1:3)



第32図 角落し遺跡 出土遺物実測図 7(S=1:3)

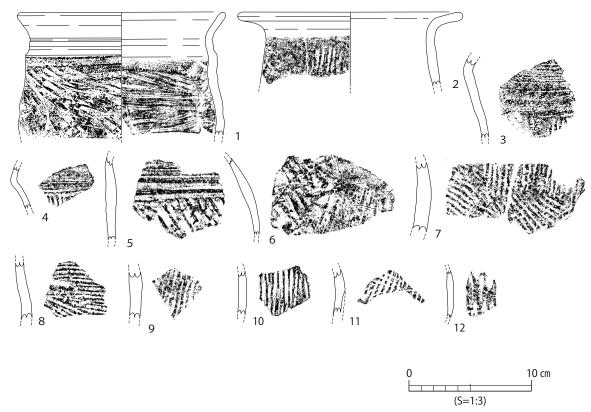
大きく、口径は 23cm以上である。高台は全て貼り付け高台で、三角形の 2 と 14、台形の 3、ハの字状に外に広がる  $4\sim12$ 、15、先端の尖る 10 がある。ほとんどは底部を回転糸切りで成形時に切り離しているが、1 と 9,10 には回転糸切り痕は残っていない。5 は唯一口縁から高台まで復元できた遺物である。高台は貼り付け高台で外に広がり細身を帯びる。底部内面は平坦では無く緩やかに外傾し立ち上がる。やや内湾しつつ、口縁端部はやや外反する。器壁にはロクロ痕跡が残り、底部外面には回転糸切り痕が見られる。16 は低脚の坏であろうか。

第 33 図は土師器の坏である。高台は無く、全て回転糸切り痕を底部外面に残している。1 は外傾し直線状に立ち上がるが、やや内湾している。他の坏に比べゆがみが少なくロクロ目を器壁にほとんど残さない。2~15 は 1 ほど立ち上がりがなく、口径が大きく広がる形状である。口縁まで復元できた 2~4 ではロクロによる成形の痕跡が器壁に残り凹凸が目立つ。また焼成時までの器体のゆがみがそれぞれに見られる。このゆがみは 5~15 の口縁部まで残っていない坏であっても認められる。多少の器体のゆがみがあっても使用されていたものと考えられる。13 は特に大型で坏というより盤といってもいいかもしれない。



第33図 角落し遺跡 出土遺物実測図 8(S=1:3)

第34図は製塩土器として利用された土師器の甕である。底部まで復元できたものは無かった。土師器の甕や壺との分類が難しいが、胴部内外面に残された調整の痕跡、当て具の痕跡を元に製塩土器と認定した。1は口縁が外傾する。頸部から胴部にかけてやや寸胴で胴部下半が若干膨らむ形状である。外面には格子状の叩き具か長方形状の叩き具を用いている。内面はヘラ削りに近い強いハケ目であると考えられる。2は口縁が大きく広がる。胴部は下方に向かって広がっているが胴部下半は残存していない。外面は平行叩き痕である。内面はナデで調整されている。3は1と同様の上方に広がる口縁部になると考えられる。4と12の器壁は薄い。平行叩き痕は4と7~10、12である。12は平行叩きの痕跡のうち、個々の叩きの痕跡がレンズ状に中心が膨らむ。1の格子状叩きは斜位に施されるというある程度の規則性が存在する。6や7のように格子状叩きや平行叩き痕が不規則に並ぶものもある。



第34図 角落し遺跡 出土遺物実測図 9(S=1:3)

第35図は移動式かまどの基底部である。外面はナデ、内面はヘラ削りを用いている。器壁は底部にかけて分厚くなっており、底径が24cm前後に復元されている。

#### 須恵器 (第36図~第41図)

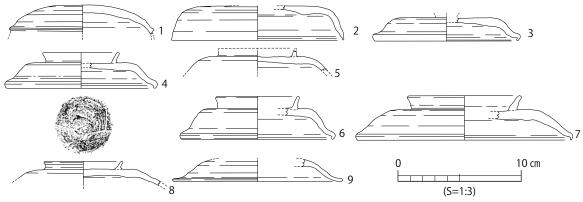
第 36 図~第 41 図は須恵器である。第 36 図は須恵器の蓋である。蓋坏の蓋と考えられる。1 はつまみが無く、2 と 3 は宝珠つまみであろう。  $4 \sim 9$  は輪状つまみである。輪状つまみは幅が広い形状が多い。1 は古墳時代の蓋坏の蓋で、外面に段を持つ。対となる蓋坏は本遺跡では出土していない。2 は天井が深い蓋である。底部先端が細く尖っている。 $3 \sim 9$  の天井部は平坦である。 $3 \sim 7$  は先端部に返しがつくが、9 には無い。1 は石見 2 期、2 は石見 3 期、 $3 \sim 8$  は 9 期、9 は 10 期以降に属すると考えられる。

第 37 図は須恵器の高台付きの蓋坏である。 $1 \sim 3$  は底部から急角度に立ち上がり、 $4 \sim 9$  は外側に広がる外傾となっている。7 も高台付き坏である。口縁部まで残っており、先端は細く尖る。 $10 \ge 11$  も高台付きの坏としたが、底部は丸く平坦面が小さい。別器種になる可能性もある。8 の高台は他の坏の高台に比べ断面が三角形で小さい。これも坏では無く壺などである可能性もある。1 は底部外面に炭が付着しており転用硯の可能性がある。

第38図は高台の無い須恵器の坏である。1は口縁部近くが屈曲し広がる。口縁部が外傾し、わずかに内湾する2や、3や6のように底部から広がり、一度外側に折れて開く形状のものもある。



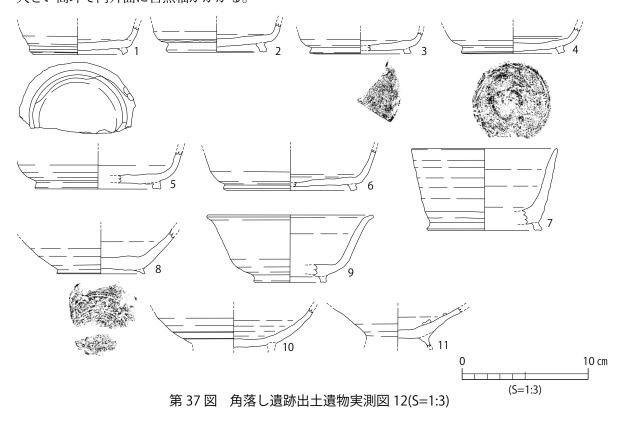
第35図 角落し遺跡 出土遺物実測図 10(S=1:3)

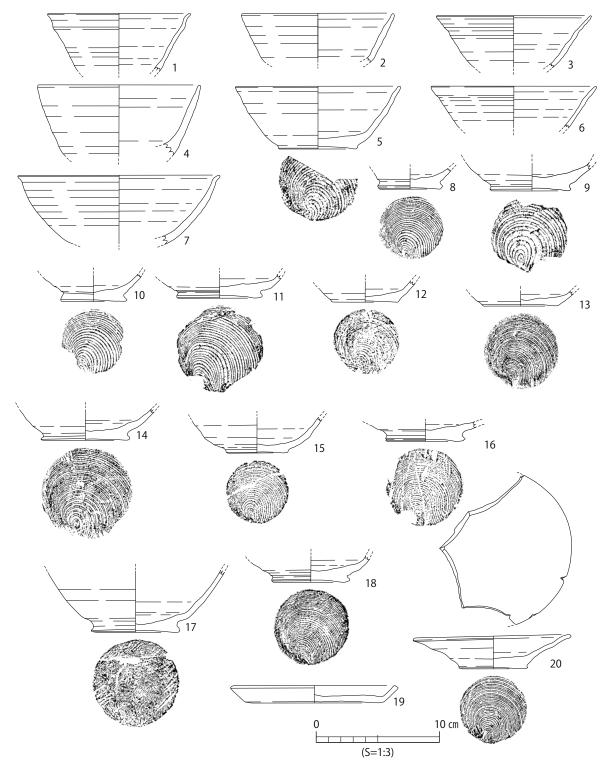


第 36 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 11(S=1:3)

7 は口縁部先端が外反する。口縁部から底部まで復元可能な 5 では底部と坏部の境に内外面とも屈曲部を持つことがわかる。この屈曲部は  $8 \sim 11$ 、  $14 \sim 18$ 、 20 にように底部が突起するものと、 12 と 15 のように突起が発達しないもの、 1 3 は屈曲がないものに分類できる。 13 は屈曲が無い。底部が残る  $8 \sim 20$  までのうち、19 以外は全て回転糸切り痕を残している。また全て上げ底になっているが回転糸切り痕が残っていることから、意図的に上げ底にしたものでは無く、乾燥時あるいは焼成時に坏の内側に底部が引き寄せられたため上げ底になったものと考えられる。 19 は坏というよりは皿になると考えられる。底部外面には回転にと切り込んでは無く、ヘラ起こし後にナデを行っている。 20 は大きく開く坏である。底部内面に墨書の可能性がある痕跡が見られる。何が書かれているかは不明である。

第39図は須恵器の高坏である。1は坏部が急激に上方に立ち上がる。坏部外面には沈線による段もあり、その上下にはカキ目が見られる。内面にはカキ目は見られないが、坏部の底部内面に研磨痕が有り、再利用された可能性もある。2も坏部外面にカキ目を有する高坏である。3は坏部が大きい高坏で内外面に自然釉がかかる。

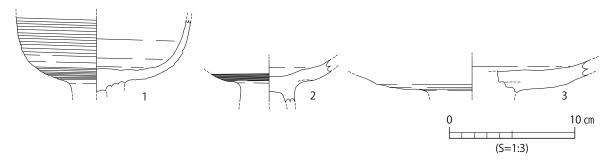




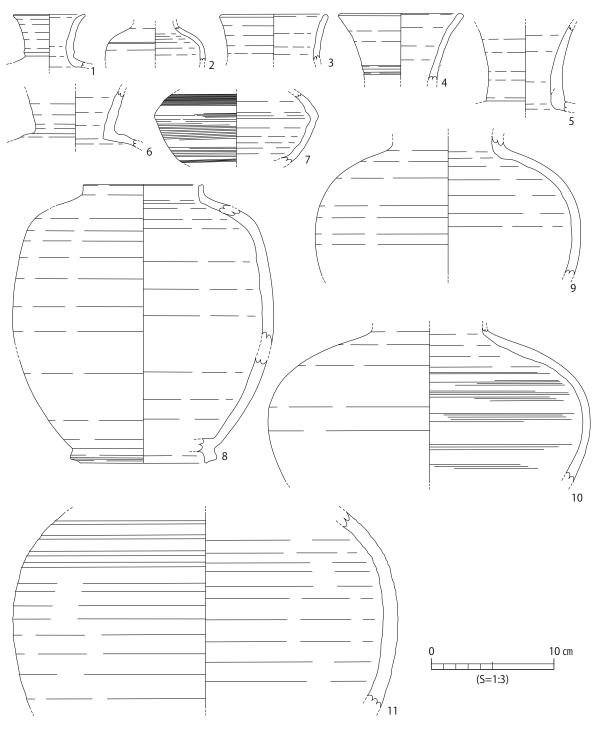
第38図 角落し遺跡 出土遺物実測図 13(S=1:3)

第 40 図は須恵器の壺である。1 と 2 は小型である。1 と 3  $\sim$  6 は口縁部が外に開く形状である。 8 は短頸壺である。12 の外面には鉄釉に似た自然釉が付着し、玉垂れを起こしている。胴部の形状は様々で算盤玉状に折れ曲がる 7 や、肩の張る 9 や 10、提灯状の 8、球形の 1 1 がある。

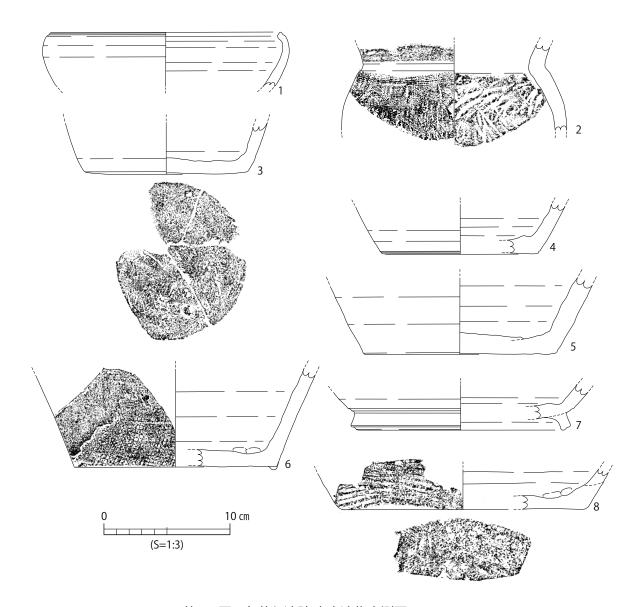
第41図1は鉢である。口縁部先端に向かって内側に内傾し、内湾している。底部は無いが浅いものと考えられる。2は甕と考えられる。口縁と胴部の間がくびれ、頸部となっている。胴部外面には横位のカキ目と縦位の平行叩き目が施され、その上に3段の波状文が施文されている。3~8は底部である。底径の大きさから壺や甕の底部と考えられる。7は高台がつくが、それ以外は平底



第 39 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 14(S=1:3)



第 40 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 15(S=1:3)



第 41 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 16(S=1:3)

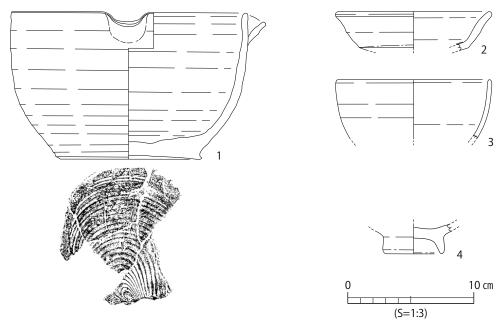
である。3 と 4 は若干の上げ底になっているが、それ以外は平坦である。4 は底部と胴部の境界に 沈線状の段が認められる。5 と 6 は底部と胴部の境界の角が明瞭である。7 は高台がつき第 40 図 8 の壺と類似する。

#### 陶器 (第 42 図)

第42図は陶器である。1は片口鉢である。焼成は良好で硬質、無秞である。底部外面には回転糸切り痕が残る。片口はロクロ成形後、外側に押し広げられたものである。2は皿である。底部外面を除き灰秞が施されている。3は碗である。底部は残っていないが全面に施釉されている。4は畳付のみ無施釉で、外面は熱を受けている。

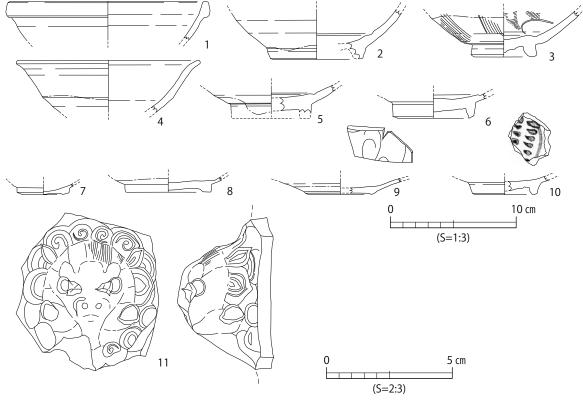
#### 磁器 (第43図)

第 43 図は磁器である。1 は白磁で口縁が玉縁になる。釉薬の色調は浅黄橙色で焼成が悪い。2 と 3 は青磁である。2 は青磁の碗である。見込みに沈線が 1 条施されている。高台は無秞である。高台は断面が逆台形となる。3 は内面に花文状の施文が、外面にも放射状に平行する施文が見られる。 $4 \sim 9$  は白磁である。4 は口縁部先端に向かって外反するものである。5 は底部のみで内面に段を持つ。6 も 5 と同様に内面に段が存在する。7 は小型の碗である。底部から高台にかけて無秞



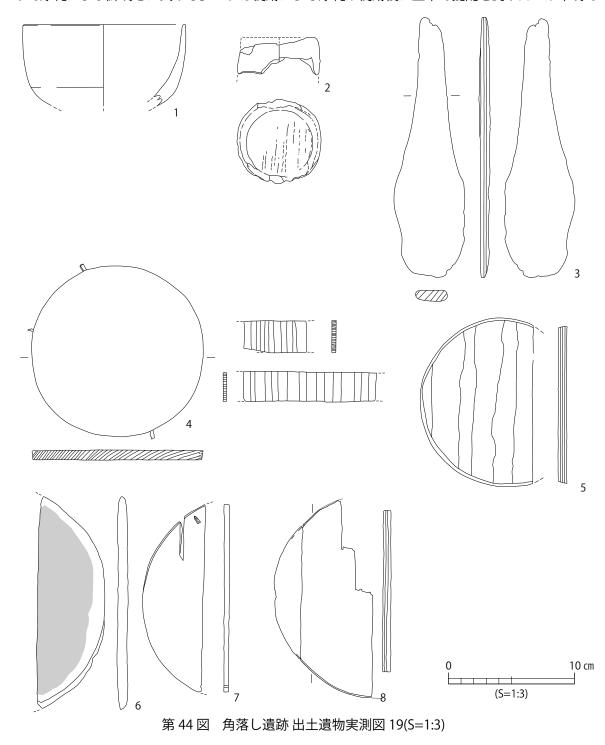
第 42 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 17(S=1:3)

である。見込みは平坦ではなく、丸くなっておりそのまま上方へ持ち上げられている。8 と 9 は白磁の皿である。底面内部は平坦で、胴部は外に広がる。9 は碁笥底状になっている。10 は染付の碗である。底部内面は圏線が1条描かれ、その内側に列点文が描かれている。第 43 図の高台の残るものは全て削り高台である。11 は青磁である。器種は大型の香炉や風炉、火鉢などの特殊品と考えられる。胴部には型押し成形された獅子と思われる動物の顔が貼り付けられている。獅子の両類は穿孔されており、この穿孔部を本来は円形の把手が通っていたものと考えられる。把手は陶器や金属と考えられるが、穿孔部分に材質を同定しうる痕跡は残っていなかった。獅子は目鼻口の表

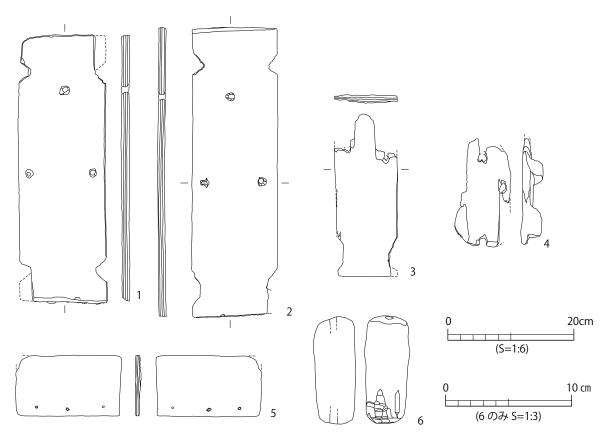


第 43 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 18(S=1:3、S=2:3)

現だけで無く、両耳、たてがみの表現もある。たてがみは円形を一単位としその中に渦文を施す一群が顔の周囲に巡らされている。また、顔の側面には葉文のような一群も存在する。前頭部に頭頂部から垂れ下がる連続する直線もたてがみの一種であろう。このようにたてがみには数種類があり、精巧に表現されていることがわかる。両目とも円形で表現され、両方の目頭側にくぼみが作られている。両目の下方には弧が描かれている。これは鼻と口が前方への突出する表現を表しているものと考えられる。口は折れ線により「へ」の字に強く結ぶ表現がとられている。頬は細るように面取され、線刻が胴部近くで施されている。内面は無秞である。外面は施釉されているが、穿孔部は開口部に流れ込んでいるが、内部全体に施釉されているわけでは無い。獅子の顔正面、目から口にかけて摩耗により鮮明さに欠ける。これは使用による摩耗か使用後に土中で攪乱を受けたのか不明で



43



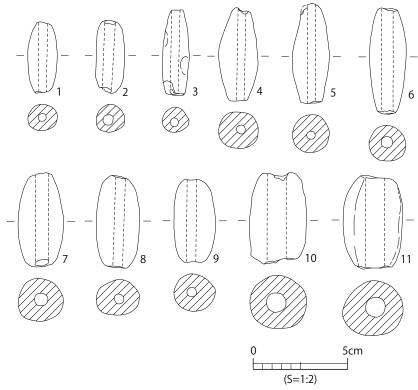
第 45 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 20(S=1:3、S=1:6)

ある。内面が無袖であることから香炉などが想定されるが、貼り付けられた顔とその胴部以外ほとんどを失っており本来の形状は全くわからない。胴部の径は残存部分がわずかであり、器体そのものの形状が円形なのかもわからないため不明である。釉薬や胎土の様子から中国製青磁の可能性が高いと指摘されているが、産地や作成時期は不明である。

#### 木製品(第44図~第45図)

第 44 図と第 45 図は木製品である。第 44 図 1 と 2 は漆塗りの椀で 1 は椀部のみ、2 は高台のみである。

1 は内外面赤漆、2 は内面と底部外面を除く外面に黒漆が塗布してある。二つとも柾目である。3 は杓文字状の木製品である。柄は長楕円形の断面で、先端はわずかに薄くなりつつ開く。板目である。4 からは桶の部材である。7 は蓋で、それ以外は底板で、4 は側板も含む。4 は側板を止める目釘が底板側面に打ち込まれている。側板は内面に工具で連続する直線が引かれ、内湾しやすいように工夫が見られる。5 は断面が台形になる。6 は縁が細くなる蓋である。片面には漆が付着している。7 は底板の2 ヶ所に穿孔があり、その孔には樹皮か皮革の紐が通してある。8 には目釘等は見られない。第 45 図 1 から3 は田下駄である。幅はほぼ同だが、2 の方が長い。穿孔は共に3 ヶ所で、側縁から削り込み4ヶ所に抉りが見られる。3 は幅の狭い田下駄で半分は欠損していると考えられる。穿孔は2ヶ所に見られる。4 は下駄である。破損が著しく形状は不明である。穿孔は3ヶ所で、腐朽しているが2本の歯が残る。板目である。5 は箱の側板と考えられる。目釘穴が3ヶ所残り、うち1ヶ所には目釘が刺さったままで出土した。板目である。6 は不明木製品である。大きさと形状は木錘とも言えるが、小口側から穿孔されており、側面に穿孔や削り込みの見られないため、用途不明の木製品とした。木製品はほぼ上層の腐植土層から出土しており、年代は平安時代



第 46 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 21(S=1:2)

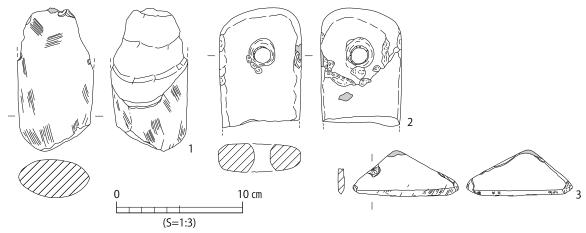
末から鎌倉時代初めと考えられる。

## 土製品 (第 46 図)

第 46 図は土錘である。 $1 \sim 2$  は中型、3 は細身のもの、 $4 \sim 6$  は 3 より長いもの、 $7 \sim 9$  は中太、 10 と 11 は太型である。細く小型のものは無い。横断面は全て円形で、穿孔は 10 と 11 が大きく、 その他は多少のばらつきはあるが 1 センチほどである。土錘は出土層位から平安時代末から鎌倉時代初めである可能性がある。

## 石器 (第47図)

第47図は石器である。1は磨製石斧である。基部側が欠損しており長さは不明である。この欠損は基部側からの作用により大きく斧の中心で割れたものである。刃部の大部分が摩滅している。これは斧としての利用の結果の使用痕と考えられ、本来の刃部形状がわかるのは3分の1ほどである。丸鑿状の刃部であったと考えられる。摩滅は刃部の3分の2に限定され、大きく刃部形状



第 47 図 角落し遺跡 出土遺物実測図 22(S=1:3)

を変えており、斧としての利用は石斧の長軸に対して斜め方向に打ちつけられたものと考えられる。 弥生時代の石斧であろうか。2 は穿孔のある有孔石器である。断面が長楕円形で縦長の礫の全周を 研磨している。一部に敲打痕が残り研磨前に敲打が施されていたことがわかる。したがって、計画 的に形状を整えている可能性が高い。穿孔は横方向の粗い研磨で行われ、横方向に太い線条痕が残っ ている。穿孔は両面から施されている。時期は不明であるが、縄文時代の石器の可能性も否定でき ない。3 は石製穂積具で、いわゆる石庖丁である。穿孔の段階で破損したようで、穿孔を途中で中 止している。研磨により刃部が形成されているが、穿孔の前か後か不明である。したがって、石庖 丁の未製品、または製作途中に破損したが石庖丁としての使用に耐えられると判断されたものの可 能性がある。弥生時代に属するであろう。

## 第4節 小結

角落し遺跡では、三隅川河口から続く後背湿地と丘陵斜面との境に多数の土器や木製品が出土した。遺構は、5区の古墳時代中期頃の住居跡が調査範囲外の斜面から土砂崩れによって流入したものと考えられる土器だまりである SX01 と、1区の古代末から中世初めの杭列、2区の古墳時代中期頃の杭列が確認された。出土遺物は弥生時代前期から見られるが、主な出土遺物の時期は弥生時代中期後半から後期、古墳時代中期、11世紀末から12世紀前半である。平成29年度に調査が実施された同遺跡6区では多量の木製品とともに建築部材が多数出土している。土器の出土数は非常に少なく、6区は隣接する1区や2区に比べ居住空間から離れていると判断される。谷奥の3区でも遺物が出土することから、角落し遺跡では谷奥と丘陵斜面を居住空間としていたが、幾度となく斜面の崩落が起こり、下方に遺物が流出したと考えられる。遺跡の立地は三隅川河口付近であり、外洋へ移動しやすい場所である。小さな集落を形成するには適した場所であったと考えられる。これまで浜田市三隅町地内で本格的な発掘調査はほとんど無かった。第3章記載の海石西遺跡でも低湿地遺跡の調査が行われ、この地域では低地に遺跡が残されていること、丘陵斜面は崩落を繰り返しており、遺物が下方へ流出している事例も明らかとなった。今後の当地での遺跡のあり方を考える上で貴重な成果と言える。

最後に、第43図11の青磁は壺か香炉の胴部に貼り付けられた獅子の獣面である。把手が頬を 貫通するもので、日本国内では類例がほぼ無い。生産地や時期も不明であるが、釉や胎土からは中 国青磁であろうとの指摘が多い(注1)。当地は中世に石見地区で益田氏と覇を競った三隅氏の勢 力範囲で、また、三隅川河口は山陰を中心に広域に経済活動を行っていた大賀氏が拠点としていた。 この青磁が奢侈品の可能性が高く、貿易の結果、当地に持ち込まれたと考えるなら三隅氏や大賀氏 との関係が深い遺物であると考えられる。類例の増加が待たれる。

(注) 山本信夫氏・田中克子氏のご教示による。

# 第5章 廻り田遺跡の発掘調査

## 第1節 遺跡の位置と環境

- 1. 遺跡の位置 調査対象地は、浜田市三隅町岡見に所在する。益田市の市境近くの丘陵の尾根に位置している。丘陵は東西に延びており独立している。北麓には国道9号が東西に通っている。丘陵の頂部の標高が約91.8m、丘陵裾部の標高は約70mで比高差は20m程度である。丘陵上からは樹木の繁茂が無ければ東は岡見の集落へつづく峠まで視界が開けており、西は益田市との境になる土田川と馬橋付近を臨むことができる。発掘調査は三隅益田道路の事業地内である丘陵の尾根上で行った。
- 2. 地理的環境 調査区は高低差があり、調査前の測量では最も高い地点で約91.8m、低い地点で約97.0mである。東西延びた尾根の北側と東側の斜面は急峻でところどころ斜面崩落の痕跡が見られた。斜面の窪みや段状の地形は斜面崩落や数度の地滑りにより形成されたものと考えられる。南と西側には一定の広さで緩斜面が続き、急激に傾斜し丘陵を構成している。本遺跡の麓では国道9号線が直線に建設されている。この建設に伴い丘陵北側に延びていた尾根筋は削平されている。

## 第2節 発掘調査と整理作業の経過

- 1. 発掘調査の経過 本遺跡の発掘作業は平成 28 年に実施した。調査前は山林で檜の植林が行われていた。平成 24 年度の分布調査によって丘陵上に 2 ヶ所の高まりが確認されていた。続いて平成 27 年度の試掘調査によって 2 ヶ所の高まりは盛土によって形成されていること、高まりの間には平坦面が存在することが明らかとなり、発掘調査を行うこととなった。調査面積 1,223㎡で調査区の設定は行わず、全体を同時に掘削している。表土掘削後、2 ヶ所の高まりと平坦面の調査に着手し、11 月 11 日に調査を終えた。出土遺物は無く、遺構の調査のみであった。調査終了に先立ち、ラジコンへりによる空中写真撮影を行っている。その後、平成 29 年度 1 月 25 日には国土交通省へ現地を引き渡した。
- 2. 整理等作業の経過 平成 28 年度の冬期と平成 29 年度は埋蔵文化財調査センターにて発掘現場で記録した図面や写真等の整理検討を行い、遺構のトレース、写真、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等には Adobe 社のソフトを使用した。

# 第3節 発掘調査の概要

1. 調査の方法 調査前の現地の状況は山林で、尾根上には高まりが2ヶ所見られた。試掘確認調査の結果に基づいて、表土掘削を行うこととし、高まり周辺については人力により、平坦面やその他の斜面はバックホーを用いて表土の掘削を行った。

重機掘削は、バケットに平爪を装着して、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。植林の根株が大量に残っていたが、地山や遺構を木津つけない範囲で重機により掘り起こした。表土と地山の間に遺物が含まれる可能性がある層が堆積していたため、この層についてはベルトコンベ

アーを設置し、スコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。

遺構の検出については主に草削りとジョレンを使用し精査を行った。遺構の断ち割りなどのトレンチ調査はスコップと草削り、移植ごてを併用した。遺構の埋土掘削には移植ゴテ・草削りを使用した。掘削にあたっては基本的にベルトを設定するか半裁、断ち割りを行い、土層観察を行いつつ掘り下げた。土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。

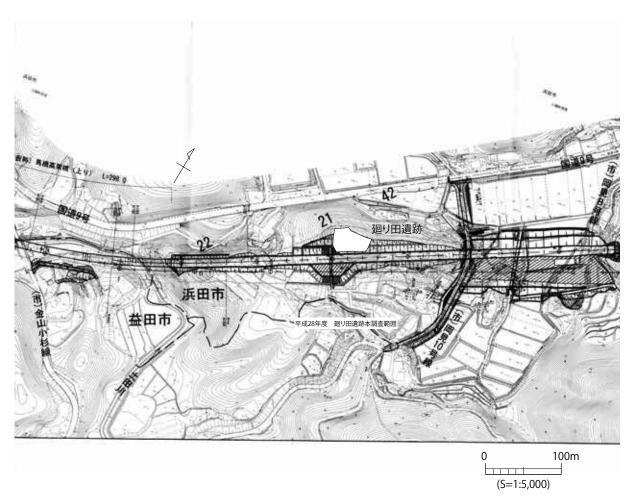
遺構の平面図及び地形測量図は、コンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム「SITE」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行い、高低差のある壁面については平面図と同様に調査システムを用いた記録作成を行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム(モノクロネガ・カラーポジフィルム)による撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。

現地調査期間は平成 28 年 9 月 14 日から 11 月 11 日、調査面積は 1,223㎡、調査体制は調査員 1 名と調査補助員 2 名である。

2. 基本層序 第52 図は試掘確認調査時の土層である。1 層とした表土の下に、2 層が堆積するかあるいは地山層に到達する非常に単純な土層である。

#### 3. 検出した遺構

調査の結果、塚状遺構 2 ヶ所、溝状遺構 2 本、SX01 を確認した。塚状遺構が土を盛られており、その他の遺構は地山層を掘り込んで造られている。



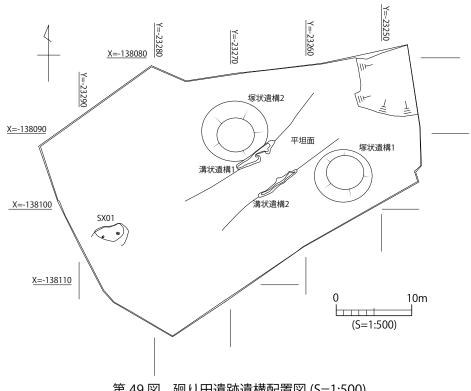
第 48 図 廻り田遺跡の調査位置図 (S=1:5000)

#### 塚状遺構 1 (第53図)

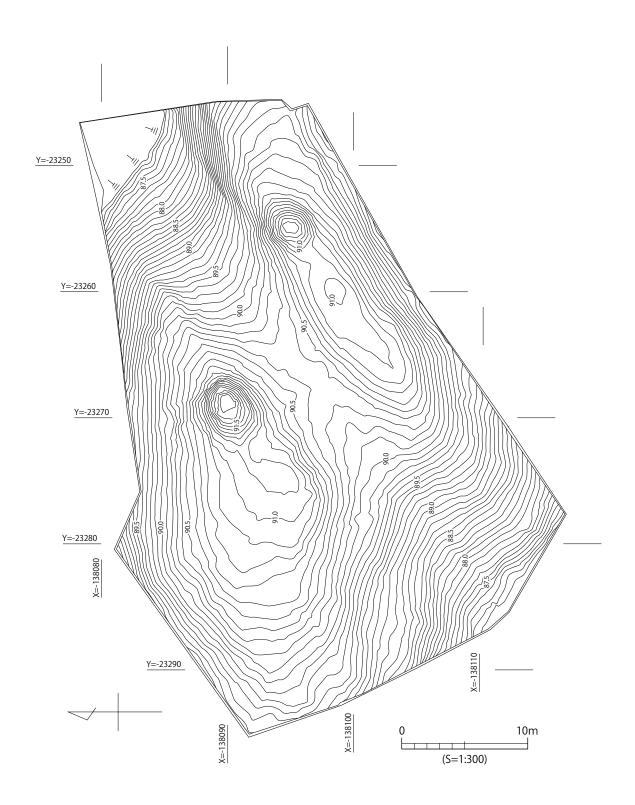
東側の塚状遺構である。直径約 4.0m で高さ約 0.9m である。旧表土層の上に基本層序の地山で ある赤褐色土層に似た色調の土を盛り上げ塚状に構築した遺構である。盛土は固い層と柔らかい層 を互層に堆積するなどの規則性は無く、単純に旧表土層から上部に土をかぶせていったものと考え られる。塚上面や盛土内で遺物は出土せず、埋設された施設や、塚上面に墓穴など上から掘り込ま れた遺構も確認できなかった。遺構頂部から裾部、またその斜面下方に亜角礫や亜円礫、円礫が散 布していたが、原位置を保っているものは確認できなかった。本来は塚状遺構の表面に貼られてい た可能性はあるが、出土状況からは判断できなかった。

以上から、塚状遺構1は盛土によって造られた高まりであるということは明らかにできたが、 出土遺物も無く築造年代や遺構の性格を検討可能な構造物や遺物は確認できなかった。 塚状遺構 2 (第 54 図)

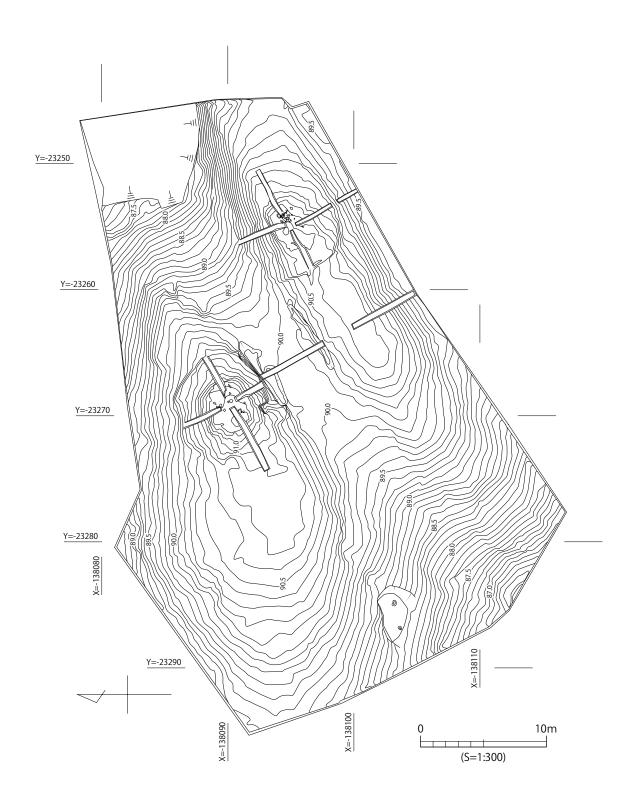
西側の塚状遺構である。直径約5.0mで高さ約0.9mである。塚状遺構1より若干大きい。基本 構造は塚状遺構1と同様で、石室などの施設や墓壙などの掘削した遺構、また出土遺物も確認で きなかった。盛土は塚状遺構1と同様に旧表土層の上に土が盛られていた。盛土の堆積には規則性 は無く、下部から順に土を盛り上げているだけである。盛土内と盛土上面で礫が出土したが盛土内 の礫については盛土時に地山に含まれた礫を共に盛り上げた結果であると考えられ、何らかの遺構 とはならない。本遺構の頂部には板状の大型礫が据えられていたが、盛土及び表土層からも一部が 浮き上がり安定感が無かった。この板状の礫は原位置を保っていないものと考えられる。塚状遺構 の裾部には長方形に近い礫も数点検出されたが、列石として塚状遺構の裾部に巡らされていたとの 判断はできなかった。以上から、塚状遺構2も盛り土によって造られた土の高まりと断定できるが、 塚状遺構1と同様に遺構の性格や築造年代を特定することができなかった。



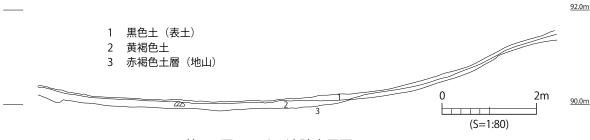
第 49 図 廻り田遺跡遺構配置図 (S=1:500)



第 50 図 廻り田遺跡 調査前測量図 (S=1:300)



第 51 図 廻り田遺跡調査後測量図 (S=1:300)



第52図 廻り田遺跡土層図 (S=1:80)

#### 平坦面

塚状遺構 1 と塚状遺構 2 に挟まれた空間が、調査前から平坦になっており平坦面として土層の 堆積などの確認を行った。土層の堆積は表土層の下に黄褐色土層が堆積している。その下は地山層 で非常に単純な堆積状況である。出土遺物は無く、人工的に掘削した痕跡は見られなかった。しか し尾根を斜めに横切るように平坦面がわずか見られることと、2 ヶ所の塚状遺構がその平坦面の両 側に築かれていることから平坦面も遺構の可能性があると考えた。遺構であった場合、出土した遺 物が無いため年代が特定できない。

#### SD01·SD02(第55図)

SD01 と SD02 は塚状遺構 1 と 2 に挟まれた平坦面の両脇で確認された遺構である。地山である赤褐色土層を掘り込んでいる。遺構の埋土も地山とほぼ同じ赤褐色土層で、掘られてすぐ埋められたか、周囲から地山が流れ込んで埋まったものと考えられる。平面形は整っておらず、人工的に掘られた遺構では無く流水により地面がくぼんだ結果として溝状遺構のようになった可能性もある。出土遺物はなく遺構の時期は不明である。

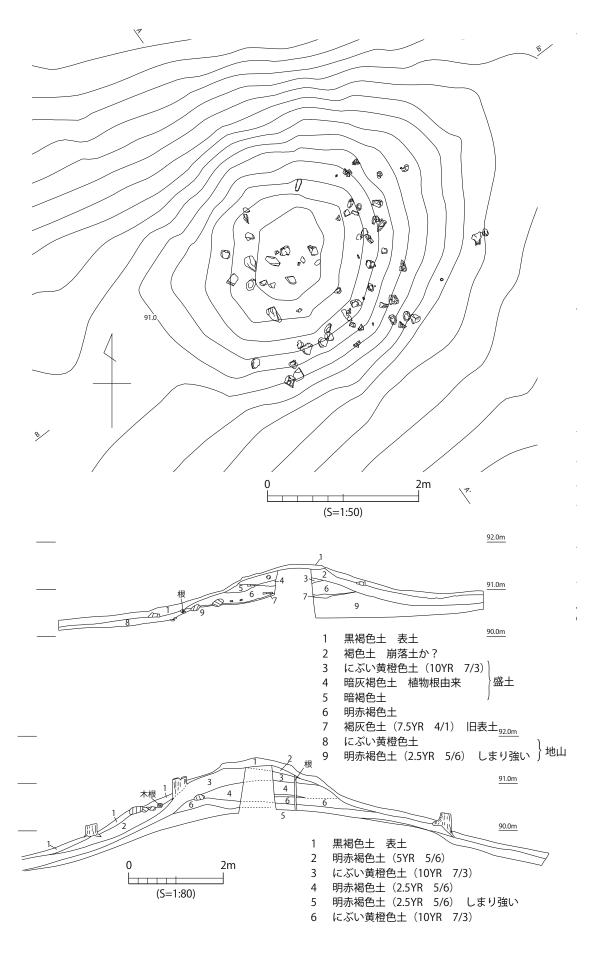
#### SX01 (第56図)

調査区西側の斜面で検出された遺構である。斜面を削り出し平坦面を作り出している。不定形な 平面で幅約3.9m、最大の奥行き約2.0m、掘り込まれた深さ最大0.4mで、床面に2つのピット が確認された。このピットは非常に浅く、柱穴だと断定はできない。出土遺物も無く遺構の性格や 年代は不明である。

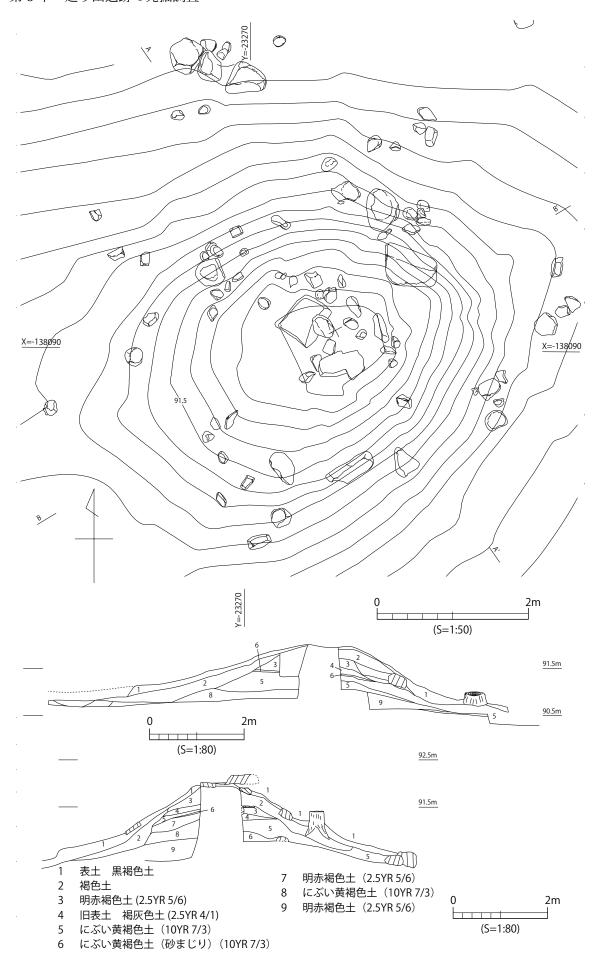
# 第4節 小結

今回の発掘調査で廻り田遺跡では塚状遺構2ヶ所と溝状遺構などが確認された。出土遺物は無く遺構の年代は不明である。塚状遺構は丘陵の尾根の旧表土層に盛土を施し築かれている。したがって、人為的な遺構であることは確実である。塚状遺構の直径はそれぞれ3.9m前後と4.0m前後で、遺構の上には礫が散乱しており、礫が貼られていた可能性がある。

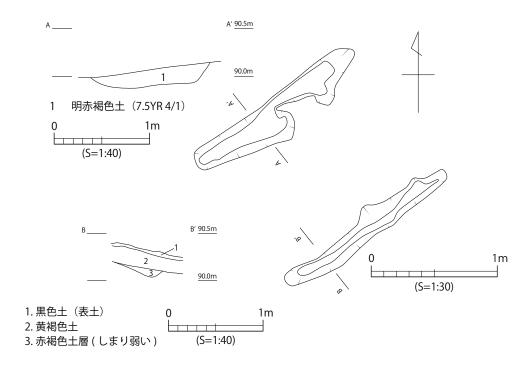
ここでは、塚状遺構の性格を考えてみたい。廻り田遺跡は塚状遺構の土地から一里塚を想定して発掘調査を行った。本遺跡が所在する丘陵の北側には近世山陰道跡推定地が東西にある。現在は丘陵の裾の地形が国道9号により大きく改変を受けているため、あくまでも推定地となっている。2基の塚状遺構の間は平坦面が存在し、平坦面と塚状遺構の境には溝状遺構が存在する。溝状遺構に挟まれた平坦面の幅は4m程度である。平坦面には盛土や砂利や礫などが敷かれていた形跡は無く、溝状遺構も人為的に掘られた溝と断定できず、流水による地山のくぼみの可能性も否定できない。



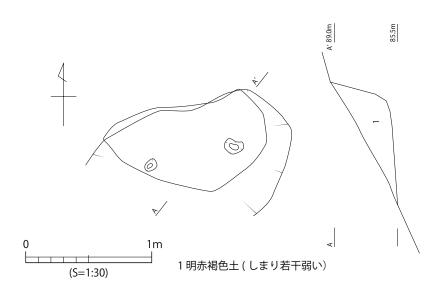
第53図 廻り田遺跡塚状遺構 1 実測図 1(平面図 S=1:50、土層図 S=1:80)



第 54 図 廻り田遺跡塚状遺構 2 実測図 1(平面図 S=1:50、土層図 S=1:80)



第 55 図 廻り田遺跡 SD01・SD02 検出状況 (平面図 S=1:30、土層図 S=1:40)



第 56 図 廻り田遺跡 SX01 検出状況 (S=1:30)

したがって、塚状遺構が一里塚で、遺跡が街道に関係するであるとの確証は得られなかった。次に近隣の一里塚の発掘調査事例では、広島県東広島市の近世山陽道跡と日向一里塚の調査がある。この調査では近世山陽道のこの地点には側溝はなく道幅は 3m から 4.5m であった。この近世山陽道を挟む 2 対の高まりが日向一里塚と呼ばれ、塚間の道幅は 4.5m であった。北塚は直径約 6m で周囲に礫が貼られており、平坦面に盛土を施し築かれている。では、廻り田遺跡の調査結果と比較してみたい。塚状遺構 1 の直径は 4.0m 前後、2 の直径が 5.0m 前後であり、日向一里塚の北塚より規模が一回り小さい。また日向一里塚には礫が丁寧に貼られているが、廻り田遺跡では礫は散布している状況であった。塚間の平坦面の距離は約 5m で、二つの溝状遺構の間は約 4.4m であった。

溝が無い塚状遺構間の距離は長いが、溝状遺構の間は近世山陽道跡と大きな差は無い。このように近世山陽道跡と日向一里塚との比較では塚の規模と構造に相違点が見られる。次に、文献からも検討してみたい。国立国会図書館蔵の石見国絵図は正保年間の国絵図と考えられている。この国絵図は赤で街道が描かれ、街道を挟むように2点が対となった黒点表示が一定の距離で描かれている。この黒点は一里塚であるが、絵図は実際の地形を細かく反映しておらず、ある程度の位置関係しか参考にできない。本遺跡のある浜田市三隅町岡見については、「岡見」の表示があり、かつ美濃郡と那賀郡の郡境表示もあり、ある程度の位置は確認できる。その「岡見」近くに描かれた街道を挟む黒点表示があり、絵図には岡見周辺に一里塚が存在していることになっている。また伊能図では、伊能隊の測量道程は廻り田遺跡からはずれているようである(注1)。伊能隊によって行われた文化年間(1800年初頭)の測量時に廻り田遺跡には街道が通っていない可能性が高いが、江戸幕府による一里塚の整備が開始されたのは1604年と言われており、伊能隊が測量を行った1800年代初頭とは開きがある。今回の発掘調査で確認された平坦面は街道とは言えないが、2基の塚状遺構をわざわざ盛土で造成していることを考えると街道として整備し一時期利用されたが、新たに丘陵裾部を街道とした可能性は無いかと考えてみたい。

今回の調査でも確証は得られなかったが、島根県西部の近世山陰道を検討する上で貴重な資料を 得ることができたと考えている。

(注1) 阿部志朗氏のご教示による。

#### 【参考文献】

財団法人広島県教育事業団埋蔵調査室 2003『近世山陰道跡・日向一里塚・石立炭窯跡』

# 第6章 近世山陰道跡(馬橋地区)の発掘調査

### 第1節 遺跡の位置と環境

- 1. 遺跡の位置 本遺跡は益田市土田町に所在する。土田町は益田市の東端、隣接する浜田市との境に存在する。日本海の海岸と丘陵地帯で町内は占められており、中心地は JR 鎌手駅と国道 9号線の周辺となる。日本海には無人島である高島が浮かんでいる。 JR 益田駅から遺跡までは車で 20分程度の距離である。
- 2. 地理的環境 本遺跡は益田市と浜田市の市境に流れる土田川及びその支流によって形成された丘陵の斜面に立地している。丘陵は南西から北東方向へ張り出しており、その東斜面に位置している。遺跡の東側には土田川に支流が地点があり、そこに「馬橋」と呼ばれる橋が架かっていたとされている。現在も土田川を渡る橋は馬橋と言われている。この馬橋から延びる市道が遺跡のある丘陵の裾を通り、谷奥の集落に繋がっている。この市道は近世山陰道の推定地となっており、分布調査前までは市道部分に近世山陰道が存在していたが現在は確認できないものと考えられていた。丘陵の斜面には斜面崩落による土砂崩れの痕跡が至る所に見られる。実際周辺住民からの聞き取りによると昭和58年の水害で斜面が大きく崩落し、道が埋まったたため現在の位置に市道を振り替えたとする話を聞くこともできた。したがって、自然災害による地形の変化が著しい地域だということがわかる。

## 第2節 発掘調査と整理作業の経過

- 1. 発掘調査の経過 本遺跡の作業は平成 28 年 5 月 19 日から 9 月 14 日にかけて実施した。調査 区は山林と荒れ地であった。表土掘削後、人力による包含層掘削と遺構検出、遺構掘削を実施した。 遺跡の性格が街道跡ということで、遺物の出土がほとんどなく、街道の路面である石敷きや、数カ 所で確認された石垣や平坦面の掘削及び遺構検出、遺構掘削を行い 9 月 14 日に調査が終了した。 終了に先立ち、ラジコンへりによる空中写真撮影を行っている。 10 月 14 日に国土交通省へ引き 渡しを行っている。
- 2. 整理等作業の経過 遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬期は埋蔵文化財調査センターにて前述した作業を継続し、続いて復元・実測等の整理作業を行った。平成 29 年度に本遺跡の出土品を通覧して遺物実測・写真撮影を行っている。現地調査終了後に整理した図面・写真等の記録類についても、出土品と併せて総合的な整理検討を行い、遺構・遺物のトレース、写真、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等には Adobe 社のソフトを使用した。

## 第3節 発掘調査の概要

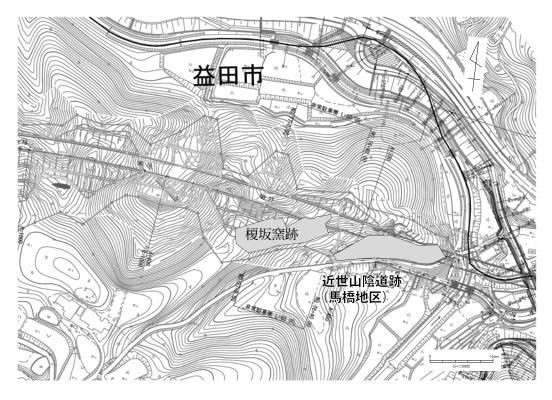
1. 調査の方法 調査前の現地の状況は、山林と荒れ地であった。表土層は試掘確認結果から重機により掘削を行ったが、街道跡の存在が想定される範囲は表土層の掘削も人力で行った。重機掘削

は、バケットに平爪を装着して、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。土層観察を行いながら、包含層あるいは遺構面まで若干余裕を持たせたところで掘削を停止した。その後はベルトコンベアーを設置し、スコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。

遺物包含層についてはスコップを用いたが、竹の根が多かったため鍬も用いて人力で掘り下げた。出土遺物の取り上げに際しては地点名と層位の記録のみを行った。遺構検出は、ジョレンにより大雑把に精査した後、草削りを用いて丁寧に削り、遺構の検出に努めた。遺構の埋土掘削には移植ゴテ・草削りを使用した。掘削にあたっては基本的にベルトを設定し、土層観察を行いつつ掘り下げた。石敷きや石垣の精査には移植ゴテ以外にハケなども使用している。土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構の平面図は、(株)CUBICの「遺構くんcubic」を用いて測量し、出力後に補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行い、高低差のある壁面については平面図と同様に調査システムを用いた記録作成を行った。石垣の正面図作成にはデジタルカメラで正面から撮影を行い、Adobe 社の PhotoshopCC により画像補正を行ったのち、画像をトレースしたものを現地で修正して正面図を作成している。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム(モノクロネガ・カラーポジフィルム)による撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。

現地調査期間は平成 28 年 5 月 19 日から 9 月 14 日、調査面積は 1,315㎡、調査体制は調査員 1 名と調査補助員 2 名である。

2. 基本層序 石敷き周辺の基本層序は上から表土、黄褐色土層、その下層は石敷きや溝などの遺構、あるいは岩盤層である。西側の平坦面は、上から表土層、水田耕作土層、不透水層で、その下は岩盤層の上部に堆積する岩盤風化層となる。



第57図 近世山陰道跡の調査位置図 (S=1:3000)

3. 検出した遺構と遺物 調査の結果、石敷き、石垣、溝跡を確認した。遺構の多くは、地山あるいは岩盤上で検出した。

#### 石敷き(街道跡)(第62図)

近世の山陰道と想定される位置に敷かれていた石敷きの路面である。平成27年の試掘調査時に 平坦な礫を敷き詰めた路面が検出されていたものである。今回の発掘調査の結果、昭和35年頃に 当時の電電公社が道の下部に電話線を埋設する工事を行っており、電話線の埋設に伴い道を改修し た状態が検出された石敷きであることが判明した。

石敷きは馬橋方向から丘陵斜面に沿って徐々に上っている。馬橋側の端は標高 40m、反対は標高 46m 前後で途切れていた。石敷きは途切れていたが電話線の埋設はさらに遺跡外の西方へ延びていることが明らかとなった。路面は直径  $10\sim 50cm$  前後の礫を半裁し作り出した平坦面を上面に向け路面として幅  $1\sim 1.2m$  に敷き並べている。礫の平坦面には楔の打ち込まれた痕跡が残るものも見られた。礫の間にはコンクリートの目張りが施されていた。礫は安山岩や輝石安山岩などを用いており、遺跡周辺で採集できる石材ではなく非常に良質なものであった。

路面の礫を除去すると礫の直下にコンクリートが薄く流されており、その上に礫を設置していることが判明した。このコンクリートの下には箱掘りで電話線埋設溝が掘られており、溝底面近くに電話線が埋設されていた。電話線は真砂で覆われ溝を上部まで満たされ、その上にコンクリートを15cm 程度平坦に流し込み電話線の上部を保護している構造となる。

石敷きの路面の両側には溝が掘られていた。この溝は排水用の溝と考えられるが、掘削された時期は不明である。路面の山側に掘られた溝跡は断面が楕円形となっており、丘陵からと路面から流れる水を下方に流す役割があったものと考えられる。一方路面の谷側の溝跡は岩盤を掘り込んでおり、断面形状も一定せず、溝と断定できないほどであったが、不整形な溝跡が存在すると考えている。岩盤の硬度により山側ほど明確な溝にできなかった可能性がある。二つの溝跡には昭和以降の瓶など近年廃棄されたものしか出土しなかった。

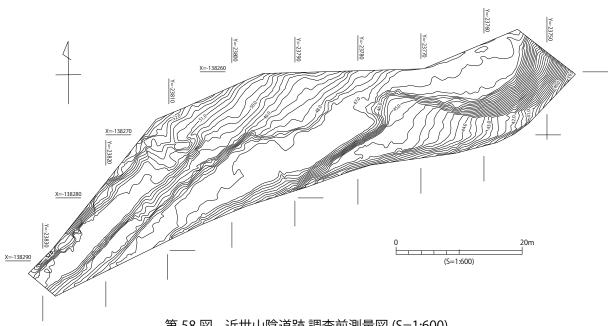
石敷きの直下には丘陵を構成する岩盤層があるが、岩盤層表面には道路状遺構に見られる連続する ピットや土坑、畝状の凹凸、砂や砂利の堆積は見られなかった。このように石敷き以前の道の痕跡 は見つけることができなかった。

#### 石垣 4 (第63図)

石垣4は、石敷きの路面の山側に積まれていた。石敷きに沿っており路面を意識した石垣と考えられる。直径10~40cmの亜角礫や亜円礫で構成され、石垣の底面は比較的大型の礫が積まれていた。直方体や亜円礫などであるが、礫は横位置で据えられているものが多い。石垣最上部の礫は中段に積まれている礫よりも直径が大きくなるものが多い。最上段も横方向を意識して礫が積まれていると考えられるから、この石垣がさらに高くなることは無いと考えられる。石垣の右方側の礫は小さく、中央の礫は大きいことから、右方は崩落したのちに積み上げられた可能性もある。石垣の裏込めは無く、斜面に貼り付ける状態で積み上げている。礫は加工していない野面積み、石垣の積み方は布積ではないが、横方向を若干意識した乱積みである。

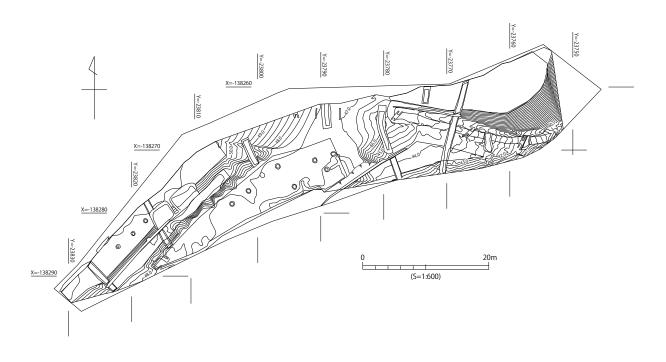
#### 石垣 1・2・3・5 (第63図)

石垣 4 以外に数カ所の石垣が遺跡から検出されている。斜面に平坦面を造り山側に分割した礫を積み上げたものである。裏込めは見られなかった。平坦面には不透水層と考えられる層が地山面

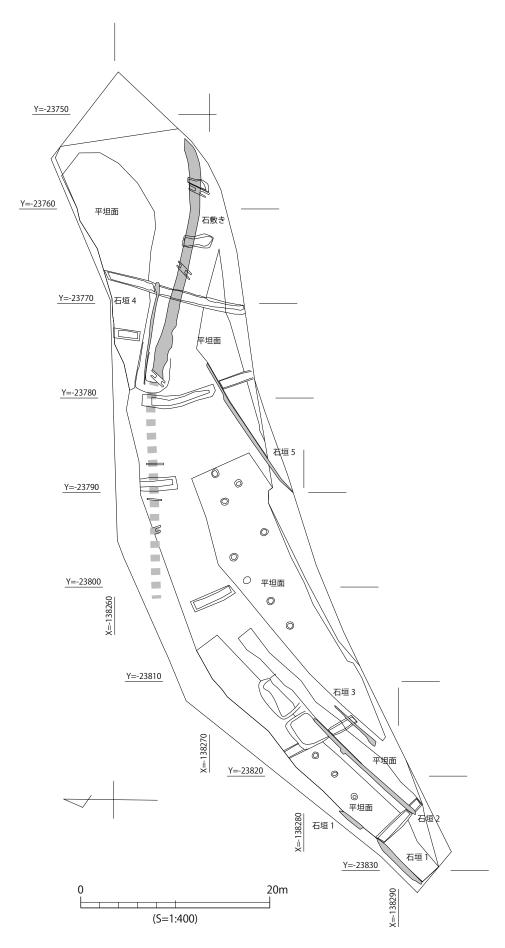


第58図 近世山陰道跡調査前測量図(S=1:600)

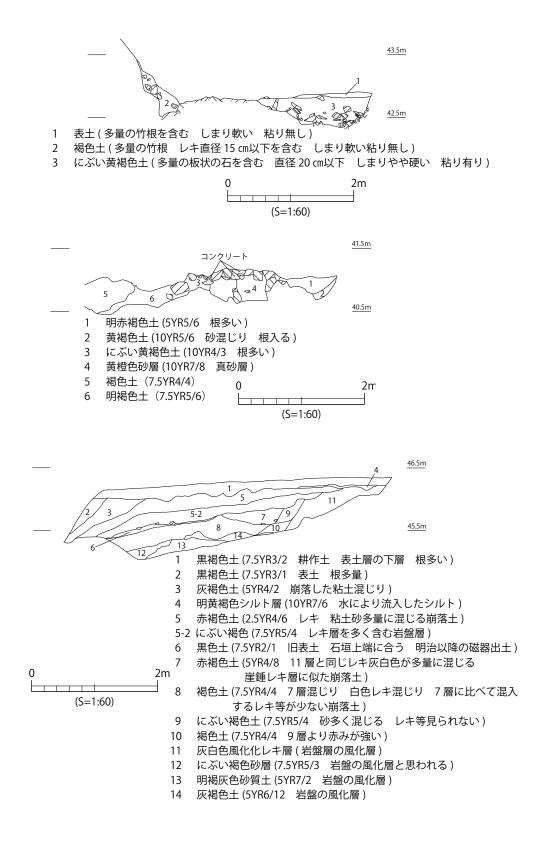
の上層に平坦に堆積していた。この石垣は昭和58年の斜面崩落までこの丘陵で行われていた棚田 に伴う石垣と考えられる。棚田が形成された時期は不明で、石垣が構築された時期も不明である。 石垣を構成する礫はどの石垣もほぼ同様で、礫を半分に分割し、分割した平らな面を谷側に向け、 石垣の正面の凹凸を抑えている。礫を加工する打込接ぎで、積み方は乱積みである。石材は安山岩 や輝石安山岩などを用いており、遺跡周辺で採取される石材では無く、外部から持ち込まれた可能 性が高い。石垣底面は石敷きの路面を構成している礫の石材及び加工方法が類似している印象を受 けた。



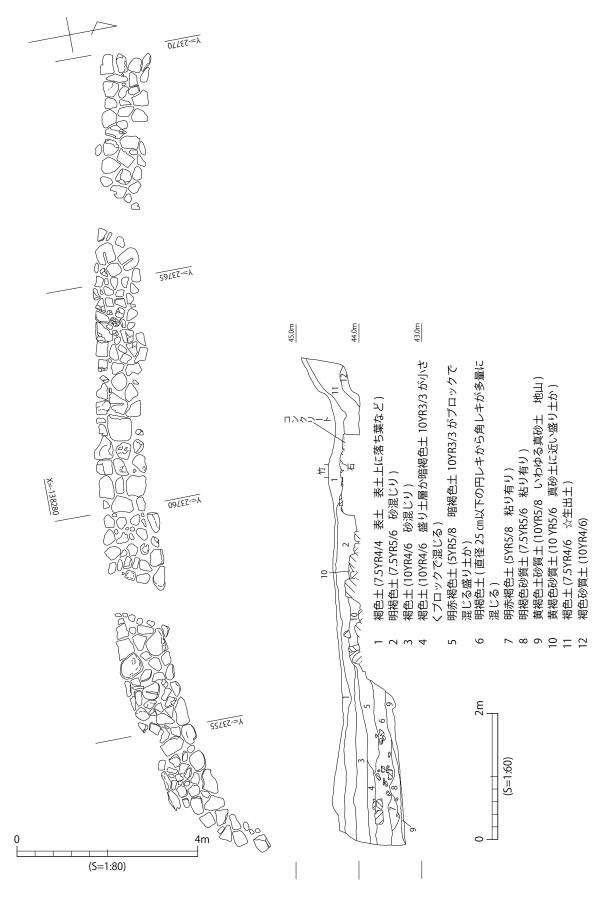
第59図 近世山陰道跡調査後測量図 (S=1:600)



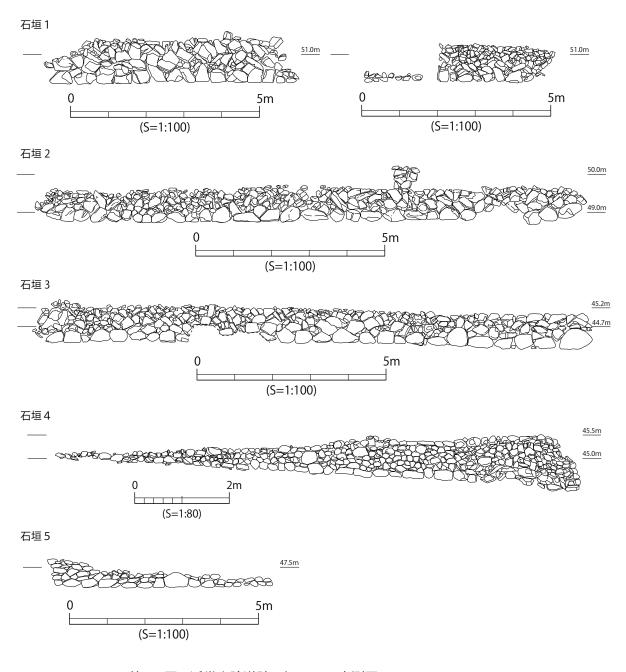
第60図 近世山陰道跡遺構配置図 (S=1:300)



第 61 図 近世山陰道跡土層図 (S=1:60)



第62図 近世山陰道跡石畳実測図 (S=1:80)



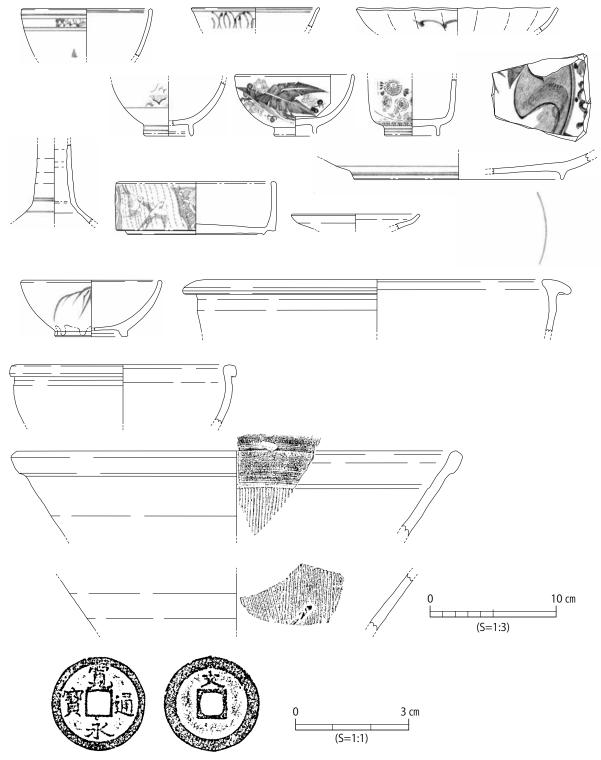
第63 図 近世山陰道跡石垣 1~5 実測図 (S=1:80、S=1:100)

#### 4. 包含層出土遺物 (第64図)

第 64 図  $1\sim3$ 、7、8、13 は肥前系陶磁器である。江戸時代の遺物である。15 も江戸時代で須佐産の擂鉢である。16 は寛永通宝である。新寛永である。これら以外は近代に属する。

# 第4節 小結

本遺跡の発掘調査では調査区内に近世まで確実に年代がさかのぼる遺構は確認できなかった。調査で検出された石敷き遺構は、昭和35年の電話線埋設により路面が改修されて敷かれたもので、古い街道の痕跡は残っていなかった。また、昭和58年に丘陵斜面が大規模に崩落しており、周辺の地形も大規模に変化してしまったため街道が存在していたと想定される斜面そのものが残ってい



第 64 図 近世山陰道跡 出土遺物実測図 (S=1:1、S=1:3)

なかった。昭和に行われた電話線の埋設は当時の主要街道を優先的に行ったという証言もあり、以前の街道は今回検出した石敷き周辺を通っていたことはほぼ間違いない。今回調査を行った丘陵のうち、土田川に近い斜面で街道が敷設できる程に地形を改変しているのは、今回の調査で検出した石敷きとそれに伴う平坦面の他に無く、近世においても調査範囲を通っている可能性は高いと考えられる。

石敷きの山側斜面には石垣4が積み上げられている。石垣4の礫は遺跡周辺で採取可能な礫を

用いていること、個々の礫は小さく、面取などの加工を施さない礫を野面積みであること、若干横 方向を意識した乱積みであることなど石垣 4 を除く石垣を構成する石材は外部から持ち込まれた 既に面取などの加工を施された礫を乱積みで積み上げる違いがある。石垣の様相だけで単純な比較 はできないが石垣 4 は他の石垣に比べ古い様相を呈している可能性があり、近世にさかのぼる可 能性も考慮しなければいけないと考えている。

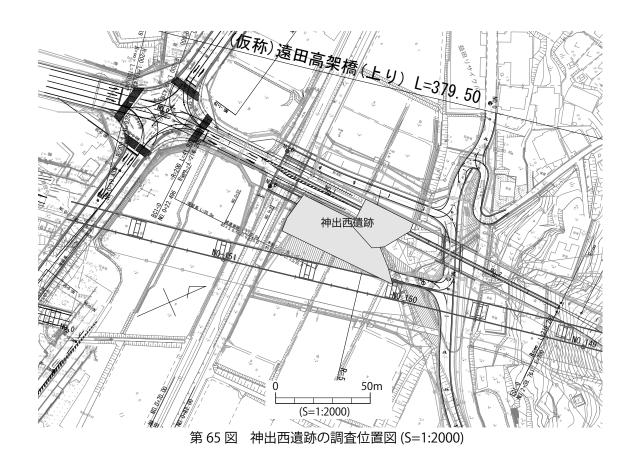
以上のことから今回調査を行った近世山陰道跡(馬橋地区)では、近世山陰道の路線が石敷きが設置されている部分を通っていた可能性が非常に高く、近世山陰道推定地としての立地と石垣 4 の存在、近世に属する遺物も出土している点から、近世までさかのぼって遺跡内に近世山陰道が通っていた可能性は高いと考えている。

このように、仮定の上に成り立ってはいるが、発掘調査の成果から近世山陰道の路線やその利用を知ることができた。土田地区を含め、益田市東部や浜田市西部は幾度となく災害に遭い、その都度地形の大きな改変を受けてきた。今回の発掘調査でも災害の痕跡が残っており街道そのものが流出または埋没していた。調査前に行われた地域住民の聞き取りでは遺跡内に街道の存在を示唆する情報はごくわずかで、街道の位置はほとんどの地域住民には知られていなかった。このように、半世紀ほどで地域の様相は忘れ去られていくことが今回の発掘調査では明らかとなった。地域の景観や文化を後世に語り継ぐために景観の資料化も今後検討すべきかもしれない。

# 第7章 神出西遺跡の発掘調査

### 第1節 遺跡の位置と環境

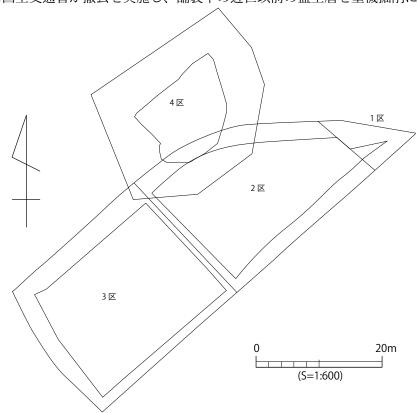
- 1. 遺跡の位置 調査対象地は、国道 9 号線と益田道路が接続する遠田 IC の東側の平地に位置する。 この平地には北上して日本海に注ぐ 2 級河川遠田川が流れており、川の町側に水田や宅地が形成 されている。遺跡の範囲は遠田川の右岸の水田部分に広く形成されているものと考えられている。 発掘調査は三隅益田道路に事業地内である水田部分と遠田 IC に繋がる市道部分で行った。
- 2. 地理的環境 調査前の遺跡の標高は高いところで約8.8m、低いところで約10.5mである。遠田川へ向かって数段に形成された水田面が広大に広がっており、南北の見通しは確保できる。遠田川の東西には南北に低丘陵が日本海近くまで延びており、東西方向の見通しはあまりない。広大な水田面は昭和58年に島根県西部を襲った大水害以降に実施された圃場整備により大規模に造成されたもので、圃場整備前は遠田川の周辺は湿地帯で、水稲やい草の栽培が行われていたと聞き及んでいる。また、圃場整備前は東から西に石敷きの小道が通っており、遠田川を渡っていたようである。この小道は現在も遺跡の東側の丘陵に石敷きの一部が残っているが、近世から利用されてきた山陰道の名残であると考えられている。この山陰道は過去に行われた近世山陰道の調査でも調査地をかすめるように通っていたのでは無いかと推定されている。遠田川の西側に存在する水路は山陰道推定線に沿っており、山陰道のルートを推定する手がかりになる可能性がある。



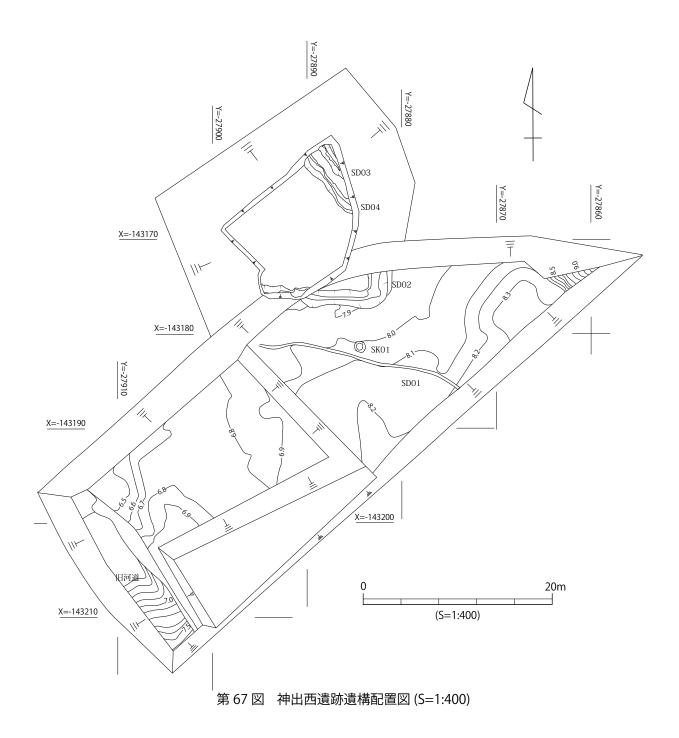
67

### 第2節 発掘調査と整理作業の経過

1. 発掘調査の経過 本遺跡の作業は平成27年度と28年度の2カ年にわたって実施した。平成 27年度は7月1日から10月2日にかけて実施した。調査区は水田が3面ですでに休耕田となっ ていた。3面を1区から3区とし、同時に表土掘削を行った。掘確認結果から表土層は重機によ り掘削を行った。表土層除去後、人力による包含層掘削と遺構検出、遺構掘削を各区で実施した。 1区は非常に狭く7月22日mには調査を終えた。2区の包含層掘削は7月10日から行い、3区 は8月6日から実施した。2区は遺構面である明黄褐色土層を掘り込む数条の溝状遺構を検出し、 遺構掘削を行っている。3区の東側は圃場整備により削平を受けているようで遺構や遺物はほとん ど出土しなかったが、遠田川に近い調査区の西側で旧遠田川の旧河道を検出し調査を行った。旧河 道内からは自然流木が多量に出土したが、その中に弥生中期から古墳時代の遺物が出土している。 また、現堤防に非常に近い調査区の西端で旧河道の護岸と考えられる板列と、板列を沿って構築さ れた部材が確認された。この部材には木製品の転用材が含まれており、こちらの測量も行っている。 3区の調査が先行し行われ9月18日に調査が終了した。終了に先立ち、ラジコンへリによる空中 写真撮影、及び高所作業車による高所からの写真撮影を行っている。2 区は最後に古墳時代の溝状 遺構(SD02)の調査を終え10月2日に1区から3区の調査を終了した。その後、埋め戻しなど を経て 10 月 5 日には国土交通省へ現地を引き渡した。2 区で確認された SD02 は調査範囲外に延 びていることが発掘調査の結果から市道部分の発掘調査が必要と判断された。国土交通省との協議 の結果、平成28年度に改めて市道部分について発掘調査を行うこととなった。便宜上その調査部 分を4区とした。平成28年度は11月7日から4区の発掘調査を実施した。市道の舗装部分につ いては事前に国土交通省が撤去を実施し、舗装下の近世以前の盛土層を重機掘削により実施した。



第 66 図 神出西遺跡 調査区配置図 (S=1:600)



遺物包含層の掘削は 11 月 15 日から実施し、数条の溝状遺構が検出されたため、遺構掘削も実施している。調査にあたっては遺構の実測や写真撮影を随時行い、高所作業車やラジコンへリによる写真撮影も併せて行っている。全ての発掘調査は 12 月 21 日に終了し、埋め戻し後、平成 29 年 1 月 16 日に国土交通省へ引き渡しを行っている。

2. 整理等作業の経過 遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬期は埋蔵文化財調査センターにて前述した作業を継続し、続いて復元・実測等の整理作業を行った。平成 29 年度に神出西遺跡全区の出土品を通覧して遺物実測・写真撮影を行っている。現地調査終了後に整理した図面・写真等の記録類についても、出土品と併せて総合的な整理検討を行い、遺構・遺物のトレース、写真、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等には Adobe 社のソフトを使用した。

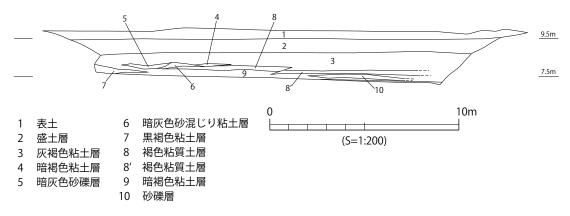
### 第3節 発掘調査の概要

1. 調査の方法 調査前の現地の状況は、1区から3区は水田、4区は市道である。試掘確認調査の結果に基づいて、各区で包含層や遺構面までバックホーを用いて表土及び造成土を取り除く必要があった。重機掘削は、バケットに平爪を装着して、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。土層観察を行いながら、包含層あるいは遺構面まで若干余裕を持たせたところで掘削を停止した。その後はベルトコンベアーを設置し、スコップ・鍬・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。遺物包含層についてはスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中するカ所については移植ゴテ・草削り・片手鍬により掘り下げた。出土状況の有意性が低いものは、取り上げに際しては層位の記録のみを行った。遺構検出は草削りを用いて丁寧に削り、遺構の検出に努めた。出土する遺物の粗密に応じて適宜移植ゴテ等の道具を併用した。

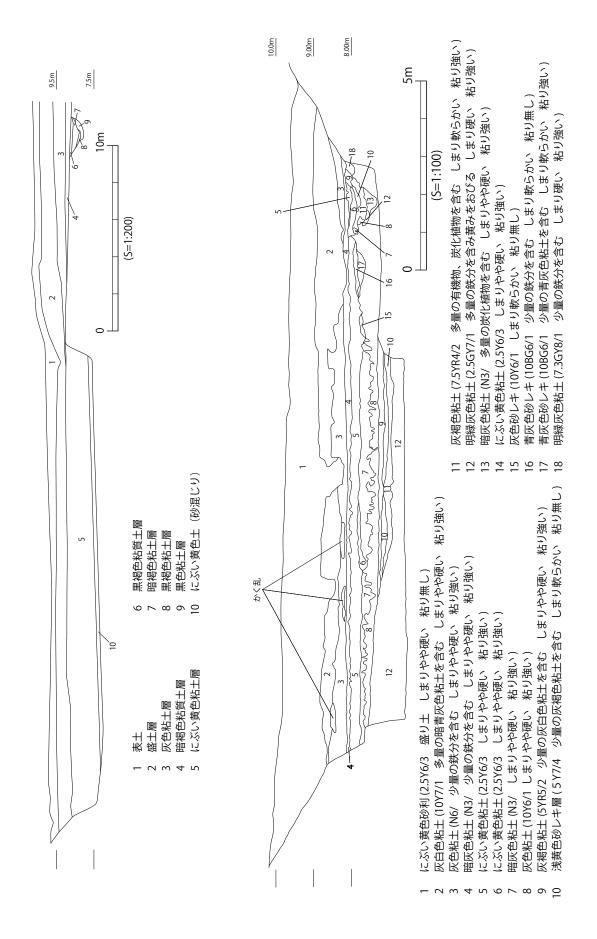
遺構の埋土掘削には移植ゴテ・草削り・片手鍬を使用した。掘削にあたっては基本的にベルトを設定するか半裁をし、土層観察を行いつつ掘り下げた。土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構からの出土遺物については、必要に応じて出土状況を記録した後、取り上げNoを振って取り上げた。

遺構の平面図は、コンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム「SITE」及び(株)CUBIC の「遺構くん cubic」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行い、高低差のある壁面については平面図と同様に調査システムを用いた記録作成を行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム(モノクロネガ・カラーポジフィルム)による撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。現地調査期間は平成27年度は7月1日から10月2日、調査面積は1,300㎡、調査体制は調査員1名と調査補助員2名である。平成28年度は11月7日から12月21日、調査面積は1,000㎡、調査体制は調査員1名と嘱託職員1名、調査補助員2名である。

2. 基本層序 第68 図と第69 図は神出西遺跡の基本層序である。地表下に、1・2 層が表土や造成土、3~5 層が遺物包含層である暗褐色系土層、その下に明黄褐色粘土の基盤層(地山)が堆積している。3~5 層は暗褐色系の粘質土、暗黄褐色粘質土等が、厚いところで1mほど堆積していた。



第 68 図 神出西遺跡土層図 1(S=1:200)

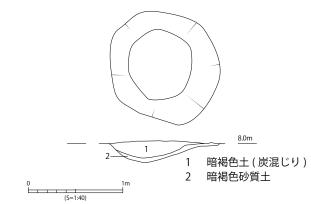


第 69 図 神出西遺跡土層図 2(S=1:200)

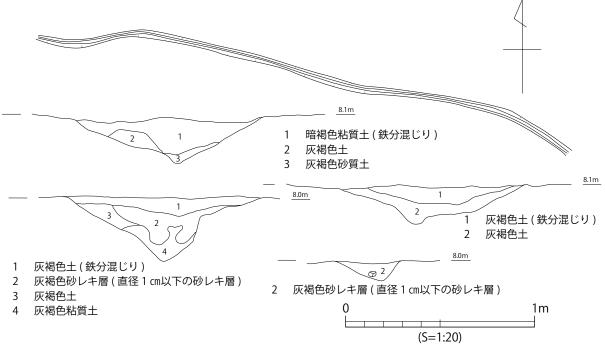
3.検出した遺構と遺物 調査の結果、2区で溝状遺構 (SD01・SD02)、土坑、3区で旧河道、4区で溝状遺構 (SD03・SD04) を確認した。

#### SK01 (第70図)

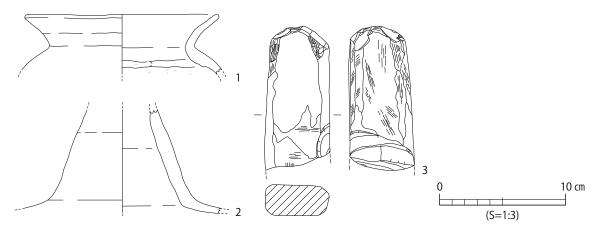
2区で検出した土杭で、直径 1.2m で 浅い。底面に砂礫が混じる土が堆積して おり、SD01 や SD04 と類似する。検出 面で土師器が出土しているが、底面近く



第70図 神出西遺跡 SK01 検出状況 (平面図 S=1:40)



第71 図 神出西遺跡 SD01 検出状況 (平面図 S=1:150、断面図 S=1:20)

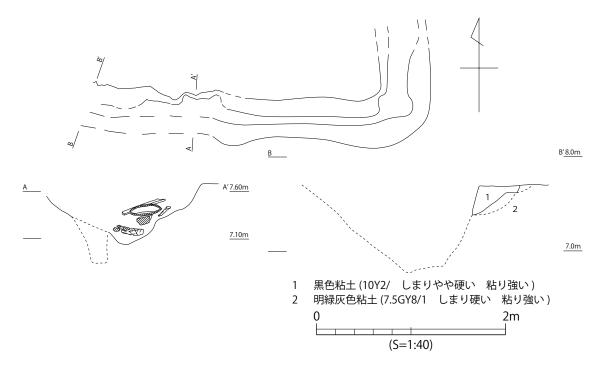


第72図 神出西遺跡 SD01 出土遺物実測図 (S=1:3)

で弥生土器と見られる土器片が出土している。

#### SD01 (第71 図)

2区を南北方向に貫く溝状遺構である。蛇行しており規則性は無い。断面は逆三角形で底面近く



第73 図 神出西遺跡 SD02 検出状況 (平面図 S=1:20)

に砂礫層が堆積している。砂礫層の上には鉄分が混ざる土層が堆積しており当初水が流れる環境にあったものが埋没したものと考えられる。遺構の深さは35cm前後で非常に浅く、SD01は深い溝であったものが埋没し、その後、上部が削平されていると考えられる。埋土の砂礫層から小片の弥生土器と石斧が出土し、1層からは土師器の甕などが出土している。4区で検出したSD04と関係のある溝状遺構の可能性がある。

#### SD01 出土遺物(第72 図)

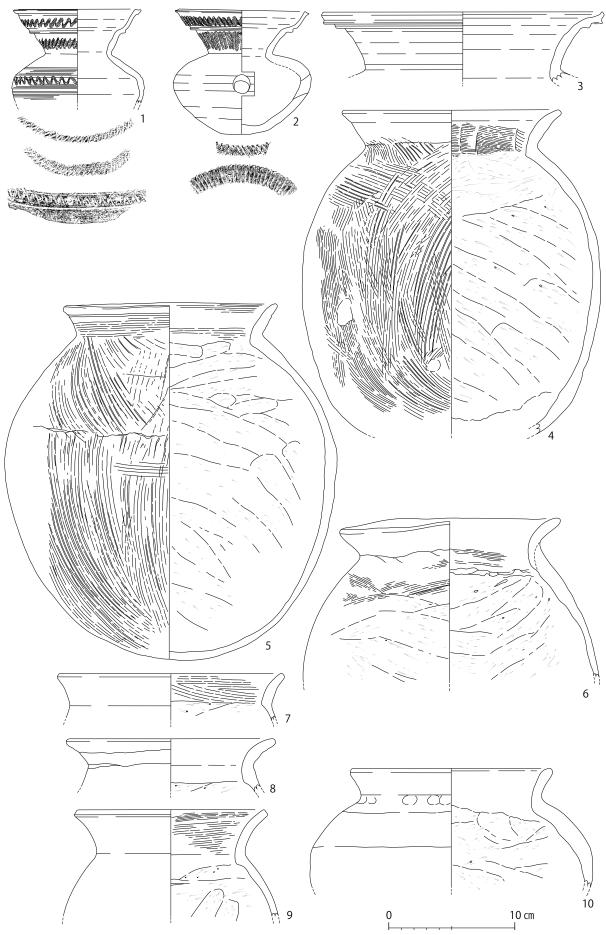
第72図はSD01出土の土師器である。1は甕である。胴部以下ほとんど欠損している。胴部内面はヘラ削りである。2は高坏の脚部である。脚部の先端へ向けて外へ向けて屈曲する。

#### SD02 (第73図)

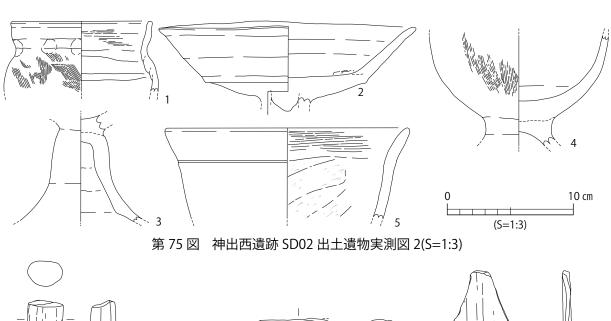
2区から4区へ向けて検出された溝状遺構である。南北方向に掘られ、90度近く折れ曲がり西方向へ向きを変えまっすぐ掘られていた。2区と4区の調査区際を通り、調査区外へ伸びていることがわかる。2区の壁際から屈曲部までは浅く深さは30cmほどで、屈曲部から4区へ向けて深く掘られていた。土層の断面は逆三角形であった。堆積土は黒褐色粘土層で多くの遺物が含まれていた。砂層は見られず水が流れた形跡は見られなかった。

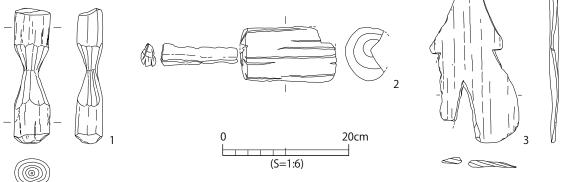
#### SD02 出土遺物(第 74 図~第 76 図)

第74 図~第76 図は SD02 出土遺物である。第74 図 1 と 2 は須恵器のハソウである。1 は口縁部と頸部、胴部に波状文、2 は口縁部と頸部に波状文を施す。3 は須恵器の甕の口縁部である。3 は口縁外部に段を持ち、4~10 は土師器甕である。胴部内面は全てへラ削りである。外面は強いハケ目が施されているものが多い。胴部の形状は様々で 4 は楕円形、5 は球形、7~9 は幅が短く胴部が張らない。10 は胴部の肩が張る形状で器壁が厚い。第75 図も土師器である。1 は甕、2~4 は高坏である。5 は甑か甕であろうか。1 は口縁が若干内湾する甕である。2 は見込みが平坦になる高坏である。椀部には明瞭な段が形成される。3 は 2 の高坏に類する高坏の脚部である。4

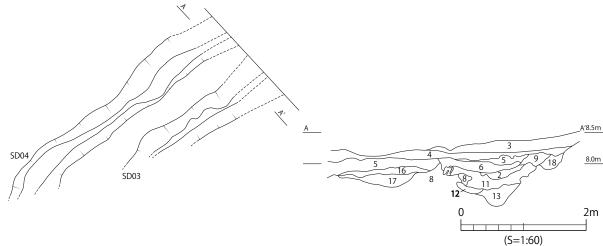


第 74 図 神出西遺跡 SD02 出土遺物実測図 1(S=1:3)





第 76 図 海石西遺跡 SD02 出土遺物実測図 (S=1:6)



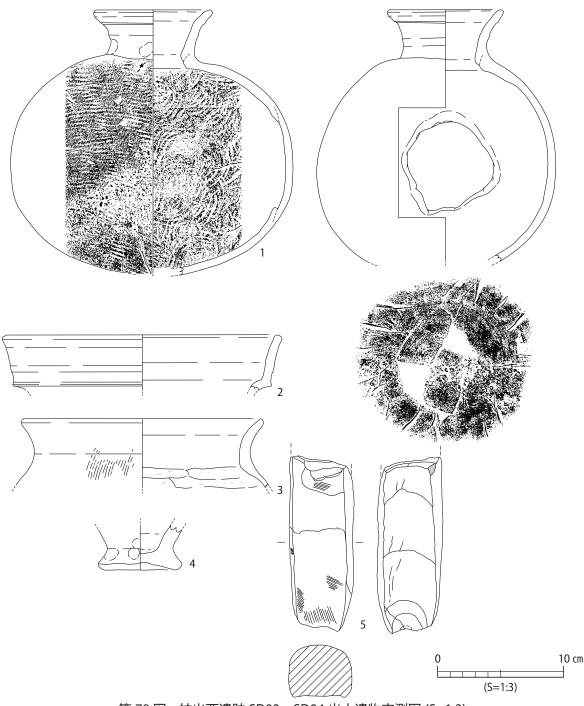
- 2 灰白色粘土 (10Y7/1 多量の暗青灰色粘土を含む しまりやや硬い 粘り強い)
- 3 灰色粘土 (N6/ 少量の鉄分を含む しまりやや硬い 粘り強い)
- 4 暗灰色粘土 (N3/ 少量の鉄分を含む しまりやや硬い 粘り強い)
- 5 灰白色粘土 (10Y7/1 多量の暗灰色粘土を含む しまりやや硬い 粘り強い)
- 6 灰白色粘土 (7.5Y7/1 多量の黒色粘土を含む しまりやや硬い 粘り強い)
- 7 オリーブ灰白色粘質土 (10Y5/2 多量の砂を含む 生物痕か しまりやや硬い 粘り強い)
- 8 灰オリーブ色粘質土 (7.5Y6/2 多量の鉄分、砂を含む 生物痕か しまりやや硬い 粘り強い)
- 9 明オリーブ灰色粘土 (2.5Y7/1 多量の暗灰色粘土を含む しまりやや硬い 粘り強い)
- 11 灰色粘土(N4/ 少量の鉄分、炭水化物を含む しまりやや硬い 粘り強い)
- 12 灰色粘質土 (N4/ 多量の砂を含む 生物痕か しまりやや硬い 粘り強い)
- 13 暗灰色粘土 (N3/ 多量の炭化植物を含む しまりやや硬い 粘り強い)
- 16 青灰色砂レキ (10BG6/1 少量の鉄分を含む しまり軟らかい 粘り無し)
- 18 明緑灰色粘土(7.3GY8/1 少量の鉄分を含む しまり硬い 粘り強い)

第77図 神出西遺跡 SD03・SD04 実測図 3(S=1:30)

は椀部が丸い高坏である。5 は甑の上半部ではないかと思われる。口縁部が外傾し外に開く。口縁部と胴部との境には沈線が見られる。第76 図は SD02 で出土した木製品である。1 は木錘である。くびれ部を削り込み面取りしている。2 は横槌である。槌部と柄が分離しているが本来一個体であったものと考えられる。3 は又鍬である。先端は欠けている。第74 図から第75 図の出土遺物は益田平野3B 期~3C 期に属すると考えられる。

#### SD03 出土遺物 (第 78 図)

第78図1と2はSD03で出土した土師器である。1は須恵器の横瓶である。胴部が約3分の1 欠損している。胴部外面には平行叩きが施され、斜位に同心円状カキ目が入る。口緑部は内外面と も回転ナデである。胴部内面には同じ円文の当て具の痕跡が全面に残る。2は甕である。胴部以下

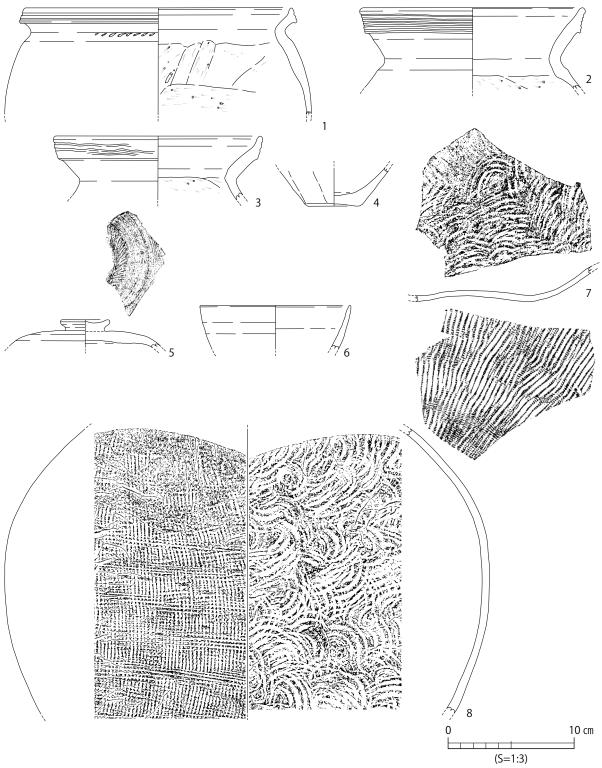


第78図 神出西遺跡 SD03・SD04 出土遺物実測図 (S=1:3)

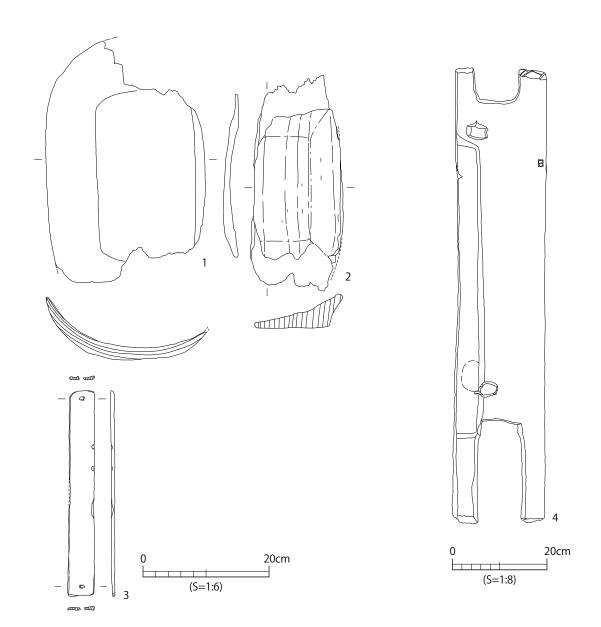
は欠損している。口縁部は二重口縁になっており外傾している。先端は尖らない。3も甕である。 単純口縁で胴部内面はヘラ削りで器壁を薄く成形している。益田平野2期であろうか。

#### SD04 出土遺物 (第 78 図)

第78図4はSD04出土の弥生土器である。壺か甕の底部と考えられる。胎土に砂粒を多く含む。 時期は弥生時代前期の可能性があるが明らかにできない。5は磨製石斧である。先端からの打撃に より大きく欠損している。



第79図 神出西遺跡旧河道跡出土遺物実測図1(S=1:3)



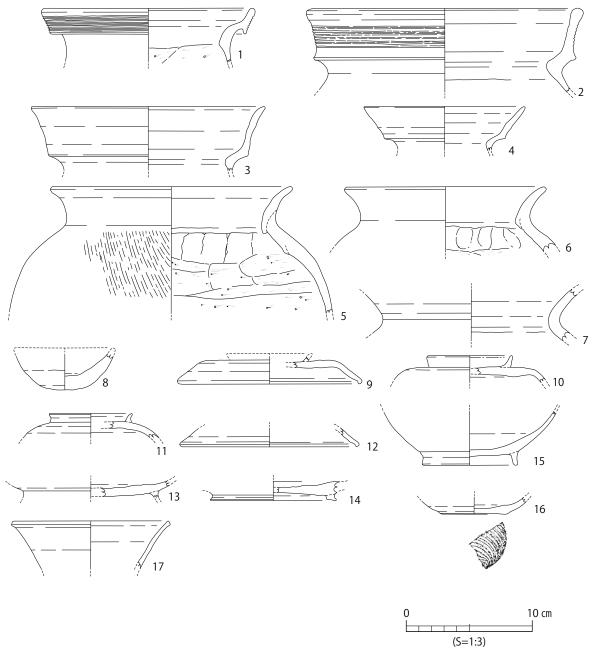
第80図 神出西遺跡旧河道跡出土遺物実測図2(S=1:6、S=1:8)

#### 旧河道出土遺物(第79図・第80図)

第79 図と第80 図は遠田川の旧河道で出土した遺物である。第79 図1~4 は弥生土器、5~8 は須恵器である。1 の口縁部は内傾し短く立ち上がる。胴部は球形である。2 と 3 は頸部が長く壺の可能性もある。口縁部は外傾し立ち上がる。2 は外反、3 は内湾する。5 は須恵器の蓋である。坏の蓋であろうか。つまみ周辺に連続刺突文が施されている。つまみは退化した宝珠つまみである。6 は椀である。7 と 8 は甕の胴部である。7 は焼成時のゆがみが見られる。底部に近いであろうか。8 は球系の胴部で最大径が約 38cmである。第80 図は木製である。1 と 2 は槽で、1 は丁寧につくられ、2 は風化している。3 は不明木製である。薄いつくりで上下に2ヶ所穿坑されている。4 は楣である。観音開きの扉の上部の板で、両側の凹部に辺材がはまり、扉板をとめる。扉軸穴が2ヶ所存在する。扉当りはなく、扉の可動範囲はくぼんでいる。

#### 4. 包含層出土遺物 (第81図・第82図)

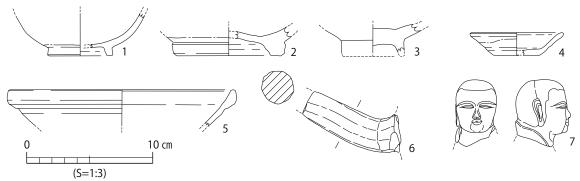
第81図1と2は弥生時代後期の甕である。1の口縁部は外傾し、外面に擬凹線が7条程度施さ



第81図 神出西遺跡出土遺物実測図 1(S=1:3)

れる。石見V -2 の弥生土器と考えられる。2 の口縁部は肥厚して丸くなる。口縁部内面はヨコナデである。口縁部に擬凹線が7 本程度施されている。石見V -3 と考えられる。3 と 4 は石見V -4 と考えられる。3 は甕、4 は壺である。両者とも口縁部が外傾して立ち上がり、口縁端部が薄く尖り気味である。5 と 6 は土師器の甕である。8 は土師器のてづくね土器である。7 と 9 ~ 17 は須恵器である。7 は甕の頸部である。9 から 12 は蓋坏の蓋で 9 から 11 は輪状つまみである。12 はつまみが欠損しており残っていない。13 ~ 15 は高台付き坏で 13 と 14 は底部が比較的平坦で、15 は椀部が 16 は高台の無い坏である。底部外面には回転糸切り痕が残る。17 は壺の口縁であろうか。口縁部は外傾外反し薄く成形されている。9 ~ 14 は石見 9 ~ 10 期であろうか。

第82図1は陶器で鉄釉が施釉されている。2は陶器の鉢である。3は陶器の椀の底部である。 4は青磁の皿である。5は白磁の碗である。口縁部は玉縁になる。白磁IV類の碗である。6は須恵



第82図 神出西遺跡出土遺物実測図 2(S=1:3)

器の柱状の突起である。甑の把手の可能性がある。7は土製品で地蔵菩薩の頭部であろう。いぶし 瓦と同様に作られたもので、近世以降の遺物と考えられる。

### 第4節 小結

神出西遺跡では、弥生時代、古墳時代中期、古墳時代後期の溝状遺構を確認した。個々では順 に神出西遺跡の土地利用についてまとめていきたい。

本遺跡は、遠田川の氾濫原が埋まった後に形成された自然堤防に位置する遺跡と考えられる。2 区の SD01 と 4 区の SD04 は弥生時代の遺物を伴い、埋土に砂利が含まれる。出土遺物は小片の弥生土器と石斧で共通点も多い。弥生時代に掘削され、古墳時代には埋没していたと考えられる。埋土に砂が含まれていることから水流があったことがわかる。共に平面は直線では無く、遺構の性格は不明であるが、排水を目的とした溝であろうか。古墳時代中期には 1 区と 4 区にかかる SD02 が掘られている。埋土は粘土層で滞水による堆積を示している。遺構の底部近くから土師器や須恵器、木製品は良好な遺存状態で出土している。遺構の性格は明確ではないが、区画を意図した溝などの可能性がある。3 区では弥生時代中期後半から古墳時代後期頃の遺物を含む遠田川旧河道が確認された。旧河道の護岸状遺構で出土した木材の年代測定では古墳時代中期から後期との結果が提示されている。旧河道出土遺物と年代的な齟齬は無い。旧河道からは弥生土器も出土しており遠田川周辺は弥生時代には開発が始まったと考えられる。3 区の中央には自然堤防が存在していたと考えられ、遺物はほとんど出土なかった。 4 区の SD03 は古墳時代後期の溝状遺構である。弥生時代の SD04 とほぼ並行しており、区画溝の可能性が高い。

以上のように、神出西遺跡では弥生時代中期から古墳時代後期にかけての生活の痕跡が明らかとなった。集落を構成する住居跡の確認には至らなかったが、東側の丘陵部に集落が形成されている可能性は高い。遠田川をさかのぼると石見部最大級の古墳である大元1号墳が存在する。全長約86mで埴輪と葺石を伴う大型前方後円墳であり4世紀の築造と考えられている。共に遠田川流域に遺跡が位置することから、何らかの関係があったと考えられる。当地の古墳時代と解明する上で貴重な成果を得ることができた。

# 第8章 自然科学的分析

## 第1節 神出西遺跡発掘調査に係る花粉及び植物珪酸体分析

渡辺正巳:文化財調査コンサルタント (株)

#### はじめに

神出西遺跡は島根県西部の益田市遠田町に位置する。遠田川下流域の谷底平野内に立地し、調査前には水田が広がっていた。本報は、遺跡周辺での古植生などの古環境変遷を推定する目的で、島根県教育庁埋蔵文化財センターが、文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した花粉分析及び植物珪酸体分析の概報である。

#### 分析試料について

分析試料採取地点及び採取層準を、第1図 に示した。分析試料は全て、島根県教育庁埋蔵文化 財調査センターとの協議の上、文化財調査コンサルタント(株)が採取した。また、第1図(平面 図)及び第2図(断面図)は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもと に作成したものである。

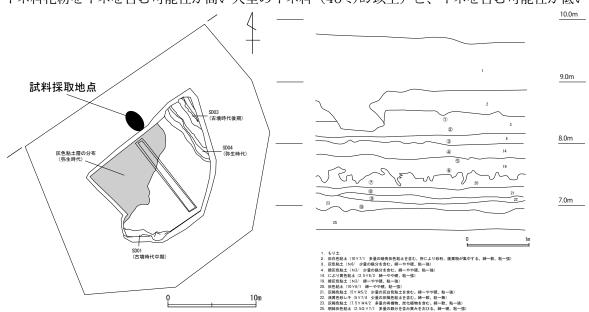
#### 分析方法

#### 1. 微化石概查方法

花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉(胞子)、植物片、炭、 珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を、5段階で示した。

#### 2. 花粉分析方法

渡辺(2010)に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村(1974)に従って、イネ科花粉をイネを含む可能性が高い大型のイネ科(40 シウロン以上)と、イネを含む可能性が低い



第83回 試料採取地点・採取層準(左:トレンチ平面図 右:分析試料採取地点近辺の断面図)

小型のイネ科(40 ミクロン未満)に細分した。

#### 3. 植物珪酸体分析方法

藤原(1976)のグラスビーズ法に従って実施した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。同定に際して、母植物との対応が明らかな、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群(第1表)を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が300を超えるまで計数を行った。

#### 分析結果

#### 1. 微化石概查結果

微化石概査結果を第2表に示す。

表 4 植物珪酸体分析同定対象分類群

同定レベル	コード	分類群	対応する栽培植物
1	1	イネ	イネ
3	3	イネ籾殻(穎の表皮細胞)	イネ
	21	ムギ類 (穎の表皮細胞)	コムギ・オオムギ
	41	オヒシバ属(シコクビエ型)	シコクビエ
	61	キビ族型	ヒエ・アワ・キビ
栽培植物との対応	62	キビ属型	キビ
	64	ヒエ属型	ヒエ
が明らかな分類群	66	エノコログサ属型	アワ
	84	ウシクサ族B	サトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
4	11	サヤヌカグサ属	,
	13	マコモ属	マコモ
	31	ヨシ属	ヨシ
	33	ダンチク属	ダンチク
	35	ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
	51	シバ属型	シバ属
	71	トダシバ属	トダシバ属
	81	ススキ属型	ススキ属
	83	ウシクサ族A	チガヤ属など
	201	メダケ節型	メダケ節
	203	ネザサ節型	ネザサ節
母植物との対応が	205	チマキザサ節型	チマキザサ節・チシマザサ節
明らかな分類群	207	ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
明りかな万無併	209	マダケ属型	マダケ属
	350	カヤツリグサ科(スゲ属など)	スゲ属
	390	シダ類	シダ類
	501	ブナ科(シイ属)	シイ類
	503	プナ科 (アカガシ亜属)	カシ類
	510	クスノキ科	バリバリノキなど (クスノキ以外)
	520	マンサク科 (イスノキ属)	イスノキ属
	530	アワブキ科	アワブキ科
	540	モクレン属型	モクレン属
	570	マツ科型	マツ科
	580	マツ属型	マツ属

何れの試料でも花粉化石、植物片の検出量が多かった。一方、炭片、珪藻の検出料は少なく、プラント・オパール、火山ガラスの検出量は、やや少なかった。

#### 2. 花粉分析結果

花粉分析結果を第3表、第84図に示す。

何れの試料でも、花粉化石の含有量が多く、統計処理に十分な量の木本花粉が検出できた。花粉ダイアグラム(第84図)では、分類群ごとの百分率(百分率の算出には、木本花粉総数を基数にしている。)を、スペクトルで表している(木本(針葉樹)は黒、木本(広葉樹)は暗灰、草本・藤本は明灰、胞子は白のスペクトルで表した。)。[総合ダイアグラム]では「木本(針葉樹)」、「木本(広葉樹)」、「草本・藤本」と「胞子」の割合を示すグラフを示した。[含有量ダイアグラム]では「木本」、「草本・藤本」、「胞子」「花粉・胞子(全ての合計)」ごとに含有量(湿潤試料1g中の粒数)の変化を示している。

#### 3. 植物珪酸体分析結果

分析結果を第4表、第85図に示す。

第3図(植物珪酸体ダイアグラム)では、検出量を1gあたりの含有数に換算した数を、検出した分類群ごとにスペクトルで示した。

試料No. 7 (20 層) から上位でイネが検出された。特に試料No. 1 では検出量が多く、4000 粒/g の検出密度を示した。

樹木起源の植物珪酸体として、シイ属型、イスノキ属型、マツ科型が検出された。

表 5 微化石概查結果

試料No.	花 粉	炭	植物片	珪 藻	植物珪酸体	火山ガラス
1	0	$\triangle \times$	0	×	Δ	Δ
2		$\triangle \times$	0	$\triangle \times$	$\triangle$	$\triangle$
3	0	$\triangle$		×	$\triangle$	$\triangle$
4	0	$\triangle \times$	0	×	$\triangle$	$\triangle$
5	0	$\triangle \times$		×		0
6	0	$\triangle \times$		$\triangle \times$		$\triangle$
7	0	$\triangle \times$	0	×	$\triangle$	0
8	0	$\triangle \times$	0	Δ×	$\triangle$	$\triangle$
9		$\triangle \times$		×	$\triangle \times$	$\triangle$
10	0	$\triangle \times$	0	×	Δ	Δ

凡例  $\odot$ :十分な数量が検出できる  $\bigcirc$ :少ないが検出できる  $\triangle$ :非常に少ない

△×:極めてまれに検出できる ×:検出できない

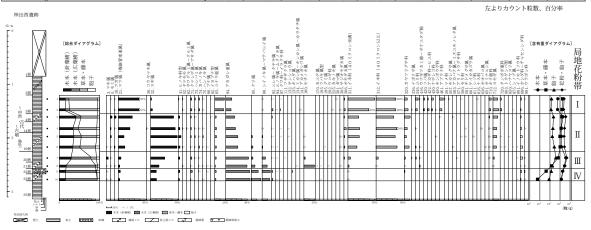
#### 局地花粉帯の設定及び既存資料との比較

#### (1) 局地花粉帯の設定

花粉分析結果を基に、局地花粉帯を設定した。以下にそれぞれの特徴を、時間的な変遷が追える

#### 表 6 花粉組成表

試料番号		Г i		2		3	3	4		5		- 6		7		8	3	9	1	10	)
3 Podocarpus	マキ属	i										1	0%	9	4%	1	0%	1	0%	2	1%
5 Abies	モミ属	2	1%			8	3%	5	1%	5	2%	1	0%	2	1%	1	0%			1	0%
10 Tsuga	ツガ属	1	0%	1	0%	8	3%	4	1%			4	1%			1	0%				
21 Pinus(Diploxylon)	マツ属:複維管束亜属	142	59%	121	57%	67	26%	91	21%	29	10%	44	12%	12	5%	6	2%	9	4%	5	2%
30 Sciadopitys	コウヤマキ属	İ						2	0%												
32 Cryptomeria	スギ属	4	2%	7	3%	111	43%	194	46%	138	49%	181	49%	67	26%	38	16%	27	11%	25	11%
41 Cupressaceae type	ヒノキ科型	1	0%			6	2%	11	3%	13	5%	10	3%	6	2%			6	2%	4	2%
52 Myrica	ヤマモモ属	1	0%	2	1%			2	0%			2	1%			1	0%				
62 Pterocarya-Juglans	サワグルミ属ークルミ属	l						2	0%												
71 Carpinus-Ostrya	クマシデ属-アサダ属	5	2%	5	2%	3	1%	6	1%	3	1%	2	1%	6	2%	2	1%	8	3%	1	0%
73 Corylus	ハシバミ属	3	1%	1	0%	2	1%	2	0%	3	1%	3	1%	1	0%						
74 Betula	カバノキ属	4	2%	4	2%			3	1%	1	0%	6	2%	2	1%	1	0%	1	0%		
75 Alnus	ハンノキ属	1	0%	2	1%			3	1%	3	1%	1	0%			1	0%			1	0%
80 Fagus	ブナ属	l										1	0%			1	0%	1	0%		
82 Fagus japonica type	イヌブナ型	2	1%			1	0%									1	0%				
83 Querucus	コナラ亜属	43	18%	35	17%	7	3%	14	3%	9	3%	11	3%	7	3%	3	1%	7	3%	5	2%
84 Cyclobalanopsis	アカガシ亜属	27	11%	21	10%	43	17%	77	18%	63	23%	83	22%	109	43%	97	40%	114	45%	104	45%
85 Castanea	クリ属	l								5	2%	10	3%	7	3%	16	7%	32	13%	40	17%
88 Castanopsis-Pasania	シイノキ属ーマテバシイ属	1	0%	1	0%			2	0%	3	1%	4	1%	16	6%	23	9%	39	15%	32	14%
92 Ulmus-Zelkova	ニレ属ーケヤキ属	1	0%	5	2%	3	1%	3	1%	1	0%	1	0%	1	0%			4	2%	5	2%
94 Aphananthe-Celtis	エノキ属ームクノキ属			1	0%							1	0%	2	1%			2	1%	2	1%
97 Moraceae-Urticaceae	クワ科ーイラクサ科	1	0%	3	1%			2	0%	1	0%							1	0%	1	0%
111 Euptelea	フサザクラ属													1	0%						
132 Zanthoxylum	サンショウ属							1	0%	1	0%										
133 Phellodendron	キハダ属	l																3	1%		
134 Citrus-Fortunella-Ponci.	ミカン属-キンカン属-カラタチ属															1	0%				
141 Mallotus	アカメガシワ属	l		1	0%																
160 Ilex	モチノキ属	!								1	0%	2	1%	6	2%	48	20%				
170 Acer	カエデ属	!														1	0%				
183 Camelia type	ツバキ属型	!												2	1%	1	0%			1	0%
195 Elaeagunus	グミ属	!										1	0%								
202 Araliaceae	ウコギ科	1														1	0%				
225 Diospyros	カキノキ属	<u> </u>		1_	0%																
301 Typha	ガマ属	1	0%																		
305 Alisma	サジオモダカ属	l		1	0%					1	0%	1	0%			1	0%				
306 Sagittaria	オモダカ属	3	1%	5	2%	3	1%	18	4%	4	1%	6	2%	3	1%						
311 Gramineae(<40)	イネ科 (40ミクロン未満)	119	50%	106	50%	52	20%	92	22%	59	21%	62	17%	12	5%	5	2%	2	1%	1	0%
312 Gramineae(>40)	イネ科 (40ミクロン以上)		208%	398		85	33%	244	58%	99	35%	144	39%	10	4%	1	0%		4.07		
320 Cyperaceae	カヤツリグサ科	13	5%	15	7%	28	11%	23	5%	11	4%	33	9%	5	2%	1	0%	3	1%		
336 Aneilema	イボクサ属		- Fay	1	0%				00/				4.0/	1	0%						
345 Liliaceae	ユリ科	12	5%	7	3%			1	0%			4	1%	4	2%		4.0/				
416 Echinocaulon-Persicaria	ウナギツカミ節ーサナエタデ節	1	0%		00/							1	0%	2	1%	3	1%				
420 Fagopyrum	ソバ属	5	2%	4	2%																
422 Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科ーヒユ科	3	1%	6	3%																
430 Caryophyllaceae	ナデシコ科キンポウゲ科	8	3%	4	2%						4.07										
450 Ranunculaceae	キンホリケ科 アプラナ科	1.0	7%	2	1% 4%	2	10/			2	1%										
461 Cruciferae		16		9	4%	2	1%														
501 Leguminosae 557 Rotala	マメ科 キカシグサ属	1	0% 0%																		
563 Epilobium-Ludwigia	ヤカンクサ属 アカバナ属ーミズユキノシタ属	1	U%			1	0%					1	0%								
571 Haloragaceae	アガハナ属ーミスユモノンダ属アリノトウグサ科					1	U%					1	U%	1	0%						
	セリ科	1	00/							1	00/			1	U76						
580 Umbelliferae	セリ科 チドメグサ属	1	0%					4	1%	1	0% 0%										
581 Hydrocotyle	ナトメクサ画 テイカカズラ属							4	176	1	U%							1	0%		
601 Trachelospermum 611 Lamiaceae	シソ科	I								1	0%							1	U76		
616 Solanaceae	ナス科	1	0%							1	U70										
636 Plantago	ナスペーオオバコ属	1	U70					1	0%												
651 Patrinia	オミナエシ属	l						1	U76			1	0%								
710 Carduoidae	オミアエン属 キク亜科	10	4%	7	3%	3	1%	1	0%	2	1%	1	0%	1	0%						
710 Carduoidae 712 Artemisia	コモギ属	21	9%	23	11%	23	9%	30	7%	19	7%	24	7%	6	2%	2	1%	1			
712 Artemisia 720 Cichorioideae	コモナ馬 タンポポ亜科	5	2%	23 6	3%	23	976	30	170	19	0%	1	0%	U	∠70	4	1 70				
803 Urostachys serratum type	トウゲシバ型	٠,	270	U	370					1	U70	1	0%			<u> </u>		<del>                                     </del>			
850 Ophioglossum	ハナヤスリ属	l								1	0%	1	0.0								
850 Opniogiossum 875 Davallia	シノブ属			1	0%					1	U70	1	0%					1			
881 Pteridaceae	イノモトソウ科	l		1	U /0							2	1%	1	0%					1	0%
886 AspidAsple.	オシダ科ーチャセンシダ科	6	3%	3	1%	4	2%	10	2%	10	4%	17	5%	12	5%	2	1%	7	3%	3	1%
886 AspidAspie. 891 Polypodiaceae	ウラボシ科	1	0%	3	1 70	4	∠70	10	0%	10	4 70	17	J70	2	1%	1	0%	3	3% 1%	1	0%
891 Polypodiaceae 898 MONOLATE-TYPE-SPORE	単条溝胞子	11	5%	3	1%	4	2%	3	1%	4	1%	7	2%	4	2%	2	1%	6	2%	5	2%
899 TRILATE-TYPE-SPORE	三条溝胞子	38	16%	41	19%	21	2% 8%	49	12%	20	7%	44	12%	7	3%	10	4%	3	1%	4	2%
木本花粉総数	一本冊位丁	239	24%	211	25%	259	53%	424	47%	279	54%	369	51%	256	78%	245	90%	255	91%	229	94%
草本・藤本花粉総数		719	71%	594	70%	197	41%	414	46%	201	39%	279	39%	45	14%	13	5%	255	2%	229	0%
早本・膝本化材総数 胞子総数			6%			197	41% 6%	63					10%	45 26		15		19		14	
		56 1014	0%	48	6%	485	0%	901	7%	35 515	7%	72 720	10%	327	8%	273	5%	280	7%	244	6%
総数 含有量(粒数/g)			5,642	853	2.909		7,507		7,918		5,323		7.094		7.638		31,217		9,704		4,159
			J,04Z		4,509		1,007		1,316		J,323		1,094	4	1,000	1 3	112,10	1 1	3,104	1	4,109



第84図 花粉ダイアグラム

ように、下位から上位に向けて示す。

#### ① IV带 (試料No. 10、9)

木本花粉の割合が高い。特にアカガシ亜属が高率を占め、クリ属、シイノキ属 - マテバシイ属、スギ属が続く。草本・藤本花粉、胞子は、ほとんど検出できなかった。

#### ② Ⅲ帯 (試料№ 8、7)

木本花粉が減少、草本・藤本花粉が増加する。木本花粉ではクリ属、シイノキ属 - マテバシイ属が減少傾向を示し、スギ属が増加傾向を示す。また、試料No. 8 ではモチノキ属が高率を示す。草本・藤本花粉では、イネ科(40 シクロン以上)、イネ科(40 シクロン未満)、ヨモギ属が増加傾向を示す。

#### ③ Ⅱ帯 (試料№6~3)

木本花粉が更に減少し、草本・藤本花粉が更に増加する。木本花粉では、スギ属が高率を示すほか、マツ属(複維管束亜属)の増加傾向、アカガシ亜属の微減傾向が特徴である。草本・藤本花粉で

はイネ科 (40 ミクロン以上)、イネ科 (40 ミクロン未満) が高率を示す。

#### ④ I帯(試料No.2、1)

草本・藤本花粉が木本花粉を大きく上回る。 木本花粉では、マツ属(複維管束亜属)が木本 花粉の半数を占めるようになるほか、コナラ亜 属も高率を示す。草本・藤本花粉では、イネ科 (40 ミクロン以上)が特に高率を示すほか、イネ科 (40 ミクロン未満)の出現率も高い。また、栽培種 であるソバ属も検出される。

#### (2) 既存資料との比較

益田平野では、益田駅前町におけるジオスライサー試料を対象とした花粉分析(渡辺・石賀,2008)のほか、浜寄・地方遺跡におけるボーリング試料を対象とした花粉分析(渡辺,2006)が行われ、およそ8000yrBP以降の花粉化石群集変遷が明らかにされている。これらの結果と、今回の花粉分析結果を比較し、花粉層序学的な検証を行う。

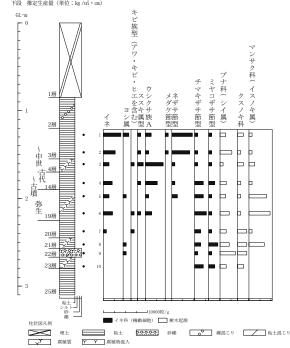
#### ① Ⅳ・Ⅲ帯

益田平野で従来得られた花粉化石群集の特徴は、古代以前にはスギ属が高率を示し、古代以降にマツ属(複維管束亜属)が急増することであった。今回のⅣ帯及び上位のⅢ帯では、スギ属が検出されるものの、アカガシ亜属の出現率がこれを上回っており、従来得られた花粉化石群集とは異なるものであった。

表 7 植物珪酸体組成表

試料No.	1	2	3	4	5	6	7	- 8	9	10
1 イネ	6	4	2	3	2	3	1	-	-	
	40	27	13	20	13	21	7	-	-	
	1.18	0.79	0.39	0.6	0.39	0.6	0.2	-	-	
31 ヨシ属	2	-	-	-	1	-		1	1	
	13	-		-	7	-		7	7	
	0.84	-			0.42	-		0.45	0.44	
61 主ビ族型			1			1	1			
(アワ・キビ・ヒエを含む)	١		7		i .	7	7	١.		
() / 4 C CT ( 140)			1 1							
81 ススキ属型	1	1	2	1		1				
01 スパー加土	7	7	13	7		7			-	
	0.08	0.08	0.17	0.08		0.09			-	
83 ウシクサ族 A										
83 ワンクリ族 A	2	1 7	6	27	1 7	2		-	-	
	13	- /	40	21	/	14		-	-	
201 メダケ節型	1	1	-	-	-	-		-	-	
	7	7	-	-	-	-		-	-	
	0.08	0.08	اتصمما		l <i></i> .	اتتتتا		l <i></i> .		
203 ネザサ節型	7	6	1	1	2	-		-	-	
	47	41	7	7	13	-		-	-	
	0.22	0.19	0.03	0.03	0.06	-		-	-	
205 チマキザサ節型	1	1	1	3	3	4	2	2	1	
	7	7	7	20	20	27	14	14	7	2
	0.05	0.05	0.05	0.15	0.15	0.21	0.1	0.11	0.05	0.1
207 ミヤコザサ節型	1	1	1	2	1	1	1	3	1	- 322
201 (10)/加生	7	7	7	14	7	7	7	21	7	1
	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.02	0.02	0.06	0.02	0.0
501 プチ科 (シイ属)	2	4	1 0.02	2	2.0.02	3	2	3	5	0.0
301 // AT (2-1)M/	13	27	7	14	13	21	14	21	35	1
	13	21	'	14	13	21	14	21	35	1
510 クスノキ科										
510 クスノキ科	13	7	2 13	1 7	1 7	1	3	3	3	٠.
	13	/	13	- /	/	7	21	21	21	1
					ļ <u>-</u> -	<u>-</u>		ļ <u>-</u> -		
520 マンサク科(イスノキ属)	1	1	. 2	1	6	.7	1	_5	-	
	7	7	13	7	40	48	7	35	-	
	_	_		-	_	-	-	_	-	
プラント・オパール総数	26	21	19	18	19	23	11	17	11	
カウントガラスビーズ数	454	446	447	439	451	438	431	427	435	44
カウント総数	480	467	466	457	470	461	442	444	446	45
试料重量 (× 0.0001g)	7005	7034	7002	6997	6987	7011	7000	7005	7001	701
ガラスビーズ重量 (× 0.0001g)	134	134	132	132	132	133	132	134	133	13

上段 検出粒数 中段 検出密度 (単位;×100粒/g) 下段 推定生産量 (単位;kg/m・cm)



第85図 植物珪酸体ダイアグラム

IV帯で、アカガシ亜属とともに高率を示すクリ属、シイノキ属 - マテバシイ属について、これらは「虫媒花」であり、スギ属やアカガシ亜属などの「風媒花」に比べ花粉の散布距離が短い。今回検出された量から、調査地点の近くにこれらの樹木が生育していたことは、明らかである。局地的な植生が認められたことも、従来と異なる花粉化石群集が得られた原因であろう。今回の調査地点は幅 200-300m の谷底平野に立地し、アカガシ亜属の生育に適した丘陵が迫っている。一方、従来の調査地は沖積平野内に立地し、スギの生育により適していたと考えられる。この様な、調査地の立地も、異なる花粉化石群集が得られた原因の一つと考えられる。

従来の分析結果で、今回の分析結果に最も近い花粉化石群集を探した場合、駅前町の MGS2- II 帯 b 亜帯、浜寄・地方遺跡のIV帯が挙げられる。いずれもスギ属が減少しアカガシ亜属が増加しており、おおよそ縄文時代後期~晩期を示している。今回のIV帯、III帯は弥生時代以前の時期を示しており、矛盾はない。今後年代測定を実施して確認する必要はあるが、この層準に対比される可能性がある。

#### ②Ⅱ帯

下位のIV、Ⅲ帯が、駅前町の MGS2- Ⅱ帯 b 亜帯、浜寄・地方遺跡のIV帯に対応するとすると、スギ属が高率を示す Ⅱ帯は、駅前町の MGS2- Ⅱ帯 a 亜帯、浜寄・地方遺跡のⅢ帯に対比できる。駅前町の MGS2- Ⅱ帯 a 亜帯は縄文時代後期末から古代、浜寄・地方遺跡のⅢ帯は、2200yrBP 以前の時期を示しているとされており、今回のⅡ帯が示す時期(弥生時代~中世)と重なる。

#### ③ I 帯

中世以降にマツ属が高率を示す特徴は、浜寄・地方遺跡のⅡ帯の特徴と一致し、対比可能である。 また、駅前町の試料では、中世以降の堆積物が欠如しており、今回のⅠ帯に対比できる時期の花粉 化石群集は得られていない。

花粉分析に適した沼沢湿地の堆積物(腐植質粘土)では、通常 1g 当たり数万粒の花粉・胞子化石が含まれる。一方今回の分析試料では、花粉・胞子化石含有量は 100 粒 /g に至らず、木本花粉含有量は 1.8 粒~ 0.6 粒 /g と、極めて少なかった。

#### 古植生及び土地利用(堆積環境)について

神出西遺跡で実施した花粉分析、植物珪酸体分析結果を基に、神出西遺跡周辺における縄文時代後期頃から中世(あるいはそれ以降)の古環境を推定する。また、時間軸に沿って古い時期から新しい時期へと示すために、ここでは下位のIV帯から示す。

#### (1) IV带期:縄文時代後期~晚期

#### ① 堆積時期について

前述のように、駅前町の MGS2- Ⅱ帯 b 亜帯、浜寄・地方遺跡のIV帯に対比される可能性がある。 両地点の年代測定結果から、それぞれの花粉帯は、おおよそ縄文時代後期~晩期の植生を示していると考えられ、IV帯も同時期の植生を示していると考えられる。

#### ② 堆積環境

下位の23層(試料No.10)は有機物に富む粘土であり、新鮮な面は青灰色を帯びることから、堆積後にグライ化を受けていた事が分かる。珪藻化石の含有量が少ないものの、花粉化石の含有量はやや少ない程度であり、グライ化の程度はさほど強くなかったようである。草本花粉の割合が極めて少ないことから湿地で堆積したとは考えにくく、三日月湖のような湖沼内で堆積した可能性があ

る。上位の22層(試料No.9)は有機物に富む礫層である。こちらでは草本花粉の検出量がやや増え、 遠田川の氾濫に伴って、周辺の土壌を巻き込んで堆積したものと考えられる。

#### ③ 古植生の推定

#### 1) 周辺の植生

草本花粉がほとんど検出されなかったことから、調査地は開放的な水域内に位置していたと考えられる。岸部近くにはヨシ類が僅かに分布していたと考えられるほか、ハリイ類やホタルイ類などのカヤツリグサ科草本が僅かに分布していたと考えられる。また、僅かに検出されたテイイカカズラ属はつる性木本(藤本)で、一般には「二次林、植林内で林床や樹木に絡まって生育し、開花には十分な光量が必要。」と言われるが、日当たりの良い岩場や、棚田の石垣、宅地の塀などに絡まって生育して開花している個体も珍しくない。湖沼に迫る林縁に生育していたと考えられる。

#### 2) 森林植生

従来の報告から益田平野の低所ではスギが優先していたいと考えられるが、今回の調査地近辺の 丘陵は、カシ類を中心とした照葉樹林で覆われていたと考えられる。また、調査地近辺では植物珪 酸体の検出されたシイノキ類やクスノキ類、イスノキも混淆していたものと考えられる。一方で、 林内のギャップにはクリやナラ類、シデ類が生育していたと考えられる。また、クリ属花粉やシイ ノキ属 - マテバシイ属花粉が一定量検出されていることから、湖沼に迫る林縁にクリやシイ類が生 育していたと考えられる。

#### (2) Ⅲ帯期:縄文時代後期~晩期

#### ① 堆積時期について

前述のように、花粉層序学的検討から下位のIV帯とともに駅前町の MGS2- II 帯 b 亜帯、浜寄・地方遺跡のIV帯に対比される可能性がある。両地点の年代測定結果から、それぞれの花粉帯は、おおよそ縄文時代後期~晩期の植生を示していると考えられ、Ⅲ帯も同時期の植生を示していると考えられ。

#### ② 堆積環境

下位の21層(試料№8)は有機質粘土、上位の20層(試料№7)は粘土であった。一方、上位の20層の新鮮な面は緑灰色を帯び、珪藻化石は含まれないものの花粉化石は多量に含まれることから、軽度にグライ化を受けていたことが分かる。

草本花粉の割合が徐々に大きくなることから、三日月湖が徐々に埋まり、湿地環境に変化していったものと考えられる。

#### ③ 古植生の推定

#### 1) 周辺の植生

前述のように、調査地近辺周辺の湿地には、植物珪酸体が検出されたヨシ類のほか、ハリイ類や ホタルイ類などのカヤツリグサ科草本、イボクサ類が生育していたと考えられる。また、フサモ類 などの沈水植物も生育していたと考えられる。

#### 2) 森林植生

調査地近辺の丘陵は、カシ類を中心とした照葉樹林で覆われていたと考えられる。また、調査地 近辺では植物珪酸体の検出されたシイノキ類やクスノキ類、イスノキも混淆していたものと考えら れる。一方で、林内のギャップにはクリやナラ類、シデ類が生育していたと考えられる。また、出 現率が減少するもののクリ属花粉やシイノキ属 - マテバシイ属花粉がいまだ一定量検出され、湖沼に迫る林縁にクリやシイ類が生育してたと考えられる。下位の試料 Ma 8 ではモチノキ属が多く検出され、モチノキ類も近辺に多く生育していたものと、考えられる。この外、スギ属花粉が増加傾向示す。スギが、調査地周囲の低地で分布を広げ始めたものと考えられる。

- (3) Ⅱ帯期:弥生時代~中世頃
- ① 堆積時期について

出土遺物から、弥生時代~中世の植生を示していると考えられる。

#### ② 堆積環境

下部の19層(試料No.6、5)と上部の4層(試料No.4)は有機質に富む粘土、中部の14層(試料No.4)は粘土であった。一方、中部の14層の新鮮な面は緑灰色を帯び、珪藻化石は含まれないものの花粉化石は多量に含まれることから、軽度にグライ化を受けていたことが分かる。

草本花粉の割合は木本花粉と同程度まで増加し、イネ科やカヤツリグサ科などの湿性草本・藤本花粉の出現率も高くなっていることから、いずれも湿地環境で堆積したものと考えられる。イネ科(40 ミクロン以上)花粉の出現率が33~58%とやや高い傾向にあり、イネ植物珪酸体も若干量であるが検出されることから、調査地点が水田であった可能性も指摘できる。

また、20層と上位の19層、14層と上位の4層の境界面の変形が激しい。一連の地層が水田耕土であるとすると、踏み込みなどの可能性もあるが、万寿地震地や浜田地震による液状化などの可能性も指摘され、軟X線写真観察などによる確認が必要である。

#### ③ 古植生の推定

#### 1) 周辺の植生

前述のように、イネを含むイネ科(40 ミクロン以上)花粉がやや高い出現率を示し、オモダカ属やセリ科などの水田雑草を含む分類群も検出されている。一方、イネ植物珪酸体も検出されるがその量は多くない。これらのことから、一連の地層が水田耕土であった可能性は指摘できるが、近傍に存在した水田から、湿地(調査地点)へ流れ込んだ可能性もある。

水田が調査地、あるいは近傍に存在した。水田や湿地内には、植物珪酸体の検出されたヨシ類のほか、サジオモダカ類やオモダカ類、アカバナ類、セリ類などが生育していた。また、畦や周辺のやや乾燥した場所には、植物珪酸体の検出されたススキ類のほか、チドメグサ類、オオバコ類、ヨモギ類が生育していたと考えられる。

#### 2) 森林植生

木本花粉の含有量が減り、調査地近辺の丘陵の開発が進み、カシ類を中心とした照葉樹林が伐採されていった考えられる。伐採跡は徐々に、アカマツを主要素とする薪炭林に置き換わっていったと考えられる。ただし、調査地近辺では植物珪酸体の検出されたシイノキ類やクスノキ類、イスノキが僅かに生育していたものと考えられる。またスギは、調査地周囲の低地や谷筋に分布していたものと考えられる。

- (4) I 帯期:中世以降
- ① 堆積時期について

出土遺物から、中世以降の植生を示していると考えられる。

② 堆積環境

3層(試料No. 2、1) は有機質粘土であった。草本花粉の割合は高く、特にイネ科(40 ミクロン以上) 花粉の出現率が 200%程度と特に高い傾向にあり、イネ植物珪酸体も検出されるなど、3層が水田作土であった可能性が高い。

#### ③ 古植生の推定

#### 1) 周辺の植生

前述のように、調査地には水田が広がっていたと考えられる。水田内にはサジオモダカ類、オモダカ類やイボクサ類、キカシグサ類、セリ類などの「水田雑草」が生育していた可能性が高く、現在ほど集約的な稲作は行われていなかったと思われる。このため、イネ植物珪酸体の検出密度はさほど高くならなかったと考えられる。

一方、ソバ属のほか、アカザ科 - ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ナス科など、畑作物を含む 分類群も数%の出現率を示している。ソバが栽培されたことは明らかであるが、そのほかの分類群 に属する「雑穀」や野菜が、裏作や休耕田、あるいは畦を用いて栽培された可能性が指摘できる。 2) 森林植生

木本花粉の含有量が更に減少し、調査地近辺の丘陵はアカマツやコナラ類を主要素とする薪炭林に覆われ、僅かにカシ類を主要素とする照葉樹林が残存していたと考えられる。ただし、調査地近辺では植物珪酸体の検出されたシイノキ類やクスノキ類、イスノキが僅かに生育していたものと考えられる。

#### まとめ

神出西遺跡で実施した花粉、植物珪酸体分析の結果、以下の事柄が明らかになった。

- (1) 花粉分析結果を基に、I~IV帯の局地花粉帯を設定した。
- (2) 益田平野内での従来の花粉分析結果と今回の I ~IV帯を比較した結果、堆積年代が分からなかったIV帯、Ⅲ帯が、共に縄文時代後期~亜晩期の植生を示すことが分かった。
- (3) I 帯とした 3 層は、水田耕作土と考えられた。一方、II 帯とした 4  $\sim$  19 層は、水田作土と湿地環境での堆積の、両方の可能性が指摘できた。
- (4) I 帯の時期には畑作が行われた可能性もあり、ソバ栽培が行われ、可能性は低いものの、アカザ(ヒユ)ナデシコ、ナタネ、ナス類が栽培された可能性が指摘できた。
- (5) 19 層、4 層下面の変形について、踏み込みの可能性もあるが、万寿地震地や浜田地震による液状化などの可能性も指摘できる。今後、軟 X 線写真観察などによる確認が必要である。

#### 引用文献

中村 純 (1974) イネ科花粉について, とくにイネを中心として. 第四紀研究, 13,187-197.

藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 - . 考古学と自然科学、9、15-29

渡辺正巳 (2006) 浜寄・地方遺跡発掘調査に伴う花粉分析およびプラント・オパール分析. 一般国道 9 号建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 2 浜寄・地方遺跡, 131-173, 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会.

渡辺正巳・石賀裕明(2008)島根県西部益田平野における過去 6400 年間の環境変遷. 植生史研究, 16, 3-10.

渡辺正巳(2010)花粉分析法、必携考古資料の自然科学調査法、174-177、ニュー・サイエンス社、

### 第2節 三隅益田道路発掘調査出土木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

本業務では、木質遺物の保存処理対象とされた三隅益田道路発掘調査に伴って出土した木製品 11点について、樹種同定を実施した。

#### 1. 試料

試料は、木製品 11 点(処理 $10.1 \sim 11$ )である。このうち、処理10.8 の曲物は、側板と底板とが確認されたため、それぞれの部材を対象に樹種同定を実施している。なお、試料の詳細(処理番号、仮番号、器種、法量など)は同定結果とともに表 1 に示したので参照されたい。

#### 2. 分析方法

資料(木製品)の木取りを観察した後、剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール,アラビアゴム粉末,グリセリン,蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)、Richter 他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995-1999)を参考にする。

#### 3. 結果

同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹2分類群(スギ、ヒノキ)と広葉樹3分類群(クスノキ科、ツバキ属、ウツギ属)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、 晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成さ

表 8	分析資料-	-覧
20	/3 // / / / /	70

処理番号	<b>仁</b> 平 口	種別	☆77 /-☆-		法量(cm)		一下あり	種類	
处理留方	仮番号	作里力リ	部位	長さ	幅厚み		木取り	(分類群)	
1	角1	田下駄	_	42. 5	13. 5	板目	スギ		
2	角2	田下駄	-	25. 5	9.6	1. 5	板目	スギ	
3	角3	不明	_	8. 3	3.5	3. 1	芯持丸木	ウツギ属	
4	角4	曲物	蓋	16. 7	5.3	0. 9	柾目	ヒノキ	
5	角5	曲物	底板	14. 7	4.7	0.6	柾目	ヒノキ	
6	角6	曲物	底板	20.0	9.7	1.0	板目	スギ	
7	角7	下駄	-	17. 0	9.0	3. 3	板目	ヒノキ	
0	<b>4</b> .0	曲物	側板	_	-	0.3	板目	スギ	
8	角8	田初	底板	14. 0	13. 9	1.0	柾目	スギ	
9	角9	不明	_	46.0	7. 0	7. 0	芯持丸木	クスノキ科	
10	角10	不明	_	53.0	8. 0	7.0	芯持丸木	クスノキ科	
11	神1	横槌	_	22. 5	8. 7	6. 5	芯持丸木	ツバキ属	

れる。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヒノキ (Chamaecyparis obtusa (Sieb. et Zucc.) Endlcher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~ やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構 成される。分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-10細胞高。

#### ・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁 孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2 細胞幅、1-20 細胞高。柔組織は周囲状および散在状。 柔細胞には油細胞が認められる。

#### ・ツバキ属 (Camellia) ツバキ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形〜角張った楕円形、単独および 2-3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列〜階段状に配列する。放射組織は異性、1-3 細胞幅、1-20 細胞高。放射組織には結晶が認められる。

#### ・ウツギ属 (Deutzia) ユキノシタ科

試料は芯持丸木で柾目が出ていないため、木口と板目の2面のみ採取した。散孔材で、道管はほぼ単独で散在する。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-4細胞幅、40-100細胞高以上のものまである。放射組織には鞘細胞が認められる。

#### 4. 考察

木製品は、伊東・山田(2012)の木器分類を参考にすると、工具(横槌)、農耕土木具(田下駄)、服飾具(下駄)、容器(曲物)、その他(不明)に分けられる。これらの木製品からは、針葉樹 2 分類群と広葉樹 3 分類群の計 5 分類群が確認された。このうち、針葉樹のスギは、湧水地周辺や谷筋等に生育する常緑高木であり、木材は木理が通直で割裂性と耐水性が比較的高い。ヒノキは、山地や丘陵地の尾根筋を中心に生育する常緑高木であり、木材は木理が通直で割裂性と耐水性が高い。広葉樹のクスノキ科は、常緑性の種類が多いが、落葉性の種類も含まれる。また、高木になる種類から低木の種類まで含まれ、木材の材質も比較的重硬なものから軽軟なものまで幅広い。ツバキ属は、山地や丘陵地の斜面等に生育する常緑小高木であり、木材は重硬・緻密で強度が高い。ウツギ属は、林縁部等の日当たりの良い環境に生育する落葉低木であり、木材はやや重硬な部類に入る。

器種別の樹種構成について見ると、横槌はツバキ属に同定されたことから、重硬・緻密な木材の利用が推定される。ツバキ属の横槌は、前田遺跡(八雲村)の古墳時代後期の資料、西川津遺跡(松江市)の時期不明の資料、姫原西遺跡(出雲市)の弥生時代後期~古墳時代前期の資料、青木遺跡(出雲市)の鎌倉時代の資料、大倉IV遺跡(斐川町)の古墳時代中期~平安時代初期の資料などに確認されており、島根県内ではアカガシ亜属と共に横槌に比較的よく利用される樹種である(伊東・山田,2012)。

田下駄は、2点ともにスギの板目板が利用される。スギ材の利用背景としては、比較的軽く浮力があること等が考えられる。また、板目板の利用については、年輪が層状に入り、柾目板に比べて割れ難いことから、意図的に板目板を利用した可能性がある。田下駄は、島根県内各地で弥生時代から古代にかけての資料が確認されているが、一部にヒノキ、ヒノキ属、マツが認められ

るものの、スギの利用が多数を占める(伊東・山田,2012)。

下駄は、台と歯を一木で作る連歯下駄である。ヒノキが利用されることから、加工性や耐水性の高い木材の利用が窺える。島根県内における下駄の木材利用についてみると、前田遺跡の古墳時代後期とされる下駄2点が最も古く、スギとカヤに同定されている。その後、古墳時代末期~平安時代初期では、オノ峠遺跡(松江市)の資料にヒノキ、出雲国府跡(出雲市)の資料にケヤキ、古墳時代末期~平安時代では、中野清水遺跡(出雲市)の資料にモミ属、三田谷 I 遺跡(出雲市)の資料にスギ、鎌倉時代では出雲国府跡の資料にクリ、室町~江戸時代では青木遺跡の資料にヒノキ、ホオノキ、ムクロジ、鎌倉~江戸時代初期では酒屋原遺跡(益田市)の資料にスギとヒノキ属が確認されている(伊東・山田、2012)。

容器の曲物は、蓋、底板、側板から構成される。側板と底板から構成される処理No.8は、いずれもスギに同定された。また、底板のみの資料2点はスギとヒノキ、蓋1点はヒノキに同定された。スギとヒノキは、いずれも木理が通直であり、板状加工が容易なこと、耐水性が比較的高いことから、これらの材質的特徴などが利用背景として考えられる。島根県内における調査事例をみても、曲物にはスギとヒノキが多く利用される傾向にある(伊東・山田,2012)。

不明(木製品)は、処理No.3が芯持丸木を呈する資料であり、中央部に孔を有する。本資料はウツギ属に同定されたが、ウツギ属は随が腐りやすく、自然に随が無くなり孔が生じる場合や、このような特徴を利用して木製品(例えば、羅宇など)として利用される場合がある。処理No.9,10は、いずれも樹皮が残る芯持丸木であり、一方の端部が有頭状に加工される。2資料はいずれもクスノキ科に同定されたことから、同様の用途に利用された可能性がある。

#### <引用文献>

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I.木材研究·資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究·資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載 V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

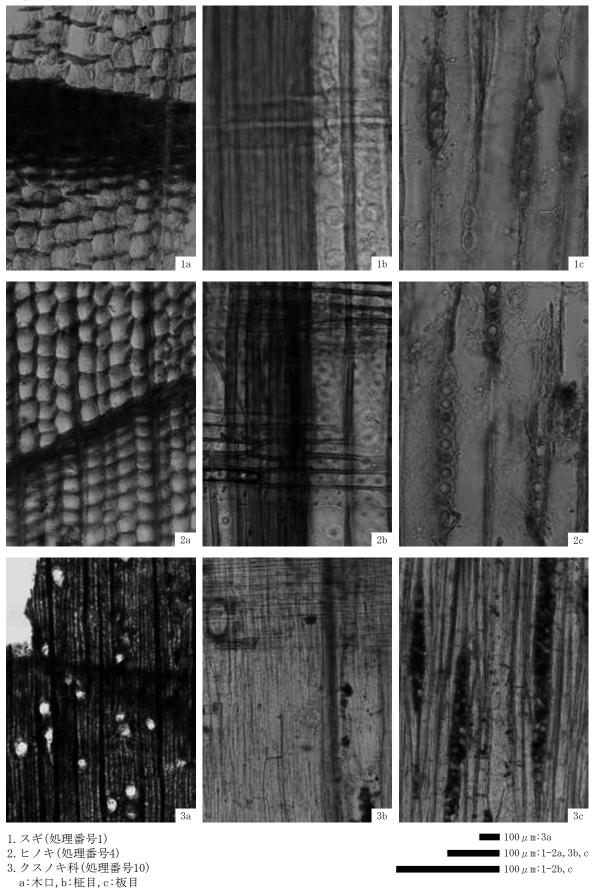
伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.,2004,IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

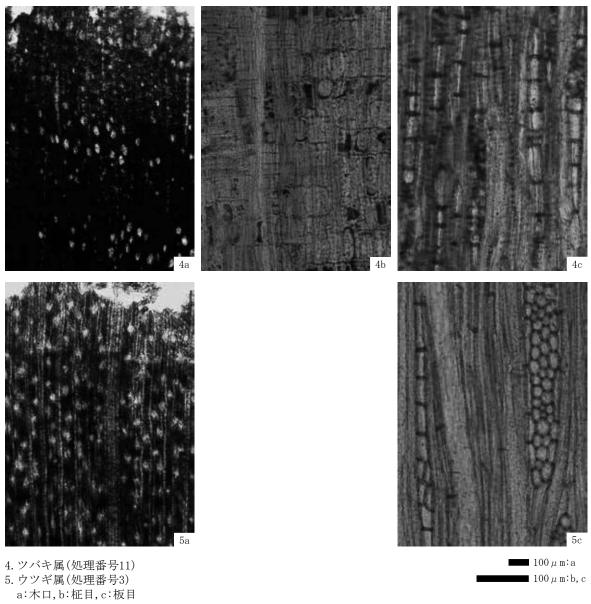
島地 謙·伊東隆夫,1982, 図説木材組織. 地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.,1989,IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

### 図版1 木材(1)



### 図版2 木材(2)



### 第3節 神出西遺跡における放射性炭素年代(AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

#### 1 測定対象試料

神出西遺跡は、島根県益田市遠田町に所在する。測定対象試料は、遠田川旧河道の護岸の部材と みられる板材から採取された木片 1 点である(表 9)。推定年代は、弥生時代中期から古墳時代中 期である。

#### 2 測定の意義

旧河道護岸の形成時期を明らかにする。

#### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2)酸-アルカリ-酸(AAA:Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常  $1 \text{mol}/\ell$  (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001 M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、1 M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、 測定装置に装着する。

#### 4 測定方法

加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置(NEC 社製)を使用し、14C の計数、13C 濃度 (13C/12C)、14C 濃度(14C/12C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供 されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5 算出方法

- (1)  $\delta$  13C は、試料炭素の 13C 濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) 14C 年代(Libby Age:yrBP)は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年(OyrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期(5568 年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。14C 年代は $\delta$  13C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。14C 年代と誤差は、下1 桁を丸めて10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差(±1 $\sigma$ )は、試料の14C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14C 濃度の割合である。 pMC が小さい(14C が少ない)ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上(14C の量が標準現代炭素と同等以上)の場合 Modern とする。この値も  $\delta$  13C によって補正する必要があるた

め、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差(1  $\sigma$  = 68.2%)あるいは 2 標準偏差(2  $\sigma$  = 95.4%)で表示される。グラフの縦軸が 14C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta$  13C 補正を行い、下 1 桁を丸めない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.3 較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

#### 6 測定結果

測定結果を表 9、10 に示す。

試料 17 の 14C 年代は、1530 ± 20yrBP、暦年較正年代(1  $\sigma$ )は、が 435  $\sim$  577cal AD の間 に 3 つの範囲で示される。古墳時代中期から後期頃に相当し(佐原 2005)、推定年代と重なる。 試料の炭素含有率は 56%の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 9 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 補正値)

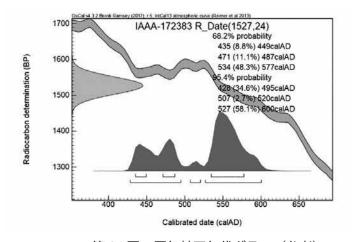
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰ ) (AMS)	δ 13C	補正あり
例定钳与	叫作台	1木4又5分月7月	叫种形态	处连万伝	0 13C (%) (ANS)	δ 13C 補正あり  Libby Age (yrBP) pMC (%)	
IAAA-172383	17	遺構:護岸	板材	AAA	-29.09 ± 0.44	1,530 ± 20	82.69 ± 0.26

[IAA 登録番号:#8939]

表 10 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 未補正値、暦年較正用 14C 年代、較正年代)

測定番号	δ 13C	補正なし	曆年較正用	1 σ 暦年代範囲	2 σ暦年代範囲		
例 企 借 写	Age (yrBP)	pMC (%)	(yrBP)	10筒斗八耙西	20 筒牛八耙田		
IAAA-172383	1,590 ± 20	81.99 ± 0.24	1,527 ± 24	435calAD - 449calAD ( 8.8%) 471calAD - 487calAD (11.1%) 534calAD - 577calAD (48.3%)	527calAD - 600calAD (58.1%) 507calAD - 520calAD ( 2.7%) 527calAD - 600calAD (58.1%)		

[参考值]



第86図 暦年較正年代グラフ (参考)

#### 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

佐原真 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, 佐原真, ウェルナー・シュタインハウス監修, 独立行政法人文化財研究 所奈良文化財研究所編集, ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻, 学生社, 14-19

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

# 第4節 蛍光 X 線分析

### 海石西 炭だまり No.1 150612 No.1 (Pbフィルタ)

### [測定条件] \_\_\_\_\_

測定装置	SEA1200VX
測定時間 (秒)	100
有効時間(秒)	70
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ 8.0mm
励起電圧(kV)	50
管電流 (μ <b>A</b> )	56
フィルタ	Pb用
マイラー	カハ゛ー
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

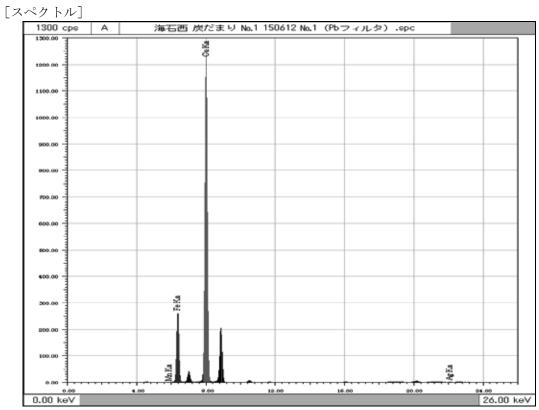


表 11 分析結果 (Pb フィルタ)

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ROI(keV)
25	Mn	マンガン	Κα	17.714	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Κα	1961.709	6.25- 6.55
29	Cu	銅	Κα	10111.479	7.87- 8.21
47	Ag	銀	Κα	18.861	21.85-22.35

### 海石西 炭だまり No.1 150612 No.1 (Cdフィルタ)

### [測定条件]

測定装置	SEA1200VX
測定時間 (秒)	100
有効時間(秒)	69
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ 8.0mm
励起電圧(kV)	50
管電流 (μ <b>A</b> )	806
フィルタ	Cd用
マイラー	カバー
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

#### [スペクトル]

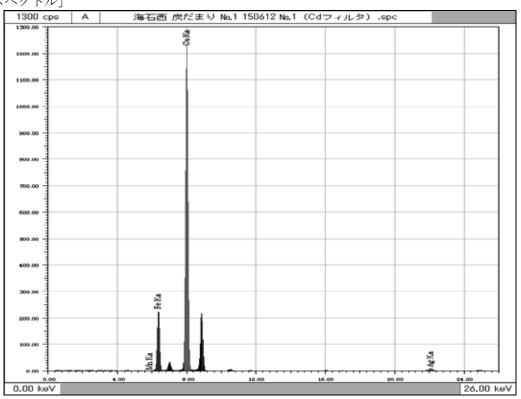


表 12 分析結果 (Cd フィルタ)

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ROI(keV)
25	Mn	マンガン	Κα	18.531	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Κα	1685.301	6.25- 6.55
29	Cu	銅	Κα	10045.556	7.87- 8.21
47	Ag	銀	Κα	132.598	21.85-22.35

# 第9章 総括

### 第1節 三隅川下流域における遺跡の形成

今回の三隅益田道路の改築に伴う発掘調査及び事前に行われた分布調査と試掘調査も含めると浜田市三隅町内で数多くの調査が行われた。これらの調査からこれまで発掘調査がほとんど行われていなかった三隅町内の遺跡の立地の特徴についてまとめてみたい。

平成23年の時点で、三隅町内で確認されていた遺跡は95か所である。このうち、城跡は40か所、製鉄遺跡は14か所、窯業遺跡は6か所で町内の遺跡のほとんどを占めている。今回の調査で、低地の遺跡2ヶ所、丘陵の遺跡1ヶ所の遺跡の発掘調査を行った。これまで三隅町内の遺跡の立地は主に丘陵や山間部で、低地の遺跡はほとんど知られていなかった。さらに丘陵は土砂崩れなどの斜面の崩落で遺跡が残っていないと考えられてきた。今回の調査で確認された角落し遺跡のSX01の遺物の出土状況が隣接する斜面から流出してきた土砂に遺物が多く含まれている土器だまりであったことから斜面の崩落が遺跡に与える影響がよくわかる資料だと言える。特に角落し遺跡周辺の岩盤層である結晶片岩層は水分を含むと剥落しやすい性質を持っており、角落し遺跡で出土した多くの遺物は谷奥や丘陵から流入したものと考えられる。同様に低地で調査を行った海石西遺跡でも遺跡周辺の丘陵部に集落が存在していた可能性は高いが、現在も丘陵部に遺跡が残っているか不明である。

このように三隅町内には崩壊しやすい地質地帯が多く、現在遺跡が残っていない場所であっても本来遺跡が存在していた可能性がある。また、崩落した遺跡が谷地形に埋没している可能性があり、現状の地表面の観察だけでは遺跡を発見することも困難であるといえる。平地で調査が行われた海石西遺跡には集落の中心で見られる建物跡などの遺構は確認されなかった。このように三隅町内は谷部や水田、荒蕉地になっている地点であっても遺跡が埋没している可能性が他の地域より高いと考えられ、特に注意する必要がある。

## 第2節 近世山陰道推定地について

今回の調査では、近世山陰道跡そのものの確認はできなかった。しかし近世山陰道に関係する可能性のある遺跡の調査が行われた。一つは近世山陰道跡(馬橋地区)で、もう一つは廻り田遺跡である。近世山陰道跡(馬橋地区)は昭和の改修で街道の古い様相が全く残っていないことが明らかとなった。しかし近世山陰道が通っていた可能性は高く、近世にさかのぼると推定する石垣も確認できた。一方、廻り田遺跡は2ヶ所の塚状遺構は確認されたが、他に特筆すべき遺構も無く、遺物も出土しなかったため、遺跡の時期も特定できなかった。しかし、2ヶ所の塚が築かれている丘陵の麓には近世山陰道推定地が存在しており、そこに面した丘陵上に対となる高まりが存在していると、一里塚の可能性については考慮すべきであろう。過去の街道調査で廻り田遺跡の麓を通っていると想定された近世山陰道推定地でも、当地はルートが確定できない地域となっていた。伊能図や米軍撮影の空撮写真・地籍図などの資料と、近隣に存在する通称「六地蔵」を含め現地調査の結果、推定ルートを設定している。現在は国道9号で過去に存在していたであろう丘陵の一部も削

られており往事の近世山陰道はなかなか復元できないのが実情である。廻り田遺跡が一里塚では無いと考えられる理由としては、一つに伊能図の存在があげられる。伊能図の内、当該地域を確認すると離れた地点を測量しているようである。伊能隊の当該地域の測量は 1800 年代初頭であり、その段階で廻り田遺跡の丘陵上に街道は存在していなかったと考えられる。遺跡の北側の斜面を観察すると鋭く落ち込んでおり、過去に大きく崩落した痕跡と考えられる。この崩落部分は二つの塚状遺構の間に広がる平坦面の延長上にある。本来は斜面がもう少し緩く傾斜していたのではないかと考えており、ここからは想像の域を出ないが、丘陵に一里塚と街道を築き一時期は利用していたものの、斜面が大きく崩壊した可能性はないか考えている(注1)。今後の事例の増加を待ちたい。

今回の調査から、現在見ることができる地形は過去の自然災害の結果であることが多く、発掘調査の対象としている時代の当時の自然景観から大きく変わっているのは想像に難くない。今回発掘調査を行った浜田市西部から益田市東部は現地形を目視による確認では遺跡の存在を見逃す可能性もある。現在近世山陰道と捉えられている街道についても様々な要因で道の位置は変動しており、今回の発掘調査を行った近世山陰道跡(馬橋地区)のように、現在利用されている道の上方の斜面に過去の街道が埋もれている可能性もある。特に斜面が崩落しやすい地域は注意する必要があろう。

(注1) 阿部志朗氏の現地での指導では廻り田遺跡が近世山陰道跡に関する遺跡である可能性は低いとご教示を受けている。

#### 【参考文献】

島根県教育委員会 1997『山陰道Ⅲ』

### 表13 海石西遺跡遺物観察表

Z I	ر		き吹いと	红沙堆	九万べ:		_							
挿入 番号	区	遺構/土層	種別	器種	口径	底径	·量 その他	器高	調整	色調	胎土	焼成	残存	備考
	_									外)浅黄橙8/3 2.5Y				1
10-1		Doki-6	弥生土器	並	(19.2)	頸径(15.2)	胴部径(26.4)	(25.7)	内)ヨコナデヘラ削り	内)浅黄橙8/3 2.5Y	2㎜以下白,褐色砂粒,石英,金雲母多含	良	40%(口縁~胴部片)	
10-2		8層,Doki-6	弥生土器	甕	(19.8)		胴部径(26.0)	(28.0)	外)ヨコナデ,ハケ目(タテ),刺突文	外)浅黄橙8/4 10YR	3㎜以下白,灰,褐色砂粒,石英多含	良	50%(口縁~底部片)	頸部外面經
10-2		O/H,DUKI-U	70.T.L.00	280	(15.6)		// // // // // // // // // // // // //	(20.0)	内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ,斜め),ヘラ削り	内)にぶい黄橙7/3 10YR	3㎜以下口,灰,褐色砂粒,口类多百	IX.	3070(口核 - JEJIP/T)	刻あり
10-3		8層,Doki-6	弥生土器	壺か甕		(6.2)		(10.8)	外)ヘラミガキ(タテ,ヨコ),ナデ	外)灰黄褐4/2 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒,石英多含	良	20%(胴部~底部片)	
$\rightarrow$	-								内)ナデか 外)ヘラミガキ,ナデ	内)灰黄褐5/2 10YR 外)黒褐3/1 10YR				-
10-4		8層,Doki-6	弥生土器	壺か甕		(4.2)		(8.5)	内)へラ削り	内)にぶい黄橙7/3 10YR	2㎜以下灰,黒色砂粒,石英,金雲母多含	良	30%(胴部~底部片)	
-									外)ヘラミガキ(タテ),ナデ	外)にぶい黄橙7/2 10YR				
10-5		8層,Doki-6	弥生土器	壺か甕		5.9		(15.4)	内)ヘラ削り	内)にぶい黄橙7/2 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒,石英,金雲母多含	良	40%(胴部~底部片)	
11-1		8層,Doki-6	弥生土器	甕			頸径(14.0)	(5.1)	外)ヨコナデ,沈線6条,刺突文6段	外)黒褐3/1 7.5YR	1㎜以下白色砂粒,石英多含	良	10%(肩部片)	
11-1		O/E,DORFO	23-11-11-11	III.			政(正(14.0)	(3.1)	内)ヨコナデ,ヘラ削り	内)にぶい黄橙7/3 10YR	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	100	10/0((НДР/1)	
11-2		8層	弥生土器	甕	(18.4)			(4.2)	外)ヨコナデ,擬凹線文4条	外)にぶい橙7/4 7.5YR	2㎜以下白,灰色砂粒,石英多含	良	10%(口縁~肩部片)	
$\rightarrow$	_								内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ヨコナデ,ハケ目(タテ),刺突文2段	内)にぶい橙7/3 7.5YR 外)浅黄橙8/4 10YR				
11-3		Doki-6	弥生土器	甕	(20.2)		胴部径(28.8)	(19.2)	内)ヨコナデハケ目(斜め),ヘラ削り	内)明黄褐7/6 10YR	1㎜以下白,灰色砂粒,石英,金雲母多含	良	40%(口縁~胴部片)	
-									外)ヨコナデ,刺突文	外)にぶい橙6/4 7.5YR				1
11-4		北隅排水3-B	弥生土器	甕	(16.2)		胴部径(19.0)	(10.5)	内)ヨコナデ,ヘラ削り	内)灰黄褐5/2 10YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒,石英多含	良	20%(口縁~胴部片)	
11-5		北東	弥生土器	壺か甕		7.9		(3.5)	外)不明	外)浅黄橙8/6 7.5YR	3㎜以下白,灰色砂粒,石英多含	良	20%(底部片)	
	_	40/4	73-11-11-11	HEN BC		1.0		(0.0)	内)不明	内)浅黄橙8/4 10YR	0	1.	2070((8,417/1)	
12-1		8層	土師器	壺	(19.6)			(6.7)	外)ヨコナデ	外)灰黄7/2 2.5Y	1mm以下白,灰色砂粒,石英,金雲母多含	良	10%(口縁~頸部片)	二重口縁
$\rightarrow$	$\dashv$							<u> </u>	内)ヨコナデ 外)ヨコナデ	内)浅黄7/4 2.5Y 外)灰褐5/2 7.5YR				+
12-2		溝	土師器	甕	(18.4)			(3.6)	内)ヨコナデ	内)灰黄褐5/2 10YR	2㎜以下灰,褐色砂粒少含	良	10%(口縁部片)	二重口縁
	$\neg$		Lawren		(				外)ヨコナデ	外)浅黄橙8/3 10YR				
12-3		炭	土師器	甕	(17.8)			(4.9)	内)ヨコナデヘラ削り	内)浅黄橙8/3 10YR	1㎜以下白,灰色砂粒,石英多含	良	10%(口縁~肩部片)	二重口縁
12-4		Doki-3	土師器	甕	(18.4)			(11.7)	外)ヨコナデ,ハケ目(タテ,ヨコ,斜め,波状文)	外)橙7/6 5YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒,石英,金雲母多含	良	30%(口縁~胴部片)	二重口縁
		DOM: 0		250	(10.1)			(11.1)	内)ヨコナデヘラ削り	内)橙7/6 5YR			OO (CINE MAIN I)	
12-5		水路北隅A	土師器	甕	19.0			(10.8)	外)ヨコナデ,ハケ目(タテ,ヨコ,斜め,波状文)	外)橙7/6 5YR	3㎜以下白,灰色砂粒,石英多含	良	40%(口縁~胴部片)	二重口縁
$\rightarrow$	-								内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ヨコナデ,ハケ目(タテ,ヨコ,斜め,波状文)	内)橙7/6 5YR 外)浅黄橙8/4 7.5YR				
12-6		排水路	土師器	悪	(18.2)			(11.8)	内)ヨコナデハケ目(ヨコ)、ヘラ削り	内)浅黄橙8/3 10YR	2㎜以下白,灰,黒色砂粒,石英多含	良	20%(口縁~胴部片)	二重口縁
								l	外)ヨコナデハケ目(タテ,ヨコ,斜め,波状文)	外)浅黄橙8/4 7.5YR				<b>-</b>
12-7		8層,Doki-1,6	土師器	悪	20.0		胴部径23.4	(17.0)	内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ),ヘラ削り	内)浅黄橙8/4 7.5YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒,石英,金雲母含	良	80%(口縁~胴部片)	二重口縁
12-8		Doki-2	土師器	甕	(23.6)			(4.4)	外)ヨコナデ	外)浅黄橙8/3 10YR	1㎜以下白色砂粒,石英含	良	10%(口縁部片)	二重口縁
12-0	_	DOKI-2	Thin	DI.	(23.0)			(4.4)	内)ヨコナデ	内)灰白8/2 10YR	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	100	10/0((二/(8/1)///)	-351198
12-9		8層	土師器	甕	(16.4)			(7.6)	外)ヨコナデ,ハケ目(タテ)	外)赤橙6/6 10R	1mm以下白色砂粒少含	良	20%(口縁~肩部片)	二重口縁
$\rightarrow$	-								内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ヨコナデ	内)赤5/6 10R 外)浅黄橙8/6 7.5YR				
12-10		Doki-4	土師器	壺	(16.8)		頸径(14.2)	(7.0)	内)ヨコナデ	内)橙7/6 7.5YR	2㎜以下白色砂粒,石英多含	良	10%(口縁〜頸部片)	二重口縁
12-11			土師器	甕か壺		(6.4)		(1.9)	外)ヨコナデ,ハケ目か	外)にぶい橙7/4 7.5YR	1㎜以下灰色砂粒,石英含	良	30%(体部~底部片)	
12-11			The	26/V1-25		(0.4)		(1.5)	内)ヘラ削りか	内)にぶい黄橙7/2 10YR	11以下人口炒起,石头百	IX.	30%(降雨 - 展雨/1)	
12-12		6層,Pno.161	土師器	甕か壺		(5.8)		(2.5)	外)ナデ	外)橙7/6 7.5YR	3㎜以下白,灰色砂粒含	良	10%(体部~底部片)	
$\rightarrow$	-								内)ヘラ削りか 外)ヨコナデ	内)浅黄橙8/3 7.5YR 外)浅黄橙8/4 10YR				AL WILDER
12-13		8層	土師器	高坏か	(24.0)			(4.5)	内)ヨコナデ,ナデ	内)浅黄橙8/3 10YR	2㎜以下白,灰色砂粒,石英,金雲母多含	良	10%(坏部片)	鼓型器台0 可能性
									外)ヨコナデ	外)淡黄8/4 2.5Y		<b>.</b>		<u> </u>
12-14		炭	土師器	高坏	(27.6)			(4.0)	内)ヨコナデ	内)にぶい黄橙7/3 10YR	2㎜以下白,灰色砂粒,石英,金雲母含	良	10%(坏部片)	
12-15		8層	土師器	高坏		(14.8)		(3.4)	外)ハケ目(タテ),ヨコナデ	外)浅黄橙8/4 10YR	1㎜以下白色砂粒,石英,金雲母含	良	20%(脚部片)	
		0/8		103-1		(11.0)		(0.1)	内)ヘラ削り,ハケ目(斜め,ヨコ),ヨコナデ	内)にぶい黄橙7/3 10YR	1		2070(((44)) 1)	
12-16		5層,8層	土師器	高坏			脚径(5.4)	(5.2)	外)ヨコナデ	外)淡黄8/3 2.5Y	1㎜以下白色砂粒,石英多含	良	20%(脚部片)	
+	+			35					内)ナデか 外)回転ナデ	内)灰白8/2 2.5Y 外)灰白7/ N				
13-1		6層	須恵器	蓋 (輪状)			つまみ径(7.4)	(1.4)	内)回転ナデ	内)灰6/1 N	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(天井部片)	輪状つまみ
10.0	$\neg$		Secution .			(12.4)		(1.0)	外)回転ナデ	外)灰白7/ N	1 NET-0-4-75-95-0-0-	, .	100/(888482911)	
13-2			須恵器	高坏		(12.4)		(1.9)	内)回転ナデ	内)灰白7/ N	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(脚端部片)	
13-3	1	6層	須恵器	蓋	(13.6)			(1.9)	外)回転ナデ	外)灰6/1 N	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(口縁部片)	
			. 20.0.00	****	,			(=)	内)回転ナデ	内)灰6/1 N		<u> </u>	(	
13-4		8層	須恵器	坏	(11.2)			(2.5)	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)灰白8/ N 内)灰白8/ N	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(口縁部片)	
+	$\dashv$								内)回転ナデ 外)回転ナデ	内)灰日8/ N 外)青灰6/1 5B				-
13-5		溝	須恵器	坏	(11.4)			(4.1)	内)回転ナデ	内)灰白7/ N	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(口縁~体部片)	
12.0		c 100	活世四	高台付		(10.4)		(1.5)	外)回転ナデ,回転ヘラ削り	外)灰6/1 N	1	ф	2007(序型 字台口)	
13-6		5層	須恵器	坏		(10.4)		(1.5)	内)回転ナデ	内)灰白7/ N	1㎜以下白,灰色砂粒少含	良	20%(底部~高台片)	
13-7		图8	須恵器	坏		(5.2)		(2.5)	外)回転ナデ,回転糸切り	外)灰白7/ N	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(体部~底部片)	
	-	•		Ľ-					内)回転ナデ	内)灰白7/ N		Ĥ	- Common II	
10 1	- 1	6層	緑釉陶器	碗	(13.2)			(1.6)		釉薬)オリープ灰4/2 10Y	密	良	10%(口縁部片)	防長産
14-1										素地)灰色8/2 5Y 釉薬)オリープ灰5/1 5GY				
14-1	-					(7.6)	1	(1.6)		素地)淡黄8/4 2.5Y	密	良	10%(底部~高台片)	防長産
$\rightarrow$	-	7層	緑釉陶器	小皿		(1.0)								
14-1					巨20				外)ナデ		DN的小今	やや	100%	<b>番号0 0−</b>
14-1		7層 5層	緑釉陶器 土製品	小皿土錘	長3.9	15-0.85			外)ナデ 内)ナデ	黄灰6/1 2.5Y	砂粒少含	やや 不良	100%	重量8.9g
14-1				土錘開元通	長3.9 長2.4		厚0.1				砂粒少含	やや 不良	100%	重量8.9g 重量2.7g
14-1 14-2 15-1		5層	土製品	土錘		15-0.85	厚0.1 厚0.6				砂粒少含	やや不良		

### 表14 角落し遺跡遺物観察表

挿入	K	遺構/土層	種別	器種		注	量		調整	色調	胎土	焼成	残存	備考
番号		週幣/上階	性出力リ	55 TE	口径	底径	その他	器高	\$100 XYE	出胸	MHIL	75°C FIX.	7.5.1.5	1用 45
21-1	5	SX01.Pno.24	須恵器	高坏		(11.6)		(4.6)	外)回転ナデ,カキ目	外)暗灰3/N	砂粒少含	ф	200/ (BHI 27 LL)	脚部四方長
21-1	)	5XU1,Pno.24	須思奋	向小		(11.6)		(4.6)	内)回転ナデ	内)灰5/N	砂粒少音	良	20%(脚部片)	方形透かし
21-2	5	CV01 D 57	土師器	高坏	(10.0)			(5.9)	外)ヨコナデ,ヘラ削り,ハケ目(斜め,ヨコ)	外)橙6/8 5YR	3㎜以下白色砂粒少含	ф	20%(坏部片)	
21-2	)	SX01,Pno.57	工即裕	向小	(16.2)			(5.9)	内)ヨコナデ,ヘラ削り,ナデ	内)浅黄橙8/6 7.5YR	3㎜以下自巴砂粒少含	良	20%(坪部月)	
21-3	5	SX01.Pno.30	土師器	坏	(15.0)			(4.7)	外)ヨコナデ	外)明赤褐5/6 5YR	1㎜以下褐色砂粒少含	良	20%(口縁~体部片)	
21-3	)	5XU1,Pno.3U	工即裕	小	(15.0)			(4.7)	内)ヨコナデ	内)明赤褐5/6 5YR	1㎜以下梅巴砂粒少含	IX.	2070(LIAN - PARPY)	
21-4	_	SX01.Pno.5	土師器	坏	14.9			6.1	外)ヨコナデ	外)明赤褐5/8 2.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	60%	
21-4	5	5XU1,Pn0.5	工即裕	小	14.9			0.1	内)ヨコナデ	内)赤褐4/8 2.5YR	1㎜以下砂粒少百	以	60%	
21-5	5	SX01.Pno.8.28.30	土師器	坏	15.9			5.7	外)ヨコナデ,ハケ目(斜め)	外)明赤褐5/8 5YR	砂粒少含	良	80%	
21-5	)	5XU1,Pno.8,28,3U	工即裕	小	15.9			5.7	内)ヨコナデ	内)橙6/8 5YR	砂粒少音	以	80%	
21-6	5	SX01.Pno.61	土師器	坏	(16.8)			5.2	外)ヨコナデ	外)赤褐4/8 2.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	50%(口縁~底部片)	
21-6	)	5XU1,Pno.61	工即裕	小	(16.8)			5.2	内)ヨコナデ	内)明赤褐5/8 2.5YR	1㎜以下砂粒少古	以	50%(口称~底部月)	
21-7	5	CV01 B 25 52	土師器	坏	(14.0)			5.8	外)ヨコナデ	外)明赤褐5/8 2.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	30%(口縁~底部片)	
21-7	°	SX01,Pno.35,53	工口中省省	νT	(14.8)			3.6	内)ヨコナデ	内)にぶい黄褐4/3 10YR	- 1㎜以下砂粒少含		30%(口称~底部月)	

挿入 番号	×	遺構/土層	種別	器種	F147		大量 アルル	00 Ar	調整	色調	胎土	焼成	残存	備考
21-8	5	SX01,Pno.13	土師器	坏	口径 (16.8)	底径	その他	器高	外)ヨコナデ	外)明赤褐5/8 2.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	50%(口縁~底部片)	
21-9	5	SX01,Pno.46	土師器	坏	(11.8)			3.3	内)ヨコナデ 外)ヨコナデ	内)橙6/6 7.5YR 外)浅黄橙8/4 10YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	30%	
						坏 部 径			内)ヨコナデ 外)ヨコナデ,ハケ目(タテ,ヨコ),指頭圧痕,ナ	内)浅黄橙8/4 10YR 外)橙6/6 5YR				
21-10	5	SX01,Pno.53	土師器	高坏	(12.0)	(13.0)	脚径(5.0)	(8.2)	ア 内)ヨコナデ:ヘラ削り,ナデ	内)橙6/6 7.5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	30%(坏部片)	
21-11	5	SX01,Pno.4,35	土師器	高坏	坏部径 (15.2)	12.8	脚径4.9	(14.2)	外)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ,斜め,タテ) 内)ヨコナデ,ヘラ削り	外)黄橙7/8 7.5YR 内)橙6/6 7.5YR	2㎜以下白,灰色砂粒,金雲母少含	良	80%(口縁端部欠損)	坏~脚上部 煤付着
21-12	5	SX01,Pno.17	土師器	高坏	(13.8)		脚径3.0	(12.3)	外)ヨコナデ,指頭圧痕	外)橙6/6 5YR	1㎜以下砂粒少含	良	80%(脚端部欠損)	
21-13	5	SX01,Pno.32	土師器	高坏	(18.6)			(5.2)	内)ヨコナデルぼり痕 外)ヨコナデハケ目(タテ),指頭圧痕	内)赤橙6/6 2.5YR 外)暗赤褐3/6 2.5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良		
21-14		SX01,Pno.6,47,60	土師器	高坏	(16.5)		脚径4.0	(11.2)	内)ヨコナデ,暗文(放射状) 外)ヨコナデ,ハケ目(斜め),指頭圧痕	内)暗赤褐3/4 2.5YR 外)褐灰6/1 10YR	1㎜以下砂粒少含	良		
	_	GWOLD OO	Levenn	nde for			BH 57 4 0		内)ヨコナデ,しぼり痕 外)ヨコナデ,ハケ目(タテ)	内)黄灰4/1 2.5Y 外)赤5/8 10R			000((77711)	
21-15		SX01,Pno.38	土師器	高坏			脚径4.8	(4.9)	内)ヨコナデ 外)ヨコナデハケ目(斜め),指頭圧痕	内)橙6/6 5YR 外)赤褐4/6 2.5YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	20%(坏部片)	
21-16	5	SX01,Pno.35,36,41	土師器	高坏	(16.8)		脚径4.4	(8.3)	内)ヨコナデ 外)ハケ目(タテ)	内)赤褐4/6 2.5YR 外)橙6/8 5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	50%(坏部~脚部片)	
21-17	5	SX01,Pno.49	土師器	高坏			脚径6.2	(5.3)	内)ナデ	内)橙6/8 5YR	2㎜以下白色砂粒少含	良	30%(脚部片)	
21-18	5	褐色土	土師器	高坏		(12.4)	脚径5.3	(8.3)	外)ハケ目(タテ),ヨコナデ 内)ナデ,ヨコナデ	外)明赤褐5/8 2.5YR 内)明赤褐5/8 2.5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	40%(坏部~脚部片)	
21-19	5	SX01,Pno.9	土師器	高坏		(10.8)		(5.4)	外)ヨコナデ 内)ヘラ削り,ヨコナデ	外)赤褐4/6 2.5YR 内)明赤褐5/6 2.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	20%(脚部片)	
21-20	5	褐色土	土師器	高坏		(12.2)		(3.2)	外)ハケ目(タテ,斜め),ヨコナデ 内)ヘラ削り,ハケ目(ヨコ),ヨコナデ	外)赤褐4/6 5YR 内)にぶい赤褐4/4 5YR	1㎜以下砂粒少含	良	20%(脚部片)	
21-21	5	SX01,Pno.34	土師器	高坏		(11.0)		(2.4)	外)ヨコナデ 内)ヘラ削り,ハケ目(ヨコ),ヨコナデ	外)明赤褐5/8 2.5YR 内)明赤褐5/8 2.5YR	砂粒少含	良	20%(脚端部片)	
21-22	5	SX01,Pno.47	土師器	高坏		(10.8)		(1.6)	外)ヨコナデ 内)ヨコナデヘラ削り	外)明赤褐5/8 5YR 内)明赤褐5/8 5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(脚端部片)	
22-1	5	SX01,Pno.54	土師器	小型壺	(9.8)		胴部径10.4	8.0	外)ヨコナデ,ハケ目(斜め)	外)橙7/8 5YR	4㎜以下白色砂粒少含	良	70%	
22-2	5	SX01,Pno.7,34,40	土師器	小型壺	11.6		胴部径13.0	9.1	内)ヨコナデ,指頭圧痕,ナデ 外)ヨコナデ,ハケ目(斜め,タテ)	内)橙7/8 5YR 外)赤褐4/6 2.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	80%	
									内)ヨコナデ,指頭圧痕,ヘラ削り 外)ヨコナデ,ハケ目(タテ,斜め)	内)赤褐4/6 2.5YR 外)明褐5/8 7.5YR				
22-3	5	SX01,Pno.10,26	土師器	無頸壺	(18.6)		胴部径(23.0)	(11.7)	内)ヨコナデハラ削り 外)ヨコナデハケ目(斜め,タテ,ヨコ)	内)赤褐4/6 5YR 外)暗褐3/4 7.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	20%(口縁~胴部片)	
22-4	5	SX01,Pno.16,55	土師器	類	(15.0)		胴部径(20.4)	(17.0)	内)ヨコナデハラ削り 外)ヨコナデハケ目(ヨコ,斜め)	内)にぶい褐5/4 7.5YR 外)明赤褐5/6 2.5YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	30%(口縁~胴部片)	
22-5	5	SX01,Pno.31,33	土師器	摂	(16.0)			(7.0)	内)ヨコナデヘラ削り	内)にぶい赤褐5/4 5YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒含	良	20%(口縁~肩部片)	
22-6	5	SX01,Pno.32,40,52	土師器	甕	(19.0)			(5.8)	外)ヨコナデハケ目(タテ,斜め) 内)ヨコナデハケ目(ヨコ),ヘラ削り	外)橙6/8 5YR 内)橙6/8 5YR	2㎜以下砂粒少含	良	30%(口縁~肩部片)	
22-7	5	SX01,Pno.20,21	土師器	悪	18.8			(8.9)	外)ヨコナデハケ目(斜め) 内)ヨコナデヘラ削り	外)橙6/8 2.5YR 内)赤褐4/8 2.5YR	1㎜以下白,灰色砂粒少含	良	20%(口縁~肩部片)	
22-8	5	SX01,Pno.2,32	土師器	甕	(16.2)		胴部径(24.4)	(25.7)	外)ヨコナデハケ目(タテ,斜め) 内)ハケ目(ヨコ),ヘラ削り	外)赤褐4/6 2.5YR 内)明赤褐5/6 5YR	砂粒少含	良	40%(口縁~底部片)	外内面煤付 着
22-9	5	SX01,Pno.54	土師器	甕				(3.1)		外)にぶい橙7/4 7.5YR	2㎜以下白,灰色砂粒少含	良	10%(底部片)	底部外面 「×」刻み
22-10	5	SX01,Pno.61	土師器	高坏か				(1.5)	内)不定方向ナデ 外)ナデ	内)にぶい黄橙7/4 10YR 外)明赤褐5/8 2.5YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	20%(底部片)	底部外面
22-11	5	褐色土	土師器	高坏か				(2.2)	内)ナデ 外)ナデ	内)明赤褐5/8 2.5YR 外)明赤褐5/6 5YR	1㎜以下砂粒少含	良	20%(底部片)	「×」刻み 底部外面
22-12	5	SX01,Pno.44	土師器	甑	長9.9	短5.3	厚1.0	(2.2)	内)ナデ 外)ハケ目(多方向)	内)明赤褐5/6 5YR 外)橙6/6 7.5YR		良		「×」刻み 穿孔3(直径
		3AU1,F110.44							内)ヘラ削り	内)明赤褐5/6 5YR	2㎜以下褐色砂粒少含	尺	10%(胴部片)	1.4~1.5cm) 転用材、クス
24-1	1		木器	杭杭	長46.0 長53.0	幅7.6	厚7.6 厚8.0							ノキ科 転用材、クス
24-2	1	灰色礫湿り層	木器			1HB.U	740.0	(0.7)	外)ヨコナデ,凹線文2条,刺突文	外)橙6/6 5YR	2 NET-1 IT 4.75(\$2.40.40.40.40.40.40.40.40.40.40.40.40.40.	da	100((中華東北)	ノキ科
26-1	2			壺	(16.2)			(3.7)	内)ヨコナデヘラ削り 外)ヨコナデ,凹線文3条	内)橙6/6 7.5YR 外)浅黄橙8/4 7.5YR	3㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	
26-2	1	試掘No.2,水路	弥生土器	壺	(14.2)		頸径(10.2)	(5.5)	内)ヨコナデハラ削り 外)ヨコナデ四線文5条	内)浅黄橙8/3 7.5YR 外)にぶい黄橙7/3 10YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒,金雲母,石英多含	良	20%(口縁~頸部片)	
26-3	5	暗灰色砂礫混り層	弥生土器	壺	(21.6)		頸径(14.6)	(6.9)	内)ヨコナデヘラ削り	内)にぶい黄橙7/4 10YR	4㎜以下白,灰,褐色砂粒,金雲母,石英多含	良	10%(口縁~肩部片)	
26-4	1	水路	弥生土器	壺	(27.6)			(5.7)	外)ヨコナデ,凹線文6条 内)ヨコナデ	外)浅黄7/3 2.5Y 内)にぶい黄橙7/3 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	
26-5	5	黄灰土層(砂混り)	弥生土器	甕	(24.2)			(4.7)	外)ヨコナデ 内)ヨコナデヘラ削り	外)浅黄橙8/6 7.5YR 内)橙7/6 5YR	3㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(口縁~肩部片)	
26-6	5:JŁ	水路	弥生土器	甕	(12.2)			(3.1)	外)ヨコナデ 内)ヨコナデヘラ削り	外)浅黄7/3 2.5Y 内)浅黄7/3 2.5Y	1㎜以下白,灰色砂粒少含	良	10%(口縁部片)	
26-7	1	オモカス下砂礫	弥生土器	甕	(16.2)			(2.7)	外)ヨコナデ、凹線文2条 内)ヨコナデヘラ削り	外)灰黄褐5/2 10YR 内)にぶい黄褐5/3 10YR	2㎜以下白,灰色砂粒,金雲母多含	良	10%(口縁部片)	
26-8	2	暗灰粘土(小石含)	弥生土器	摂	(19.0)			(4.1)	外)ヨコナデ,凹線文3~4条 内)ヨコナデ,ヘラ削り	外) 橙 6/8 5 Y R 内) 黄 橙 7/8 7.5 Y R	4㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	
26-9	3	灰色砂礫層	弥生土器	亦	(13.0)			(2.5)	外)ヨコナデ,凹線文4条	外)にぶい褐6/3 7.5YR	4mm以下白,灰,褐色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	
	1				, ,				内)ヨコナデヘラ削り 外)ヨコナデ,凹線文3条	内)にぶい褐6/3 7.5YR 外)黄橙8/6 10YR			, ,	
26-10		オモカス下	弥生土器		(15.4)			(4.8)	内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ヨコナデ,凹線文4条	内)淡黄8/3 2.5Y 外)にぶい黄褐5/3 10YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	
26-11	3	灰色礫混り層 オモカス下砂礫層	弥生土器 弥生土器	摂	(16.4)			(4.4)	内)ヨコナデヘラ削り 外)ヨコナデ,四線文6条	内)にぶい黄褐5/3 10YR 外)にぶい橙7/4 7.5YR	3㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	
26-12	_	11 12 1987/11	2,1100	_	(22.5)			(4.3)	内)ヨコナデ,ヘラ削り	内)灰黄褐5/2 10YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	
26-13	5	灰色礫混り層	弥生土器	甕	(22.8)			(5.3)	外)ヨコナデ,凹線文7条 内)ヨコナデ,ヘラ削り	外)灰白8/2 10YR 内)にぶい黄橙7/2 10YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	10%(口縁~頸部片)	
26-14	1	暗灰色粘土	弥生土器	壺か甕	<u></u>	4.6		(3.7)	<b>外</b> )ナデ 内)ナデ	外)にぶい黄橙6/4 10YR 内)にぶい黄橙6/4 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(底部片)	
26-15	3	灰褐色土	弥生土器	壺か甕		5.7		(3.3)	外)ヨコナデ,ナデ 内)ナデ,指頭圧痕	外)明褐灰7/2 7.5YR 内)黒褐3/1 7.5YR	3㎜以下白,灰色砂粒,金雲母,石英多含	良	10%(底部片)	
26-16	1	暗灰色粘土層	弥生土器	壺か甕		(7.8)		(4.1)	外)ナデ,指頭圧痕 内)ナデ,指頭圧痕	外)浅黄橙8/4 10YR 内)浅黄橙8/4 10YR	6㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	10%(底部片)	
26-17	3	灰色礫混り層, Pno.160	弥生土器	壺か甕		(5.8)		(7.0)	外)ナデ	外)褐灰6/1 7.5YR	3㎜以下白,灰,黑色砂粒多含	良	10%(底部片)	
26-18	3	灰色礫混り層	弥生土器	壺か郷		(6.2)		(6.7)	内)ハケ目(タテ) 外)ナデ,指頭圧痕	内)褐灰4/1 10YR 外)灰褐5/2 7.5YR	4㎜以下白,灰,黑色砂粒,石英多含	良	10%(底部片)	
_0 10				EC		()		()	内)ナデ,指頭圧痕	内)灰褐4/2 7.5YR	A			

挿入	区	遺構/土層	種別	器種			量		調整	色調	胎土	焼成	残存	備考
番号					口径	底径	その他	器高	外)ナデ	外)にぶい橙7/4 7.5YR				
26-19	3	灰色礫層,Pno.161	弥生土器	壺か甕	二重口	(3.0)		(5.8)	内)ヘラ削りかナデ 外)ヨコナデ綾杉文	内)灰黄褐4/2 10YR 外)灰黄6/2 2.5Y	1㎜以下白,灰色砂粒,金雲母,石英含	良	10%(底部片)	
27-1	5	SX01,Pno.19	弥生土器	菫	一里口 緑 径 (21.0)		頸径(15.6)	(7.7)	内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ),ヘラ削り	内)灰白8/1 2.5Y	1㎜以下白色砂粒,金雲母,石英多含	良	20%(口縁~頸部片)	二重口縁
27-2	5	オモカス(下)	土師器	甕	(17.4)			(5.1)	外)ヨコナデ	外)にぶい褐6/3 7.5YR	1㎜以下白,灰,褐色砂粒,金雲母,石英多含	良	10%(口縁部片)	二重口縁
	_				二重口			(0.15)	内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ)	内)にぶい褐6/3 7.5YR 外)灰黄褐6/2 10YR			(	二重口縁
27-3	2	オモカス層	土師器	甕か壺	縁 径 (9.5)		胴部径(14.4)	(6.2)	内)ヨコナデヘラ削り	内)灰黄褐6/2 10YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒,石英多含	良	20%(口縁~胴部片)	
27-4	1	オモカス(2) ,Pno.203	土師器	甕	20.0		胴部径(28.7)	(17.4)	外)ヨコナデハケ目(ヨコ,斜め) 内)ヨコナデヘラ削り	外)灰黄褐6/2 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒,金雲母,石英含	良	60%(口縁~胴部片)	二重口縁
27-5	1	,T 110.203 オモカス(2),	土師器	甕	(14.8)			(8.7)	MJヨコナデ,ハケ目(タテ,ヨコ)	内)灰黄褐6/2 10YR 外)浅黄橙8/4 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒含	良	40%(口縁~胴部片)	二重口縁
21-3	1	Pno.200		280	(14.0)			(0.1)	内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ヨコナデ,ハケ目(斜め)	内)にぶい黄橙7/3 10YR 外)橙7/8 5YR	5㎜以下口,灰白砂粒百	IX	4070(IIAN - 70401971)	底部中央不
28-1	3	灰色砂礫層,Pno.78	土師器	直口壺	7.0		胴部径10.9	11.1	内)ヨコナデヘラ削り,しぼり痕	内)橙6/8 2.5YR	2㎜以下白色砂粒少含	良	90%	貫通穿孔
28-2	3	灰色砂礫層, Pno.121	土師器	直口壺		頸径6.7	胴部径13.3	(11.8)	外)ヨコナデ,指頭圧痕,ハケ目(ヨコ,斜め) 内)ヨコナデヘラ削り	外)赤褐4/8 2.5YR 内)明赤褐5/8 2.5YR	2㎜以下白色砂粒少含	良	80%	底部中央粘 土剥離か脚
20.2	0	D 100	1, 600 00	atz en etr	11.0		田郊公140	(10.4)	外)ヨコナデ,ハケ目(斜め)	外)明褐灰7/2 7.5YR	The A	d	CONTENT BETTER	付か
28-3	3	Pno.199	土師器	直口壺	11.8		胴部径14.2	(10.4)	内)ヨコナデハラ削り 外)ヨコナデハケ目(斜め)	内)明褐灰7/2 7.5YR 外)赤褐4/8 2.5YR	砂粒少含	良	60%(口縁〜胴部片)	
28-4	3	灰褐色土,Pno.77	土師器	直口壺	(11.2)		頸径(9.4)	(7.1)	内)ヨコナデ,ヘラ削り	内)明赤褐5/8 2.5YR	1㎜以下灰,褐色砂粒少含	良	20%(口縁~肩部片)	
28-5	1東	暗灰色砂礫層	土師器	低脚坏		5.4	脚径4.8	(4.0)	外)ヨコナデ 内)ナデ	外)にぶい黄橙6/3 10YR 内)にぶい黄橙6/4 10YR	1㎜以下砂粒少含	良	30%(坏部~脚部片)	脚付壺か
28-6	1	褐色粘土混り礫層。	土師器	手づく	6.7			3.7	外)指頭圧痕,指ナデ	外)赤褐4/6 5YR	2㎜以下白色砂粒多含	良	90%	ミニチュア
00.7	_	Pno.82	LAYDD	ね土器		(0.0)	III-247 (77 (0. 0)	(0.0)	内)指頭圧痕,指ナデ 外)ナデ,指頭圧痕	内)にぶい黄褐5/4 10YR 外)にぶい黄橙6/3 10YR			OOM/RETE CATELLY	製品か
28-7	5	褐色土層	土師器	小型壺		(3.8)	胴部径(8.2)	(3.0)	内)ナデ,指頭圧痕 外)ヨコナデハケ目(ヨコ,斜め)	内)黄橙7/8 7.5YR 外)にぶい褐5/4 7.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	30%(胴部〜底部片)	
29-1		オモカス下	土師器	甕	(15.4)			(4.3)	内)ヨコナデ,指頭圧痕,ヘラ削り	内)灰褐4/2 7.5YR	1㎜以下白色砂粒,金雲母含	良	10%(口縁~肩部片)	
29-2	1	オモカス下砂礫層, Pno.2,105	土師器	甕	16.5		胴部径25.9	24.2	外)ヨコナデ,ハケ目(斜め,ヨコ) 内)ヨコナデ,ヘラ削り	外)明赤褐5/8 2.5YR 内)明赤褐5/8 5YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	80%(胴部一部欠損)	外面煤付着, 火襷状痕跡
29-3	3	灰色礫混り層,	土師器	甕	(15.0)			(5.1)	外)ヨコナデ	外)にぶい褐6/3 7.5YR	2㎜以下白色砂粒.石英少含	良	10%(口縁~肩部片)	
Н		Pno.198						-	内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ヨコナデ,ハケ目(斜め)	内)にぶい橙6/4 7.5YR 外)にぶい橙7/4 7.5YR	·		,	口縁部外面
29-4	5	Pno.50	土師器	甕	(14.2)			(5.3)	内)ヨコナデヘラ削り	内)にぶい黄橙7/4 10YR	1㎜以下白,灰色砂粒少含	良	10%(口縁~肩部片)	煤付着
29-5	5	褐色土	土師器	悪	(17.8)			(5.0)	外)ヨコナデ,ハケ目(斜め) 内)ヨコナデ,ヘラ削り	外)明赤褐5/6 5YR 内)赤褐4/6 5YR	1㎜以下灰,褐色砂粒少含	良	10%(口縁~肩部片)	
29-6	1,3	褐色粘土礫層, Pno.83,141	土師器	甕	(17.6)			(8.9)	外)ヨコナデ,ハケ目(タテ,斜め) 内)ヨコナデヘラ削り	外)にぶい褐5/3 7.5YR 内)にぶい褐5/3 7.5YR	1㎜以下白,灰,褐色砂粒含	良	30%(口縁~肩部片)	
29-7	1	暗灰粘土	土師器	甕	(22.8)			(9.3)	外)ヨコナデ,ハケ目(斜め),ナデ	外)にぶい赤褐5/4 5YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	20%(口縁~肩部片)	
$\vdash$	_				` '				内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ヨコナデ,ハケ目(タテ)	内)にぶい黄褐5/3 10YR 外)赤褐4/6 2.5YR				
29-8	5	褐色土	土師器	甕	(17.2)			(6.5)	内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ,斜め),ヘラ削り	内)赤褐4/6 5YR	1㎜以下褐色砂粒含	良	20%(口縁~肩部片)	
29-9	1	暗灰色砂礫層, Pno.80	土師器	甕	(15.2)			(4.8)	外)ヨコナデ 内)ヨコナデヘラ削り	外)にぶい黄橙7/3 10YR 内)橙6/6 5YR	1㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	20%(口縁~肩部片)	
29-10	5	褐色土	土師器	小型壺	(9.0)		胴部径(8.8)	(4.8)	外)ヨコナデナデ 内)ヨコナデナデ	外)明赤褐5/6 5YR 内)明赤褐5/6 5YR	砂粒少含	良	20%(口縁~胴部片)	
29-11	1	オモカス	土師器	甕か壺	(21.0)		胴部径(19.6)	(5.3)	外)ヨコナデ,指頭圧痕,ナデ	外)オリーブ黒3/1 5Y	2mm以下白色砂粒少含	良	20%(口縁~胴部片)	
	_	灰色礫混り層,							内)ヨコナデナデ 外)ナデ指頭圧痕	内)灰黄褐6/2 10YR 外)にぶい黄橙6/3 10YR				
29-12	3	Pno.150	土師器	甕か壺	(28.6)		胴部径(27.4)	(7.7)	内)ナデ,指頭圧痕,ヘラ削り後ナデ	内)にぶい黄橙7/4 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒含	良	10%(口縁~胴部片)	
30-1	1	オモカス下砂礫層, Pno.106	土師器	高坏	(15.6)			(4.7)	外)ヨコナデ 内)ヨコナデ	外)黄橙8/8 7.5YR 内)黄橙8/8 7.5YR	3㎜以下白,褐色砂粒多含	良	40%(坏部片)	
30-2	3南	灰褐色土層	土師器	高坏	(13.6)			(5.0)	外)ヨコナデ 内)ヨコナデ	外)橙6/6 5YR 内)橙6/6 5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(坏部片)	
30-3	1元	暗灰色土	土師器	高坏		(10.4)		(6.5)	外)ヨコナデ	外)橙6/8 5YR	2㎜以下白色砂粒少含	良	20%(脚部片)	
		暗灰色砂礫混り層。				(10.4)		· ·	内)ヘラ削りかしぼり,ヨコナデ 外)ヨコナデハケ目(斜め)	内)橙6/8 5YR 外)明赤褐5/6 2.5YR				
30-4	1	Pno.80	土師器	高坏	(16.8)		脚径3.2	(8.0)	内)ヨコナデ	内)褐4/6 7.5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	40%(坏部~脚部片)	
30-5	2	オモカス(2),Pno.79	土師器	高坏		9.3	脚径4.8	(8.3)	外)ハケ目(斜め),指頭圧痕,ヨコナデ 内)ヨコナデ不定方向仕上げナデ指頭圧痕	外)にぶい褐6/3 7.5YR 内)灰黄褐4/2 10YR	砂粒少含	良	60%(坏部欠損)	
30-6	1	オモカス(2)	土師器	高坏		(12.4)		(2.9)	外)ハケ目(斜め),ヨコナデ 内)ヘラ削り,ヨコナデ	外)明褐5/6 7.5YR 内)にぶい褐5/4 7.5YR	1㎜以下石英,金雲母少含	良	10%(脚端部片)	
31-1	5	褐色粘土混り層	土師器	坏	(11.8)			(3.7)	外)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ)	外)明赤褐5/6 5YR	1㎜以下砂粒少含	良	20%(口縁~体部片)	
Н	_								内)ヨコナデ 外)ヨコナデヘラ削り	内)明赤褐5/8 5YR 外)明赤褐5/8 2.5YR				
31-2	3	Pno.202	土師器	坏	(17.6)			(4.1)	内)ヨコナデ	内)明赤褐5/6 2.5YR	1㎜以下白,灰色砂粒含	良	20%(口縁~体部片)	
31-3	5	褐色土	土師器	坏	(11.8)			5.1	外)ヨコナデ,ナデ 内)ヨコナデ,ナデ	外)赤4/8 10R 内)赤褐4/4 10R	1mm以下褐色砂粒少含	良	40%	
31-4	5	灰褐色土	土師器	坏か	(14.0)			(5.3)	外)ヨコナデナデ 内)ヨコナデ	外)褐4/6 7.5YR 内)黄褐5/6 10YR	1㎜以下砂粒少含	良	30%(口縁~底部片)	
31-5	5	灰褐色	土師器	坏	(16.6)			(6.7)	外)ヨコナデ	外)明赤褐5/8 2.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	40%(口縁~体部片)	
									内)ヨコナデ 外)ヨコナデ	内)明赤褐5/8 2.5YR 外)にぶい橙7/4 7.5YR				
31-6	5南	灰褐色土層	土師器	坏	(12.2)		体部径(13.4)	(3.5)	内)ヨコナデ	内)橙7/6 7.5YR	1㎜以下砂粒少含	良	20%(口縁~体部片)	
31-7	3	灰褐色土,Pno.77	土師器	坏	(13.6)		体部径(15.4)	(3.0)	外)ヨコナデ 内)ヨコナデ	外)明赤褐5/6 5YR 内)明赤褐5/8 5YR	1㎜以下砂粒少含	良	10%(口縁~体部片)	
32-1	1	オモカス,Pno.91	土師器	高台付 坏		(7.4)		(3.1)	外)回転ナデ	外)灰白8/2 10YR	砂粒少含	良	20%(体部~高台片)	
32.7	1	オエカフ Dec 150	1-68:3¤	高台付		6.8		(2.7)	内)回転ナデ,不定方向仕上げナデ 外)回転ナデ,回転糸切り	内)褐灰4/1 10YR 外)淡黄8/3 2.5Y	2mm以下白色阶粒小今	白	60%(休郊~古台山)	
32-2		オモカス,Pno.153	土師器	坏				(2.7)	内)回転ナデ 外)回転ナデ回転糸切り	内)淡黄8/3 2.5Y 外)浅黄橙8/3 10YR	3㎜以下白色砂粒少含	良	60%(体部~高台片)	
32-3	1	オモカス層,Pno.114	土師器	高台付 坏		(6.1)		(2.2)	内)回転ナデ	内)にぶい黄橙7/3 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒少含	不良	20%(底部~高台片)	
32-4	1	オモカス(2), Pno.119	土師器	高台付 坏		7.0		(3.3)	外)回転ナデ,回転糸切り 内)回転ナデ	外)にぶい黄橙7/2 10YR 内)にぶい黄橙7/2 10YR	6mm以下白色砂粒少含	良	30%(体部~高台片)	
32-5	1	オモカス	土飾器	高台付坏	15.8	7.2		6.0	外)回転ナデ,回転糸切り	外)浅黄橙8/4 10YR	3㎜以下灰,褐色砂粒少含	良	80%	
				坏 高台付					内)回転ナデ 外)回転ナデ,回転糸切り	内)浅黄橙8/4 10YR 外)灰黄褐6/2 10YR				
32-6	1	オモカス	土師器	坏		(7.0)		(2.7)	内)回転ナデ 外)回転ナデ回転糸切り	内)にぶい黄橙7/2 10YR 外)浅黄橙8/4 10YR	砂粒少含	良	20%(体部~高台片)	
32-7	3	灰色礫混り層, Pno.156	土師器	高台付 坏		(6.8)		(3.3)	内)回転ナデ	内)浅黄橙8/4 10YR	砂粒少含	良	30%(体部~高台片)	
32-8	1	オモカス,Pno.86	土師器	高台付 坏		(6.6)		(3.1)	外)回転ナデ,回転糸切り 内)回転ナデ	外)灰白8/2 2.5Y 内)にぶい黄橙6/3 10YR	3㎜以下白色砂粒少含	良	30%(体部~高台片)	
32-9	1	オモカス層,Pno.109	土師器	高台付		(6.6)		(2.5)	外)回転ナデ	外)浅黄橙8/3 10YR	10㎜以下白,灰色砂粒含	良	20%(底部~高台片)	
0			L	坏		/		ı`,	内)回転ナデ	内)浅黄橙8/3 10YR	The second second			

挿入	区	遺構/土層	種別	器種		ò	5量		調整	色調	胎土	焼成	残存	備考
番号	_			高台付	口径	底径	その他	器高	外)回転ナデ	外)にぶい黄橙7/2 10YR		_		148 173
32-10	1	オモカス層,Pno.130	土師器	坏		6.6		(3.1)	内)回転ナデ	内)にぶい黄橙7/2 10YR	砂粒少含	良	30%(体部~高台片)	
32-11	1	オモカス(2), Pno.127	土師器	高台付 坏		0.8		(2.7)	外)回転ナデ回転糸切り 内)回転ナデ	外)淡黄8/3 2.5Y 内)灰白8/2 2.5Y	3㎜以下白,灰色砂粒少含	良	30%(体部~高台片)	
32-12	1	オモカス(2), Pno.125	土師器	高台付 坏		7.0		(3.0)	外)回転ナデ回転糸切り 内)回転ナデ	外)浅黄橙8/3 10YR 内)にぶい黄橙7/2 10YR	2㎜以下砂粒少含	良	30%(体部~高台片)	外内面煤付 着
32-13	1	オモカス層上面	土師器	高台付 坏		6.6	高台径11.7	(7.7)	外)回転ナデ,回転糸切り	外)浅黄橙8/4 10YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	40%(体部~底部片)	
32-14	1	オモカス,Pno.84	土師器	高台付		(6.2)		(2.7)	内)回転ナデ 外)回転ナデ,回転糸切り	内)浅黄橙8/3 10YR 外)にぶい橙7/4 7.5YR	2㎜以下白.灰色砂粒少含	良	50%(体部~高台片)	
	1			坏 高台付				-	内)回転ナデ 外)回転ナデ,回転糸切り	内)にぶい橙7/4 7.5YR 外)にぶい黄橙7/2 10YR				
32-15	1	水路	土師器	坏		(7.4)		(3.6)	内)回転ナデ	内)にぶい黄橙7/2 10YR	砂粒少含	不良	20%(体部~高台片)	
32-16	1	褐色粘土混り砂礫層	土師器	低脚坏		7.8	脚径5.4	(3.6)	外)不明 内)不明	外)橙7/6 7.5YR 内)橙7/6 7.5YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	30%(脚部片)	
33-1	1	暗灰色砂礫混り層, Pno.81	土師器	坏	(13.2)	7.1		5.6	外)回転ナデ,回転糸切り 内)回転ナデ	外)灰白8/2 2.5Y 内)灰白8/2 2.5Y	1mm以下白,灰色砂粒,金雲母含	良	70%	
33-2	1	試掘	土師器	坏	12.4	6.0		4.2	外)回転ナデ,回転糸切り	外)橙7/6 7.5YR	1mm以下白,灰色砂粒少含	良	80%(口縁一部欠損)	
33-3	1	ナエカフ図 Bee 104	土師器	坏	12.2	6.0		4.4	内)回転ナデ 外)回転ナデ回転糸切り	内)橙6/6 7.5YR 外)浅黄橙8/3 10YR	1			
33-3	1	オモカス層,Pno.104	工印度品	12T	12.2	0.0		4.4	内)回転ナデ 外)回転ナデ、回転糸切り	内)浅黄橙8/3 10YR 外)淡橙8/4 5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	60%	
33-4		オモカス,Pno.129	土師器	坏	(13.8)	6.0		4.0	内)回転ナデ	内)浅黄橙8/4 7.5YR	2㎜以下褐色砂粒,金雲母含	良	40%	
33-5	3	灰色礫混り層, Pno.140	土師器	坏		5.8		(2.1)	外)回転ナデ、回転糸切り 内)回転ナデ	外)灰黄7/2 2.5Y 内)灰黄7/2 2.5Y	3㎜以下白色砂粒少含	良	20%(底部片)	
33-6	3	灰色礫混り層, Pno.139	土師器	坏		6.0		(2.6)	外)回転ナデ、回転糸切り 内)回転ナデ	外)浅黄橙8/3 10YR 内)にぶい黄橙7/2 10YR	2㎜以下白色砂粒少含	良	40%(体部~底部片)	
33-7	1	オモカス	土師器	坏		(6.4)		(2.3)	外)回転ナデ,回転糸切り	外)灰黄7/2 2.5Y	製塩土器砂粒少含	良	20%(体部~底部片)	
	_							-	内)回転ナデ 外)回転ナデ,回転糸切り	内)にぶい黄橙7/2 10YR 外)にぶい黄橙7/2 10YR		_		
33-8	1	オモカス下砂礫層	土師器	坏		6.6		(2.2)	内)回転ナデ	内)灰黄褐6/2 10YR	1㎜以下砂粒少含	不良	30%(体部~底部片)	
33-9	5	灰色砂礫層	土師器	坏		6.0		(1.3)	外)回転ナデ,回転糸切り 内)回転ナデ	外)浅黄橙8/4 10YR 内)にぶい黄橙7/2 10YR	1mm以下白,灰色砂粒含	良	20%(底部片)	
33-10	1	オモカス上面	土師器	坏		5.8		(2.5)	外)回転ナデ、回転糸切り 内)回転ナデ	外)浅黄橙8/4 10YR 内)にぶい黄橙7/2 10YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	30%(体部~底部片)	
33-11	1	オモカス上面	土師器	坏		6.6		(3.2)	外)回転ナデ,回転糸切り	外)浅黄橙8/4 10YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	30%(体部~底部片)	
33-12	1	オモカス,Pno.117	土師器	坏		6.5		(2.4)	内)回転ナデ 外)回転ナデ,回転糸切り	内)にぶい黄橙7/2 10YR 外)にぶい黄橙7/2 10YR	砂粒少含	ė	200(任故- 序如生)	
33-12	1	4 モルヘ,FII0.117	工印作品品			0.3		(2.4)	内)回転ナデ 外)回転ナデ回転糸切り	内)にぶい黄橙7/2 10YR 外)浅黄橙8/3 10YR	砂粒ダ百	良	20%(体部~底部片)	
33-13	1	オモカス,Pno.93	土師器	坏		9.3		(2.9)	内)回転ナデ	内)浅黄橙8/3 10YR	5㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	20%(底部片)	
33-14	5	灰色砂礫層	土師器	坏		5.2		(2.6)	外)回転ナデ、回転糸切り 内)回転ナデ	外)浅黄橙8/3 10YR 内)浅黄橙8/4 7.5YR	砂粒少含	良	20%(底部片)	
33-15	3	灰色礫混り層, Pno.157	土師器	坏		5.0		(3.7)	外)回転ナデ、回転糸切り 内)回転ナデ	外)橙7/6 7.5YR 内)橙7/6 7.5YR	砂粒少含	良	50%(体部~底部片)	
34-1	1	オモカス層,Pno.99	土師器	甕	(16.4)		胴部径(16.8)	(10.0)	外)ヨコナデ,格子状叩き痕	外)淡黄8/3 2.5Y	2㎜以下白,灰色砂粒少含	良	20%(口縁~胴部片)	製塩土器
									内)ヨコナデ、ヘラ削りか当て具痕 外)ヨコナデ、平行叩き痕	内)淡黄8/4 2.5Y 外)浅黄橙8/3 7.5YR		_		
34-2	1	オモカス	土師器	悪	(17.6)			(6.1)	内)ヨコナデナデ 外)ヨコナデ平行叩き痕	内)にぶい褐5/3 7.5YR 外)灰黄褐色6/2 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒含	良	10%(口縁~片部片)	製塩土器
34-3	1	オモカス下砂レキ	土師器	悪					外)ヨコナデ,多方向ナデ	内)灰黄褐色6/2 10YR	1㎜以下砂粒少含	良	10%(片部片)	製塩土器
34-4	1		土師器	甕					外)ヨコナデ,平行叩き痕 内)ナデ	外)にぶい橙7/3 7.5YR 内)灰黄褐6/2 10YR	1㎜以下砂粒少含	良	10%(片部片)	製塩土器
34-5	1	オモカス,Pno.100	土師器	甕					外)ヨコナデ、格子状叩き痕 中)タエウムデ	外)黒褐3/1 10YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(片部片)	製塩土器
34-6	1	オモカス層	土師器	摂					内)多方向ナデ 外)格子状叩き痕	内)黒褐3/1 10YR 外)淡黄8/3 2.5Y	2㎜以下褐色砂粒少含	良	10%(胴部片)	製塩土器
									内)多方向ナデ 外)平行叩き痕	内)にぶい黄橙7/3 10YR 外)にぶい黄橙7/2 10YR				
34-7	1	オモカス	土師器	摂					内)当て具痕か	内)灰黄褐5/2 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒少含	良	10%(胴部片)	製塩土器
34-8	1	暗灰色粘土層	土師器	甕					外)平行叩き痕 内)ヘラ削り	外)にぶい黄橙7/2 10YR 内)灰黄褐5/2 10YR	1㎜以下砂粒少含	良	10%(胴部片)	製塩土器
34-9	1		土師器	甕					外)平行叩き痕 内)ナデ	外)にぶい黄橙7/2 10YR 内)褐灰4/1 10YR	砂粒少含	良	10%(胴部片)	製塩土器
34-10	1	オモカス	土師器	甕					外)平行叩き痕	外)褐灰4/1 10YR	砂粒少含	良	10%(胴部片)	製塩土器
									内)ナデ 外)格子状叩き痕	内)にぶい黄橙7/4 10YR 外)灰黄褐5/2 10YR				
34-11	1		土師器	甕					内)へラ削りか 外)平行叩き痕,	内)灰黄褐5/2 10YR 外)にぶい黄橙7/2 10YR	2㎜以下灰色砂粒少含	良	10%(胴部片)	製塩土器
34-12	1		土師器	甕					内)ナデ	内)にぶい黄橙7/2 10YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(胴部片)	製塩土器
35-1	1	暗灰粘土層(小石含)	土師器	移動式		(24.6)		(6.0)	外)ナデ 内)ヘラ削り,ナデ	外)橙7/6 7.5YR 内)にぶい橙7/4 7.5YR	1mm以下白色砂粒少含	良	10%(基部片)	
36-1	1西	暗灰色	須恵器	坏蓋			段径(11.7)	(2.4)	外)回転ヘラ削り,回転ナデ 内)不定方向仕上げナデ,回転ナデ	外)明青灰7/1 10BG 内)灰6/1 N	1mm以下白,灰色砂粒少含	良	60%	
36-2	1	オモカス	須恵器	坏蓋	(13.8)			(2.8)	外)回転ヘラ削り,回転ナデ	外)灰5/ N	1mm以下白色砂粒少含	良	30%	
								-	内)回転ナデ,仕上げナデ 外)回転ヘラ削り,回転ナデ	内)灰6/1 N 外)浅黄橙8/3 10YR		_		宝殊つまみ
36-3	1	オモカス上	須恵器	蓋	(11.6)			(1.9)	内)回転ナデ,不定方向仕上げナデ	内)灰5/ N	砂粒少含	良	30%	かか
36-4	1	オモカス層	須恵器	蓋	(12.0)		つまみ径(6.0)	2.9	外)回転ナデ 内)回転ナデ,不定方向仕上げナデ	外)灰6/1 N 内)灰6/1 N	砂粒少含	良	30%	輪状つまみ
36-5	1	オモカス	須恵器	蓋			つまみ径(6.2)	(1.7)	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)灰白7/ N 内)灰白7/ N	砂粒少含	良	20%(天井部片)	つまみ内,内 面研磨痕,転
	1	ler ler	/ac-te-nn	-04	(40.0)		- + 7.47 (0.0)	0.5	外)回転ナデ	外)灰白7/ N	Note to A	ar e	000/	用硯
36-6		オモカス	須恵器	蓋	(12.2)		つまみ径(6.6)	3.5	内)回転ナデ、不定方向仕上げナデ	内)灰白8/ N	砂粒少含	不良	30%	輪状つまみ
36-7	1	暗灰粘土層	須恵器	蓋	(17.4)		つまみ径(9.0)	3.6	外)回転ナデ 内)回転ナデ不定方向仕上げナデ	外)灰5/ N 内)灰5/ N	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%	輪状つまみ
36-8			須恵器	蓋			つまみ径6.2	(2.0)	外)回転ナデナデ	外)灰白7/N 内) 明オリーブ灰7/1	1㎜以下白色砂粒少含	良	60%	輪状つまみ
	_								内)回転ナデ 外)回転ナデ	2.5Y 外)灰白7/1 5Y				
36-9	1	暗灰色粘土	須恵器	蓋	(13.4)			(1.8)	内)回転ナデ	内)灰白7/1 7.5Y	1㎜以下白,灰色砂粒少含	良	10%(口縁部片)	che dell' full mer mer
37-1	1	オモカス	須恵器	高台付 坏		7.1		(2.3)	外)回転ナデ 内)回転ナデ	外)灰白7/ N 内)灰白7/1 5Y	砂粒少含	良	30%(底部~高台片)	底部外面墨 付着,転用硯 か
37-2	1	オモカス,Pno.90	須恵器	高台付		(7.5)		(2.3)	外)回転ナデ	外)灰6/1 7.5Y	1㎜以下白色砂粒少含	不良	30%(底部~高台片)	W.
31-2	Ľ.	,,, 110.00	Duranes	坏		,,		(=.0)	内)回転ナデ,不定方向仕上げナデ	内)灰褐6/2 7.5YR	A. 11. 12. 12. 11			

1998年   1	胎士 砂粒少含 2mm以下白,灰色砂粒含 1mm以下砂粒少含	焼成良		備考
23-3   1   1   2   2   2   2   2   2   2   2	2㎜以下白,灰色砂粒含	良	200//5****	
24   15   15   15   15   15   15   15   1			20%(底部~高台片)	
1		良	30%(底部~高台片)	高台内周縁
18   18   18   18   18   18   18   18	1mm以下砂粒小今	R	30%(底部~筒口力)	工具痕
27 日 で かた	**************************************	良	20%(体部~高台片)	
37   1 本た大日砂糖   日本	砂粒少含	良	30%(体部~高台片)	
「中央の大学機関   「中央の大学機関   「日本の大学機関   「日本の大学	10 122 12	良		
18   1   中元大人   1   1   1   中元大人   1   1   中元大人   1   1   中元大人   1   1   中元大人   1   1   1   1   1   1   1   1   1	1㎜以下白色砂粒少含		20%(口縁~高台片)	
15   15   15   15   15   15   15   15	3㎜以下白,灰,黒色砂粒多含	不良	2 30%(体部~高台片)	
19   19   19   19   19   19   19   19				外面自然釉
************************************	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(口縁~高台片)	付着
1	1㎜以下白色砂粒少含	良	30%(体部~底部片)	
1	1㎜以下白色砂粒少含	良	30%(体部~高台片)	底部内面自
38   1   一次の	111111111111111111111111111111111111111		30/0( 44 )  6 (1/1)	然釉付着
18   18   18   18   18   18   18   18	砂粒少含	良	20%(口縁~体部片)	
1	3㎜以下白,灰色砂粒少含	良	20%(口縁~体部片)	
1				
18   1	2㎜以下白,灰色砂粒少含	良	20%(口縁~体部片)	
38	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(口縁~体部片)	
18				
18-8   18   18   18   18   18   18   1	2㎜以下白色砂粒多含	良	50%	
38	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	20%(口縁~体部片)	
19   19   19   19   19   19   19   19	2㎜以下白色砂粒少含	良	40%(口縁~体部片)	
1	2㎜以下日巴砂粒少百	艮	40%(口称~14部月)	
38-9	砂粒少含	良	20%(底部片)	
18-10   1	砂粒少含	良	20%(体部~底部片)	
1   국七次   現態   坪   52   (23)   四月時子子   四月日子下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日子下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日子下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日下下   四月日子下   四月日下下   回月日下下   回月日	0.12.5 []		2070(PPHP /EXHP/1)	
28-11   水粉   次路   次距   外   6.6   (1.9)   内別配子子   内別に日 N   内別に日 N   内別に日 N   内別に日 N   日本	砂粒少含	良	30%(体部~底部片)	
18-12   1	砂粒少含	良	30%(体部~底部片)	
28-12   7				
38-14	3㎜以下白色砂粒少含	良	40%(体部~底部片)	
38-14 1 부モカス(2). Phol 28	砂粒少含	良	20%(底部片)	
Phot 128   対象が   Phot 128   Phot 128	2mm以下白,灰色砂粒含	良	30%(体部~底部片)	
38-15	2㎜以下口,灰色砂粒占	R	30%((Acto, - (ECDD))	
38-16	1㎜以下白色砂粒少含	良	30%(体部~底部片)	
1	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(底部片)	
38-17   オモカス層   須恵器   环   6.7   6.1				
38-18   1世 オモカス層上部   須恵器   环     56     (2.2)     内回転ナデ   内回転ナデ   内の両・ナデ   内の両・カテ   内のm・カテ   内の両・カテ   内のm・カテ   内のm・カ	2㎜以下白色砂粒多含	良	40%(体部~底部片)	
38-19	砂粒少含	良	30%(体部~底部片)	底部内面摩 滅,転用硯か
38-20   1 オモカス   須恵器   F	That is A	良	30%	10A) 13A) 1310Q-4
38-20   1 オモカス   須恵器   环 (12.4)   5.6   2.8   内回転ナデ 内回転ナデ 内回転ナデ 内の転サデ 内の反うバ ロロ 日本 インス	砂粒少含			
39-1 1 暗灰粘土 須恵器 高环 环部径 13.9         脚径4.5 (6.2)         外回転ナデ 外の車・デ 内回転ナデ 内の車・デ 内の車・	6㎜以下白,灰色砂粒少含	良	80%(口縁部欠損)	底部内面:墨 書文字か
1   「中央化工   別志部   13.9   13.9   13.9   13.9   14.5   15.5   1	2_NEA EATHERA		30%(坏部~脚部片)	底部内面研
39-2   1g	2㎜以下白,灰色砂粒少含	良	30%(坏部~腳部片)	磨痕,転用硯 か
39-3   2   暗灰粘土   須恵器   高下   脚径(7.2)   (2.7	砂粒少含	良	20%(坏部~脚部片)	
40-1   1   オモカス   須恵器   小型壺   (5.6)   類径(4.0)   (4.3)	1 \rac{1}{1} \racc{1}{1} \raccc{1}{1} \raccc{1}{1} \racccccccccccccccccccccccccccccccccccc	76	200/47574844	Al electric field
40-1	1㎜以下白,灰色砂粒少含	不良	30%(坏底部片)	外内面灰釉
40-2     1     オモカス     須恵器     適口壺     (8.4)     開部径(8.2)     (2-7)     約回転ナデ 内回転ナデ 内回転ナデ 内回転ナデ 内別展が1 10YR 内別展が1 10YR 内別展が1 10YR 内別展が1 10YR 内別展が1 10YR 内別展が アラマト 内別展が アラマト 内別展が アラマト 内別度が アラマト 内別度が アラマト 内別度が アラマト クリアグ・アラアト 内別度が アラアト クリアグ・アラアト フリアグ・アラアト クリアグ・アラアト フリアグ・アラアト フリアグ・アラアト クリアグ・アラアト フリアグ・アラアト フリアグ・アラアト フリアグ・アラア・アラアト フリアグ・アラア・アラアト フリアグ・アラアト フリアグ・アラアト フリアグ・アラアト フリアグ・アラアト フリアグ・アラア・アラアト フリアグ・アラア・アラア・アラア・アラア・アラア・アラア・アラア・アラア・アラア・ア	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(口縁~頸部片)	
1	砂粒少含	良	10%(肩部~胴部片)	
40-3			,	
40-4     階次色報主層     須惠器     長頸壺     (9.8)     類径(6.0)     (5.4)     内回転ナデ     内)反白ア/1 7.5Y     (少)       40-5     1     オモカス     須恵器     長頸壺     類径(6.4)     (7.1)     外回転ナデ     内)反白ア/N     1m       40-6     1     オモカス     須恵器     長頸壺     類径(6.4)     (4.6)     外回転ナデ     内)所交/N     2m       40-7     1     オモカス     須恵器     壺     胴部径(13.2)     (5.6)     外回転ナデ     内)原方/N     か)原方/N     か)所方/N       40-8     1     オモカス層上面     須恵器     壺     (9.6)     (10.2)     胴部径(21.2)     (22.7)     外回転ナデ     内)商転ナデ     内)南灰5/1 5PB     1m	砂粒少含	良	10%(口縁部片)	
40-5     1     オモカス     須恵器     長頸壺     野経(6.4)     (7.1)     外回転ナデ     外)炭(5/1 2.5Y     1m       40-6     1     オモカス     須恵器     長頸壺     類径(6.4)     (4.6)     別回転ナデ     外別灰白アN     2m       40-7     1     オモカス     須恵器     壺     胴部径(13.2)     (5.6)     別回転ナデ     外別灰ら N     砂原左 N       40-8     1     オモカス層上面     須恵器     壺     (10.2)     胴部径(21.2)     (22.7)     外回転ナデ     外間転ナデ     内間転ナデ     内間転ナデ     内間をナデ       内間をナデ     内間をナデ     内間をナデ     内間をナデ     内間をナデ     内間をナデ     内間をテジト1 5PB     1m	砂粒少含	良	20%(口縁~頸部片)	
40-5	a topposition while the		DOM/FEETON	外内面一部
40-6     オモカス     須恵器     長頸電     類性(6.4)     (4.5)     内回転ナデ     内回上ナデ     内回上ナデ     内回上ナデ     内上ナデ     内上ナデ     内上ナデ     内上ナデ     内上	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(頸部片)	自然釉付着
40-7     1     オモカス     須恵器     壺     胴部径(13.2)     (5.6)     外回転ナデに同心円状力キ目     外)灰5/N     砂川灰5/N       40-8     1     オモカス層上面     須恵器     壺     (9.6)     (10.2)     胴部径(21.2)     (22.7)     外回転ナデ     外門普及が1.5PB     1m       40-8     1     オモカス層上面     須恵器     壺     (9.6)     (10.2)     胴部径(21.2)     (22.7)     (7)回転ナデ     内)音灰5/1.5PB     1m	2㎜以下白,灰色砂粒含	良	10%(頸部~肩部片)	
40-8 1 オモカス層上面 須恵器 壺 (9.6) (10.2) 胴部径(21.2) (22.7	砂粒少含	良	20%(胴部片)	
40-8 オモカス層上面 須恵器 壺 (9.6) (10.2) 胴部径(21.2) (22.7) 内)回転ナデ 内)青灰5/1 5PB 1mm	N127 D	R	DO /UNISHP/T J	Al are at tener
	1㎜以下白,灰色砂粒少含	良	40%	外面:自然釉 付着
40.9   2   暗灰粘土   須恵器   壺   頸径(9.0)   胴部径(21.6)   (11.4)	2㎜以下白,灰色砂粒少含	良	50%(胴部片)	
阿川県ナナア   阿川県ナナア   阿川県ナナア   阿川県ナナア   阿川県ナナス   Milinat-ナニ   Milinat-				
40-10 IP 7 モカス樹上部 梨思語 塑 別往(9.4) 胸部住(26.2) [12.7] 内)回転ナデ 内)灰5/N	2㎜以下白,灰色砂粒少含	良	20%(胴部片)	
40-11 2 オモカス 須恵器 壺 胴部径(31.4) (16.1) 外回転ナデ 外)灰白7/1 2.5Y 内)回転ナデ 内)回転ナデ 内)灰白7/1 2.5Y	2mm以下白色砂粒少含	良	20%(胴部片)	
第 9 第 9 第 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	District 小会	-	100/(==62 /1.5611)	
41-1 l東 階次色停標層	砂粒少含	良	10%(口縁~体部片)	
41-2   3   水路   類志器   類   類径(14.4)	1㎜以下白色砂粒少含	不良	20%(頸部~胴部片)	
内)回転ナデ同心円状当て具痕 内)灰白8/1 10Y				
41-3     1     オモカス上面     類恵器     壺     13.0     (4.1)     外回転ナデ回転へラ削りナデ     外)反白7/1 5Y     砂       内回転ナデ     内)反白7/1 2.5Y     内)回転ナデ     内)反白7/1 2.5Y     砂	砂粒少含	良	10%(胴部~底部片)	

挿入	_	WB 14 / 1 FT	65.04	nnee		进	<b></b>		700.40	4.75		140.10	PD / .	
番号	K	遺構/土層	種別	器種	口径	底径	その他	器高	調整	色調	胎土	焼成	残存	備考
41-4	1	オモカス	須恵器	壺		(11.6)		(3.9)	<ul><li>外)回転ナデ,ナデ</li><li>内)回転ナデ</li></ul>	外)灰6/1 5Y 内)灰白7/ N	砂粒少含	良	10%(胴部~底部片)	
41-5	1	オモカス下礫層,	須恵器	壺		15.0		(6.1)	外)回転ナデ、ヘラ削り	外)灰6/1 N	1㎜以下白色砂粒多含	良	20%(胴部~底部片)	
		Pno.199	ce-t-nn			( )		(= -)	内)回転ナデ	内)灰5/ N	L CONTACTOR MARKET A	<u> </u>		
41-6	1	暗灰色	須恵器	壺		(16.0)		(7.8)	外)格子状叩き痕,ナデ 内)同心円状当て具痕,ナデ,指頭圧痕,回転	外)灰白7/1 5Y	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(胴部〜底部片)	
									ナデ	内)灰白7/ N		ــــــ		
41-7	3	灰色砂礫層	須恵器	高台付 壺		(16.2)		(3.7)	外)回転ナデ	外)灰白8/ N	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(底部片)	
									内)回転ナデ	内)灰白8/1 10Y		Ļ.		
41-8	1	オモカス	須恵器	壺		(19.2)		(3.2)	外)平行叩き痕,ナデ 内)ナデ指頭圧痕	外)灰白8/1 10Y 内)灰白7/1 10Y	砂粒少含	良	10%(底部~高台片)	
42-1	1	オモカス	陶器	片口鉢	(18.4)	11.0		11.7	外)回転ナデ,回転糸切り	外)橙6/6 7.5YR	2㎜以下白,灰色砂粒少含	良	60%	
									内)回転ナデ	内)橙6/6 7.5YR		L		
42-2	1東	暗灰色砂礫層	陶器	m	(12.0)			(3.1)		釉薬)オリーブ黄6/3 5Y 素地)オリーブ黒3/1 5Y	密	良	30%(口縁~体部片)	底部外面無 釉/見込目跡
42-3		暗灰色粘土層	陶器	碗	(12.0)			(4.7)		釉薬)にぶい黄褐5/3	密	良	20%(口縁~胴部片)	全面施釉
42-3		相从已和上層	Mana	10%	(12.0)			(4.7)		10YR 素地)浅黄橙8/4 10YR	ш		20/0(11/48 - 7/19/19/71)	土田が世代
42-4	2		陶器	碗		(4.2)		(2.3)		和薬)浅黄橙8/4 10YR	密	良	10%(底部片)	畳付無釉/外
										素地)浅黄橙8/4 10YR		<u> </u>		面被熱痕
43-1	1	水路	磁器 (白磁)	碗	(15.4)			(3.2)		釉薬)浅黄橙8/3 10Y 素地)浅黄橙8/3 10Y	密	良	20%(口縁部片)	口縁部施釉
43-2		灰褐色土	磁器	碗		(6.6)		(4.0)		無準)灰白7/2 5Y	密	良	20%(体部~高台片)	高台無釉
	5南		(青磁)						見込)沈線1条	素地)灰白8/1 7.5Y				
43-3	2	暗灰粘土層(小石含)	磁器 (青磁)	碗		4.6		(3.6)	外)放射状文様		密	良	30%(体部~高台片)	体部~高台 無釉
43-4	5	灰色礫混り層	磁器	碗	(14.2)			(4.2)	内)花文か	素地)灰白8/2 5Y 釉薬)灰白8/2 7.5Y	密	良	20%(口縁~体部片)	体部以下無
			(白磁)							素地)灰白7/1 10Y			, ,	釉
43-5	3	水路	磁器 (白磁)	碗		(6.4)		(2.3)	日江)补纳1条	釉薬)灰白8/1 10Y	密	良	10%(底部~高台片)	底部~高台無釉
43-6	1	オモカス,Pno.108	磁器	碗		5.6		(2.0)	見込)沈線1条	素地)灰白8/1 5Y 釉薬)灰白8/1 2.5GY	密	良	20%(底部~高台片)	底部~高台
			(白磁)							素地)灰白8/1 2.5GY		Ĺ		無釉
43-7	1西	暗灰色砂礫層	磁器 (白磁)	碗		3.3		(0.9)		釉薬)灰白8/2 5Y	密	良	20%(底部~高台片)	底部~高台 無釉
43-8	1	暗灰色砂礫混り層	磁器	m		(6.8)		(1.2)		素地)灰白8/1 5Y 釉薬)明緑灰8/1 7.5GY	密	良	10%(底部~高台片)	底部~高台
10 0	•	NEW WELL THE	(白磁)			(0.0)		(1.2)		素地)灰白8/1 2.5GY		^	10/0((854)* (441)*1)	無釉
43-9	2	暗灰粘土層	磁器	M		(4.8)		(1.3)		釉薬)灰白8/2 5Y	密	良	20%(体部~高台片)	底部~高台
43-10		暗灰色砂礫	(白磁) 磁器	碗		(4.8)		(1.5)	見込)花文 見込)圏線1条,圏線内文様	素地)灰白8/1 5Y 釉薬)灰白8/1 2.5GY	密	良	10%(底部~高台片)	無釉 畳付~高台
43-10	1東	相风口形脉	(染付)	10%		(4.0)		(1.5)	元以)回称1未,回称73人18	素地)淡黄8/3 2.5Y	ш			内無釉
43-11		黒褐色粘土層	磁器	壺か香	長	幅(横)5.6	厚3.8			釉薬)オリーブ5/2 5Y	密	良	10%(把手のみ)	内面無釉・
			(青磁)	炉(把 手か獅	(縦)6.0	, ,			型押成形	素地)浅黄橙8/3 10YR			' '	貼付
				子頭)					±3T/A/D	無地及與短6/3 1011		₩		内外面赤漆,
44-1		トレンチ1	木製品	漆腕								<u> </u>		柾目
44-2	2	床土層	木製品	腕底部										内面と底以 外の外面に
						1-1-0						ــــــ		漆付着,柾目
44-3	_		木製品	杓文字	長(20.7)	唱(5.6)	厚(0.8)	_				$\vdash$		板目 底板:柾目,ス
44-4	2	黒色土	木製品	桶底板, 側板	長(27.2)	幅(8.8)	厚(8.8)							ギ,目釘あり 側板:板目,ス
				別牧										関似.収日,へ ギ
44-5			木製品	桶底板	長13.4	幅(10.0)	厚(0.6)					₩		板目
44-6			木製品	桶蓋	長(6.9)	幅(5.3)	厚(0.8)							柾目,ヒノキ, 皮紐あり
44-7		le les	木製品	桶底板	長(14.8)	幅(4.8)	厚(0.4)					₩		柾目、ヒノキ
44-8 45-1	2	オモカス層	木製品 木製品	桶底板 田下駄	長(20.2) 長(42.8)	幅(10.0) 幅(13.7)	厚(0.8) 厚(1.3)					-		板目,スギ 板目,スギ
45-2	_				長46.0		厚1.2							板目
45-3					長(17.1)		厚(3.5)					_		板目,スギ
45-4			木製品	下駄	長(17.1)		厚(3.5)					$\vdash$		板目,スギ 目釘あり,板
45-5			木製品	箱	長9.7	幅16.8	厚0.8					_		目
45-6			木製品	不明木	長8.6	幅3.3	厚33							芯持丸木,ウ ツギ属,穿孔
	4.77**	mないことに (データル)		製品						1- 71 x #### 0 /0 + 0 / 1	1	-	100%	あり
		暗灰色層(砂礫) オモカス層	土製品 土製品	土錘	長3.8 長3.9	径1.4~1.5 径1.5~1.6				にぶい黄橙6/3 10YR 灰黄6/2 2.5Y	1mm以下白色砂粒少含 2mm以下白,灰色砂粒多含	良良	100%	重量7.4g 重量7.5g
46-3	1	オモカス	土製品	土錘	長4.5	径1.3~1.4	孔径0.45			灰黄褐6/2 10YR	砂粒少含	良	90%	重量7.4g
_		オモカス	土製品	土錘	長5.0	径1.9~2.1				にぶい黄橙7/4 10YR	2㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	100%	重量15.5g
46-5 46-6	1 1西	オモカス 暗灰色砂礫	土製品 土製品	土錘	長4.3 長5.6	径2.0 径1.9	孔径0.4 孔径0.6			にぶい橙7/4 7.5YR 灰黄褐6/2 10YR	3mm以下灰色砂粒多含 2mm以下白,灰色砂粒多含	良良	90%	重量14.9g 重量18.7g
46-7	1	オモカス	土製品	土錘	長5.0	径2.3~2.4				灰黄7/2 2.5Y	3㎜以下白,灰色砂粒多含	良	100%	重量20.9g
46-8	1	暗灰色粘土層(小石 含)	土製品	土錘	長4.9	径1.9~2.3	孔径0.5			にぶい黄6/3 2.5Y	1mm以下白,灰色砂粒少含	良	100%	重量24.1g
46-9	1	暗灰色粘土層(小石	土製品	土錘	長4.4	径2.0~2.2				にぶい黄6/3 2.5Y	1mm以下灰色砂粒少含	良	100%	重量19.8g
		含)				径2.0~2.2								車量19.8g 重量36.1g
46-10 46-11	1	オモカス No.2	土製品 土製品	土錘	長4.8 長5.0	径2.8~3.0 径2.9~3.2				黄灰5/1 2.5Y 黄灰5/1 2.5Y	1mm以下白,灰色砂粒多含 2mm以下白,灰色砂粒含	良良	100%	重量36.1g 重量38.1g
47-1		廃土	石器	磨製	長11.4	幅6.0	厚3.1					Ė		重量292.3
				石斧 有孔石								$\vdash$		g 砂岩 砂岩,穿孔あ
47-2	1	オモカス層Pno95	石器	88	長9.5	幅6.4	厚2.2					<u> </u>	ļ	り
47-3	1	暗灰色粘土層	石器		長3.7	幅8.4	厚0.5			1		Щ		粘板岩
表1	5	近世山陰	貧道跡	「(馬	橋均	也区)i	貴物観響	察表						
挿入							量			色調	胎土	格··	<b>組</b> 力	備考
番号	K	遺構/土層	種別	器種	口径	底径	その他	器高	調整	巴嗣	<b>府</b> 主	焼成		
64-1		表土	磁器 (染付)	中 碗 (丸形)	(10.2)			(3.8)	外)圏線,草花文			良	10%	肥前/17世 紀前半~後
		Long Lit			(40.7)			4.5	内)圏線			<u> </u>		半
		水田5 土坑	税の行行	中 碗(端反	(10.0)			(1.6)	外)圏線.網目文か			良		肥前/18世 紀後半~19
64-2			(8tr./→1						内)圏線	I	I	1		世紀代
			(染付)	形)								+		
64-3		石畳横 山路	磁器(染付)	形) 中 皿 (丸形)	(15.6)			(1.9)	外)草花文				10%	肥前/18世 紀代
			磁器(染付)磁器(型	形) 中 皿 (丸形)	(15.6)	(3.6)		(1.9)	外)草花文		畳付無釉		100/	肥前/18世

挿入 番号	×	遺構/土層	種別	器種			量		調整	色調	胎土	焼成	残存	備考				
番号	_	2117-3313			口径	底径	その他	器高	17-232-			772704						
64-5		表採	磁器 (型 紙摺り)	小 碗 (丸形)	9.3	3.2		4.9	外)梅文,葉文		畳付無釉	良	80%					
64-6		TR-5 中層	磁器(型 紙摺り)	小 碗 (筒形)		(4.2)		(4.5)	外)花文など			良	20%					
64-7		石敷西 電柱周辺 褐	磁器 (染付)	中皿		(16.4)		(2.1)	外)圏線		畳付無釉	良	10%	肥前/18世 紀代				
		色土	(%<11)						内)圏線,草花文か									
64-8		表土	磁器 (染付)	瓶			頸径(3.2)	(6.4)	外)圏線			良	20%	肥前/18世 紀代				
64-9		表採	磁器(型 紙摺り)	段重	(12.0)	(10.6)		4.2	外)菊花文,窓文,燕文(つがい),柳文		口縁端部,底部~畳付無釉	良	50%					
64-10		加工段1	陶器	小皿か	小皿か	(10.0)		(1	(1.2)		釉薬)褐4/4 7.5YR		良	10%				
04-10										素地)灰黄7/2 2.5Y								
64-11		水田5 土坑	陶器	中碗	中碗	中碗	中碗	中碗	(10.8)	(5.6)	4.	4.5	外)草文か柳文	釉薬)明黄褐6/6 2.5Y	高台無釉	良	30%	
				(浅丸 形)						素地)黄橙8/6 10YR								
64-12		表土	陶器	鉢か甕	(26.6)			(4.2)		釉薬)灰オリーブ6/2 7.5Y		良	10%					
										素地)灰白7/1 5Y								
64-13		水田3	陶器	鉢 (玉 縁形)	(16.8)			(4.7)	外)刷毛目文			良	10%	肥前/18世 紀代				
64-14		石畳横 山路	陶器	擂鉢	(34.8)			(6.8)		外)にぶい赤褐4/4 5YR		良	10%	在地(石見)				
										内)にぶい赤褐4/3 5YR								
64-15		灰褐色土	陶器	擂鉢			胴部径(28.0)	(4.6)		外)にぶい橙6/4 7.5YR		良	10%	須佐/18世				
										内)にぶい橙6/4 6.5YR				紀代				
64-16		表土(石垣傾面)	銭貨	寛永通 寶/文	直 径 2.6	厚0.1	孔径0.6×0.6				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	良	100%	重量2.8g				

表16 神出西遺跡遺物観察表

	6	神出西遺	200,700	1/2/14	1		去量					$\overline{}$	T	
挿入 番号	区	遺構/土層	種別	器種	口径	底径	その他	器高	調整	色調	胎土	焼成	残存	備考
72-1	2	SD01	土師器	甕	(15.0)	PEXIL	(1)	(4.8)	外)ヨコナデ	外)橙6/6 5YR	1mm以下砂粒少含	良	10%(口縁~肩部片)	
									内)ヨコナデ,ヘラ削り	内)橙6/6 5YR				
72-2	2	SD01	土師器	高坏			脚径(5.8)	(8.3)	外)不明	外)橙6/8 5YR	2㎜以下白,灰色砂粒,石英含	良	30%(脚部片)	
		_			_				内)不明	内)橙6/8 5YR				
72-2	2	SD01, Pno.40,2層	石器	磨製石	長11.5	幅5.2	厚2.5				石材砂質			正面,裏面,
74-1	2414	6.7層.SD02	須恵器	邈	9.3		胴部径10.5	(7.5)	外)回転ナデ,波状文,沈線2条,カキ目	外)灰白7/ N	砂粒少含	白	60%(口縁~胴部片)	HIMINE
14-1	246	0,7層,3002	利息語	路路	9.3		別門印1至1U.3	(1.3)	内)回転ナデ	内)灰6/1 N	砂粒少百	尺	00%(口称( 0月日10日 )	
74-2	2	砂層, SD02, Pno.46	須恵器	邈	(10.0)		胴部径10.9	10.0	外)回転ナデ,波状文,ヘラ削り	外)暗青灰4/1 10BG	3㎜以下白,灰色砂粒含	良	90%	
	-	,,,	>><>	~	(====)		12741-122-010		内)回転ナデ	内)暗青灰4/1 10BG				
74-3	4南	SD02埋土	須恵器	甕	(22.2)			(5.5)	外)回転ナデ	外)灰5/ N	砂粒少含	良	10%(口縁部片)	
									内)回転ナデ	内)灰白8/ N				
74-4	2	SD02, 黒色土,	土師器	甕	17.0		胴部径(23.6)	(25.8)	外)ヨコナデ,ハケ目(タテ,斜め)	外)橙6/6 2.5YR	2mm以下灰,褐色砂粒少含	良	60%(口縁~胴部片)	
	_	Pno.47							内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ),ヘラ削り	内)橙6/6 2.5YR				
74-5	4	SD02	土師器	甕	16.5		胴部径26.3	28.4	外)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ),叩きかハケ目(斜 め)	外)にぶい黄橙7/4 10YR	2㎜以下白,灰色砂粒含	良	90%	
									内)ヨコナデハケ目(ヨコ),ヘラ削り	内)にぶい黄橙7/4 10YR				
74-6	2	下層,SD02	土師器	甕	(17.2)		胴部径(23.5)	(13.1)	外)ヨコナデ,ハケ目(斜め),ヘラ削り	外)橙7/6 5YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	50%(口縁~胴部片)	
									内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ),ヘラ削り	内)褐4/3 7.5YR				
4-7	2	下層,SD02	土師器	甕	(17.6)			(3.8)	外)ヨコナデ	外)橙7/8 5YR	1mm以下砂粒少含	良	10%(口縁~肩部片)	
									内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ),ヘラ削り	内)橙7/8 5YR				
4-8	2北		土師器	甕	(16.2)			(4.2)	外)ヨコナデ	外)にぶい褐5/4 7.5YR	1㎜以下灰色砂粒少含	良	10%(口縁~肩部片)	
									内)ヨコナデハラ削り	内)橙7/6 7.5YR				
4-9	2	SD02, 黑色土,	土師器	甕	(14.8)			(8.5)	外)ヨコナデ	外)橙7/6 7.5YR	2㎜以下砂粒少含	良	20%(口縁~胴部片)	
4-10	2	Pno.46 1層.SD02	土師器	甕	(15.6)		胴部径(22.4)	(0.5)	内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ),ヘラ削り 外)ヨコナデ指頭圧痕	内)にぶい赤褐4/3 5YR 外)明褐5/6 7.5YR	2㎜以下灰.褐色砂粒多含	ė	30%(口縁~胴部片)	
4-10	-	1層,5002	工即格	20%	(15.6)		胴部往(22.4)	(9.5)	内)ヨコナデハラ削り	内)明褐5/6 7.5YR	2㎜以下灰,梅巴砂粒多含	良	30%(口称~胴印片)	
75-1	2	下層,SD02	土師器	並	(11.0)		胴部径(12.2)	(5.6)	外)ヨコナデ指頭圧痕、ハケ目(斜め)	外)にぶい黄橙6/3 10YR	1mm以下砂粒少含	良	20%(口縁~胴部片)	二重口縁
0.	-	178,000		AL.	(11.0)		MATTER CE (TELE)	(0.0)	内)ヨコナデハケ目(ヨコ)	内)黒褐3/2 10YR	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		DOTO(LINK MATERIAL)	-35144
5-2	2	SD02.黑色土.	土師器	高坏	(20.0)			(7.1)	外)ヨコナデ	外)浅黄橙8/6 7.5YR	1㎜以下白,灰色砂粒多含	良	50%(坏部片)	
		Pno.48							内)ヨコナデ	内)浅黄橙8/6 7.5YR				
75-3	4	SD02埋土,Pno.4	土師器	高坏			脚径4.6	(8.5)	外)ヨコナデ	外)橙6/8 2.5YR	2㎜以下白,灰色砂粒少含	良	40%(脚部片)	
									内)ナデ	内)橙7/8 2.5YR				
75-4	2	1層,SD02	土師器	高坏	(14.2)		脚径(5.2)	(8.8)	外)ヨコナデ,ハケ目(タテ,斜め)	外)黄橙7/8 7.5YR	1㎜以下白色砂粒少含	良	60%(坏部~脚部片)	脚付壺の
			Lawne	Africa a					内)ヨコナデ	内)黄橙7/8 7.5YR				能性
75-5	4南	SD02埋土	土師器	甑か	(19.0)			(7.2)	外)ヨコナデ,沈線1条	外)明赤褐5/8 5YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(口縁~胴部片)	
6-1	2	SD02	木製品	木錘	長21.6	MIS 6	厚4.2		内)ヨコナデ,ハケ目(ヨコ),ヘラ削り	内)明赤褐5/8 5YR				芯持丸木
0-1	1	3502	/IV-BEHH	/INKE	1,21.0	тно.о	7-7.2							皮なし
76-2	2	SD02	木製品	横槌	長27.2	幅8.8	厚8.8							芯持丸木.
														バキ属
6-3	2	SD02	木製品	又鍬	長(26.1)	幅(11.8)	厚(1.4)							板目
7-1	4	暗灰色粘土,Pno.3	須恵器	横瓶	9.0		胴部径18.9~	(21.1)	外)回転ナデ、平行叩き痕、同心円状カキ目	外)灰白7/1 10Y	1㎜以下白色砂粒少含	良	70%	
	١.	anaalii la a	LAYOR	edel	(04.4)		22.4	(1.1)	内)回転ナデ、同心円状当て具痕	内)灰白7/ N	A DESCRIPTION OF A	rts.	A DOV (STATE STATE)	
4-1	4	SD03埋土,Pno.8	土師器	甕	(21.4)			(4.4)	外)ヨコナデ	外)灰黄7/2 2.5Y	1㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	二重口縁
4-2	4	SD03埋土,Pno.1,6	土師器	甕	(18.8)			(5.5)	内)ヨコナデ 外)ヨコナデ,ハケ目(タテ)	内)灰黄7/2 2.5Y 外)橙6/6 7.5YR	2㎜以下白.灰色砂粒含	不白	10%(口縁~肩部片)	
	1	02004 <u>1</u> ,110.1,0		25%	(10.0)			(0.0)	内)ヨコナデヘラ削り	内)橙6/6 7.5YR	Dames I HANGE ELE	1112	10 M(HRW MHP/T)	
4-3	4	SD04埋土	弥生土器	壺か甕		(5.6)	1	(3.6)	外)ナデ、指頭圧痕	外)にぶい黄橙7/3 10YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(底部片)	
						1		"	内)ナデ,指頭圧痕	内)褐灰5/1 10YR				
79-1	3	旧河道,砂層,Pno.3	弥生土器	甕	(21.0)		胴部径(24.4)	(8.5)	外)ヨコナデ,凹線文2条,刺突文	外)橙7/6 5YR	3㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(口縁~胴部片)	İ
									内)ヨコナデヘラ削り	内)橙7/6 7.5YR				
9-2	3	旧河道,砂層下,Pno.4	弥生土器	並	(17.6)			(6.5)	外)ヨコナデ擬凹線文5条	外)明黄褐7/6 10YR	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	10%(口縁~肩部片)	
	_		70.00	-4-					内)ヨコナデヘラ削り	内)明黄褐7/6 10YR	and the second s			
9-3	3	旧河道,砂礫直上,	弥生土器	甕	(16.2)			(5.1)	外)ヨコナデ,擬凹線文2~3条 サンコート ディー 第45	外)黄橙7/8 7.5YR	3㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	10%(口縁~肩部片)	
0.4	2	Pno.16 旧河道.砂層下.	弥生土器	計を奪		(4.2)		(3.1)	内)ヨコナデ,ヘラ削り 外)ナデ削り	内)黄橙7/8 7.5YR 外)褐灰4/1 10YR	2㎜以下白 団 場合か約 アギタ会	卢	10%(底部片)	
9-4	3	旧河道,砂層下,   Pno,23	沙土工品	型が張		(4.2)		(3.1)	内)ナデ,削り	内)褐灰4/1 10YR 内)褐灰4/1 10YR	3㎜以下白,灰,褐色砂粒,石英多含	以	1U70(JECDP/1 )	
79-5	3	旧河道	須恵器	蓋			つまみ径4.0	(2.3)	外)回転ナデ,回転ヘラ削り,連続刺突文	外)明青灰7/1 5PB	1㎜以下白,灰色砂粒含	良	30%(天井部片)	
- 0	١			益 (宝珠)				(=.0,	内)回転ナデ	内)明青灰7/1 5B		^	(- C - 1 HP/ 1)	
9-6	3	旧河道	須恵器	坏	(11.8)			(3.5)	外)回転ナデ	外)灰6/1 10Y	1㎜以下砂粒少含	良	10%(口縁~体部片)	
				ĺ				'	内)回転ナデ	内)灰白7/1 5Y				
79-7	3	旧河道,砂層,Pno.14	須恵器	甕					外)平行叩き痕	外)灰6/1 N	1㎜以下白色砂粒少含	良	10%(底部片)	
									内)同心円状当て具痕	内)灰5/ N				
79-8	3	旧河道	須恵器	甕			胴部径(38.4)	(22.7)		外)暗灰3/ N	砂粒少含	良	30%	
		1	1	i .	1	1	1	1	I .	内)青灰6/1 5PB		- 1	1	1

挿入	区	遺構/土層	種別	器種		ì	去量		調整	色調	胎土	焼成	残存	備考
番号		週幣/上僧	性生力リ	664里	口径	底径	その他	器高	阿亚	巴酮	加工。	19E/IX	73(1)	開与
80-1	3	旧河道,護岸跡	木製品	槽	長(38.2)	幅(25.2)	厚(2.2)							板目
80-2	3	旧河道,護岸跡	木製品	槽	長34.2	幅14.3	4.2-0.4							柾目
80-3	3	旧河道,護岸跡	木製品	不明	長326.6	幅4.1	厚0.7							柾目,穿孔2 穴
80-4	3	旧河道,護岸跡	木製品	槽	長(96.4)	幅19.5	厚3.1							柾目,扉軸穴
														2
81-1	4:JL	排水溝,暗灰色粘土	弥生土器	甕	(16.4)			(4.3)	外)ヨコナデ,擬凹線文7条	外)灰黄褐6/2 10YR	3㎜以下白,灰色砂粒,石英,金雲母多含	良	10%(口縁~肩部片)	
									内)ヨコナデヘラ削り	内)浅黄橙8/3 10YR				
81-2	4	廃土	弥生土器	甕	(21.0)			(6.7)	外)ヨコナデ,擬凹線文7~8条	外)灰黄7/2 2.5Y	2㎜以下白,灰,褐,黒色砂粒多含	良	10%(口縁~肩部片)	
									内)ヨコナデヘラ削り	内)灰黄7/2 2.5Y				
81-3	4	北東部, にぶい黄色	土師器	甕	(18.4)			(5.1)	外)ヨコナデ	外)浅黄橙8/4 10YR	3㎜以下白,灰,褐色砂粒多含	良	10%(口縁部片)	二重口縁
		土							内)ヨコナデ	内)浅黄橙8/4 10YR				
81-4	4	にぶい黄色粘土	土師器	甕	(12.6)			(3.5)	外)ヨコナデ	外)浅黄橙8/4 7.5YR	1mm以下白,灰色砂粒,石英多含	良	10%(口縁部片)	二重口縁
									内)ヨコナデ	内)浅黄橙8/4 7.5YR				
81-5	2	5層	土師器	甕	(19.2)			(10.1)	外)ヨコナデ,ハケ目(タテ)	外)橙6/6 5YR	2㎜以下白色砂粒少含	良	20%(口縁~胴部片)	
									内)ヨコナデ,ヘラ削り	内)橙6/6 5YR				
81-6	2	6,7層	土師器	甕	(15.6)			(5.2)	外)ヨコナデ	外)橙6/8 2.5YR	1mm以下砂粒少含	良	10%(口縁~肩部片)	
									内)ヨコナデ,指頭圧痕,ヘラ削り	内)橙6/8 5YR	1			
81-7	2	5層	須恵器	甕			頸径(14.0)	(4.2)	外)回転ナデ,平行叩き痕	外)青灰6/1 10BG	2㎜以下白,灰色砂粒含	良	10%(頸部片)	
									内)回転ナデ,同心円状当て具痕	内)灰6/1 5Y	1			
81-8	4	排水溝	土師器	手づく	(7.8)			(2.9)	外)ナデ指ナデ	外)橙6/8 5YR	1mm以下白,灰色砂粒,石英含	良	40%(体部~底部片)	
				ね土器	` '				内)ナデ.指ナデ	内)橙6/8 5YR			,	
81-9	2	5層	須恵器	蓋	(14.2)		つまみ径(6.6)	(2.2)	外)回転ナデ	外)灰6/1 N	1㎜以下白色砂粒多含	良	30%	
			>>,200	(輪状)	(		- 0117 (2107	(=.=,	内)回転ナデ	内)灰白7/ N		^		
81-10	2	5層	須恵器	蓋			つまみ径(6.6)	(2.2)	外)回転ナデ	外)灰白7/1 5Y	1mm以下白色砂粒少含	良	20%(天井部片)	つまみ内自
0. 10	-	0/6	29K7ENIII	血 (輪状)			J (0.0)	(2.2)	内)回転ナデ	内)灰白7/ N	111111111111111111111111111111111111111	^	20%(5(5)146/1)	然釉付着
81-11	2	5層	須恵器	-			つまみ径(6.4)	(2.0)	外)回転ナデ	外)灰4/ N	1mm以下白色砂粒少含	良	10%(天井部片)	
01 11	-	0/6	29K7ENDD	蓋 (輪状)			J (0.1)	(2.0)	内)回転ナデ仕上げナデ	内)灰4/ N	THE STATE OF THE S	^	10/0(5(5)11115/1)	
81-12	2	5國	須恵器	蓋	(14.0)			(1.5)	外)回転ナデ	外)灰6/1 5Y	1㎜以下白色砂粒含	良	10%(口縁端部片)	
01-12	-	3/E	SHACKILL	mı	(14.0)			(1.5)	内)回転ナデ	内)灰5/ N	111110011111111111111111111111111111111	1 10	1070([[] ((((((((((((((((((((((((((((((((((	
04.40		E A SLI LE	/ac-de-nn	高台付			Tr ( ) (77 (4 0 0)	(4.0)			a DETA PARAMAA	-	nonvertere at (+11)	
81-13	4	灰色粘土層	須恵器	坏			高台径(10.6)	(1.4)	外)回転ナデ,回転ヘラ削り	外)灰6/1 N	2㎜以下白,灰色砂粒多含	良	20%(底部~高台片)	
$\rightarrow$	_								内)回転ナデ	内)灰白7/ N		-		
81-14	4	にぶい黄色粘土	須恵器	高台付 坏		(10.0)		(1.5)	外)回転ナデ	外)灰白8/ N	砂粒少含	良	20%(底部~高台片)	
									内)回転ナデ	内)灰白8/1 2.5GY				
81-15	4	にぶい黄色粘土.	須恵器	高台付		7.3		(4.3)	外)不明	外)黄8/6 2.5Y	2㎜以下白,灰色砂粒多含	不良	50%(体部~高台片)	全体的に風
		Pno.2		坏					内)不明	内)明黄褐7/62.5Y	1			化
81-16			須恵器	坏		(5.2)		(1.4)	外)回転ナデ,回転糸切り	外)灰白7/ N	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(体部~底部片)	
									内)回転ナデ	内)灰6/1 N				
81-17			須恵器	壺か	(12.2)			(3.9)	外)回転ナデ	外)灰白7/1 2.5Y	砂粒少含	良	10%(口縁部片)	
					'				内)回転ナデ	内)灰白7/ N	1			
82-1		廃土	陶器	碗		(5.0)		(3.4)		釉薬)黒褐2/2 10YR	密	良	20%(体部~高台片)	高台無釉.体
										素地)灰黄6/2 2.5Y	1			部鉄釉
82-2	4	排水溝	陶器	鉢	1	(8.2)		(2.3)		釉薬)灰オリーブ5/3 5Y	密	良	10%(底部~高台片)	底部~高台
					1	1		1		素地)淡黄8/3 2.5Y	1	1		内無釉/目跡
82-3	4	廃土	陶器	碗		5.0		(2.4)		釉薬)明黄褐7/6 10YR	密	良	20%(底部~高台片)	全面施釉
	1					~~		(=,		素地)浅黄橙8/4 10YR	1=	^		
82-4	3	表採	磁器	小皿	(7.2)	(3.6)		1.8		釉薬)オリープ灰5/2 10Y	密	良	20%(口縁~底部片)	体部~底部
.	Ĭ		(青磁)	,	(	(3.0)				素地)灰黄7/2 2.5Y		^	(H-179 /ENH9/1)	無釉
82-5	4	灰色粘土	磁器	碗	(17.8)			(2.9)		釉薬)灰白8/1 7.5Y	密	良	10%(口縁部片)	口縁部施釉
			(白磁)							素地)灰白8/1 7.5Y				
82-6		5層	須恵器	甑か	長(8.1)		直径2.5~2.6		面取り	灰白8/1 2.5GY	1㎜以下白色砂粒少含	不良	10%(把手片)	
82-7	2		瓦質製品	人 形(地蔵)	長(5.2)	幅3.1	奥行4.1			暗灰3/ N	1㎜以下白色砂粒少含	良	20%(片耳欠損)	
22.1	-			(地蔵)						-8/30/ 11		1		-
$\rightarrow$		SD02	木器		長26.1	幅11.8	厚1.4					-		
			木器		長 326.6	幅4.1	厚0.7							
$\rightarrow$	-		木器		長34.2	幅14.3	4.2-0.4					$\vdash$		-
$\rightarrow$	_	SD01 Pno40		磨製		幅5.2						$\vdash$		
- 1	2		石器		長11.5		厚2.5							



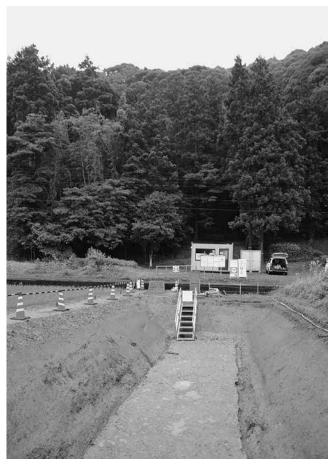
## 図版 1 海石西遺跡



上空から見た海石西遺跡(西から)



調査前状況(南東から)



遺跡と背後の丘陵(北東から)



遺跡と東側の丘陵(南西から)

## 図版 3 海石西遺跡



土層堆積状況(北東から)



北壁土層堆積状況(南東から)

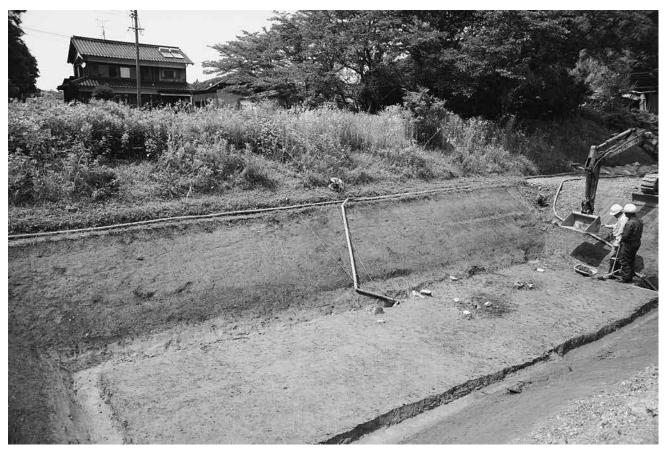


遺物出土状況(南東から)



遺物出土状況(南東から)

# 図版 5 海石西遺跡



遺物出土状況(南から)



完掘状況 (西から)



遺物出土状況(南から)



遺物出土状況(東から)



遺物出土状況(南から)



遺物出土状況(上から)



遺物出土状況(南から)



調査状況(南西から)



調査状況(西から)

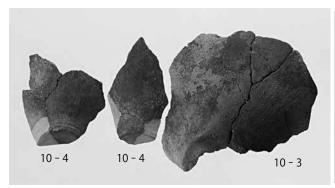
# 図版 9

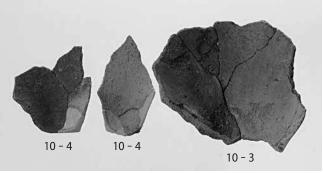




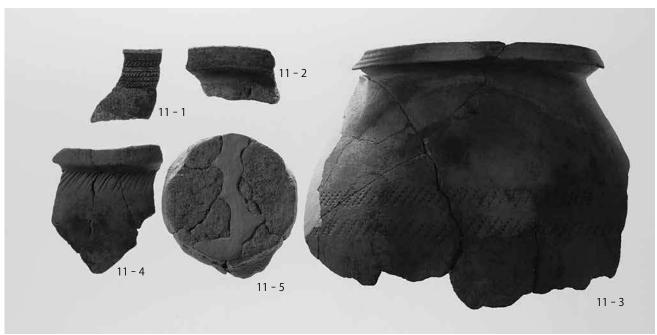


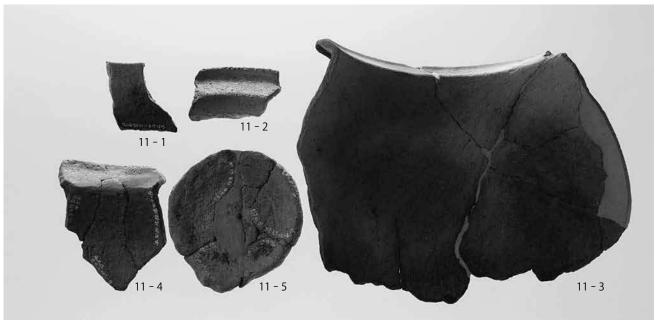






出土遺物 (1)

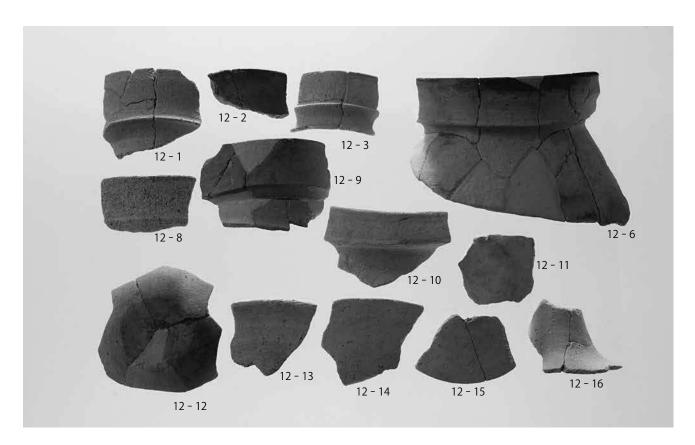


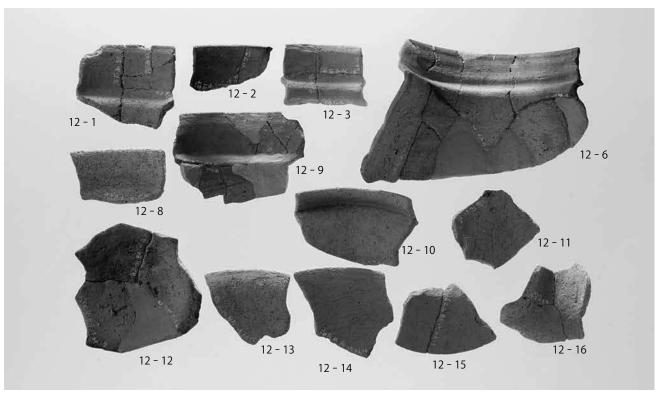




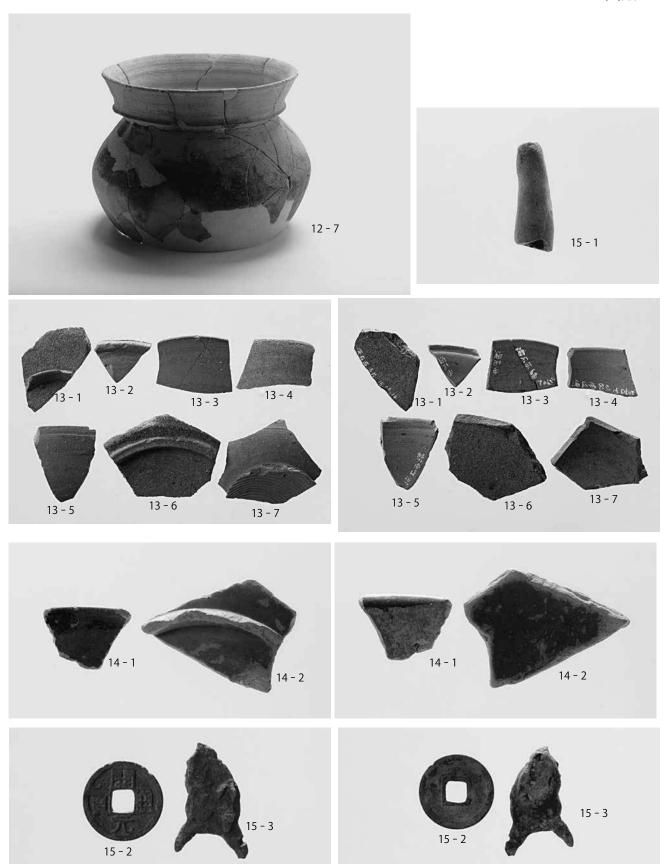
出土遺物 (2)

## 図版 11 海石西遺跡





出土遺物 (3)



出土遺物 (4)



角落し遺跡を上空から臨む(東から)



角落し遺跡を上空から臨む(南から)



角落し遺跡を上空から臨む(西から)

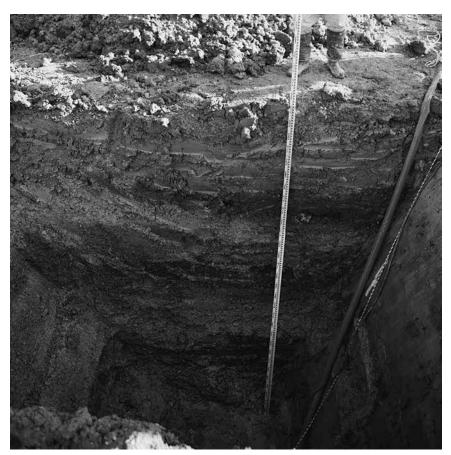
## 図版 15 角落し遺跡



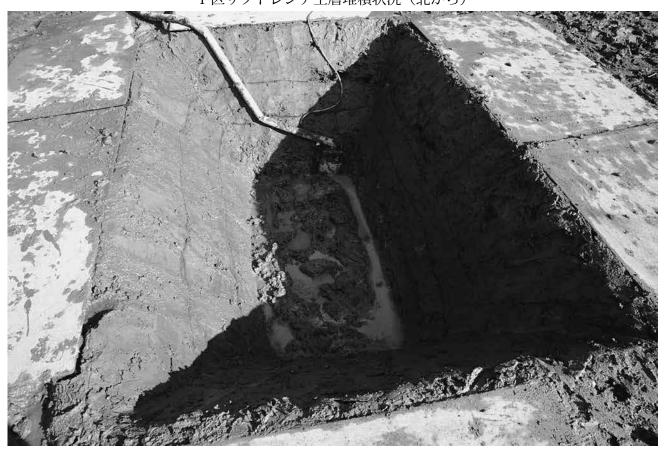
調査前状況 (東から)



2区南西壁面土層堆積状況(北東から)



1区サブトレンチ土層堆積状況(北から)



2区下層土層堆積状況(西から)



SX01 検出状況(北西から)



SX01 検出状況(南から)



上層杭列検出状況(北から)

## 図版 19 角落し遺跡



上層杭列検出状況(南西から)



上層杭列検出状況(西から)



上層杭列検出状況(北から)



上層杭列検出状況(西から)

# 図版 21 角落し遺跡



下層杭列検出土状況(西から)



下層杭列検出状況(東から)



遺物出土状況(上から)



遺物出土状況(上から)

## 図版 23 角落し遺跡



遺物出土状況(南から)



遺物出土状況(南西から)



遺物出土状況(北西から)



遺物出土状況(北から)

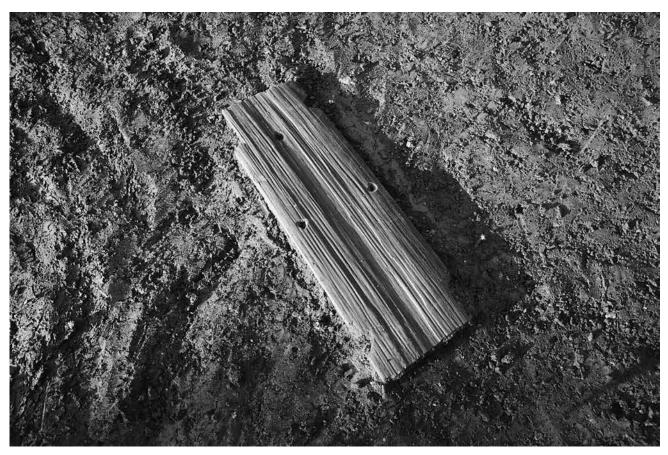
## 図版 25 角落し遺跡



遺物出土状況(北西から)



遺物出土状況(南から)



遺物出土状況(東から)



発掘調査状況(南東から)

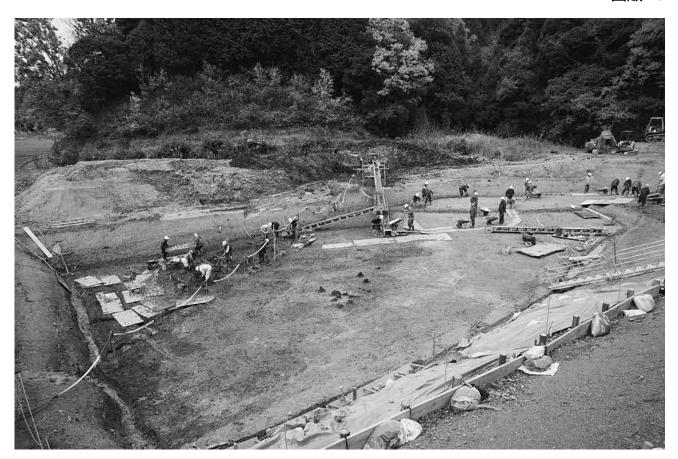
## 図版 27 角落し遺跡



1 区上層遺物出土状況(南西から)



2区下層調査状況(南西から)



1区・2区調査状況(南から)



角落し遺跡から日本海を臨む(南東から)

## 図版 29 角落し遺跡



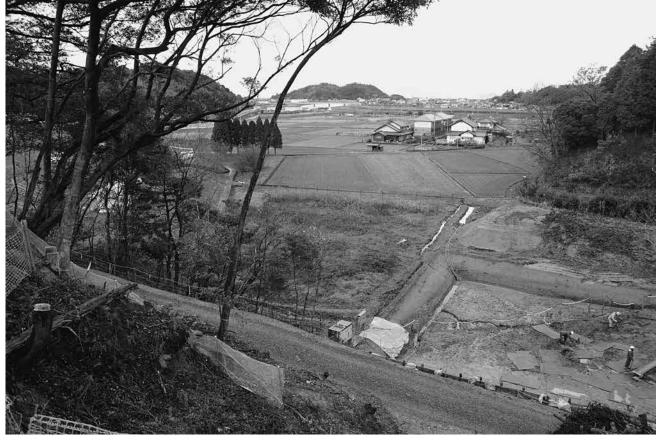
2区完掘状況(南東から)



3 区調査状況(東から)

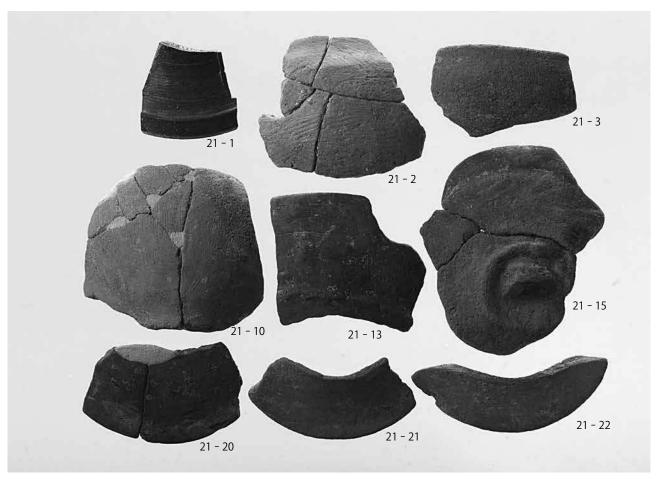


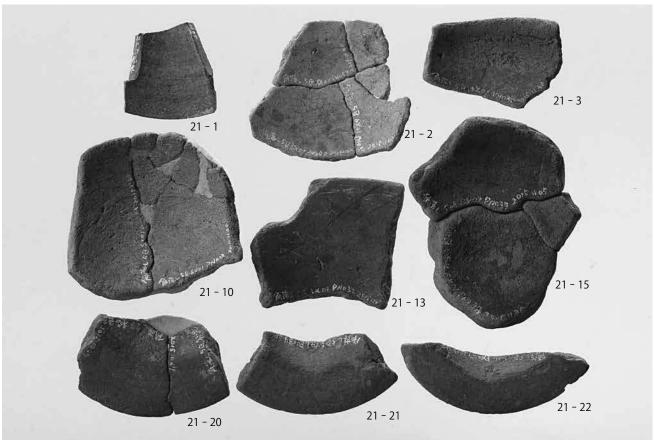
上空から見た角落し遺跡 (上から)



2区と6区〔未調査区〕(南東から)

## 図版 31 角落し遺跡





出土遺物 (1)





出土遺物 (2)

# 図版 33 角落し遺跡









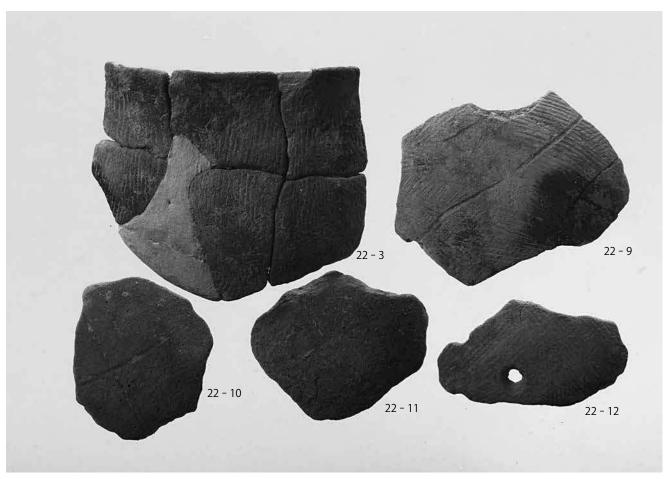
出土遺物 (3)

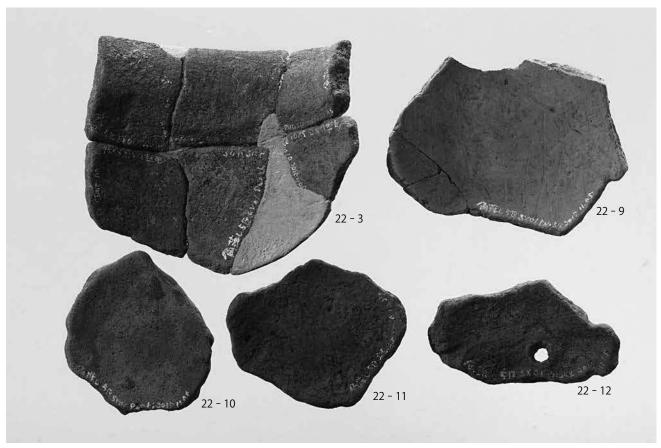




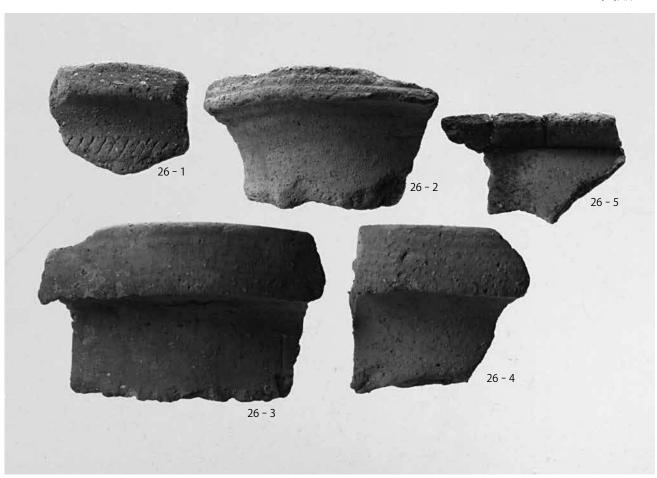
出土遺物 (4)

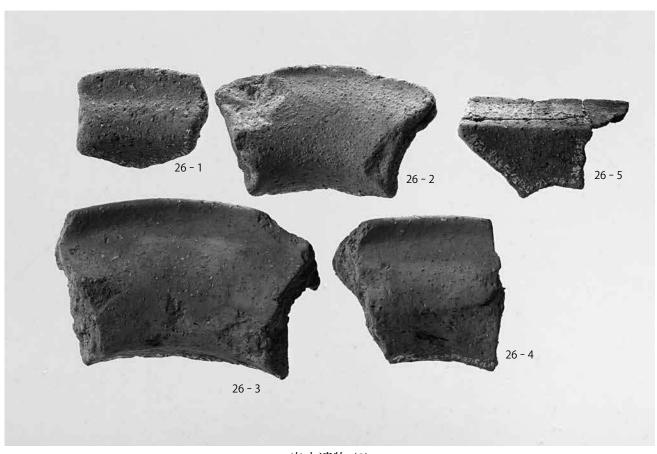
図版 35 角落し遺跡





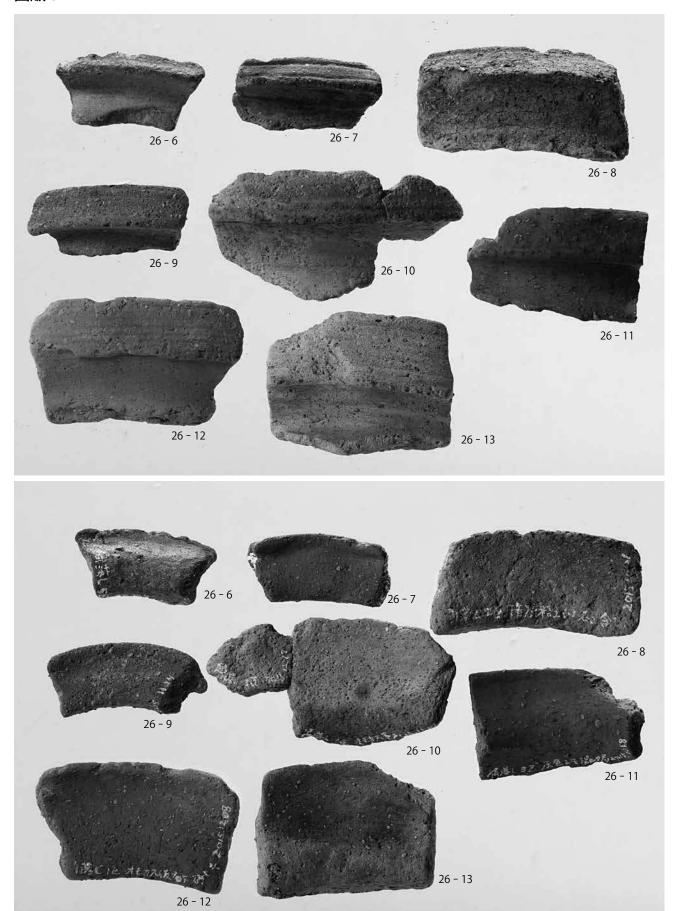
出土遺物 (5)



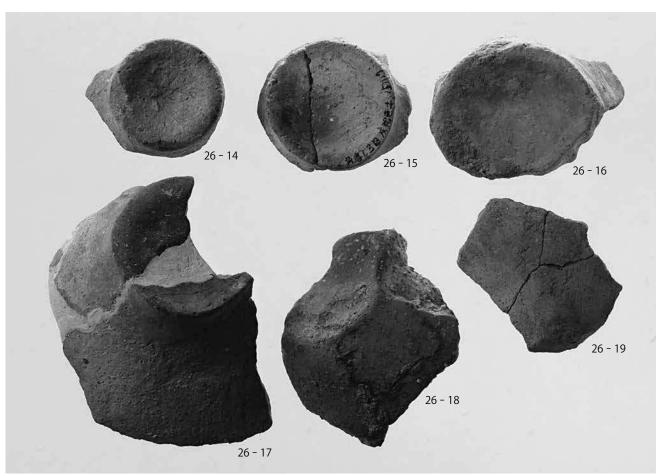


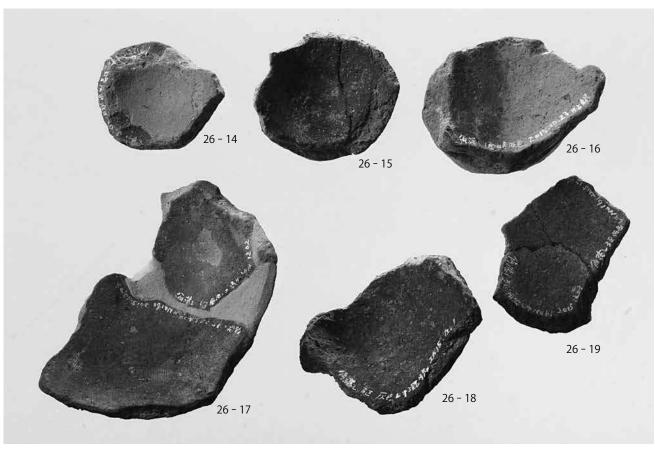
出土遺物 (6)

# 図版 37 角落し遺跡



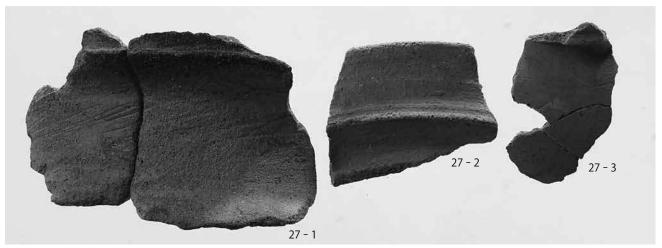
出土遺物 (7)

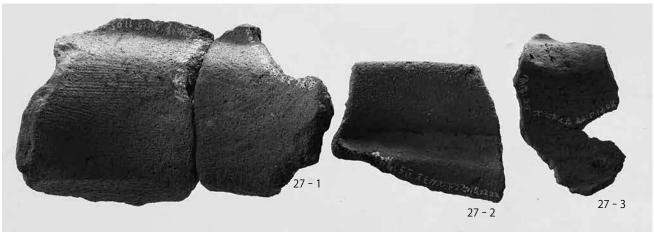




出土遺物 (8)

# 図版 39 角落し遺跡







出土遺物 (9)

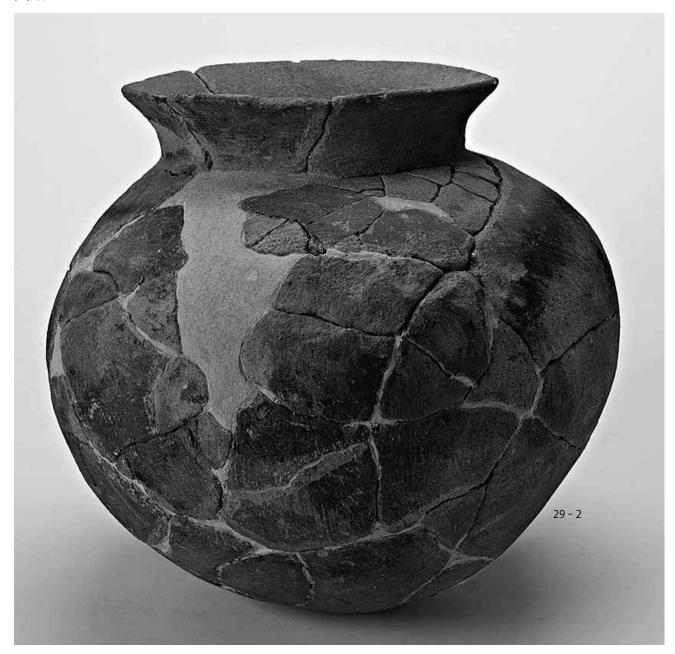


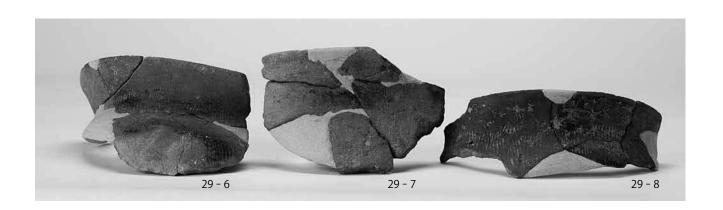




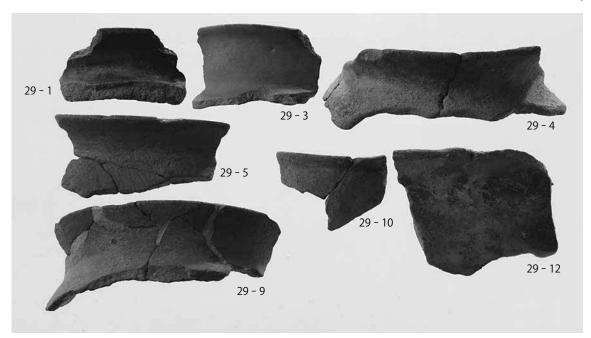
出土遺物 (10)

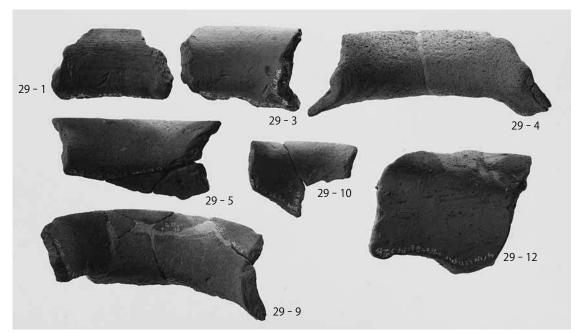
# 図版 41 角落し遺跡





出土遺物 (11)



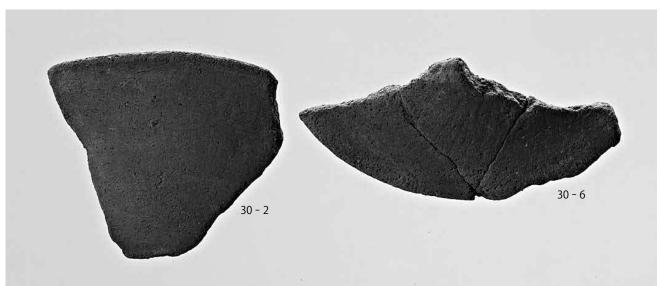




出土遺物 (12)

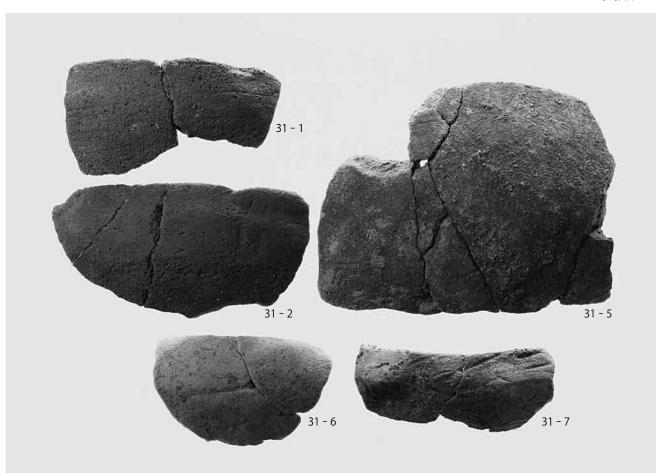
図版 43 角落し遺跡

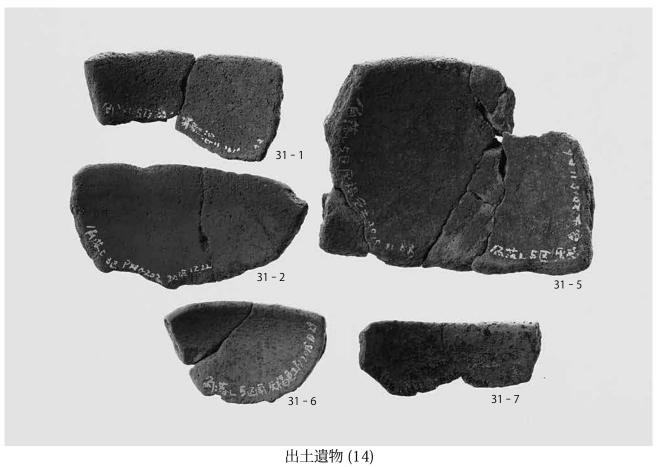






出土遺物 (13)





# 図版 45 角落し遺跡





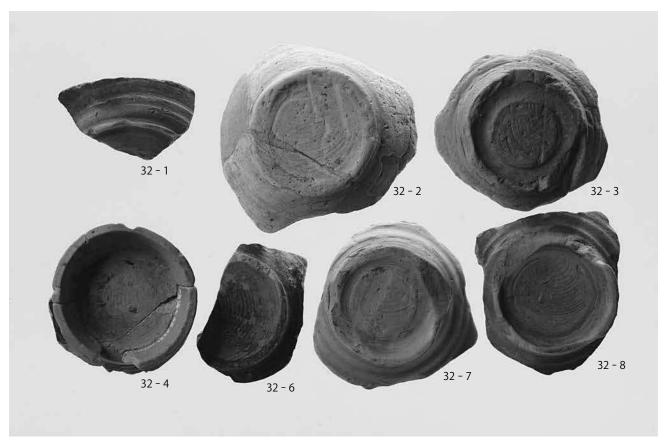




出土遺物 (15)

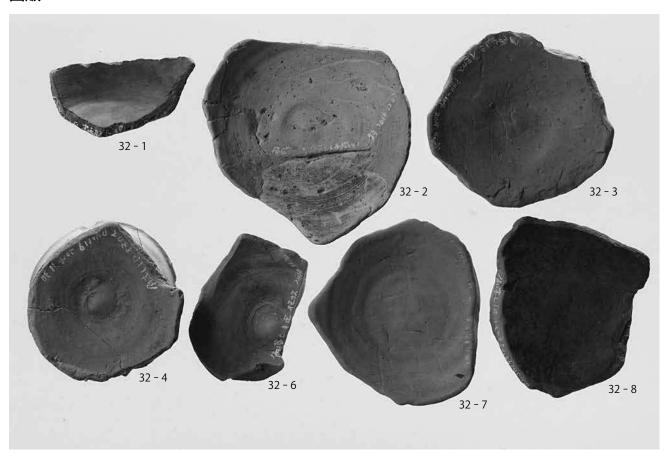


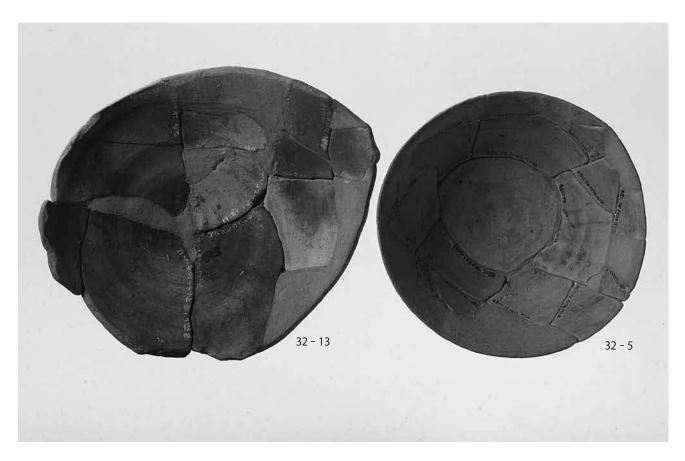




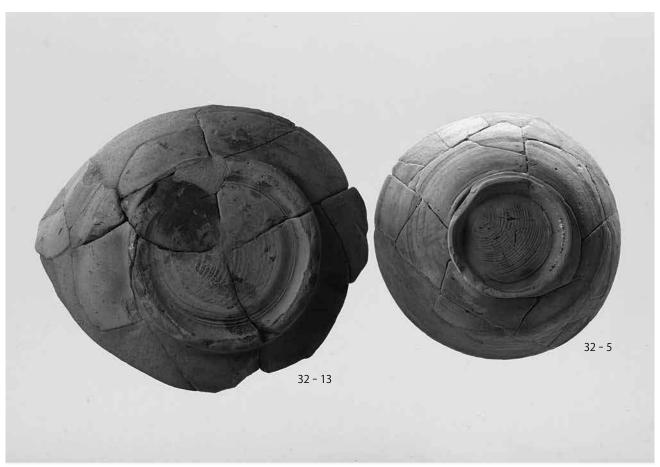
出土遺物 (16)

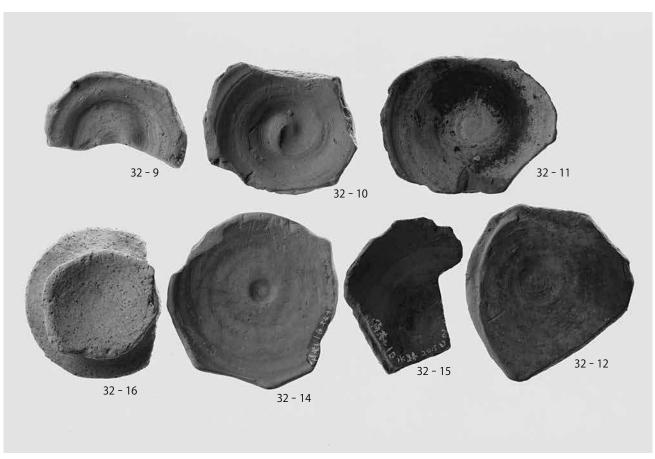
図版 47 角落し遺跡





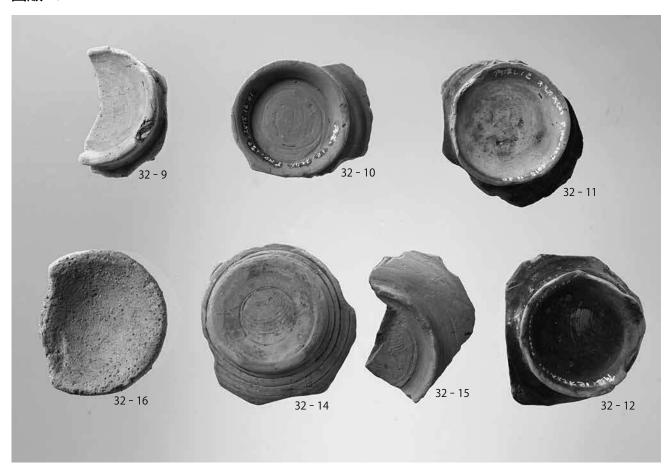
出土遺物 (17)





出土遺物 (18)

# 図版 49 角落し遺跡

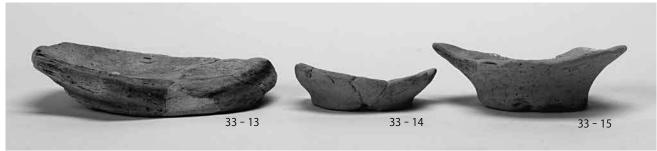




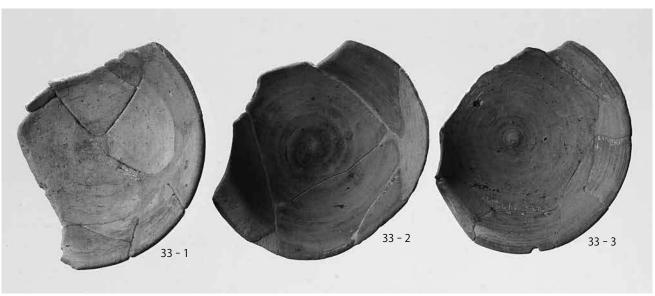


出土遺物 (19)



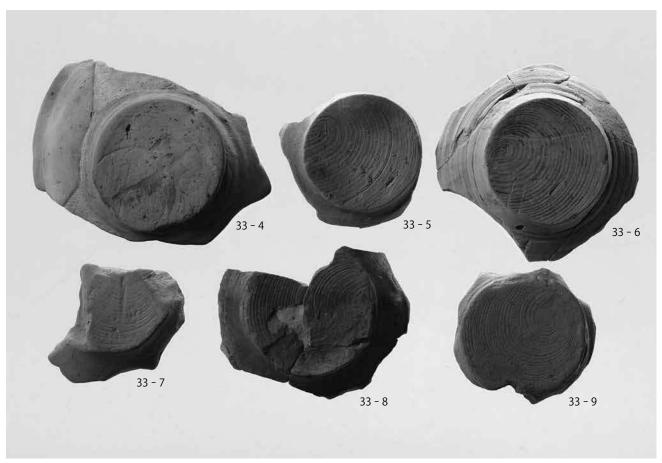


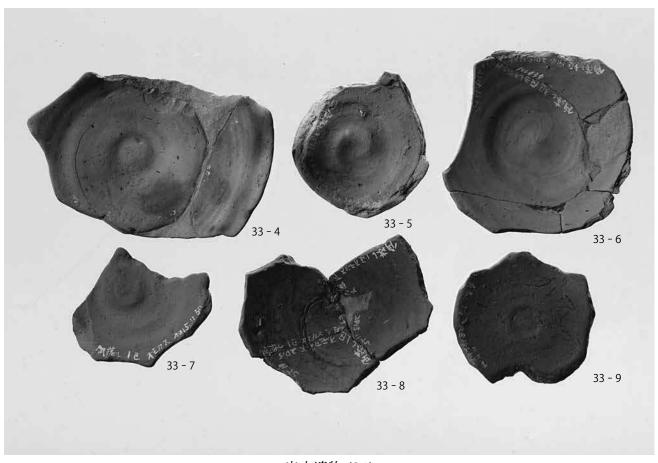




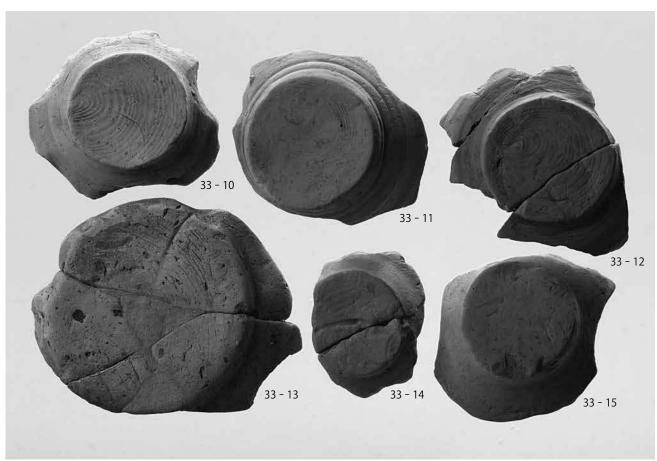
出土遺物 (20)

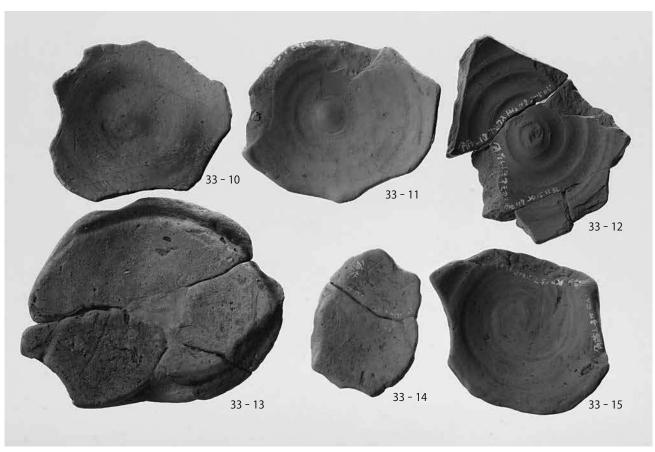
図版 51 角落し遺跡





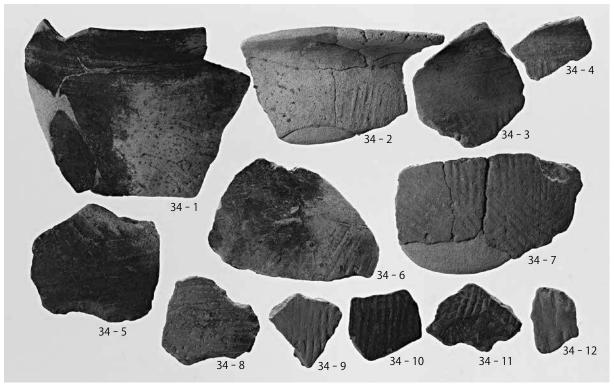
出土遺物 (21)

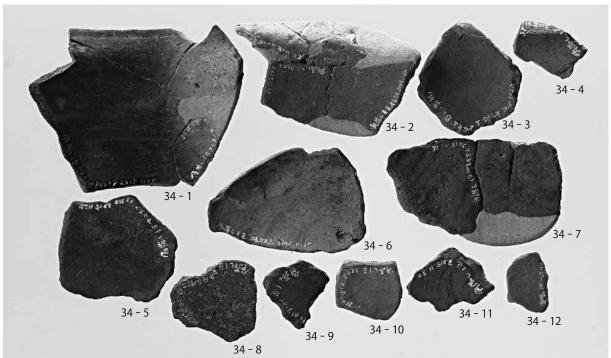




出土遺物 (22)

## 図版 53 角落し遺跡

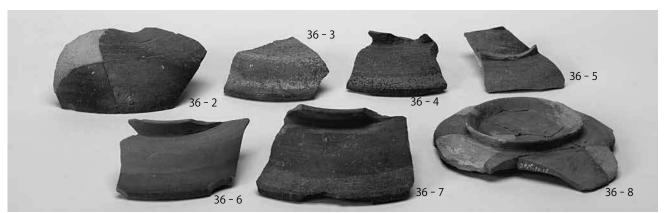


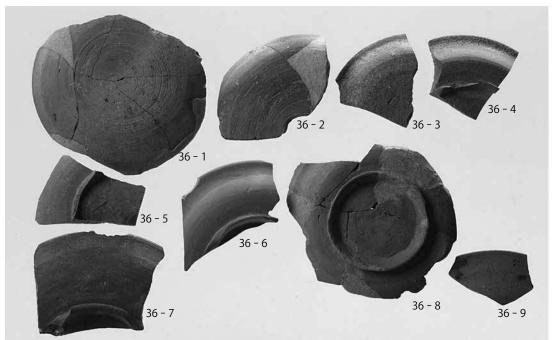


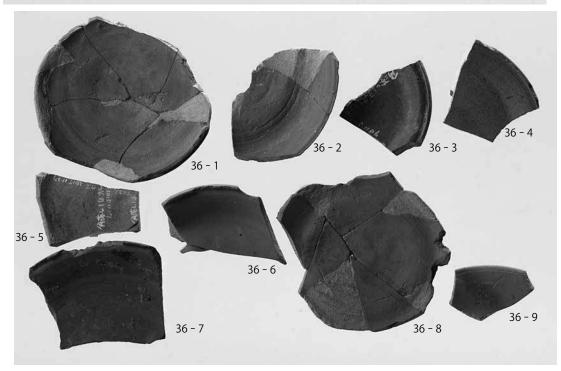




出土遺物 (23)

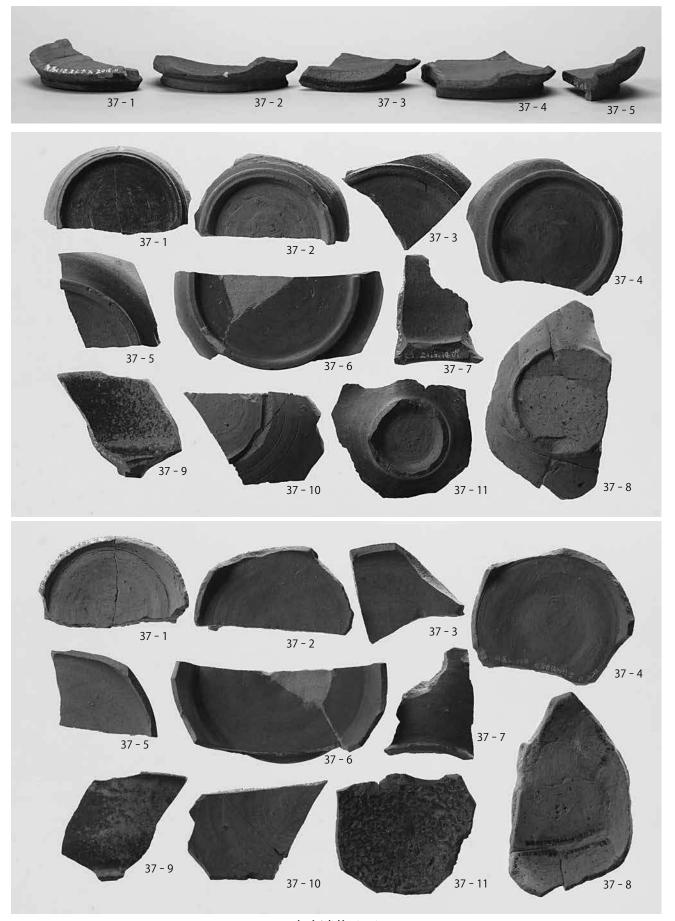






出土遺物 (24)

## 図版 55 角落し遺跡



出土遺物 (25)





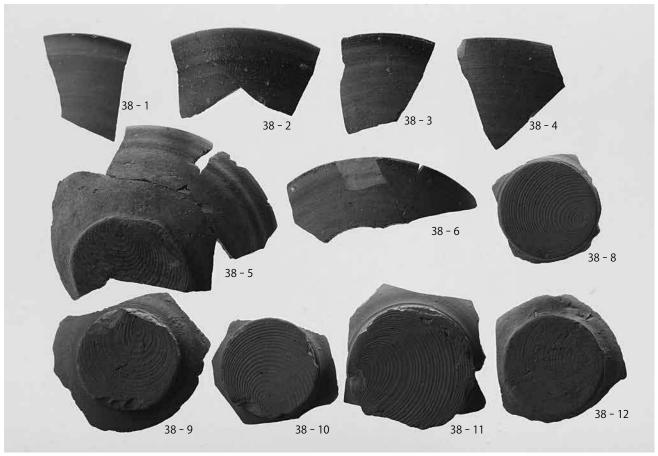


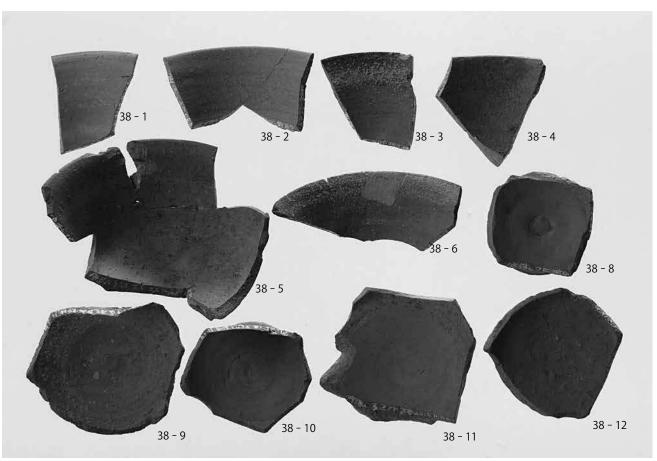




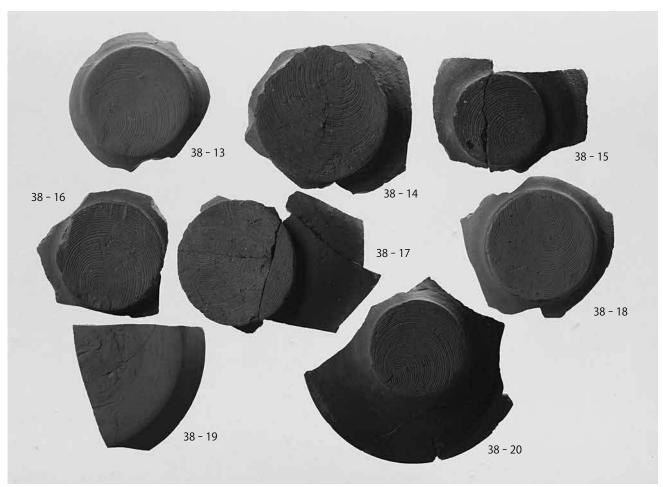
出土遺物 (26)

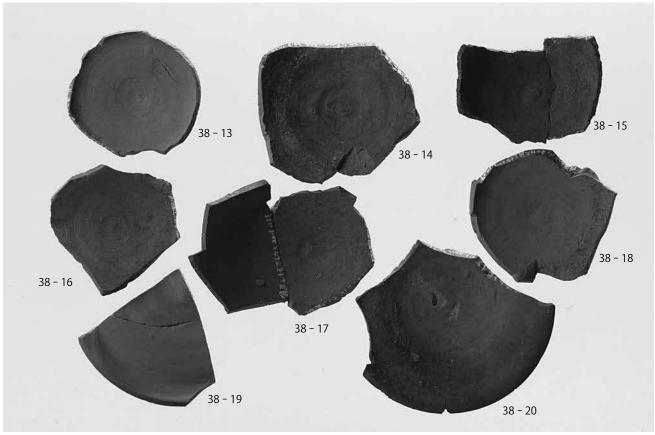
# 図版 57 角落し遺跡





出土遺物 (27)

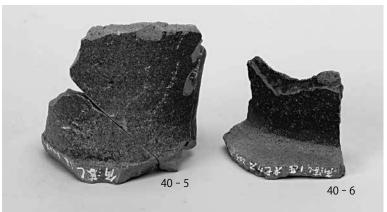


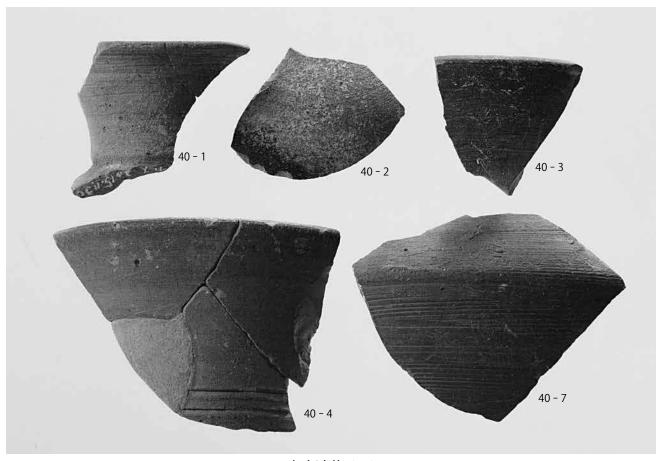


出土遺物 (28)

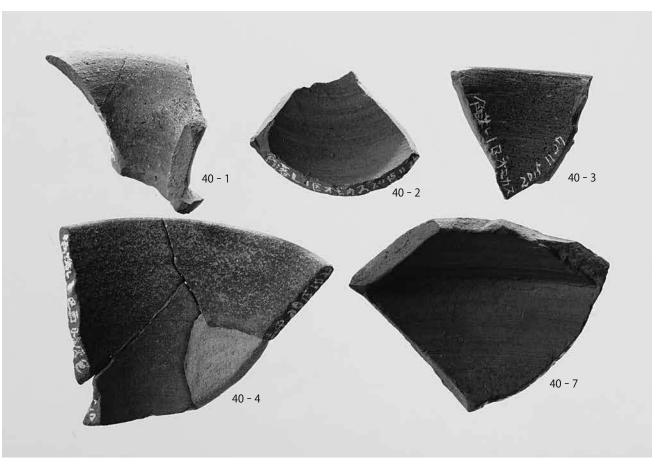
図版 59 角落し遺跡

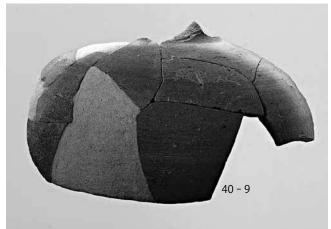


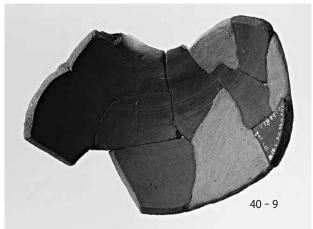




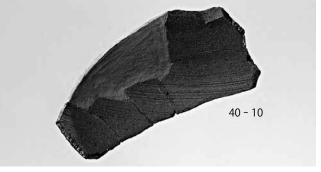
出土遺物 (29)





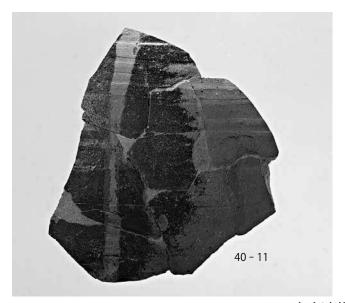


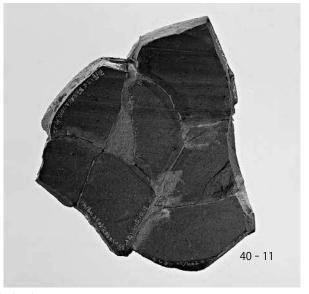




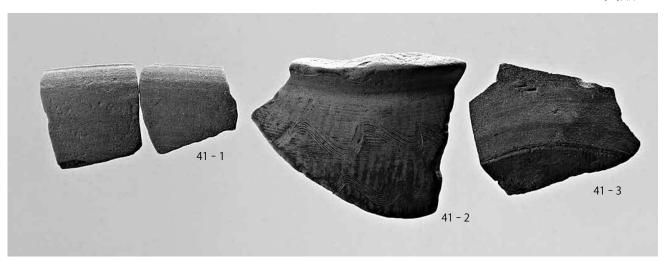
出土遺物 (30)

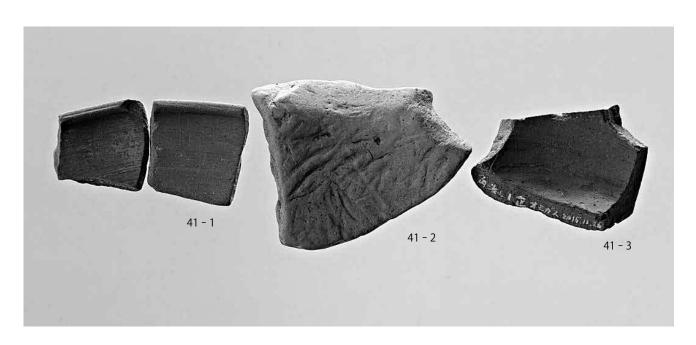






出土遺物 (31)

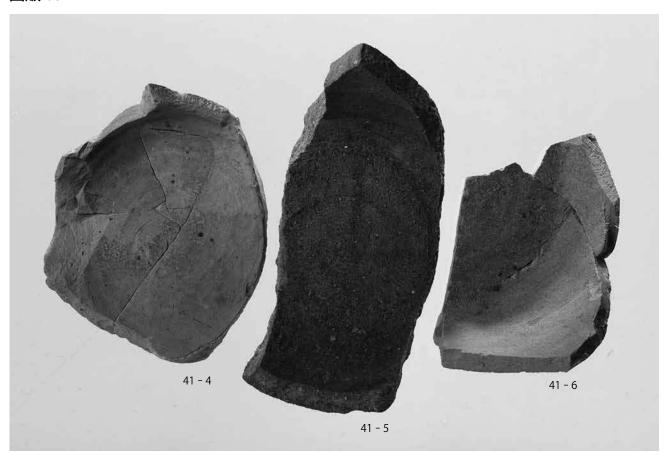


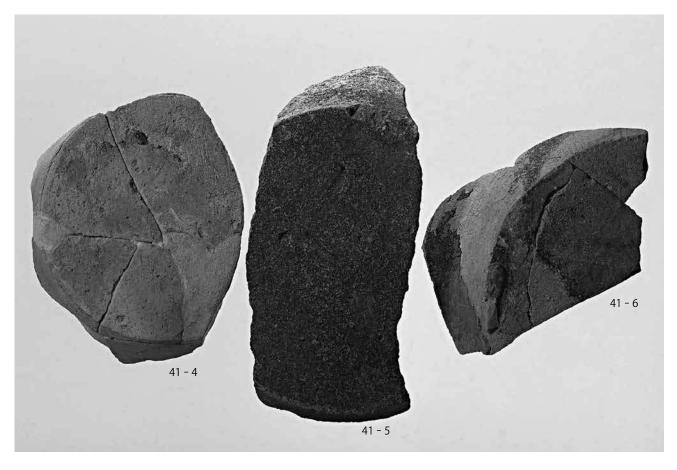




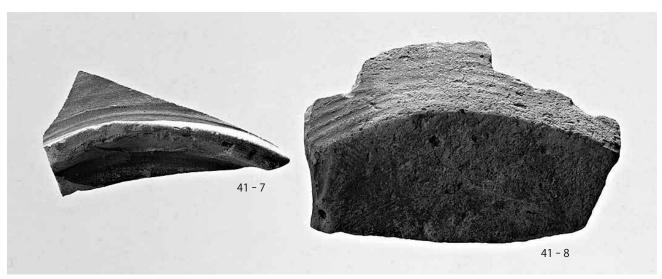
出土遺物 (32)

# 図版 63 角落し遺跡





出土遺物 (33)

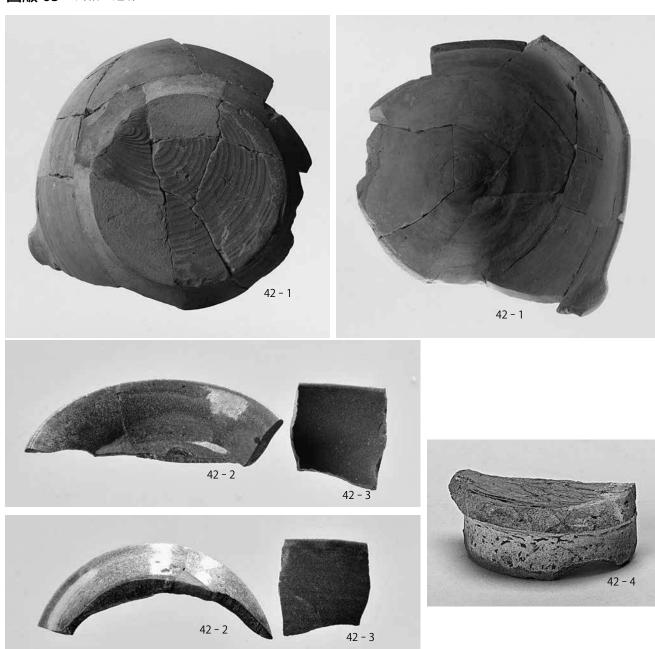


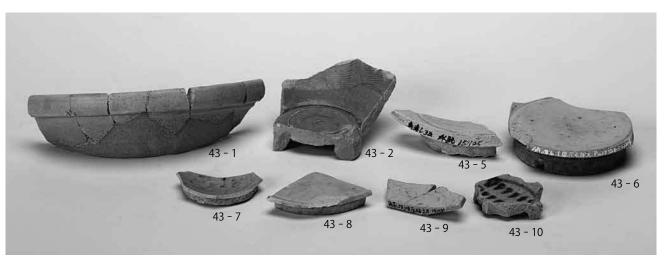




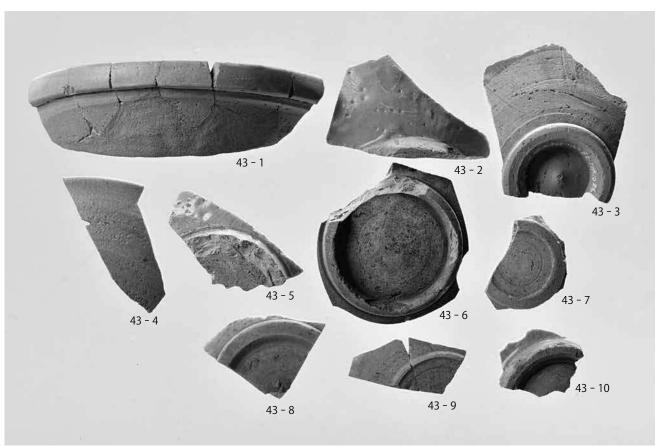
出土遺物 (34)

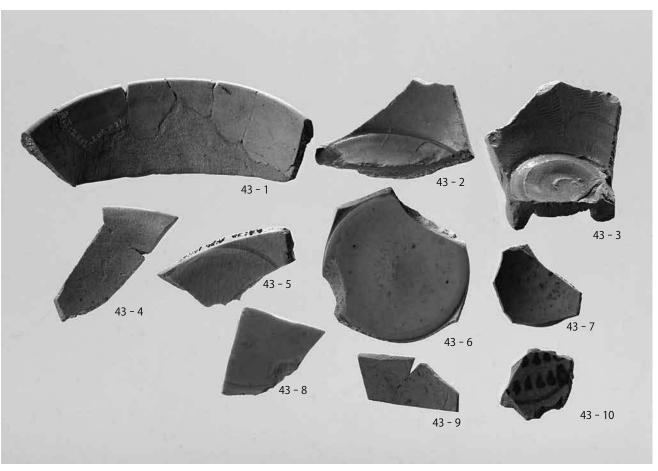
# 図版 65 角落し遺跡



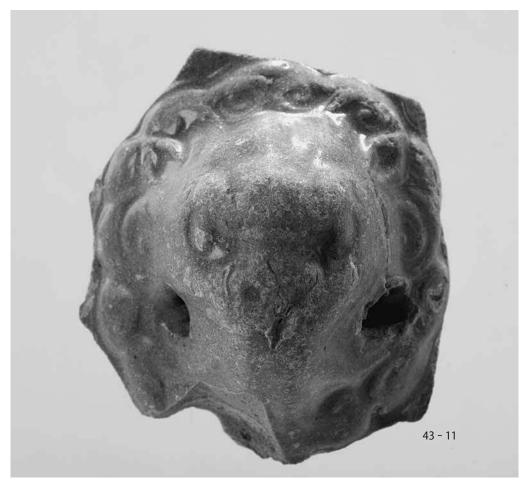


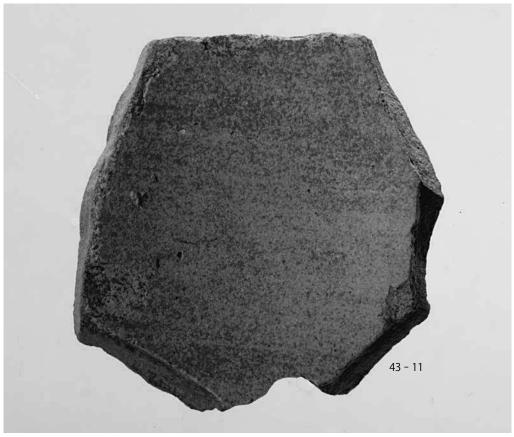
出土遺物 (35)



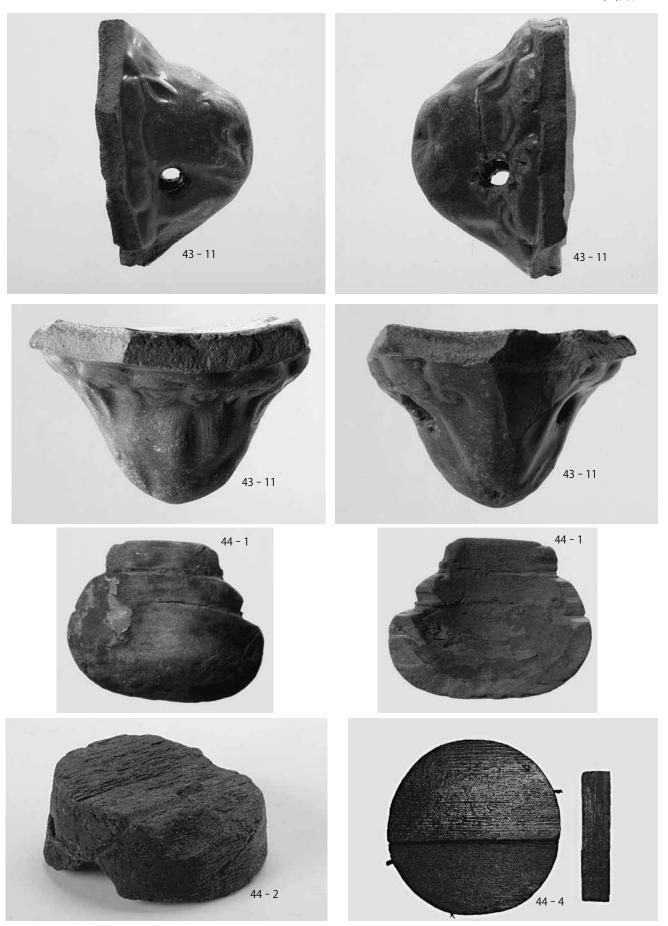


出土遺物 (36)



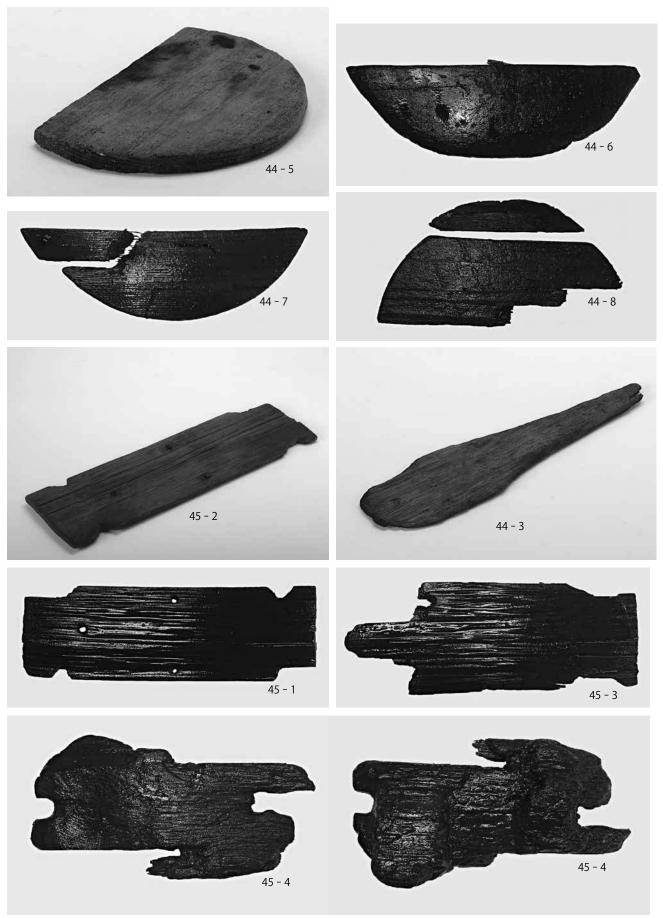


出土遺物 (37)

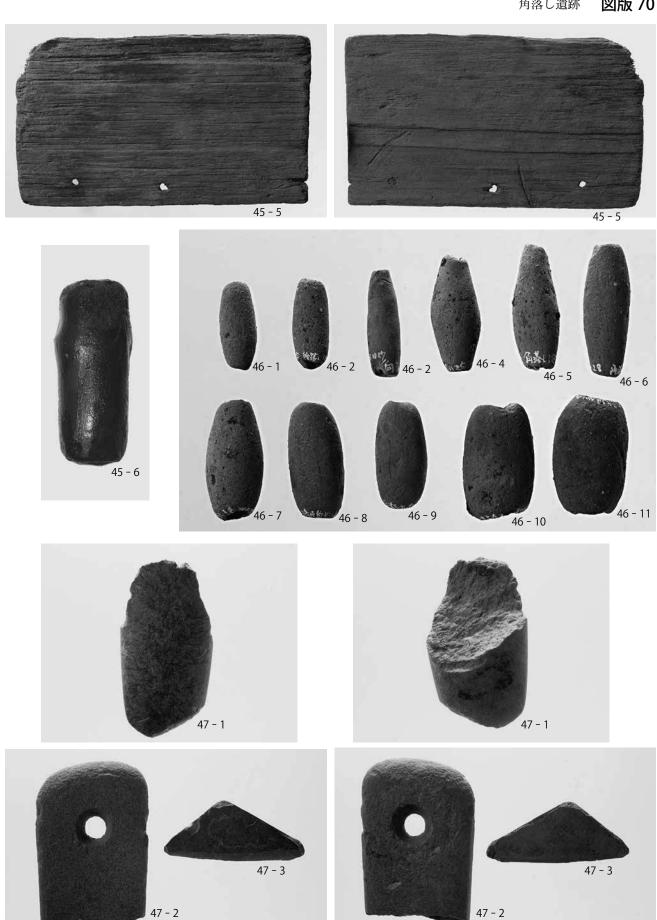


出土遺物 (38)

図版 69 角落し遺跡



出土遺物 (39)



出土遺物 (40)

# 図版 71 廻り田遺跡



調査前塚状遺構(東から)



益田方面を臨む(北東から)



完掘状況 (上空から)



浜田方面を臨む (南西から)



調査前状況(北東から)



調査前状況(南西から)



調査前状況(東から)



調査状況(東から)



表土除去状況(東から)



表土除去状況(西から)

# 図版 75 廻り田遺跡



平坦面表土除去後状況(南西から)



表土除去状況(東から)



塚状遺構 1 表土除去状況(東から)



塚状遺構 1 表土除去状況(南東から)



塚状遺構 1 礫散布状況(北西から)



塚状遺構 1 北側土層堆積状況(北東から)



塚状遺構 1 西側土層堆積状況(北西から)



塚状遺構 1 盛土除去後状況(北西から)



塚状遺構 1 旧表土除去後状況(南西から)



塚状遺構 2 表土除去状況(北から)



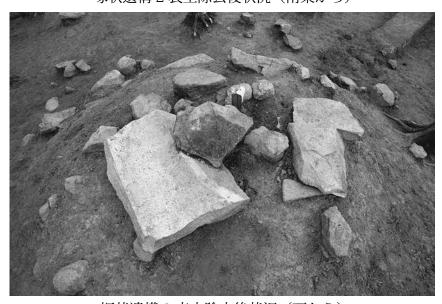
塚状遺構 2 表土除去後状況(北から)



塚状遺構2表土除去後状況(西から)



塚状遺構 2 表土除去後状況(南東から)



塚状遺構 2 表土除去後状況(西から)



塚状遺構2西側土層堆積状況(西から)



塚状遺構2西側土層堆積状況(南西から)



塚状遺構 2 土層堆積状況(南東から)



塚状遺構2東側土層堆積状況(東から)



塚状遺構 2 盛土除去後状況 (西から)



塚状遺構 2 旧表土除去後状況(西から)



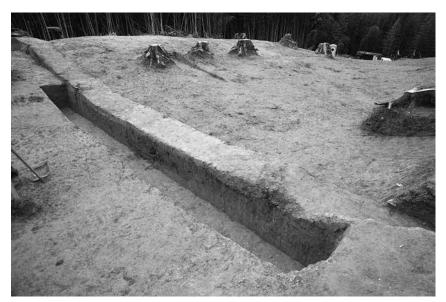
平坦面土層堆積状況(西から)



平坦面土層堆積状況(南東から)



平坦面土層堆積状況(北東から)



平坦面土層堆積状況(北から)



平坦面完掘状況(南西から)



平坦面完掘状況(西から)



溝状遺構 1 検出状況(北東から)



平坦面と溝状遺構2完掘状況(南西から)



溝状遺構 1 完掘状況(南西から)



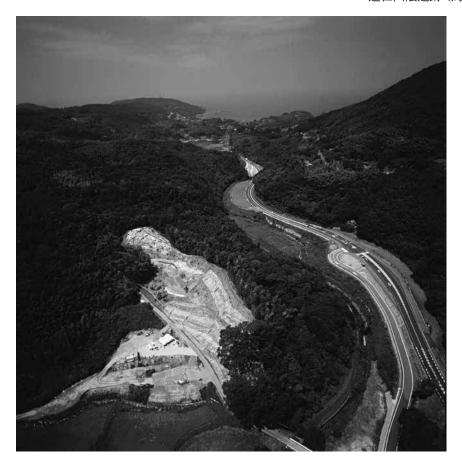
溝状遺構 2 完掘状況(南西から)



SX01 土層堆積状況(北東から)



SX01 完掘状況(西から)



近世山陰道跡(馬橋地区)を臨む(南東から)



同上(西から)



近世山陰道跡(馬橋地区)を臨む(南から)



石垣1・2検出状況(南東から)



近世山陰道跡(馬橋地区)調査前状況(西から)



石敷き検出状況 (東から)

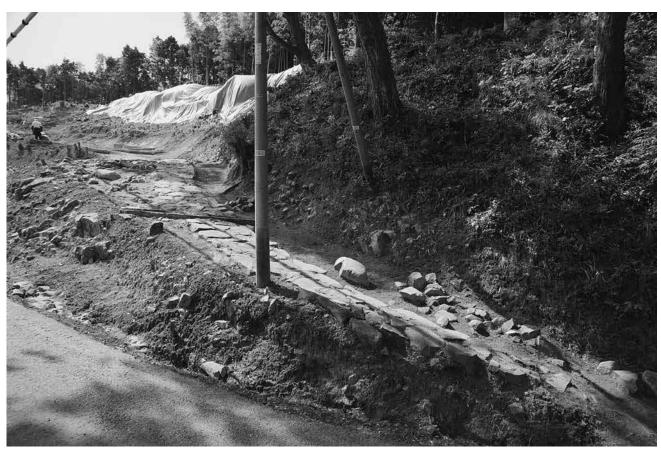
# 図版 89 近世山陰道跡 (馬橋地区)



石敷き検出状況(北から)



石敷き検出状況 (東から)



石敷き検出状況(南東から)



石敷き検出状況 (東から)

## 図版 91 近世山陰道跡 (馬橋地区)



石敷き検出状況(東から)



石敷き検出状況 (西から)

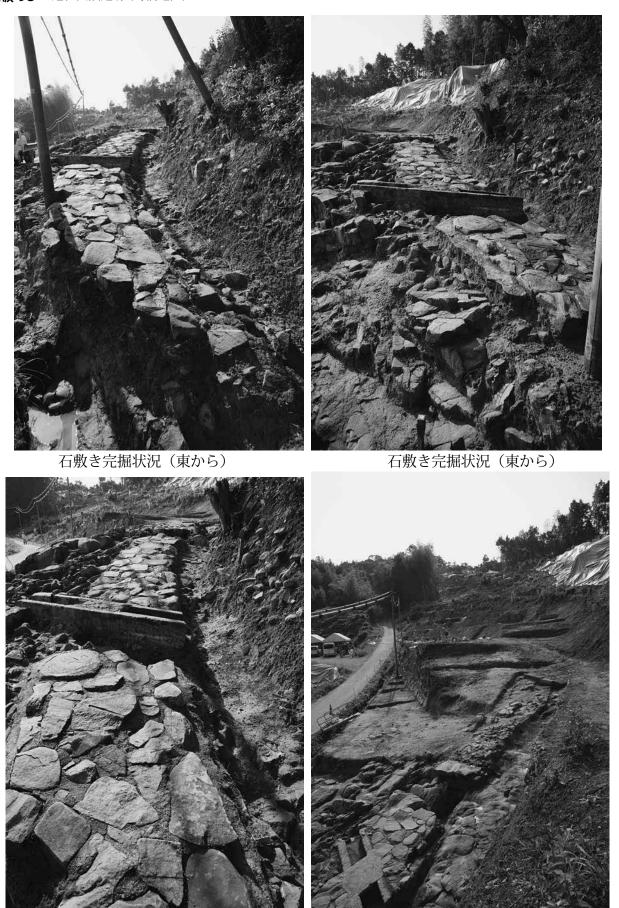


石敷き下部検出状況(東から)



石敷き下部完掘状況(南東から)

## 図版 93 近世山陰道跡 (馬橋地区)



石敷き完掘状況 (東から)

石敷き完掘状況 (東から)



石敷き完掘状況(東から)



石敷き完掘状況 (東から)

## 図版 95 近世山陰道跡 (馬橋地区)



石敷き・溝跡完掘状況 (東から)



石敷き・溝跡完掘状況(東から)



石敷き完掘状況(北から)



石敷き完掘状況(北から)

## 図版 97 近世山陰道跡 (馬橋地区)



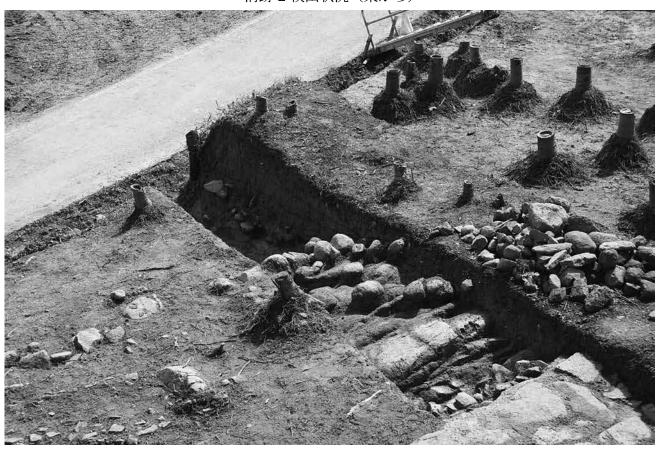
溝跡 1・石垣 4 完掘状況(南東から)



溝跡 1 土層堆積状況(南東から)

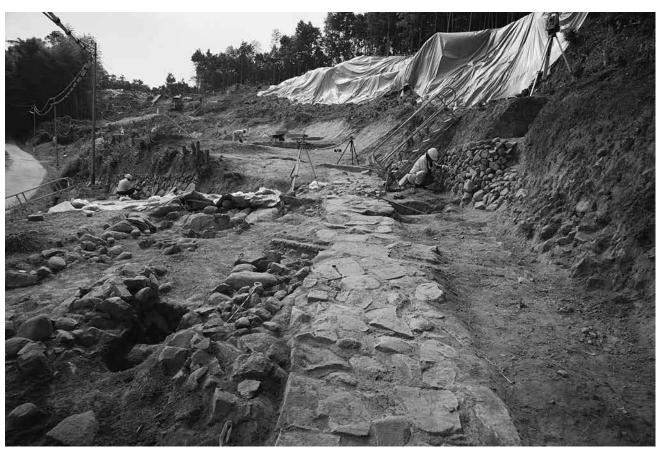


溝跡 2 検出状況(東から)



石敷き周辺土層堆積状況(北東から)

# 図版 99 近世山陰道跡 (馬橋地区)



石敷き及び溝跡 1・2 検出状況(南東から)



溝跡 1・石垣 4 検出状況(南東から)



石垣 4 検出状況(南西から)



石垣4完掘状況(南東から)

## 図版 101 近世山陰道跡 (馬橋地区)



石垣4検出状況(南西から)



石垣4上部・平坦面5土層堆積状況(南から)



石垣 1 完掘状況(東から)

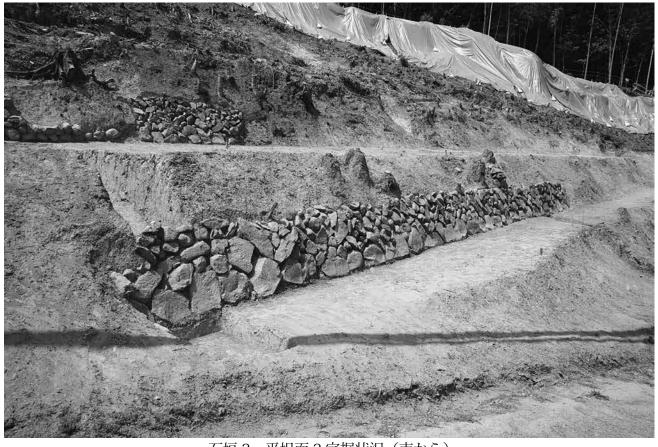


石垣1完掘状況(南から)

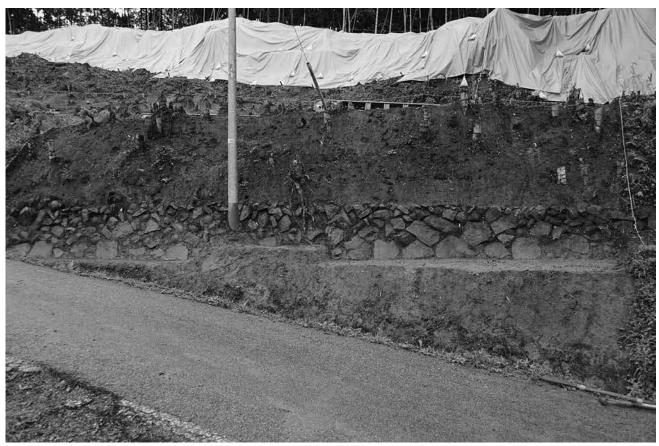
## 図版 103 近世山陰道跡 (馬橋地区)



石垣 1・平坦面 1 完掘状況(南西から)



石垣 2・平坦面 2 完掘状況(南から)



石垣3完掘状況(南東から)



石垣3完掘状況(南西から)

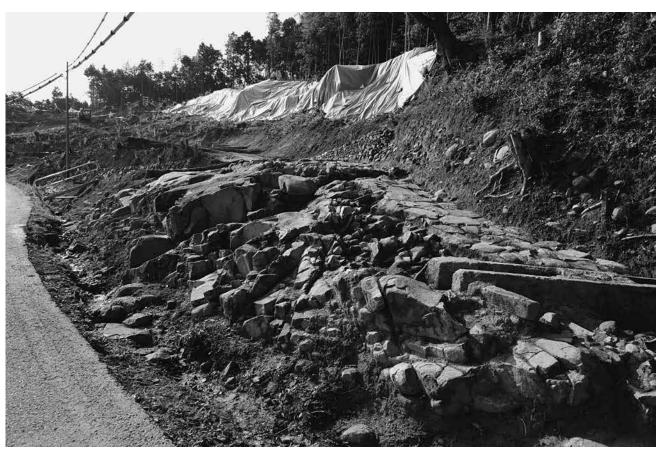
## 図版 105 近世山陰道跡 (馬橋地区)



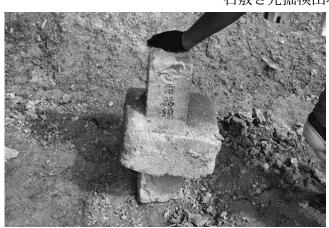
平坦面 5 完掘状況 (西から)



水路(石敷き)検出状況(南から)



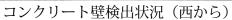
石敷き完掘検出状況(南東から)





標柱出土状況

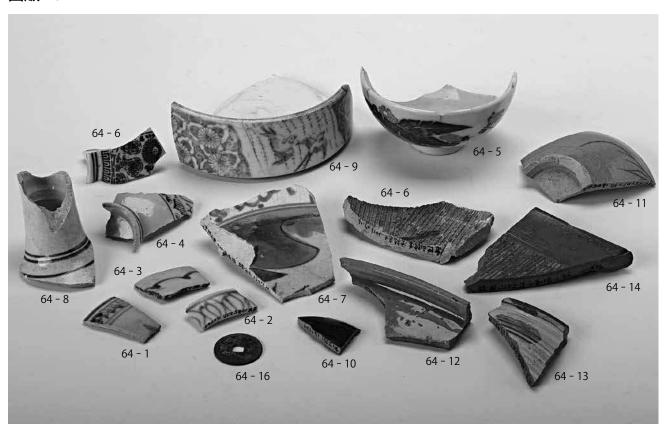


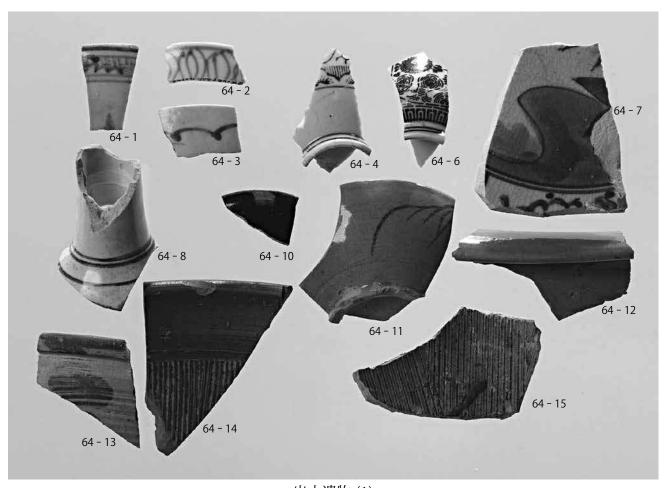




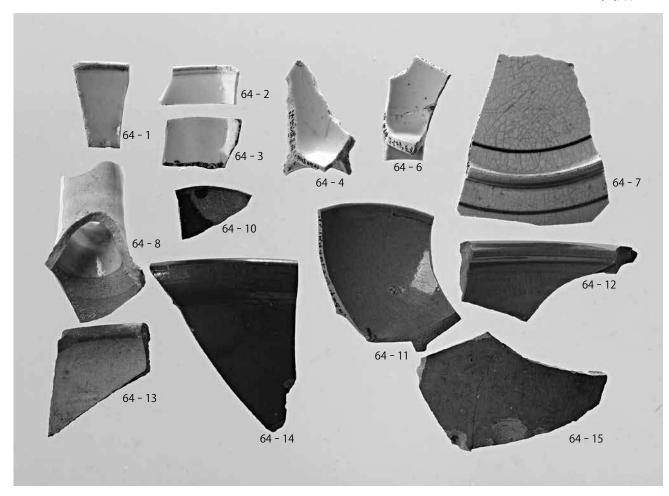
コンクリート壁検出状況(南東から)

# 図版 107 近世山陰道跡 (馬橋地区)





出土遺物 (1)







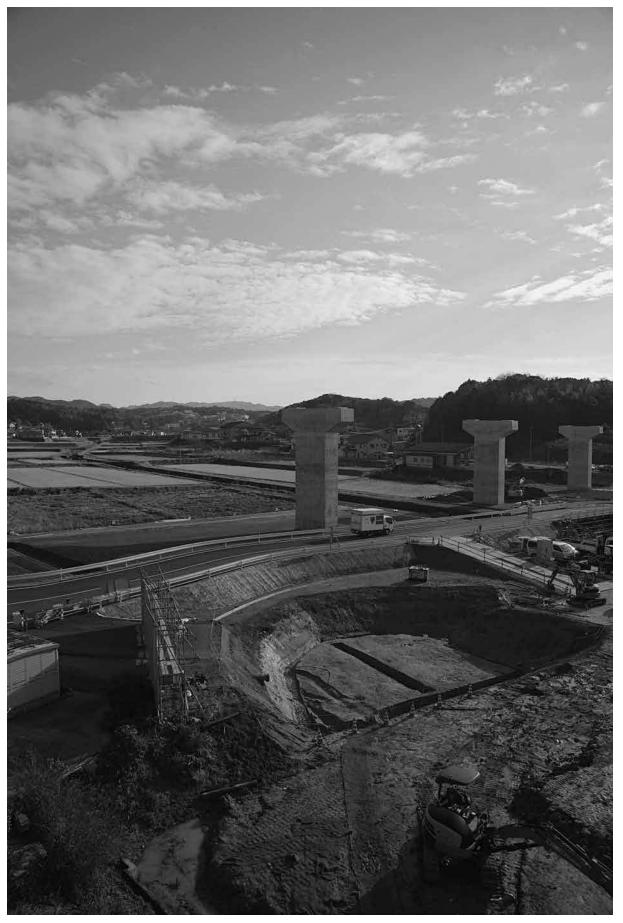
出土遺物 (2)



神出西遺跡1区から3区を臨む(北東から)



神出西遺跡1区から3区を臨む(北西から)



神出西遺跡4区完掘状況(北から)



神出西遺跡1区から3区を臨む(上から)



神出西遺跡1区から3区を臨む(南西から)



神出西遺跡 2 区・3 区北西壁土層堆積状況(北東から)



神出西遺跡 4 区東壁土層堆積状況(西から)

# 図版 113 神出西遺跡



神出西遺跡 1 区完掘状況(北西から)



神出西遺跡 3 区完掘状況(北東から)



神出西遺跡 4 区完掘状況(南東から)



神出西遺跡4区完掘状況(北から)

## 図版 115 神出西遺跡



神出西遺跡 SD01 検出状況(南東から)



神出西遺跡 SD01 土層堆積状況(北西から)



神出西遺跡 SD01 遺物出土状況(北から)





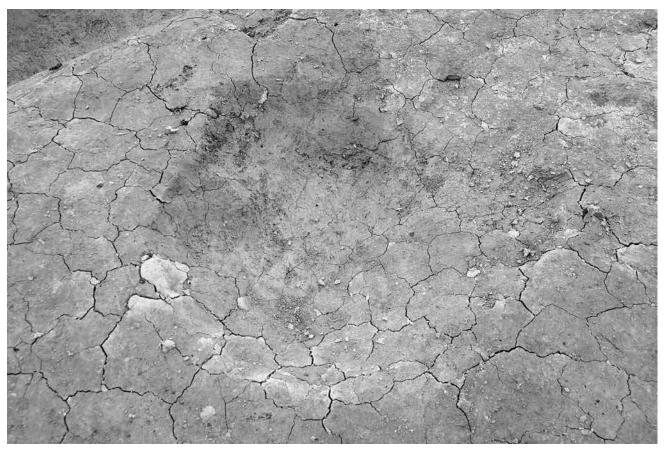


神出西遺跡 SD01 完掘状況(北西から)

# 図版 117 神出西遺跡



神出西遺跡 SK01 土層堆積状況(北西から)



神出西遺跡 SK01 完掘状況(南東から)



神出西遺跡 SD02 調査状況(東から)



神出西遺跡 SD02 完掘状況(南西から)

# 図版 119 神出西遺跡



神出西遺跡 SD02 完掘状況(西から)



神出西遺跡 SD02 完掘状況(東から)



神出西遺跡 SD02 遺物出土状況(南東から)



神出西遺跡区 SD02 遺物出土状況(上から)



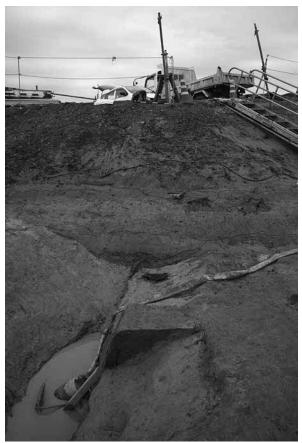
神出西遺跡 SD02 遺物出土状況(南から)



神出西遺跡 SD02 検出状況(西から)



神出西遺跡 SD02 遺物出土状況(北東から)



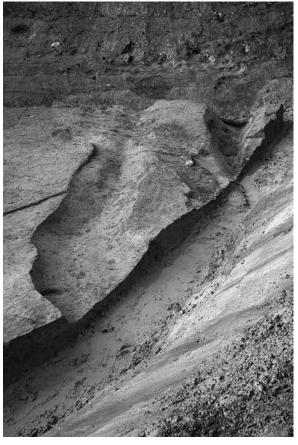
神出西遺跡 SD02 土層堆積状況(東から)



神出西遺跡 SD02 完掘状況(上から)



神出西遺跡 SD03・04 完掘状況(南東から)



神出西遺跡 SD03・04 完掘状況(南東から)



神出西遺跡 SD03・SD04 土層堆積状況(南東から)



神出西遺跡 SD04 遺物出土状況(南東から)



神出西遺跡 SD04 遺物出土状況(上から)



神出西遺跡旧河道遺物出土状況(南東から)



神出西遺跡旧河道遺物出土状況(南東から)

## 図版 125 神出西遺跡



神出西遺跡旧河道土層堆積状況(南東から)



神出西遺跡旧河道遺物出土状況(北東から)



神出西遺跡旧河道遺物出土状況(南東から)



神出西遺跡旧河道遺物出土状況(北東から)



神出西遺跡旧河道遺物と遠田川(北西から)



神出西遺跡3区調査状況(南西から)



神出西遺跡旧河道と遠田川(南東から)

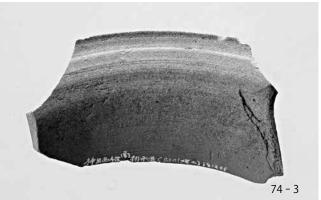
## 図版 129 神出西遺跡





出土遺物 (1)





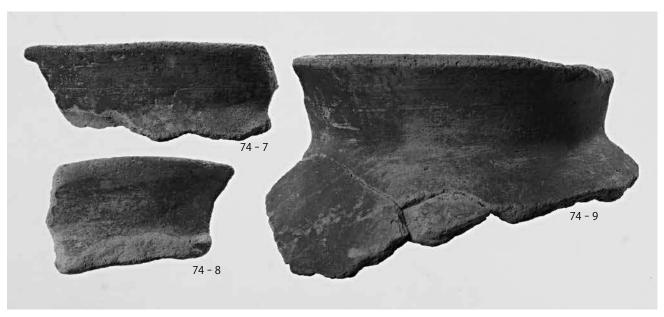


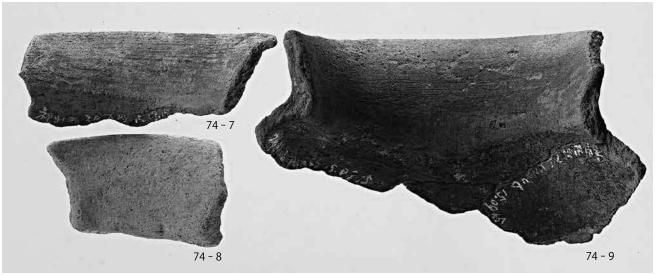


出土遺物 (2)

## 図版 131 神出西遺跡

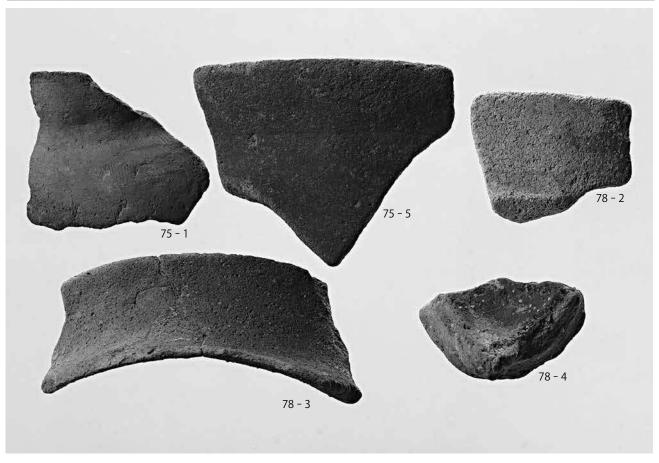






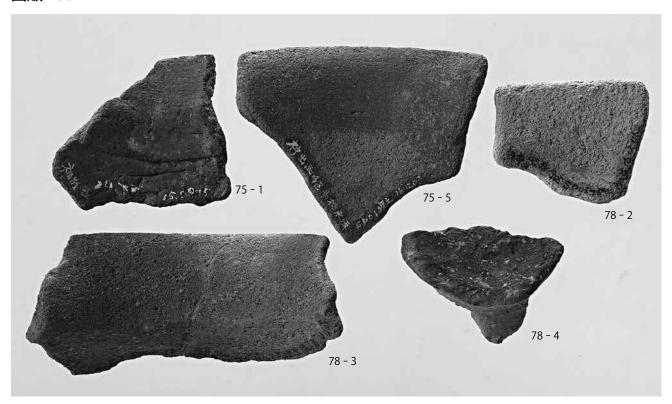
出土遺物 (3)

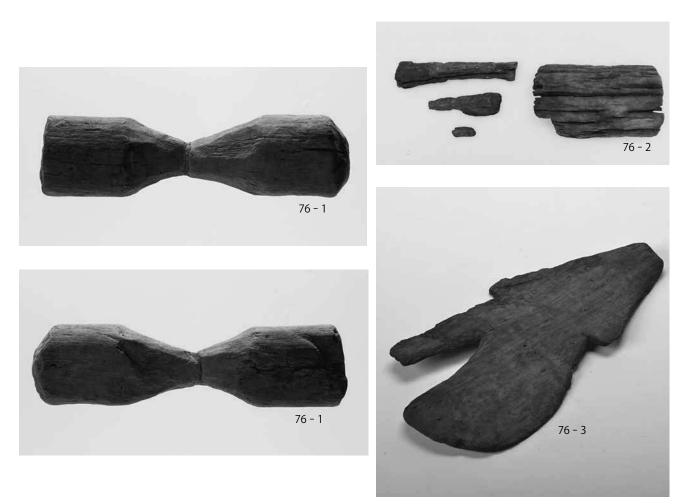




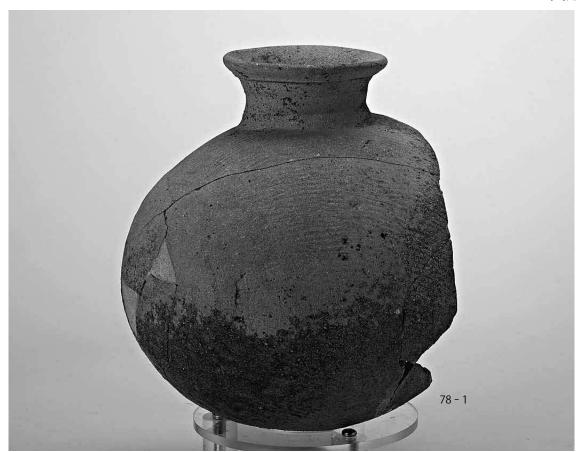
出土遺物 (4)

## 図版 133 神出西遺跡





出土遺物 (5)

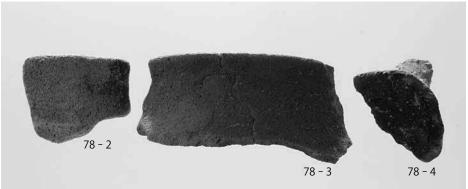


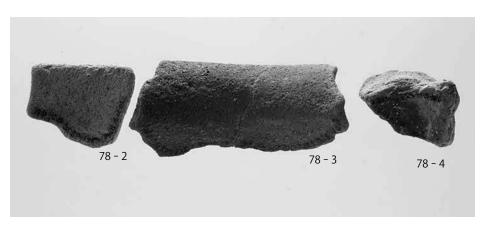


出土遺物 (6)

## 図版 135 神出西遺跡



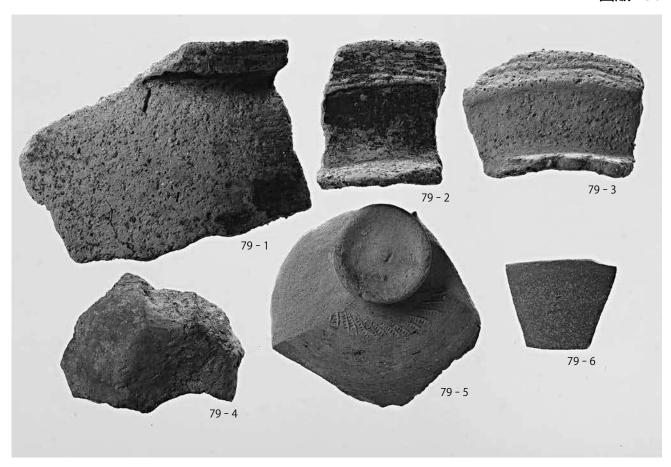


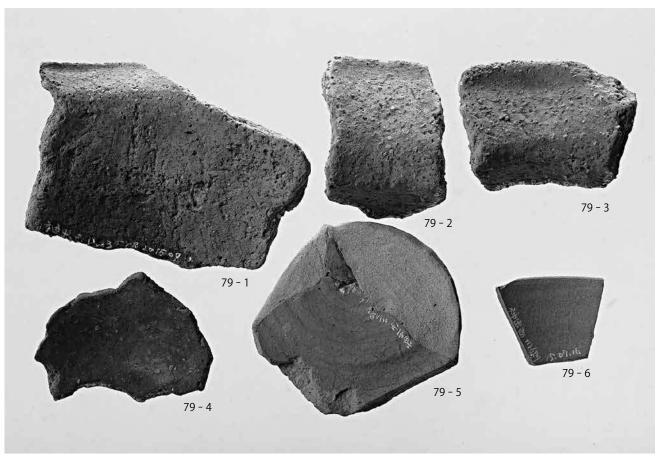






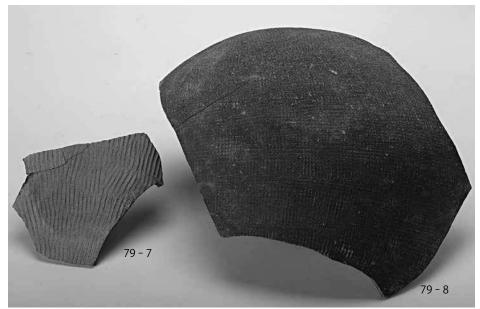
出土遺物 (7)





出土遺物 (8)

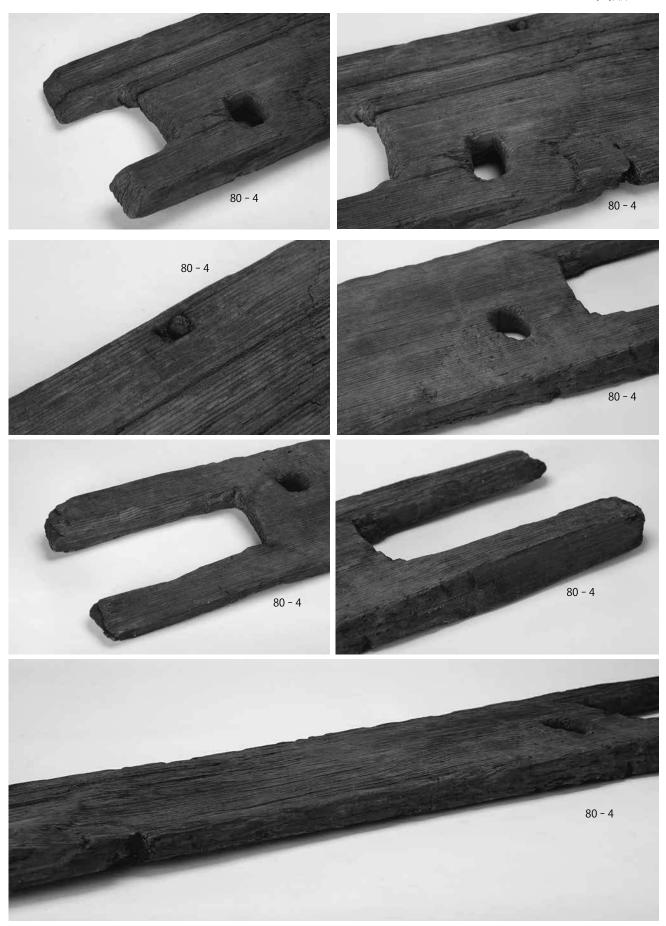
## 図版 137 神出西遺跡







出土遺物 (9)



出土遺物 (10)

## 図版 139 神出西遺跡





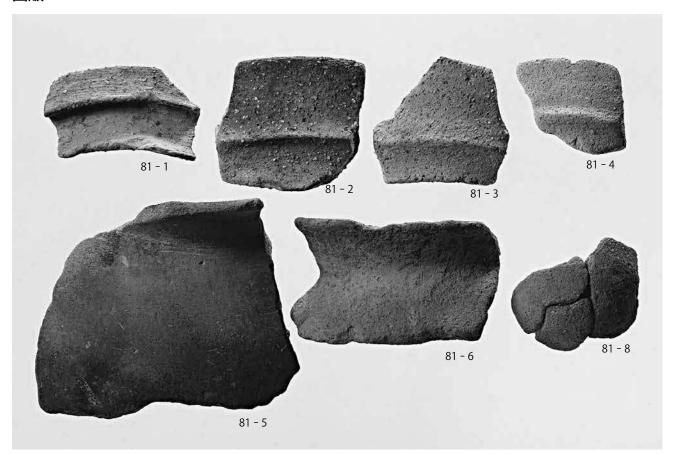
出土遺物 (11)

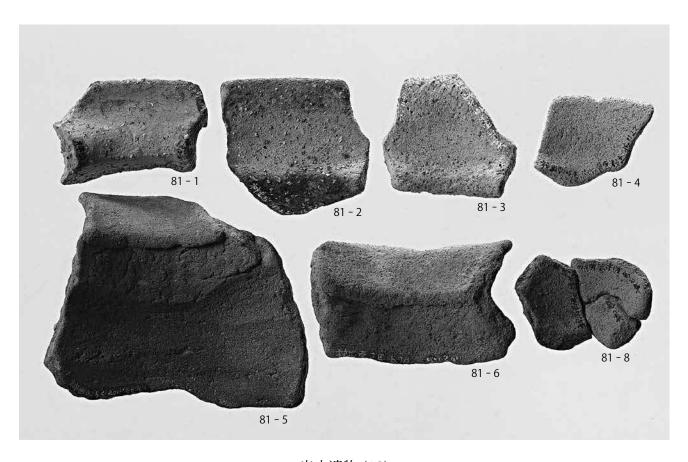




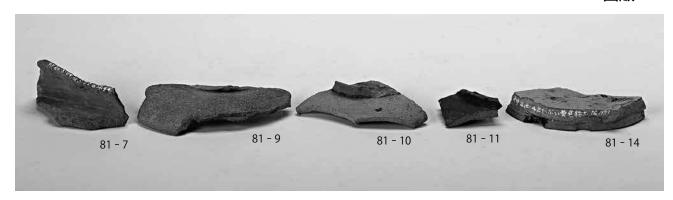
出土遺物 (12)

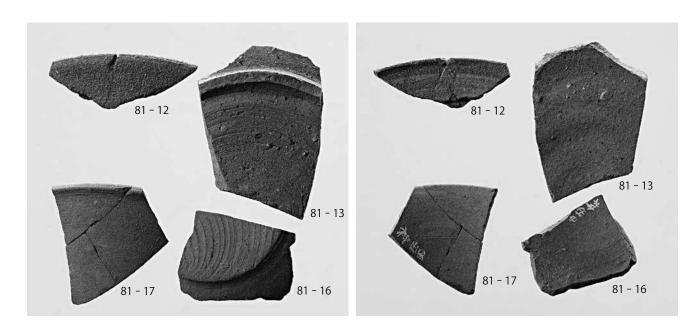
## 図版 141 神出西遺跡





出土遺物 (13)

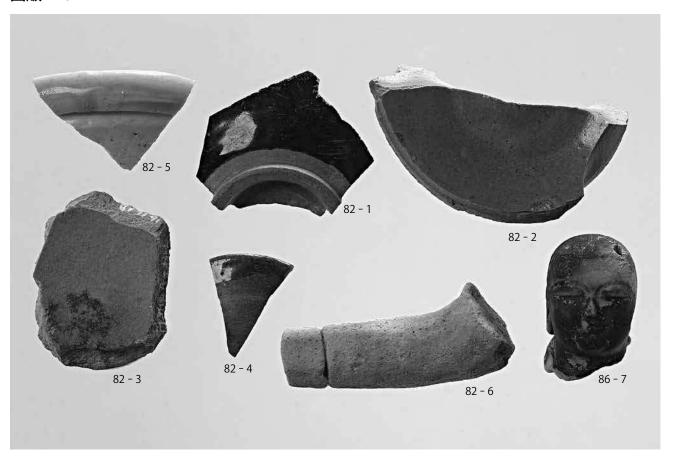


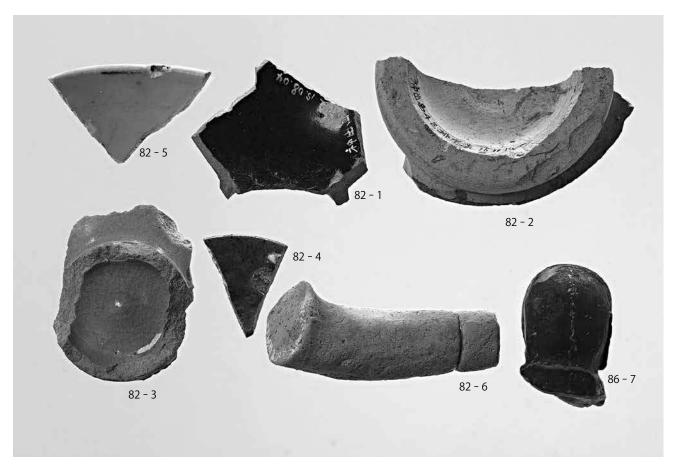




出土遺物 (14)

## 図版 143 神出西遺跡





出土遺物 (15)

# 報告書抄録

一般国道9号		廻り田遺跡	近世山陰道跡	が (馬橋地区	)神出西遺跡		
-	号 (三隅・益	田道路)建設	设予定地内埋荷	<b>載文化財発</b> 振	語調查報告書		
1							
伊藤徳広、	渡辺正巳、ノ	ー ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	エイ(株)、(株)加;	<b>速器分析研究</b>	 E所		
	庁埋蔵文化 。						
http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai							
			番地 TEL	: 0852-36-8	608		
2018年3月	22 日						
所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
島根県	田市 32202	097	34°	131°			一般国道9号(三隅・益 田道路)改築工事
浜田市			79′	96′	20150601 ~ 20150630	120	
= 隅町			15"	05"			
	浜田市 32202 三隅町	096			20151001 ~ 20160210	1,461	一般国道9号(三隅・益 田道路)改築工事
島根県	島根県     浜田市   32202     三隅町	099	34°		20160914 ~ 20161111	1,223	一般国道9号(三隅・益 田道路)改築工事
浜田市			75′	91'			
三隅町			51"	27"			
島根県	32204	Q286	34°	131°	20160519 ~ 20160914	1,315	一般国道9号(三隅・益 田道路)改築工事
近世山陰道跡 (うまはしちく) (馬橋地区) 益田市			75′				
場板県       神出西遺跡     益田市       遠田町				20150701 ~ 20151002	1,300 一般国道9号(三隅·	  一般国道9号(三隅・益	
	32204	Q353	70′	86′	$-20161107 \sim 20161221$		
			89"	21"		-,	
種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	弥生時代 古墳時代 平安時代		自然河道		弥生土器、土師器、須恵器 緑釉陶器、金属製品		低湿地遺跡 緑釉陶器 2 点出土
集落跡	弥生時代 古墳時代 平安時代 鎌倉時代		杭列2 土器溜まり		弥生土器、土師器、須恵器 中世土師器、輸入陶磁器 陶磁器、木製品、石器		11 世紀末から12 世紀 前半と古墳時代中期の 低湿地遺跡 青磁の壺か香炉の獅子 頭状把手が出土
その他の 遺跡	江戸時代		塚状遺構 2 平坦面				対になる塚状遺構2カ所
その他の 遺跡	江戸時代		石敷き 石垣		陶磁器		昭和に改修された街道 路
集落跡	弥生時代 古墳時代		溝状遺構 4 土坑 1 護岸状遺構 旧河道		弥生土器、土師器、須恵器 白磁、木製品、石器		
海石が高いる場合では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	がは低湿地遺に官衙遺跡が に官衙遺跡が には三隅川河に は丘陵上に位 いる。丘陵裾を 追跡(馬橋地 丘世までさかが がは遠田川流り	跡で自然河道などが存在する などが存在する な置する遺跡な な置する遺跡で な近世山陰道は 区)は昭和に のぼる可能性は 域の氾濫原が	道周辺から弥生 5可能性がある 地遺跡である である。平坦配 推定地が通っ こ改修された後 が高い。	E時代中期か 。 。古墳時代で 面を挟む2か でおり、一里: 道の跡が確	ら古墳時代初頭の土器が 中期と平安時代から鎌倉時 所の高まりが確認されたが 塚の可能性がある。 認された。丘陵斜面に改修	出土している。代にかけて、出土した。	の土器や木製品が出土 貴物はなく、遺跡の時期 Eしていたと考えられる石
	〒 690-013: E-mail:mail 2018 在 18 年 18 長三島浜三島益土島益遠 種 集 年 18 日間根田隅根田隅根田田根田田別	〒 690-0131 島根県松泊     E-mail:maibun@pref.shim      2018 年 3 月 22 日     所在地   市町村     島根県市   32202     三隅町   島根田市   32202     三隅町   島根田市   32202     三隅町   島根田市   32204     上田町   島根     本田町   本田町   本田町     春本   本田町   本田町     春本   本田町   本田町     東落跡   古塚   本子   本子   本子   本子   本子   本子   本子   本	〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp 2018 年 3 月 22 日	Temail:maibun@pref:shimane.lg.jp   2018年3月22日   34°   15″   15	〒 690-0131   島根県松江市打田町 33 番地   TEL: 0852-36-8     E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp   2018 年 3 月 22 日	〒	宇田湖田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田神田

### 一般国道 9 号(三隅・益田道路)建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書 1

海石西遺跡 角落し遺跡 廻り田遺跡 近世山陰道跡 (馬橋地区) 神出西遺跡

発 行 2018(平成30)年3月 発行者 国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所 島根県教育委員会

編 集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 〒 690-0131 島根県松江市打出町 33番地 電話 0852-36-8608

印 刷 さんきゅう印刷 株式会社